

蔚山大學校博物館 學術研究叢書 第3輯

# 경주 봉길 고분군 I

2000

蔚山大學校博物館

바 로 잡 기

쪽	줄	틀 립	바 로 잡 음
1	24	개설공사 시에	개설공사시
1	25	공사 시에	공사시
30	14	개 3점	蓋 3점
66	28	이들유물은	이들 유물은
72	21	臺脚부와	臺脚部와
83	28	묘광의	묘광
89	24	너비는106cm	너비는 106cm
102	5	고분뿐 아니라	고분 뿐만 아니라

## 일러두기

1. 본 보고서의 方位는 磁北을 원칙으로 한다.
2. 본 보고서에 사용된 용어 중에서 유구의 석재쌓기는 다음과 같이 정의한다.  
가로쌓기 : 유구의 장축방향과 일치되게 쌓은 경우  
세로쌓기 : 유구의 장축방향과 직교되게 쌓은 경우  
세워쌓기 : 사용석재의 길이 방향이 수직에 가깝게 쌓은 경우
3. 본 보고서의 유물번호는 발굴조사 후 행정보고에 사용된 번호를 그대로 사용하였고, 이들 번호는 圖面, 圖版番號와 일치한다.
4. 본 보고서에서는 유구의 주변에서 수습된 유물들을 해당유구의 본문 말미에 같이 실었으므로 유구내 출토유물과 구별하여야 한다.
5. 유구의 縮尺은 기본적으로 1/60이며 甕棺의 경우 크기에 따라 1/15과 1/30으로 제도되었다. 유물의 축척은 토기는 1/3을 원칙으로 하고 크기에 따라서 1/4, 1/5로, 철기는 1/2을 적용했다. 단 크기에 따라 축척을 달리한 경우도 있으며, 이는 축척비를 명기하였다.

## 간행사

경주 봉길고분군이 위치한 경상북도 경주시 양북면 봉길리일대는 청동기시대  
대의 취락지를 포함한 다수의 선사, 고대 유적이 남아 있는 곳이다. 인근의 감  
은사지, 이견대, 대왕암 등은 통일기 신라의 역사를 살피고자 할 때에 빠뜨릴  
수 없는 귀중한 유적들이다. 조사 결과 청동기시대의 생활유적 위에 5세기 이  
후의 석곽묘들이 조성되었음이 밝혀진 봉길고분군은 이와 같은 주변지역 분포  
유적들과의 관계와 관련하여 특히 눈길을 끄는 유적이라고 할 수 있다.

울산대학교 박물관은 국도 31호 노선의 일부인 대중교 구간의 신설 및 직선  
화 공사로 말미암아 봉길고분군 I의 일부가 훼손될 상황에 처한 까닭에 1997  
년 4월 10일부터 1997년 7월 9일까지 해당 구간 주변의 발굴조사에 착수하게  
되었다. 3개월간 국도 주변의 제한된 지역만 조사할 수밖에 없었지만, 산 능선  
을 따라 해안에 이르기까지 넓게 펼쳐진 봉길고분군 I의 성격 일부를 밝힐 단  
서를 얻게 되었다. 비록 1970년대 이래의 잣나무 식수활동, 국도 31호 노선 개  
설공사 및 수십 년간 행해진 도굴 등으로 말미암아 거의 대부분의 유구가 파  
괴된 상태였으나, 청동기시대 주거지 2동을 비롯한 삼국시대의 수혈식 석곽묘,  
횡구식 석실묘, 횡혈식 석실묘 등 청동기시대부터 삼국시대에 걸친 다양한 유  
형의 유구를 조사하고, 다수의 유물을 수습할 수 있었다.

누구나 공감하듯이 선사 및 역사시대의 유적, 유물은 어느 한 시대, 한 지역  
에 살던 사람들의 전유물이 아니다. 모든 시대, 모든 세대가 그것을 지키고 보  
살피며, 그것이 담고 있는 의미를 알고, 되새겨야 하는 인류의 가장 귀중한 자  
산의 일부이다. 그러나 우리 주변에 흩어진 다수의 유적, 유물이 우리의 무관  
심 속에 훼손되고, 사라져 간다. 당장의 이해관계로 말미암아 환경파괴와 문화  
유적 훼손이 동시에 이루어지는 경우가 비일비재한 것이 오늘의 현실이다. 한  
계선을 넘지 않는 한 훼손된 자연환경은 회복이 가능하지만, 문화유적이나 유  
물은 복원이 불가능하다. 모든 세대가 함께 누려야 할 우리 조상의 삶과 지혜



의 자취인 문화유적 및 유물에 대한 인식과 평가가 새로워져야 할 때이다. 심하게 훼손된 상태로 일부나마 그 모습을 드러낸 봉길고분군 I 이 우리에게 되새겨준 역사의 교훈이다.

『봉길고분군 I』은 울산대학교 박물관 학술연구총서 제3집이다. 1995년 12월 설립 이래 울산대학교 박물관은 울산의 유일한 문화재 연구기관으로 울산 및 인근지역의 문화유적 보호 및 관리, 조사, 연구, 문화재 전문인력 양성의 중심으로서의 역할을 다하고자 애써왔다. 그간 행해진 유적 조사 및 유물 수습의 결과는 학술연구총서의 형태로 연차적으로 내외에 공개해 왔으며, 관련 자료 연구의 결과는 정기적인 학술 심포지움 개최 및 학술지 간행을 통해 학계와 공유하려 노력하였다. 『봉길고분군 I』의 발간도 이와 같은 노력의 일환이다. 본 보고서 간행을 위해 밤낮으로 애써준 김영민 학예사 이하 학예연구실 가족들에게 감사하며, 이 책을 새 천년의 해맞이에 맞춘 첫 글뭉침으로 시민과 학계에 내 놓는다.

2000년 1월

울산대학교 박물관장 전 호 태

# 目 次

I. 머리말	1
II. 遺蹟의 立地와 環境	4
III. 調査內容	11
1. 1號 橫穴式 石室墳	11
2. 2號 橫穴式 石室墳	14
3. 3號 橫穴式 石室墳	16
4. 4號 橫口式 石室墳	20
5. 5號 石槨墓	22
6. 6號 橫穴式 石室墳	24
7. 7號 橫穴式 石室墳	26
8. 8號 豎穴式 石槨墓	28
9. 9號 石槨墓	29
10. 10號 石槨墓	32
11. 11號 石室墳	33
12. 12號 橫穴式 石室墳	34
13. 13號 石槨墓	37
14. 14號 石槨墓	38
15. 15號 石槨墓	39
16. 16號 石槨墓	41
17. 17號 石槨墓	41
18. 18號 石槨墓	41
19. 19號 石槨墓	43
20. 20號 石槨墓	45
21. 21號 石槨墓	50
22. 22號 石槨墓	52
23. 23號 石槨墓	55
24. 24號 石槨墓	59
25. 25號 石槨墓	61
26. 26號 石槨墓	62
27. 27號 石槨墓	66
28. 28號 石槨墓	67
29. 29號 石槨墓	68
30. 30號 石槨墓	69

31. 31號 石槨墓	71
32. 32號 石槨墓	73
33. 33號 石槨墓	74
34. 34號 石槨墓	75
35. 35號 石槨墓	76
36. 36號 石槨墓	78
37. 37號 石槨墓	79
38. 38號 石槨墓	82
39. 39號 石槨墓	83
40. 40號 石槨墓	84
41. 41號 石槨墓	85
42. 42號 石槨墓	86
43. 43號 石槨墓	89
44. 44號 石槨墓	91
45. 甕棺 1號	93
46. 甕棺 2號	95
47. 甕棺 3號	96
48. 甕棺 4號	97
49. 1號 住居址	98
50. 2號 住居址	99
51. 周邊採集遺物	100
IV. 맺음말	102

## 圖面目次

圖面 1. 遺蹟 位置圖 (1/5000) -----	2
圖面 2. 周邊 遺蹟 現況圖 (1/25000) -----	5
圖面 3. 遺構 配置圖 (1/200) -----	7
圖面 4. 1號 石室斗 1-1號 (1/60) -----	9
圖面 5. 1號 石室 (1/60) -----	12
圖面 6. 1-1號 石槨 (1/60) -----	13
圖面 7. 2號 石室 (1/60) -----	15
圖面 8. 3號 石室斗 土層 (1/60) -----	17
圖面 9. 3號 石室 (1/60) -----	18
圖面10. 4號 石室 (1/60) -----	20
圖面11. 5號 石槨斗 周邊 (1/60) -----	23
圖面12. 5號 石槨 (1/60) -----	23
圖面13. 6號 石槨斗 7號 石室, 5號 甕棺 (1/60) -----	25
圖面14. 6號 石室 (1/60) -----	25
圖面15. 7號 石室 (1/60) -----	26
圖面16. 8號 石槨 (1/60) -----	28
圖面17. 9號 石槨 (1/60) -----	30
圖面18. 10號 石槨 (1/60) -----	32
圖面19. 11號 石槨 (1/60) -----	33
圖面20. 12號 石室 (1/60) -----	35
圖面21. 13號 石槨 (1/60) -----	37
圖面22. 14號 石槨 (1/60) -----	38
圖面23. 15號 石槨 (1/60) -----	39
圖面24. 16號 石槨 (1/60) -----	41
圖面25. 17號 石槨 (1/60) -----	41
圖面26. 18號 石槨 (1/60) -----	42
圖面27. 19號 石槨 (1/60) -----	43
圖面28. 20號 石槨, 21號 石槨, 1號 甕棺 (1/60) -----	45
圖面29. 20號 石槨 (1/60) -----	46
圖面30. 21號 石槨 (1/60) -----	50
圖面31. 22號 石槨 (1/60) -----	52
圖面32. 23號 石槨斗 24號 石槨 (1/60) -----	55
圖面33. 23號 石槨 (1/60) -----	56
圖面34. 24號 石槨 (1/60) -----	60
圖面35. 25號 石槨 (1/60) -----	61

圖面36. 26號 石槨 (1/60)	62
圖面37. 27號 石槨 (1/60)	66
圖面38. 28號 石槨 (1/60)	67
圖面39. 29號 石槨 (1/60)	68
圖面40. 30號 石槨 (1/60)	69
圖面41. 31號 石槨 (1/60)	72
圖面42. 32號 石槨 (1/60)	73
圖面43. 33號 石槨 (1/60)	74
圖面44. 34號 石槨 (1/60)	76
圖面45. 35號 石槨 (1/60)	76
圖面46. 36號 石槨 (1/60)	78
圖面47. 37號 石槨 (1/60)	80
圖面48. 38號 石槨 (1/60)	82
圖面49. 39號 石槨 (1/60)	83
圖面50. 40號 石槨 (1/60)	84
圖面51. 41號 石槨 (1/60)	85
圖面52. 42號 石槨 (1/60)	87
圖面53. 43號 石槨 (1/60)	89
圖面54. 44號 石槨 (1/60)	92
圖面55. 1號 甕棺 (1/30)	94
圖面56. 2號 甕棺 (1/15)	95
圖面57. 3號 甕棺 (1/30)	97
圖面58. 4號 甕棺 (1/15)	98
圖面59. 1號 住居址 (1/60)	99
圖面60. 2號 住居址 (1/60)	99
圖面61. 1號 出土遺物	105
圖面62. 1號, 1-1號, 2號 出土遺物	106
圖面63. 2號, 3號, 4號 出土遺物	107
圖面64. 4號, 5號 出土遺物	108
圖面65. 5號, 6號 出土遺物	109
圖面66. 5號 甕棺, 7號, 8號 出土遺物	110
圖面67. 8號 出土遺物	111
圖面68. 8號, 9號 出土遺物	112
圖面69. 9號 出土遺物	113
圖面70. 9號, 10號 出土遺物	114
圖面71. 10號 出土遺物	115
圖面72. 10號, 11號 出土遺物	116

圖面73. 12V號 出土遺物	117
圖面74. 13號, 14號, 15號 出土遺物	118
圖面75. 15號 出土遺物	119
圖面76. 15號, 18號 出土遺物	120
圖面77. 19號 出土遺物	121
圖面78. 19號 出土遺物	122
圖面79. 19號, 20號 出土遺物	123
圖面80. 20號 出土遺物	124
圖面81. 20號 出土遺物	125
圖面82. 20號 出土遺物	126
圖面83. 20號, 21號 出土遺物	127
圖面84. 21號 出土遺物	128
圖面85. 22號 出土遺物	129
圖面86. 22號 出土遺物	130
圖面87. 22號, 23號 出土遺物	131
圖面88. 23號 出土遺物	132
圖面89. 23號 出土遺物	133
圖面90. 23號 出土遺物	134
圖面91. 23號, 24號 出土遺物	135
圖面92. 24號, 25號, 26號 出土遺物	136
圖面93. 26號 出土遺物	137
圖面94. 26號 出土遺物	138
圖面95. 26號, 27號 出土遺物	139
圖面96. 28號, 29號, 30號 出土遺物	140
圖面97. 30號 出土遺物	141
圖面98. 30號, 31號 出土遺物	142
圖面99. 32號 出土遺物	143
圖面100. 33號, 34號 出土遺物	144
圖面101. 35號 出土遺物	145
圖面102. 35號, 36號 出土遺物	146
圖面103. 36號 出土遺物	147
圖面104. 36號, 37號 出土遺物	148
圖面105. 37號 出土遺物	149
圖面106. 37號 出土遺物	150
圖面107. 37號, 38號, 39號 出土遺物	151
圖面108. 39號, 40號 出土遺物	152
圖面109. 40號, 41號, 42號 出土遺物	153

圖面110. 42號 出土遺物 -----	154
圖面111. 42號 出土遺物 -----	155
圖面112. 42號 出土遺物 -----	156
圖面113. 42號, 43號 出土遺物 -----	157
圖面114. 43號 出土遺物 -----	158
圖面115. 43號 出土遺物 -----	159
圖面116. 43號 出土遺物 -----	160
圖面117. 43號, 44號 出土遺物 -----	161
圖面118. 44號, 1號 甕棺 出土遺物 -----	162
圖面119. 1號 甕棺, 2號 甕棺, 3號 甕棺 出土遺物 -----	163
圖面120. 3號 甕棺, 4號 甕棺, 2號 住居址 出土遺物 -----	164
圖面121. 採集遺物 -----	165

## 圖版目次

圖版 1. 遺蹟 遠景斗 近景 -----	169
圖版 2. 遺蹟 全景 -----	170
圖版 3. 遺蹟 近景, 1號斗 1-1號 全景 -----	171
圖版 4. 1號, 1-1號 全景斗 遺物出土모습 -----	172
圖版 5. 2號 全景斗 遺物出土모습 -----	173
圖版 6. 2號 側壁 -----	174
圖版 7. 3號 全景斗 遺物出土모습, 屍床斗 側壁 -----	175
圖版 8. 4號 全景 -----	176
圖版 9. 4號 遺物出土모습斗 入口部 側壁, 5號·周邊甕棺 全景, 遺物出土모습 -----	177
圖版10. 6號·甕棺 5號 全景斗 遺物出土모습, 6號·7號 全景斗 7號 屍床 -----	178
圖版11. 7號 側壁, 8號 全景斗 遺物出土모습 -----	179
圖版12. 9號 全景斗 遺物出土모습 -----	180
圖版13. 10號 全景斗 遺物出土모습, 11號 全景斗 遺物出土모습 -----	181
圖版14. 12號 全景斗 屍床, 遺物出土모습, 短壁 -----	182
圖版15. 13·14·15·16·17號 全景, 13號 全景斗 遺物出土모습 -----	183
圖版16. 14號 全景斗 遺物出土모습, 13號 側壁斗 15號 全景斗 遺物出土모습 -----	184
圖版17. 15號 短壁, 16號 全景, 17號 全景, 18號 全景 -----	185
圖版18. 19號 全景斗 遺物出土모습, 西長壁 -----	186
圖版19. 20·21·甕棺 1號 全景 -----	187
圖版20. 20號 全景斗 遺物出土모습, 副槨 側壁 -----	188
圖版21. 21號 遺物出土모습斗 側壁 -----	189
圖版22. 22·26號 全景斗 22號 遺物出土모습, 22號 短壁 -----	190
圖版23. 26號 遺物出土모습斗 側壁 -----	191
圖版24. 23·24號 全景 -----	192
圖版25. 23號 遺物出土모습 -----	193
圖版26. 24號 全景 -----	194
圖版27. 24號 遺物出土모습斗 側壁, 25號 全景斗 遺物出土모습, 27號 全景 -----	195
圖版28. 28號 全景斗 遺物出土모습 -----	196
圖版29. 30號 全景斗 遺物出土모습, 側壁 -----	197
圖版30. 31號 全景斗 遺物出土모습 -----	198
圖版31. 32號 全景斗 遺物出土모습 -----	199
圖版32. 33·34號 全景斗 33號 遺物出土모습, 側壁 -----	200
圖版33. 35·36號 全景斗 遺物出土모습 -----	201
圖版34. 36號 全景斗 遺物出土모습, 側壁 -----	202
圖版35. 37號 全景斗 側壁, 38·39·甕棺 1號 全景斗 遺物出土모습 -----	203



圖版36. 40號 全景斗 遺物出土모습, 長壁 -----	204
圖版37. 41號 全景斗 遺物出土모습, 42號 全景斗 遺物出土모습 -----	205
圖版38. 43號 全景斗 側壁, 44號 全景斗 遺物出土모습 -----	206
圖版39. 甕棺 1號 全景斗 甕棺 2號 全景 -----	207
圖版40. 甕棺 3號 全景斗 屍床, 側壁, 甕棺 4號 全景 -----	208
圖版41. 住居址 1號 全景, 住居址 2號 全景斗 遺物出土모습 -----	209
圖版42. 1號 出土遺物 -----	210
圖版43. 1號, 1-1號, 2號 出土遺物 -----	211
圖版44. 2號, 3號, 4號 出土遺物 -----	212
圖版45. 4號, 5號 出土遺物 -----	213
圖版46. 5號, 6號 出土遺物 -----	214
圖版47. 甕棺 5號, 7號, 8號 出土遺物 -----	215
圖版48. 8號 出土遺物 -----	216
圖版49. 8號, 9號 出土遺物 -----	217
圖版50. 9號 出土遺物 -----	218
圖版51. 9號, 10號 出土遺物 -----	219
圖版52. 10號 出土遺物 -----	220
圖版53. 10號, 11號 出土遺物 -----	221
圖版54. 12號 出土遺物 -----	222
圖版55. 13號, 14號, 15號 出土遺物 -----	223
圖版56. 15號 出土遺物 -----	224
圖版57. 15號, 18號 出土遺物 -----	225
圖版58. 19號 出土遺物 -----	226
圖版59. 19號 出土遺物 -----	227
圖版60. 19號, 20號 出土遺物 -----	228
圖版61. 20號 出土遺物 -----	229
圖版62. 20號 出土遺物 -----	230
圖版63. 20號 出土遺物 -----	231
圖版64. 20號, 21號 出土遺物 -----	232
圖版65. 21號 出土遺物 -----	233
圖版66. 22號 出土遺物 -----	234
圖版67. 22號 出土遺物 -----	235
圖版68. 22號, 23號 出土遺物 -----	236
圖版69. 23號 出土遺物 -----	237
圖版70. 23號 出土遺物 -----	238
圖版71. 23號 出土遺物 -----	239
圖版72. 23號, 24號 出土遺物 -----	240

圖版73. 24號, 25號, 26號 出土遺物 -----	241
圖版74. 26號 出土遺物 -----	242
圖版75. 26號 出土遺物 -----	243
圖版76. 26號, 27號 出土遺物 -----	244
圖版77. 28號, 29號, 30號 出土遺物 -----	245
圖版78. 30號 出土遺物 -----	246
圖版79. 30號, 31號 出土遺物 -----	247
圖版80. 32號 出土遺物 -----	248
圖版81. 33號, 34號 出土遺物 -----	249
圖版82. 35號 出土遺物 -----	250
圖版83. 35號, 36號 出土遺物 -----	251
圖版84. 36號 出土遺物 -----	252
圖版85. 36號, 37號 出土遺物 -----	253
圖版86. 37號 出土遺物 -----	254
圖版87. 37號 出土遺物 -----	255
圖版88. 37號, 38號, 39號 出土遺物 -----	256
圖版89. 39號, 40號 出土遺物 -----	257
圖版90. 40號, 41號, 42號 出土遺物 -----	258
圖版91. 42號 出土遺物 -----	259
圖版92. 42號 出土遺物 -----	260
圖版93. 42號 出土遺物 -----	261
圖版94. 42號, 43號 出土遺物 -----	262
圖版95. 43號 出土遺物 -----	263
圖版96. 43號 出土遺物 -----	264
圖版97. 43號, 44號 出土遺物 -----	265
圖版98. 44號, 甕棺 1號 出土遺物 -----	266
圖版99. 甕棺 1號, 甕棺 2號, 甕棺 3號 出土遺物 -----	267
圖版100. 甕棺 3號, 甕棺 4號, 住居址 2號 出土遺物 -----	268
圖版101. 採集遺物 -----	269

## I. 머리말

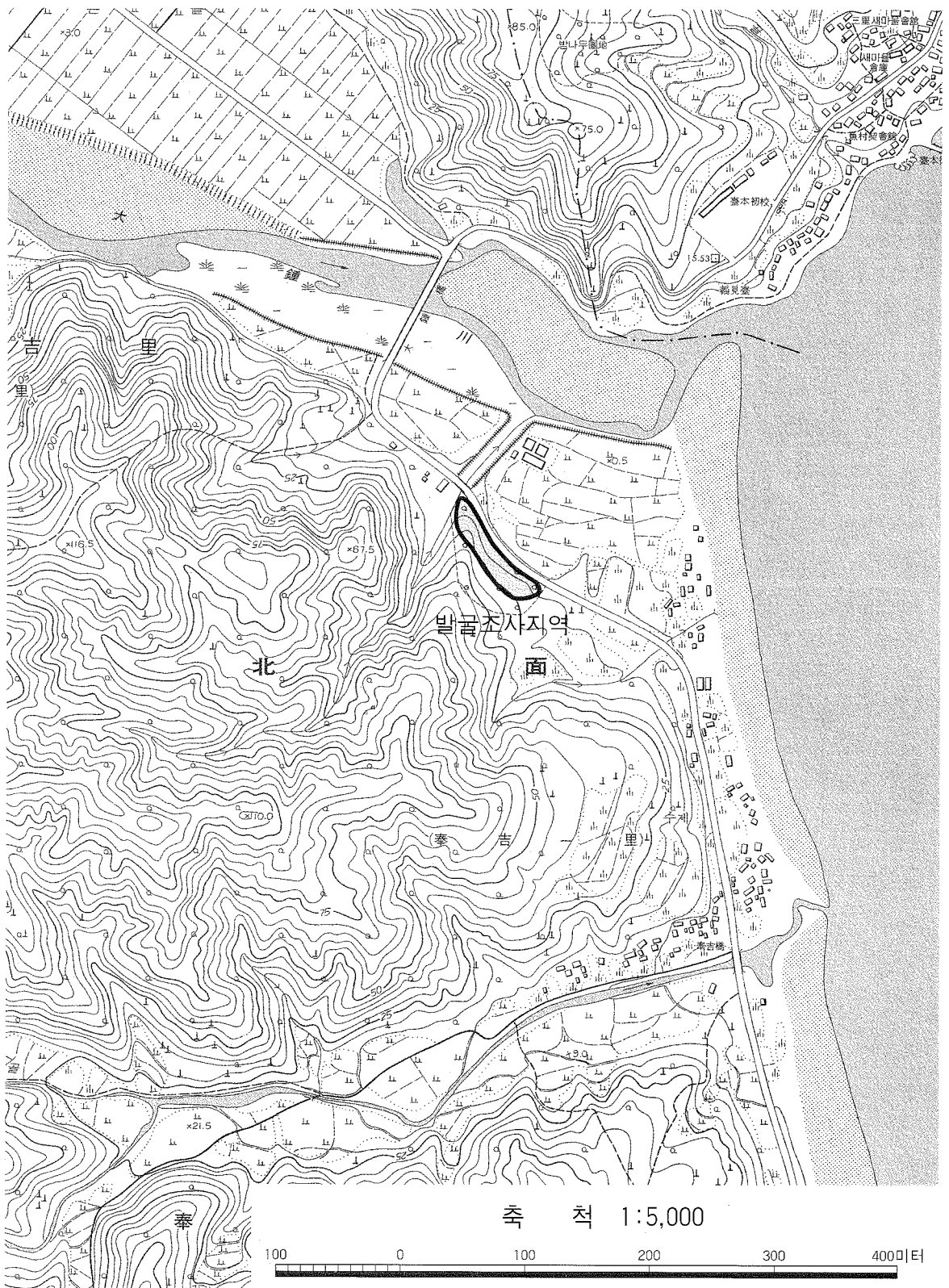
경주 봉길고분군은 행정구역상 경상북도 경주시 양북면 봉길리 수제마을 산14-3(임)번지 일대에 위치한다. 양북면 봉길리 일대에는 삼국시대의 고분군으로 생각되는 곳이 금번 조사된 유적과 별도로 한곳이 더 있는 것으로 알려져 있다. 따라서 편의상 우리 박물관에서 조사한 유적을 봉길고분군 I 이라고 명명하고 보다 남쪽에 위치한 고분군을 봉길고분군 II로 구분하였다.<sup>1)</sup>

봉길고분군이 학계에 본격적으로 알려진 것은 1996년 본 고분군에서 도굴된 것으로 알려진 고배를 포함한 토기류가 관계기관에 신고되면서부터이다. 물론 유적이 있다는 사실은 몇몇 사람들에 의해 이미 알려져 있었다. 이번 조사는 이 일대에 대규모의 토목공사가 진행되면서 유적의 일부가 공사면적에 포함된 것이 확인되면서 유적의 조사필요성이 제기되어 이루어지게 되었다. 우리 박물관에 발굴조사가 의뢰된 후, 곧바로 현지조사를 시행한 결과 1970년대 이후 활발한 식수활동으로 고분군의 전체면적에 걸쳐 잣나무가 심어졌으며 식수작업과정에 많은 유구가 훼손되었음을 알 수 있었다. 또 봉분이 일부 남아 있는 경우에도 대부분 도굴 흔적이 확인되었다. 비록 국도 곁이지만 울창한 잣나무 수풀에 가려져 있고 또 아무런 보호시설 없이 방치되어 있었기 때문에 대부분의 유구가 도굴되었음을 알 수 있었다. 조사과정을 통해 기존의 31호 국도공사 중에도 많은 유구들이 파손되었으며, 현재의 31번 국도 아래에도 일부 유구들이 아무런 조사도 없이 파손된 상태로 매몰되어 있음이 확인되었다. 때문에 유구의 일부만 조사된 예도 상당수에 이른다.

발굴조사는 31번 국도의 일부인 노후한 대중천의 대중교의 신설공사 및 일부 곡선구간의 직선화 공사가 계획되면서 도로가 유적의 한쪽 끝을 지나게 되어 긴급히 이루어지게 되었다. 도로공사의 경우, 도로 및 그 좌우의 극히 제한된 너비 안에서 발견되는 유적만 조사될 수밖에 없는 까닭에 봉길고분군 역시 같은 방식으로 유적의 일부만 조사되었다.

유적이 조성된 지역은 1970년대 이후 잣나무를 심는 과정에서 대부분 극심하게 훼손되었다. 또 31번 국도 개설공사 시에 많은 유구들이 발굴조사를 거치지 않고 도로 아래에 묻혔음이 확인되었다. 도로 아래에 묻힌 유구와 공사 시에 파손된 유구의 잔해들로 말미암아 조사과정에 많은 혼란을 겪기도 하였다. 학술적으로 귀중한 유적이 아무런 조사과정 없이 훼손된 현장을 조사하면서 또 한번 개발과 보존의 문제를 되새기게 되었다. 발굴조사는 1997년 4월 10일부터 1997년 7월 9일까지 약 3개월 동안 진행되었다. 조사면적은 약 800평이었으며, 조사된 유구는 청동기시대 주거지 2동, 삼국시대 수혈식 석곽묘 36기, 횡구식 석실 1기, 횡혈식 석실 7기 등 총 46기였다.

1) 國立慶州博物館·慶州市, 1997, 『慶州遺蹟地圖』



圖面1. 遺蹟位置圖(1/5000)

조사과정에서 학술적 지원을 아끼지 않은 지도위원과 조사위원들의 자문이 상당한 도움이 되었다. 아울러 합동조사단의 구성을 쾌히 승낙해 주신 당시 국립경주박물관 지건길(현 파리 한국문화원장)관장님의 도움이 큰 힘이 되었다. 또한 본 조사가 진행되는 과정에 현장을 방문하여 많은 지도를 해주신 여러 선생님들, 조사기간 중 행정적 뒷받침에 힘써 준 경주시청 문화예술과 직원 여러분께도 감사드린다.

이번 조사를 위해 울산대학교 박물관과 국립경주박물관은 공동조사단을 구성하였다. 현장조사는 울산대학교 박물관에서 주로 하였고, 국립경주박물관의 손명조와 윤형원이 수시로 현장조사에 참가하여 미비한 점들을 보완하였다. 이번 조사의 조사단 구성은 다음과 같다.

- 지 도 위 원 : 한 병 삼(문화재 전문위원)
- 윤 용 진(전 경북대학교 박물관장)
- 정 징 원(전 부산대학교 박물관장)
- 지 건 길(현 파리 한국문화원장)
- 책 임 조 사 원 : 전 호 태(울산대학교 박물관장)
- 조 사 위 원 : 안 재 호(동국대학교 고고미술사학과 교수)
- 손 명 조(현 국립김해박물관 학예연구실장)
- 조 사 원 : 김 영 민(울산대학교 박물관 학예연구원)
- 윤 형 원(현 국립중앙박물관 고고부 학예연구사)
- 조 사 보 조 원 : 이 경 인(울산대학교 박물관 연구원)
- 배 순 회(현 울산광역시 시사편찬위원회 연구원)
- 천 선 행(전 울산대학교 박물관 연구원)
- 보 조 원 : 김 현 철(현 울산대학교 박물관 조교)
- 남 연 의(울산대학교 박물관 연구원)외 울산대 사학과 학생 다수

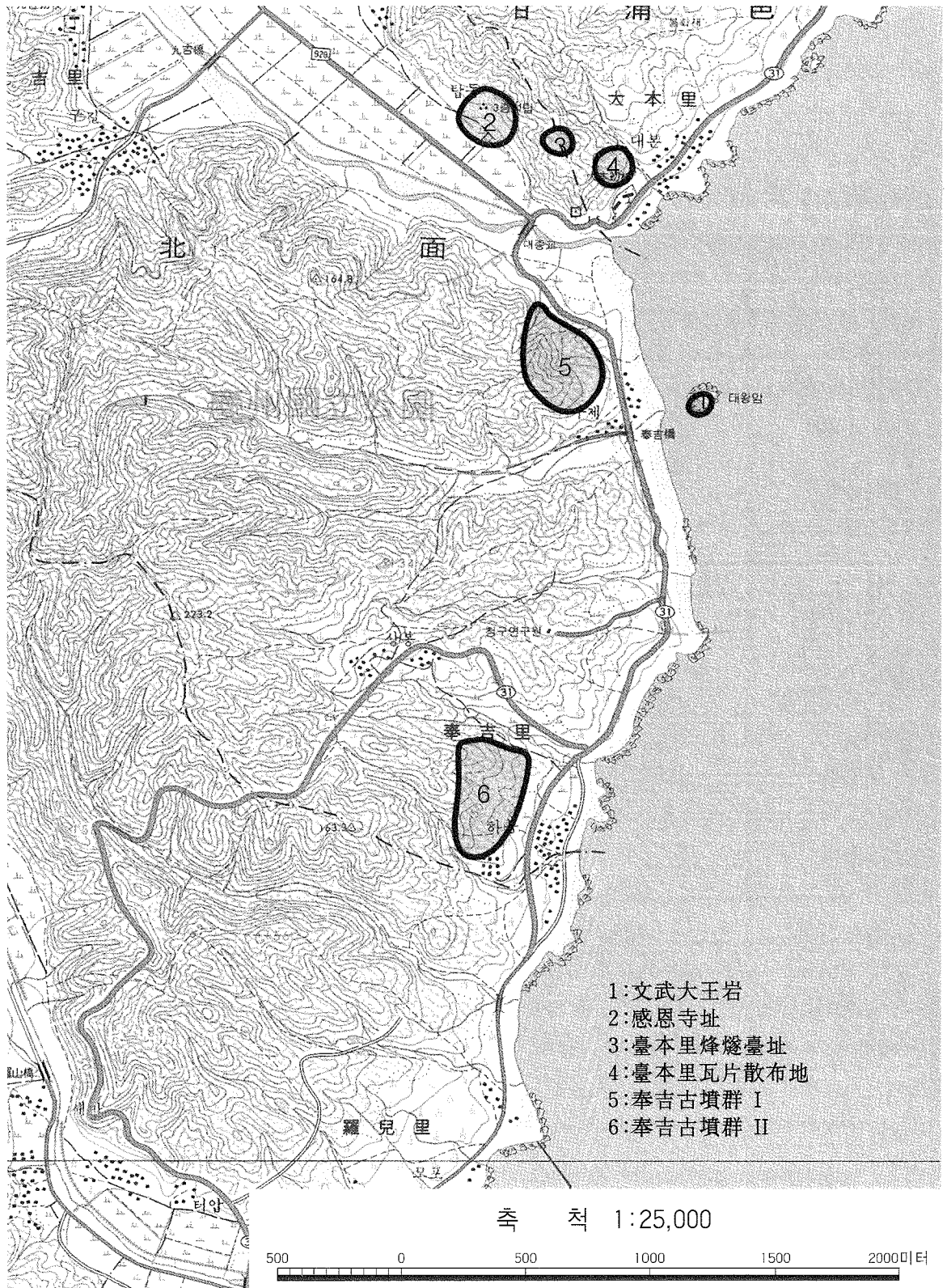
본 보고서의 작성을 위한 유물의 세척, 복원, 정리는 김현철, 이경인, 배순회, 남연의, 천선행, 허선회가 담당하였고, 사학과 학생인 권지영, 최승희 등이 보조하였다. 유물 실측과 제도는 이경인, 배순회, 남연의, 천선행이 주로 하였으며, 유구배치도는 김현철, 허선회가 작성하였다. 유물도면 및 도판은 남연의가 편집하고, 김영민이 이를 수정, 보완하였다. 유물의 사진은 김경덕이 촬영하고 배순회가 보조하였으며, 유물 탁본은 권지영과 최승희, 천선행이 맡아 수고해 주었다. 유구와 유물 설명 원고 작성, 도면 및 제도 작업은 유구 조사를 담당한 연구원들이 해당 유구와 출토유물별로 나누어 담당했다. 원고 및 도면의 체제 통일과 검토, 수정은 김영민, 전호태가 하였다.

## II. 遺蹟의 位置와 現況

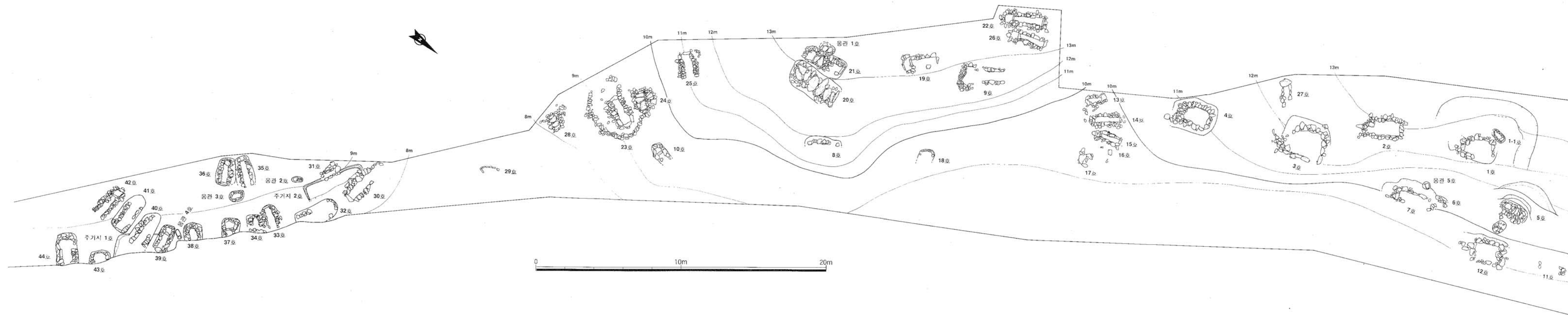
봉길고분군은 동해안을 마주보는 해발 384m의 牛山 기슭의 동쪽 경사면의 말단부에 위치하였으며, 해발 50m까지 고분이 조성된 것으로 추정된다. 발굴조사를 통해 5세기 이후의 석곽묘들 아래에 청동기시대의 생활유적이 분포하였음이 확인되어 청동기시대에 이 일대에 취락이 형성되어 있었음을 알 수 있었다. 그러나 조사가 도로 폭을 따라 제한된 면적에서만 행해질 수밖에 없어 유적의 전모는 알 수 없었다. 아마도 청동기시대 취락의 범위도 고분군의 분포 범위와 크게 다르지 않을 것으로 추정된다.

봉길고분군이 위치한 이 지역에는 통일기 신라의 유적들이 다수 분포하고 있다. 대표적인 것으로 봉길고분군 맞은편의 바다 가운데에 있는 대왕암, 대종천 인근의 감은사지, 동해안을 바라보는 곳에 위치한 이견대 등을 들 수 있다. 모두 통일기 신라가 국가의 안녕을 기원하면서 만든 것들이다. 대왕암은 삼국통일을 완성한 신라 제30대 문무왕이 동해를 통해 침범하는 왜구들로부터 나라를 지키고자 자신의 유해를 화장하여 장사지내줄 것을 유언하여 만들어진 수증릉으로 전하는 곳이다. 사적 158호로 지정되어 있다. 문무왕설화는 이견대, 감은사지의 건립과정과 함께 삼국유사에 채록되어 전한다. 감은사지는 신라 31대 신문왕이 선왕의 유언이 성취되기를 기원하며 건립한 것으로 알려진 사찰이다. 1960년과 1979~1980년에 걸친 발굴조사를 통하여 사지의 전모가 확인되고, 유물도 수습되었다. 쌍탑식 가람으로 남북의 길이보다 동서회랑의 길이가 긴 점, 금당을 중심으로 동서의 회랑을 연결하는 중회랑을 둔 점이 눈길을 끌었다. 국보 112호로 지정된 동서의 두 탑이 남아 있다. 이견대는 신문왕이 682년 완성한 것으로 이 곳에서 유명한 만파식적을 얻었다는 기록이 삼국유사에 전해진다. 1968년 사적 159호로 지정되었으며, 1970년 발굴조사를 거쳐 1972년에 복원되었다.

위의 유적들은 모두 신문왕 때에 조성된 것으로 신문왕과 선왕인 문무왕의 호국사상과 깊이 관련되어 있다. 특히 대왕암이 있는 봉길 앞 바다는 토함산을 경계로 신라의 왕경과 접하고 있어 바다 건너에서 침범해 들어오는 왜와의 관계에서 군사적으로 매우 중요한 역할을 담당했을 것이다. 이러한 지역에 자리잡은 대규모 공동분묘군인 봉길고분군이 시기적으로 5세기의 어느 시점에서부터 통일신라시대에 이르기까지 오랜 기간에 걸쳐 형성되었음은 특히 눈길을 끈다고 하겠다.



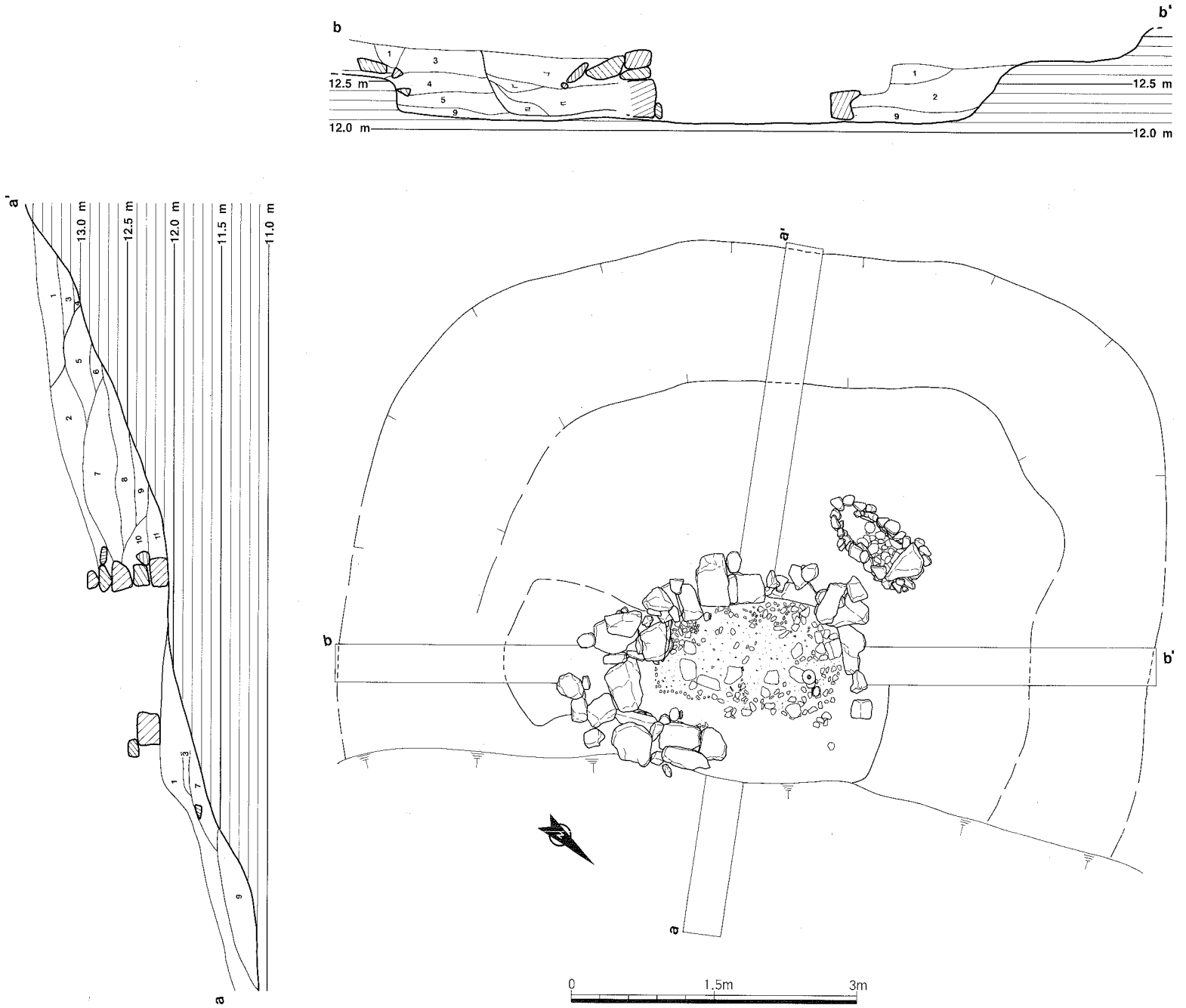
圖面2. 周邊 遺蹟現況圖(1/25000)



圖面 3. 遺構 配置圖(1/200)



圖面 4. 1號 石室과 1-1號 (1/60)



1호 토층

- 1 황색 사질토와 명갈색 사질토 혼합. 입자가 굵고 부서부석함
- 2 1번과 비슷하나 입자가 고르고 부서함. 봉토로 판단됨
- 3 황갈색 사질토. 입자가 균일
- 4 3층보다 어두운 갈색
- 5 명갈색 사질토
- 6 황갈색 사질토로 입자가 균일하고 단단하다
- 7 암갈색. 검은색 암반기가 나타나고 단단하다
- 8 황갈색 사질토. 부분적으로 황색 사질토가 나타난다
- 9 암갈색. 암반성질이 강하게 나타난다. 유구 전체에 넓게 퍼져있는 것으로 다진 것 같다
- 10 황갈색으로 비교적 입자가 균일하다
- 11 암반성질이 강하게 나타나는 암갈색층

- ㄱ 밝은 황색의 사질토와 갈색의 사질이 혼입. 황색 비율이 높다. 묘도
- ㄴ 명갈색 사질토로 입자가 굵다. 묘도
- ㄷ 명갈색 사질토. ㄴ에 비해 입자가 고르다. 황색 사질이 조금 혼입. 묘도
- ㄹ 명갈색 사질. 황색 사질은 거의 없고 입자가 고르다. 묘도

### Ⅲ. 調査內容

#### 1. 1號 橫穴式 石室墳

##### 1) 遺構

調査地域內 북서쪽 구릉의 최상단에 위치하며, 남쪽으로 2號 石室과 북쪽으로 5號 石槨이 인접해 있다. 封土는 대부분 유실되고 남아 있지 않으며, 봉분으로 추정되는 범위의 중앙에 主石室인 長方形의 橫穴式 石室墳이 축조되어 있다. 그리고 주석실과 인접하여 倍墓인 小形石槨(1-1호)이 위치하고 있다.

바다를 바라보는 북동쪽을 제외한 나머지 3면은 주석실을 중심으로 경사면을 말각방향으로 깎아 내어 墓域을 구획하였다. 주석실의 서쪽으로 인접한 1-1號 石槨은 피장공간으로 보기에 는 규모가 작은 편으로 피장공간이 아닐 가능성도 배제할 수 없다. 가령 유기질의 貢獻遺物이 副葬되지 않았을까 추측해 볼 수 있다. 그리고 石槨의 외곽에서 뚜렷한 묘광선이 확인되지 않아 1號 石실의 축조과정에 동시에 만들어진 것으로 추정된다.

##### 1號 橫穴式 石室

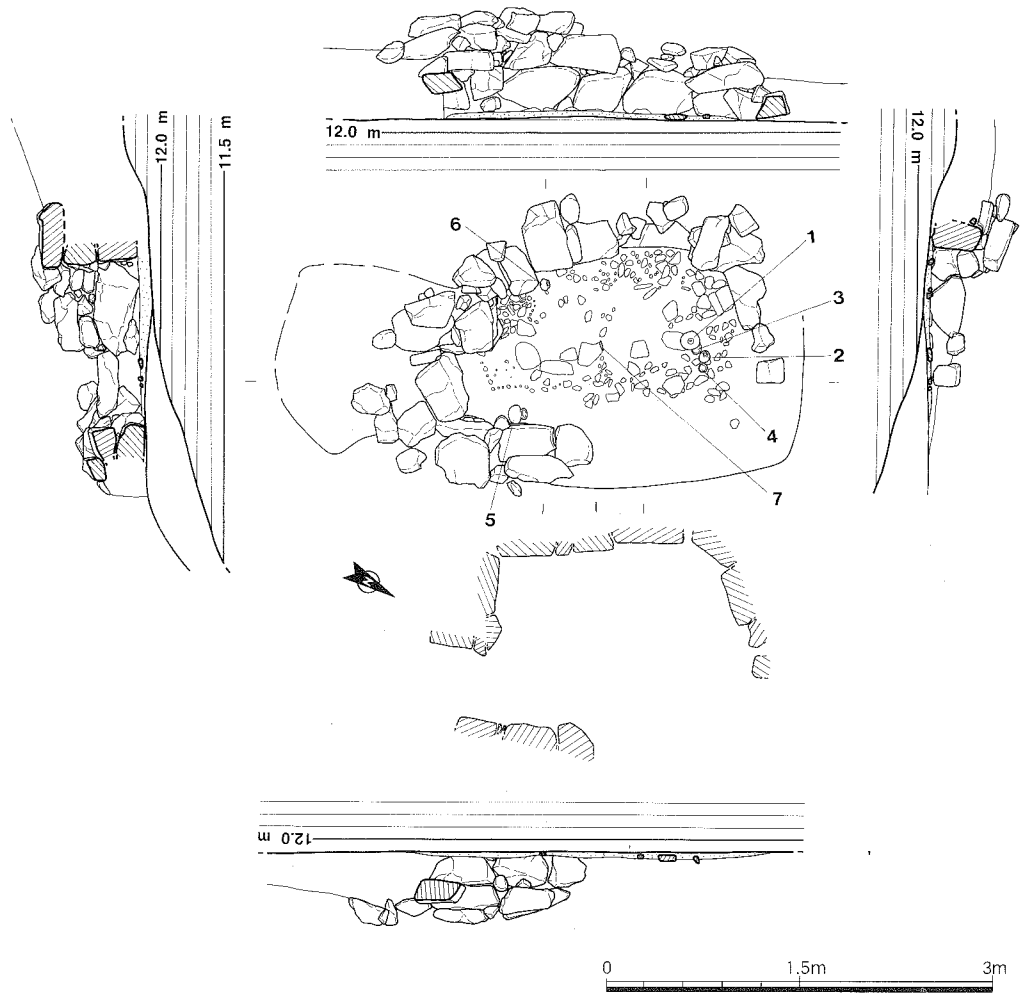
해발 12.1m선상에 주축방향을 N33°W로 하여 축조된 방향에 가까운 橫穴式 石室墳이다. 석실의 내부에는 목탄 알갱이가 비교적 많이 포함된 砂質性이 강한 흑갈색 부식토가 채워져 있었다.

遺構의 바닥은 경사면을 'L'자상으로 切土하여 낮은 쪽인 동쪽에는 2, 3단의 版築으로 쌓아 올려 바닥면을 편평하게 정지하였다. 遺構는 경사면을 따라 심하게 유실되어 동북모서리와 동쪽단벽의 2/3가량은 파손되어 남아 있지 않았다. 서쪽장벽은 5단 정도가 남아 있었는데, 최하 단석은 대형 할석을 사용하여 가로쌓기를 주로 하고, 2단 이상은 세로쌓기하였다. 2단부터 모서리의 각을 줄이면서 약하게 內傾한다.

羨道는 右偏手式으로 비교적 짧은데 길이 72cm, 폭 54cm이다. 연도의 측벽은 가로쌓기로 축조하였으며, 羨道를 막은 閉鎖石은 대형 할석 1매만 남아 있었다. 연도에 접한 土層을 보면 墓道로 생각되는 층위가 비스듬하게 연도로 이어지고 있는데 墓道の 상부에 목탄편이 많이 혼입되어 있는 점으로 보아 墓道の 폐쇄과정에 일종의 儀禮行爲가 이루어졌을 가능성이 높다.

遺構의 바닥은 15cm이상의 할석을 불규칙적으로 깔고 잔 자갈돌과 모래를 전면에 채워 넣었다. 비교적 크기가 큰 할석들은 棺臺로 사용되었을 가능성이 높으나 배치가 불규칙하여 棺의 위치를 추정하기는 어렵다. 屍床石은 연도에 이어지는 동장벽을 따라 일정폭을 제외하고 遺構내부의 전면에 깔려 있다.

한편 석실의 주변으로 殘存幅 120cm, 최대깊이 50cm정도의 周溝가 둘러진 흔적이 확인되었



圖面 5. 1號 石室 (1/60)

는데 이는 경사면을 이용하여 石室을 축조하고 封土를 版築하여 쌓으면서 생토면과 봉토가 만나는 지점을 周溝로서 활용한 것이다. 그러나 경사면을 따라서 봉분이 유실되고, 또 주구내에 주변의 흙이 채워지면서 平地化되어 버렸기 때문에 토층의 斷面에서만 확인이 가능하였다.

遺構의 규격은 석실의 길이 204cm, 너비 130cm이며, 최대깊이 90cm이다.

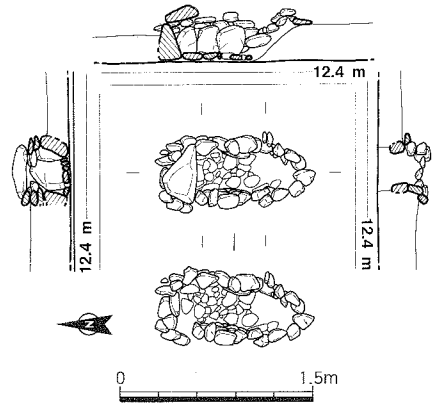
#### 1-1號 石槨

해발 12.5m선상에  $N1^{\circ}W$ 의 주축방향으로 만들어진 小形 石槨이다. 長壁은 2, 3단정도이며, 最下端石을 세워쌓은 다음 그 위에 1, 2단정도를 세로쌓기하였다. 북쪽단벽은 할석 1매를 세워 막았으며, 남단벽은 열린상태인데 남쪽 屍床의 끝에서 약  $30^{\circ}$  각도로 경사진 채 바닥면이 조성되어 있다. 長壁과 연결된 넷돌을 1단 돌려 長壁과 短壁을 구성하고 있다. 그리고 북쪽

단벽 위에는 1매의 蓋石이 덮인 상태로 조사되었는데 全面에 걸쳐 蓋石이 덮여 있지는 않았던 것 같다.

遺構의 바닥은 甃돌을 사용하여 한벌 깔았는데 길이 방향으로 50cm까지 깔려 있다. 内部에서는 파손된 軟質甃 1점이 出土되었다

遺構의 規格은 石槨의 길이 84cm, 너비 30cm, 최대깊이 30cm이다.



圖面 6. 1-1號 石槨 (1/60)

## 2) 遺物

1號墳에서 出土된 遺物은 遺構의 内部에서 확인된 遺物과 遺構内部의 조사과정에서 확인된 攪亂遺物, 그리고 봉토의 조사과정에서 수습된 封土遺物들로 구별되는데 그 세부명세는 다음과 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
1	臺附盃	7.8	13	6.8	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 灰青色, 속심 紫色. 杯身部 下端에 회전목리흔 일부 잔존. 전체 회전물손질 정면. 1단의 長方形 小形透窓 3개.	2
2	盃	5.5	12.5	8.3	軟質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 약간 混入. 內外面 黃色, 속심 황색. 회전물손질 정면. 底部에 十字形의 文樣施文.	3
3	盃	5	11.4	8.5	軟質. 完形. 燒成普通. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 黃色, 속심 黃色. 회전물손질 정면. 表面 일부 剝離. 口緣端 凹凸기미.	4
4	軟質甃	8.6	10.5	7.2	完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 다수 混入. 內外面 황등색, 속심 황색. 지면에 시계방향 예새각기. 胴部에 회전물손질흔.	6
5	短頸壺	13.5	11	8.3	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 底部 회황색. 회전물손질 정면. 口緣과 내부 바닥에 암록색 自然油.	5
6	瓶形土器	12.8	7	8	陶質. 口緣 1/3정도 결실. 燒成良好. 長石, 石英 소량 混入. 內外面 灰青色, 속심 회적색. 회전물손질 정면. 底部에 시계방향 회전 각기. 동상부에 2조의 침선施文.	1

7은 꺾쇠로 추정되는데 단면은 長方形이며 일부가 결실되었다. 잔존길이는 4.8cm, 두께는 0.4cm이며, 出土位置는 7이다.

### 나. 封土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
8	蓋	5	10.8		陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 灰青色, 속심 紫色. 회전물손질 정면. 外面 상부에 인화문 12개를 施文. 전체적으로 自然油산화박리. 口緣端에 짚흔 부착. 꼭지경: 2.8cm	

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
9	高杯	4.8	10.6	5.7	陶質. 口緣 1/2 결실. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 口緣과 臺脚 말단에 自然油(암흑색)산화박리, 짙은 부착.	
10	臺附盥	6.6	10	4.9	陶質. 口緣 약간 결실. 燒成良好. 長石, 石英 소량 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 2개. 臺脚 말단에 自然油(암흑색)와 짙은 부착.	
11	臺附 長頸壺	(5.4)	·	11.2	陶質. 臺脚만 잔존. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形透窓 4개. 臺脚 말단에 일부 자연유산화박리.	

12는 土製紡錘車로 完形이다. 황갈색을 띠며, 燒成은 보통이고 黑斑이 일부 보인다. 胎土에는 長石과 石英 등이 일부 혼입되어 있다. 지름은 5.2cm, 두께는 2.3cm이다.

#### 다. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
13	高杯	(5.3)	10.2	·	陶質. 臺脚결실. 燒成良好. 長石, 石英 소량 混入. 內外面 암청색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 2개.	
14	臺附盥	(6.3)	·	5.8	陶質. 口緣결실. 燒成良好. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 方形透窓 3개씩. 杯身 내부에 自然油 박리.	
15	鉢	(8.3)	11	·	陶質. 胴體 1/2 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 암회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 底部에 오른쪽(시계방향)으로 각기함.	

16은 1-1號 石槨內에서 확인된 軟質甕으로 口緣部만 남아 있다. 胎土에는 長石과 石英, 雲母 등이 다량으로 혼입되어 있다. 내외면 적갈색이며 속심은 회황색이다. 전체적으로 회전물손질정면하였다. 口徑은 11cm이며 잔존높이 6.2cm이다.

## 2. 2號 橫穴式 石室墳

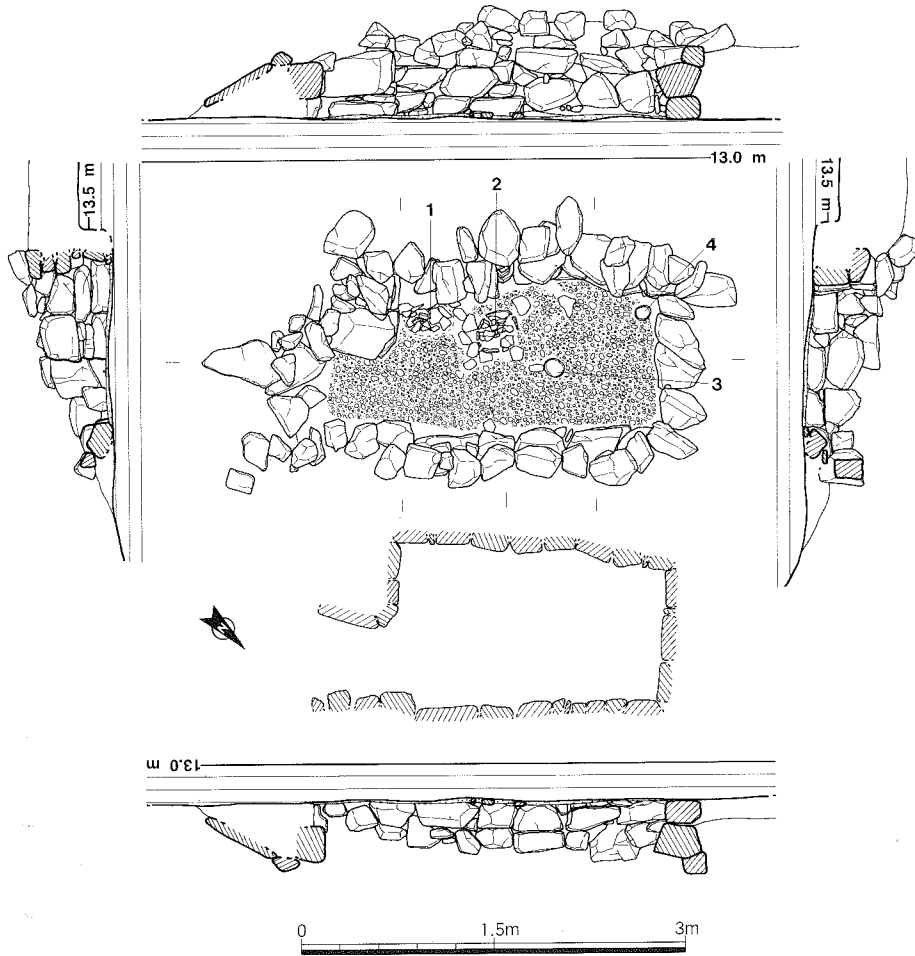
### 1) 遺構

해발 13.3m선상에 축조된 주축방향이 N45°W인 長方形의 橫穴式 石室墳이다. 조사구역내 오른쪽 구릉의 상단부에 위치하며, 북서쪽으로 1號墳이 남서쪽으로는 3號墳이 인접해 있다.

구릉의 사면을 이용해 서쪽을 30cm정도 파고 설치한 半地上式의 石室로 경사면을 따라 유실되어 정확한 봉토의 범위는 확인할 수 없었으며 石室의 상부도 대부분 유실되었다.

석실의 축조는 경사면을 'ㄱ'자상으로 절토하여 墓域을 구획하고, 측벽석을 쌓아 올리면서 주변을 봉토흙으로 채웠다. 측벽석은 2단까지 수직으로 쌓고 3단부터 内傾시켜 천장부를 구성한 것으로 보인다. 천장의 구조는 남아 있는 벽석이 4, 5단에 불과하여 정확히 알 수 없다. 최하단석은 가로쌓기로 평면을 구획하였고 2단부터 세로쌓기를 사용하여 내경시켰다.

羨道는 석실의 우측편에 설치되어 있는데 남아 있는 羨道部의 길이는 65cm, 폭은 50cm 정도



圖面 7. 2號 石室 (1/60)

이다. 遺構의 동쪽장벽은 羨道部分에서 내측으로 꺾인 현상을 보이고 있어 마치 양수식의 연도부인 것으로 보이기도 하나 우편수식으로 보는 것이 좋을 것 같다.

屍床部分은 전체적으로 모래와 자갈돌이 섞여 있는 사질토를 바닥 전체에 깔 것으로 보인다. 그러나 遺構의 바닥부분까지攪亂되어 정확하지 않다. 아마도 軟質甕의 出土狀態로 볼 때 棺臺는 바닥에서 20~30cm 높이를 가지며 羨道の 좌측부분에 마련되었을 가능성이 있다. 그리고 遺構의 바닥은 전면에 자갈돌을 한 벌 정도 깔았던 것으로 추정된다.

出土遺物은 서쪽장벽에 접해 남쪽으로 短頸壺 2점이 무너진 측벽돌에 의해 파괴된 상태로 관대 위에서 出土되었고, 석실의 중앙부에서 軟質甕 1점이 出土되었는데 위치로 보아 棺臺 위에 있었던 것으로 추정된다. 서북모서리에서 병 1점이 出土되었으며, 내부에서 臺附盥, 把手附盥, 紡錘車 각 1점씩이 교란된 채 확인되었다.

遺構의 規格은 석실이 길이가 210cm, 너비가 126cm이며, 잔존최대깊이는 84cm이다.

## 2) 遺物

2號墳에서 出土된 遺物은 遺構의 내부에서 확인된 遺物과 遺構內部的 조사과정에서 확인된 攪亂遺物, 그리고 봉토의 조사과정에서 수습된 封土遺物들로 구별되는데 그 세부 명세는 다음과 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格 (cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
17	軟質甕	10.2	10.7	5	軟質. 口緣 1/2결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 다량 混入. 內外면 황색, 속심 황색. 회전물손질 정면.	3
18	軟質壺	(31.5)	21	30.5	軟質. 底部 파손. 燒成不良. 長石, 石英, 雲母 다량 混入. 內外면 황갈색, 속심 흑색. 外面에 平行打捺. 內面 口頸部에 指頭痕 잔존하고 剝離가 심함.	1
19	軟質壺	32.5	21.8	14	軟質. 1/2결실. 燒成不良. 長石, 石英, 雲母 다량 混入. 內外면 회백색, 속심 회백색. 內面 格子打捺. 外面 平行打捺. 表面剝離.	2
20	瓶形土器	13.9	7.1	6.5	陶質. 口緣 1/2결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 混入. 內外면 灰青色, 속심 紫色. 회전물손질 정면. 底部는 왼쪽으로 예세 각기함. 口緣과 동상부에 自然油(녹색)酸化剝離.	4

### 나. 封土遺物

21은 陶質製의 臺附甞으로 燒成은 良好한 편이며, 胎土에는 長石, 石英이 소량 混入되어 있다. 內外面은 灰青色이며 속심은 紫色이다. 口緣 일부가 결실되었으며 杯身部에는 돌대가 둘러져 있으며 전체적으로 회전물손질로 整面하였다. 臺脚에 上, 下 交叉된 方形 透窓 4개씩이 배치되어 있으며 臺脚의 말단에 趾흔이 부착되어 있다. 規格은 높이 6.3cm, 口徑 8.7cm, 底徑 4.2cm이다.

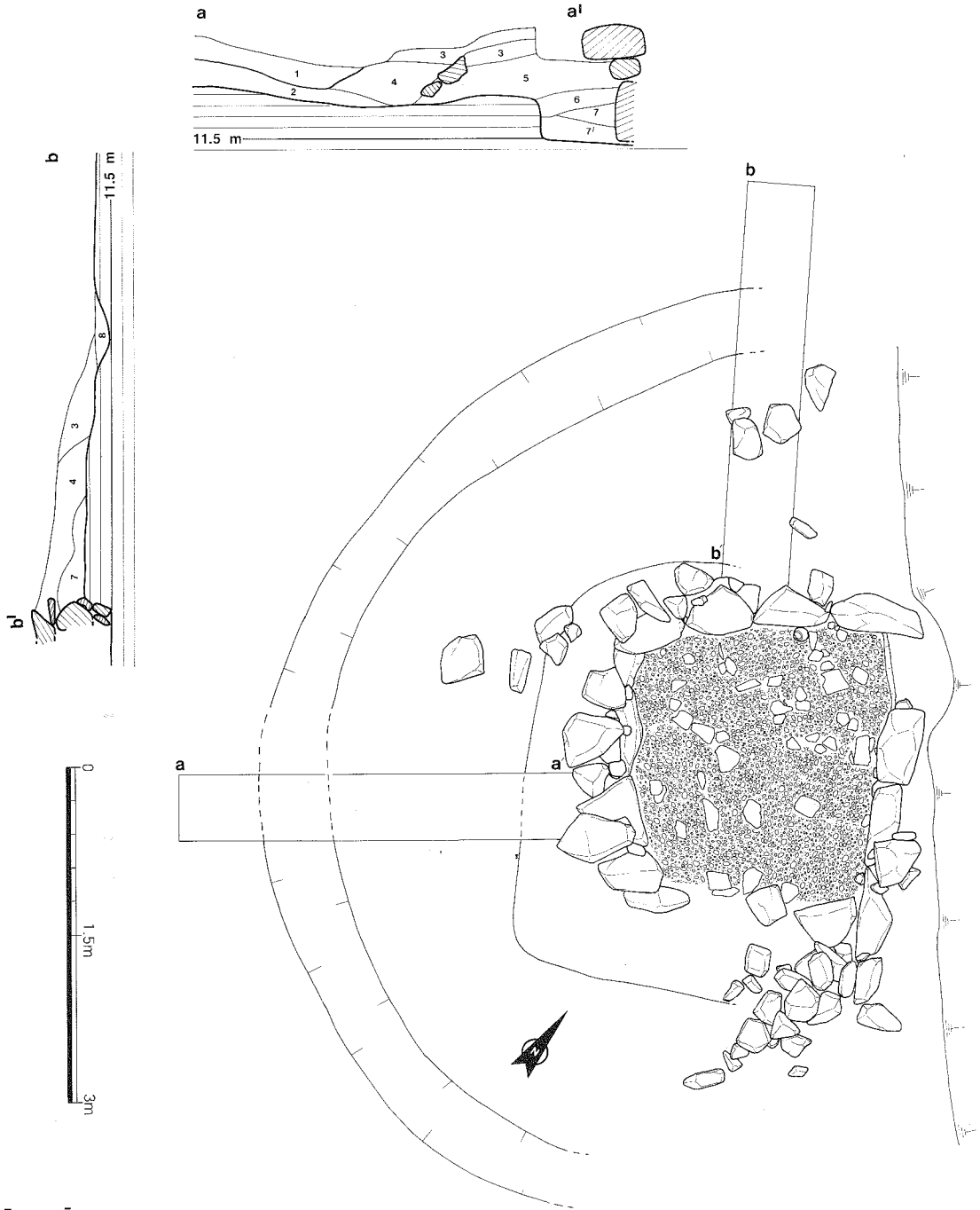
22는 土製紡錘車로 외면은 흑갈색이며 속심은 赤葛色이다. 胎土는 비교적 정선되었으며 일부가 결실되었다. 지름 4.8cm, 두께 2.8cm이다.

### 다. 內部攪亂遺物

23은 陶質製의 罍形土器로 1/2정도가 결실되었다. 燒成은 良好한 편이며, 胎土에 長石과 石英이 약간 混入되어 있다. 內外面은 暗青色이고 속심은 紫色이다. 전체적으로 회전물손질 整面하였으며 底部에 각기흔이 희미하게 남아 있다. 전체적으로 自然油가 酸化剝離되어 있다. 遺物의 規格은 높이 8.4cm, 口徑 10.4cm, 底徑 6.5cm이다.

## 3. 3號 橫穴式 石室墳

### 1) 遺構



### 3호 토층

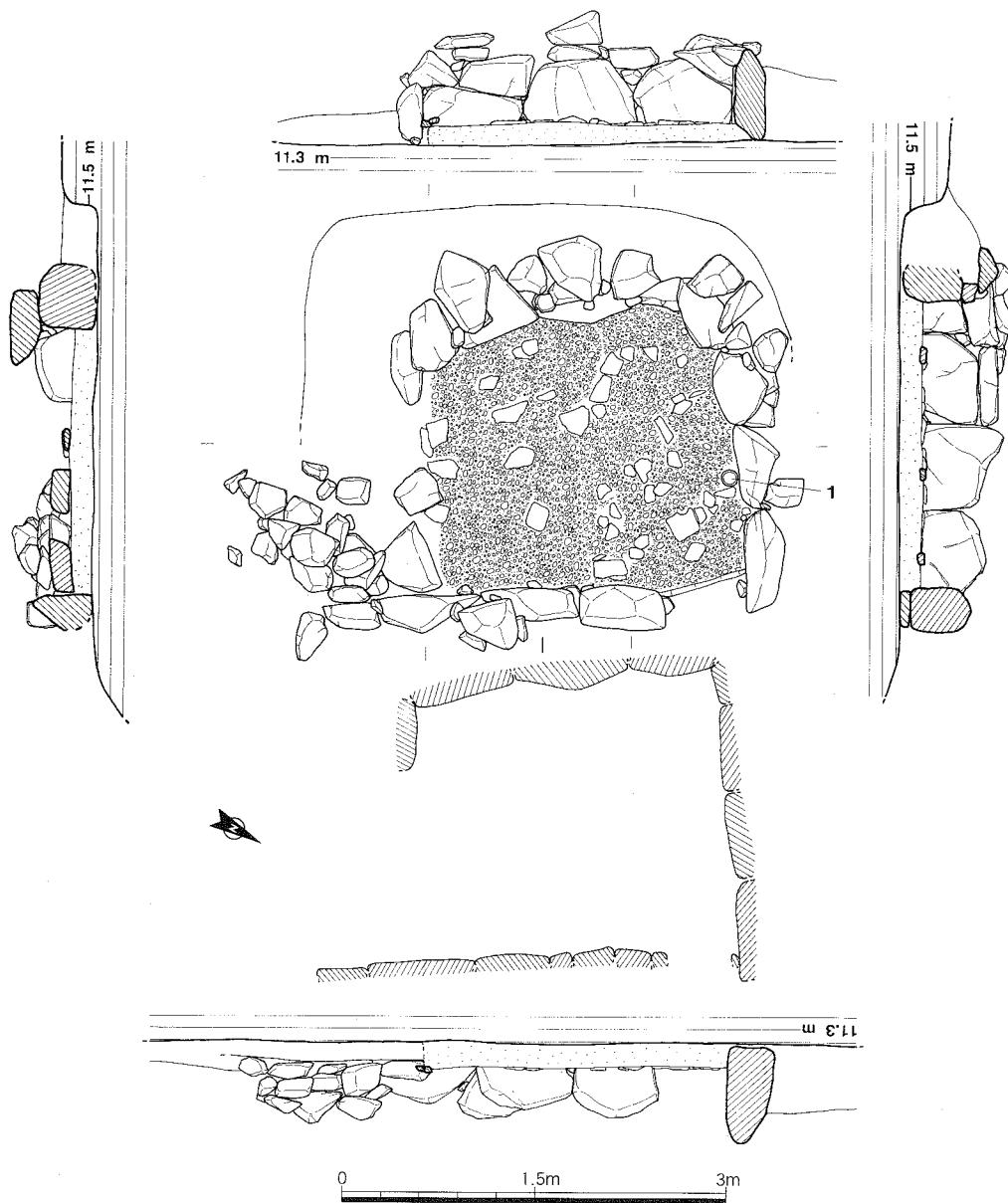
- 1 황갈색 사질. 점성이 없고 입자가 고르지 못하다
- 2 갈색 사질. 입자가 고르지 못하고 약간 단단하다
- 3 적갈색. 입자가 비교적 고르나 점성은 없다. 봉토로 추정
- 3 갈색. 3층과 비슷하나 더 어둡다.
- 4 황갈색. 입자 비교적 고르고 점성은 없다. 봉토
- 5 갈색 사질. 입자 고르고 점성은 없다
- 6 묘광내 채워진 흙. 갈색. 점성이 없다
- 7 황색 사질. 입자 고르고 비교적 단단하다. 암반 성질이 강하다
- 7 황갈색 사질. 암반 성질이 강하다.
- 8 주구내에 쌓인 층으로 적갈색 사질. 암반 알갱이가 섞이고 입자가 균일하지 못하다

圖面 8. 3號 石室, 土層 (1/60)



해발 11.4m선상에 축조된 横穴式 石室墳으로 주축 방향은 N27°W이다. 조사구역내 오른쪽 구릉의 상단부에 위치하며, 남서쪽으로 27號 石槨이, 서북쪽으로 2號 石室과 남동쪽으로는 4號墳이 인접해 있다.

구릉의 경사면을 'L'자상으로 30~40cm 정도의 깊이로 파내고 石室을 축조하였는데, 조사구역내에 위치한 横穴式 石室중에서 가장 규모가 큰 遺構이다. 동북쪽으로 급격한 경사면을 이



圖面 9. 3號 石室 (1/60)

루고 있기 때문에 동쪽장벽의 유실이 심하고, 경사면을 따라 시상석의 일부도 유실되어 전체적으로 가장 훼손이 심하다.

遺構의 축조방법을 살펴보면 遺構의 전체평면은 方形에 가까우며 최하단석은 대략 70cm내외의 비교적 대형석재를 세워서 平面區劃하였다. 그리고 2단부터는 비교적 크기가 작은 石材를 이용해 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용하였다. 연도의 좌측벽과 석실의 남단벽은 攪亂이 심하여 제대로 원형을 파악할 수 없었다.

羨道는 遺構의 남쪽방향으로 東長壁과 이어진 상태로 확인되었으며 入口에는 패쇄석이 불규칙하게 쌓여 있었다. 연도의 좌측벽은 교란되어 남아 있지 않았으며, 연도의 바닥은 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하였다. 羨道の 길이는 80cm이며 너비는 좌측벽의 결실로 인하여 알 수 없다.

遺構의 바닥은 자갈들을 포함한 사질토가 석실내부 전면에 걸쳐 약 20cm 두께로 골고루 깔려있었는데 시상석 내에 20cm전후의 割石을 불규칙적으로 배치하였다. 屍床面은 전체적으로 편평하여 棺臺施設로 볼 만한 시설물은 인정되지 않는다. 그리고 屍床 및 棺臺의 시설과 빈약한 遺物의 副葬量으로 인하여 追加葬의 유무는 전혀 확인할 방법이 없다.

한편 석실의 서쪽으로 석실의 주변에 둘러진 것으로 추정되는 周溝가 확인되었는데, 잔존한 규모는 폭 60cm, 깊이 약 15cm인데 석실의 묘광선으로부터 120cm정도 간격을 두고 원형으로 돌아 가며 약 절반정도만 남아 있고 아래쪽은 경사면을 따라 유실되었다.

석실의 규모는 길이 240cm, 너비 210cm, 최대깊이 110cm이다.

## 2) 遺物

### 가. 出土遺物

24는 陶質製의 瓶形土器로 完形이다. 燒成은 良好하며 胎土에는 長石과 石英, 雲母 등이 일부 混入되어 있다. 內外面과 속심은 회색이며, 회전목리후 회전물손질로 정면한 것으로 보인다. 底部는 녹로에서 떼어낼 때의 흔적이 남아 있으며, 底緣에는 시계반대방향으로 각기한 흔적이 있다. 遺物의 規格은 높이 11.2cm, 口徑 4.7cm, 底徑 7.3cm이다. 出土位置 : 1

### 나. 內部攪亂遺物

25는 金銅製 耳飾으로 일정두께의 靑銅막대에 金箔을 덧입히고 이를 둥글게 말았다. 따라서 耳飾의 내측은 금박이 밀린 모양이 남아 있다. 지름은 2.8cm, 두께 0.4cm이다.

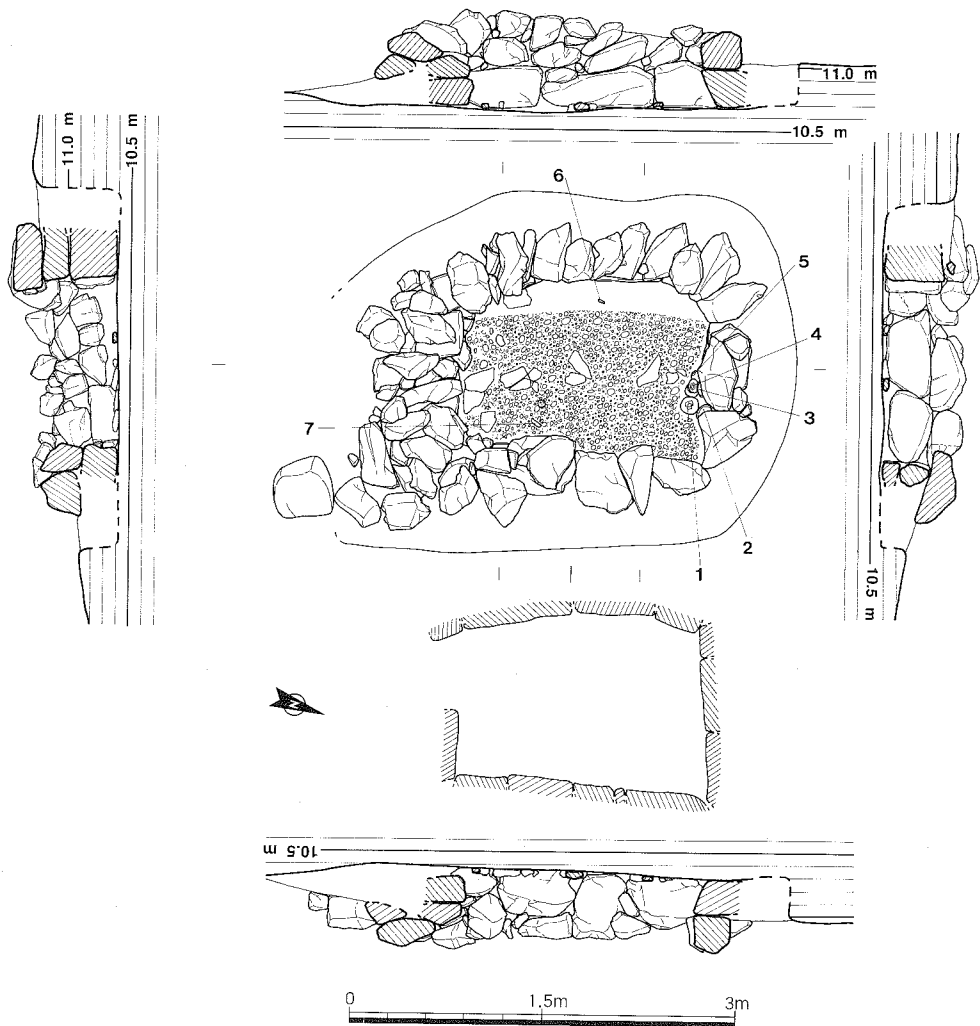
26은 陶質製 高杯의 杯身部로 臺脚은 결실되어 남아 있지 않았다. 燒成은 良好하며, 胎土에 長石과 石英이 일부 混入되어 있다. 전체적으로 회전물손질 整面하였으며, 內外面은 灰青色이고 속심은 紫色이다. 臺脚의 透窓은 상단에 3개가 배치된 것으로 관찰된다. 잔존높이 3.7cm, 口徑 10.1cm이다.

### 다. 封土遺物

27은 陶質製의 大壺로 口頸部와 同體部 1/3정도가 결실되었다. 燒成은 良好하며 전체적으로 灰靑色을 띤다. 胎土에 長石, 雲母 알갱이가 혼입되어 있으며 전체적으로 회전물손질 整面하였고 同體部の 中位쯤에 內拍子痕이 남아 있다. 동체상부에 회녹색 자연유가 剝離되어 있으며, 底部에서 기포가 형성되어 있다. 잔존높이는 40.2cm, 胴最大徑 51.5cm이다.

## 4. 4號 橫口式 石室墳

### 1) 遺構



圖面 10. 4號 石室 (1/60)

해발 10.6~10.7m선상에 主軸方向이 N17°W인 長方形의 橫口式 石室墳이다. 조사구역내 오른쪽 구릉의 남쪽사면에 위치하며, 北으로 3號 石室과 인접하고, 遺構의 남동쪽 모서리와 동일선상에 14號 石槨이 위치한다.

유구는 구릉의 완경사면에 위치하고 있는데 遺構의 상부는 거의 유실되었고, 최하단석으로부터 2, 3단 정도만 남아 있었다. 遺構의 내부에는 遺構의 측벽석으로 보이는 돌들이 가득 채워져 있었는데 상태로 보아 盜掘에 의한 것이 아니라 아마도 31號 國道가 건설될 당시 주변의 遺構들과 함께 파손된 것으로 생각된다. 封土나 周溝 등, 石室의 周邊施設은 확인되지 않았다. 遺構의 주변에서 확인되는 묘광선을 보아 생토면을 20cm에서 최대 50cm까지 파고 만들어진 반지상식이다.

遺構의 축조방법은 최하단석부터 2단까지는 세로쌓기를 주로 하였으며, 3단부터는 가로쌓기 하였다. 최하단석은 비교적 큰돌로 서쪽장벽에서 시작해 시계방향으로 한단 쌓았으며, 2단부터는 반시계방향으로 동시에 축조해 올라간 것으로 보인다.

入口는 남단벽의 절반정도를 사용하였는데 서측장벽과 맞닿아서 확인된다. 入口를 막은 패쇄석은 다른 3면의 측벽돌의 바닥높이보다 10cm정도 뜬 상태로 쌓여 있었다. 입구부의 너비는 최하단석을 기준으로 볼 때 대략 54cm정도인 것으로 보인다.

遺構의 바닥은 2~5cm 정도의 냇돌을 사용하여 서측장벽으로 25cm정도의 폭을 남기고 전면 에 걸쳐서 5cm내외로 얇게 깔았다. 그리고 동측장벽에 붙여서 80cm정도의 폭으로 직경 12~16cm가량의 割石을 다시 깔았는데 이 부분이 棺臺로 사용된 것 같다. 그런데 판대는 遺構의 바닥과 높이상으로 크게 차이가 없다.

遺構의 規格은 길이 192cm, 너비 126cm, 최대깊이 72cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 북쪽단벽과 접하여 土器類들이 副葬되어 있었고 遺構의 중간부분에서 刀子가 확인되었다. 土器遺物의 명세는 표와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
28	蓋	5.6	12.9	6.2	陶質. 1/3정도 口緣결실. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면.	4
29	有蓋高杯	6.2	12.4	4.6	蓋:陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 회색, 속심 연자색. 회전물손질 정면. 杯身 外面에 침선을 경계로 三角集線文과 만원점문을 施文.	2
		4.3	10.3	6.8	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 口緣部와 臺脚 말단부에 암록색 自然油와 짙은 부착.	

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
30	有蓋高杯	5.1	12.6	3.1	蓋:陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 杯身 外面에 인화문과 三角集線文, 그리고 인화문의 순으로 施文. 外面에 암록색 自然油 부착. 口緣端에 짙흔 부착.	3
		3.8	10.3	5.2	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 灰青色. 회전물손질 정면.	
31	把手附甕	12	11	6.5	陶質. 口緣 1/2결실. 과수결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 저연에 평행타날흔이 희미하게 잔존.	5
32	瓶形土器	(13)	.	9.8	陶質. 口緣결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 頸部에 이중 반원문 施文. 胴상부에 침선으로 3구분을 한 후 위에서부터 이중반원문, 인화문, 이중반원문 施文.	1

33과 34는 鐵製刀子로 遺構의 내부에서 확인된 것이다. 33은 선단부가 결실된 상태이며 身部斷面이 이등변삼각형이다. 잔존길이는 3.8cm이며 폭은 1.2cm이며 出土位置는 6이다.

34는 先端부와 柄部가 결실되었는데 身部斷面은 직각삼각형이다. 身部에 부분적으로 목질이 부착되어 있다. 잔존길이 5.1cm, 폭 1.0cm이며 出土位置는 7이다.

#### 나. 内部出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
35	高杯	10.3	9.8	7.7	陶質. 臺脚 1/2缺失. 瓦質燒成. 長石, 石英, 雲母 소량 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 臺脚 外面에 회전목리흔. 1단의 長方形 透窓 4개.	
36	高杯	7.3	10.4	6.2	陶質. 口緣 1/2缺失. 瓦質燒成. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 1단의 方形透窓 3개. 口緣에 자연유 산화막리.	
37	瓶形土器	(9.8)	.	6	陶質. 口緣 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 다수 혼입. 內外面 灰青色, 속심 암회색. 회전물손질 정면. 胴상부에 녹색 자연유부착. 일부 산화막리.	

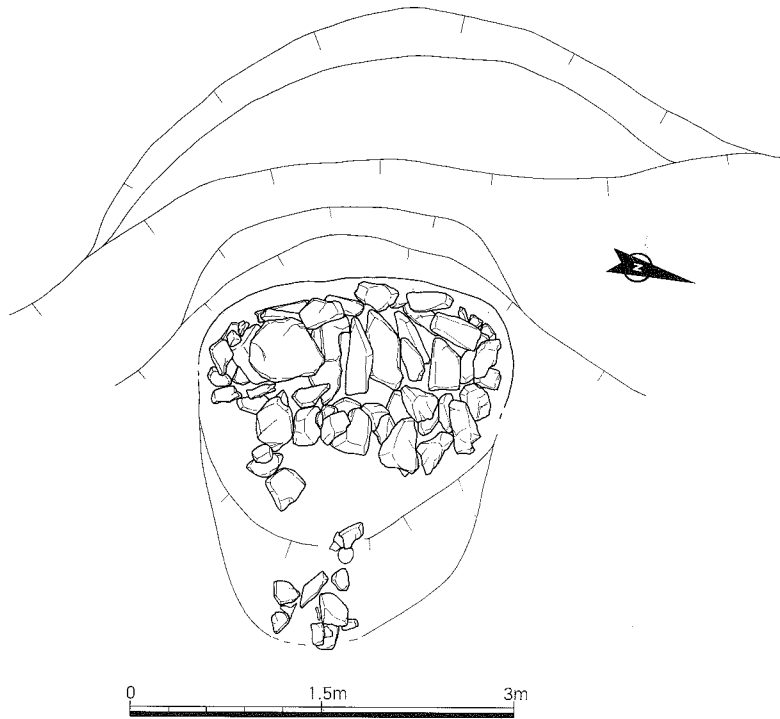
## 5. 5號 石槨墓

### 1) 遺構

조사구역내 가장 북쪽 말단부 해발 10.7~10.8m선상에 위치하며 主軸方向은 N15°W이다. 남서쪽 구릉의 위쪽에 1호분이, 아래쪽으로는 12호 석실이 있다.

遺構가 위치한 곳은 매우 경사가 심한 곳으로 경사면 일부를 'L'자상으로 파고 遺構를 만들었으나 일부면은 경사면에 盛土하여 바닥을 정지하였다.

遺構의 축조방법은 바닥면을 정지한 후 20~30cm 내외의 割石을 세워쌓기 하였는데 遺構의 내벽을 거의 1단 내지 2단으로 구성하고 있다. 遺構의 전면에 蓋石이 덮여 있었으나 蓋石이 장벽의 상단부에 걸친 상태가 아니고 측벽석의 안쪽으로 함몰되어 있었다. 이러한 점에서 石



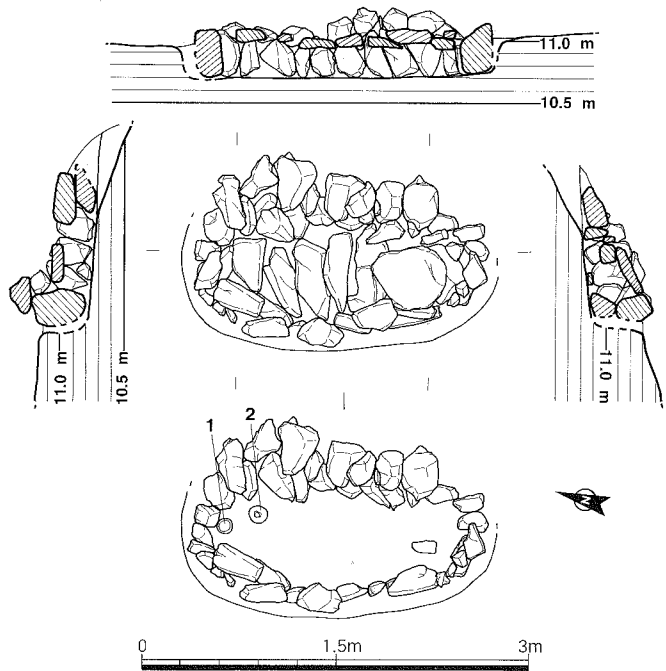
圖面 11. 5號 石槨과 周邊 (1/60)

槨의 내부에 목관을 안치한 후 木棺 위에 蓋石을 올렸을 가능성이 있다.

遺構의 바닥은 따로 屍床을 마련하지 않고 바닥면을 정지해서 그대로 이용한 것으로 보인다.

石槨의 규모는 길이 183cm, 너비 50cm, 높이 60cm이다.

한편 5號의 동쪽으로 甕棺으로 보이는 遺構가 1기 수습되었다. 아마도 6號, 7號 석실의 주변에서 확인되는 甕棺들과 비슷한 양상으로



圖面 12. 5號 石槨 (1/60)

파악되는데 主石室(槨)의 주변에 위치하는 倍墓로 생각된다. 묘광을 파고 壺를 세운 상태로 안치하고 그 위에 把手附壺를 거꾸로 덮어 놓았고 그 위에 割石들을 얹어 놓았다.

## 2) 遺物

出土遺物은 북쪽단벽으로 붙어서 甕이 1점 出土되었으며, 그 옆에 동쪽장벽으로 瓶이 1점 出土되었다.

5號 石槨墓내에서 出土된 遺物은 38, 39이며, 40, 41은 5호 석곽의 주변에서 확인된 甕棺이다.

38은 陶質製 甕으로 燒成은 보통이며 胎土에 長石과 石英, 雲母가 다량 혼입되어 있다. 내외면과 속심은 모두 회색이다. 전체적으로 회전물손질로 마무리하였으며 底部에는 각기로 整面하였으며 器面에 山字모양의 文樣이 施文되어 있다. 規格은 높이 4.8cm, 口徑 13.6cm, 底徑은 7.5cm이다. 出土位置:1

39는 陶質製의 瓶形土器이다. 燒成은 良好하며 胎土에는 長石, 石英 등이 일부 혼입되어 있다. 내외면 회색, 속심은 자색이다. 口緣部의 일부가 결실되었으며 器面은 전체적으로 회전물손질로 整面하였고 底部는 시계방향으로 예새각기하였다. 肩部에 2조의 沈線이 돌려져 있으며 녹색의 자연유가 부착되어 있다. 遺物의 잔존높이는 11.3cm, 底徑은 6.2cm이다. 出土位置:2

40은 軟質製의 把手附壺인데 41과 같이 잇대어 甕棺으로 사용되었다. 燒成은 普通이며 胎土에 石英, 長石, 雲母가 혼입되어 있다. 외면은 暗灰青色, 내면은 황갈색, 속심은 황동색이다. 외면에 종방향으로 평행타날 했는데 底部로 갈수록 불규칙적이어서 格子打捺의 효과가 보인다. 잔존높이 29cm, 口徑 22.8cm이다.

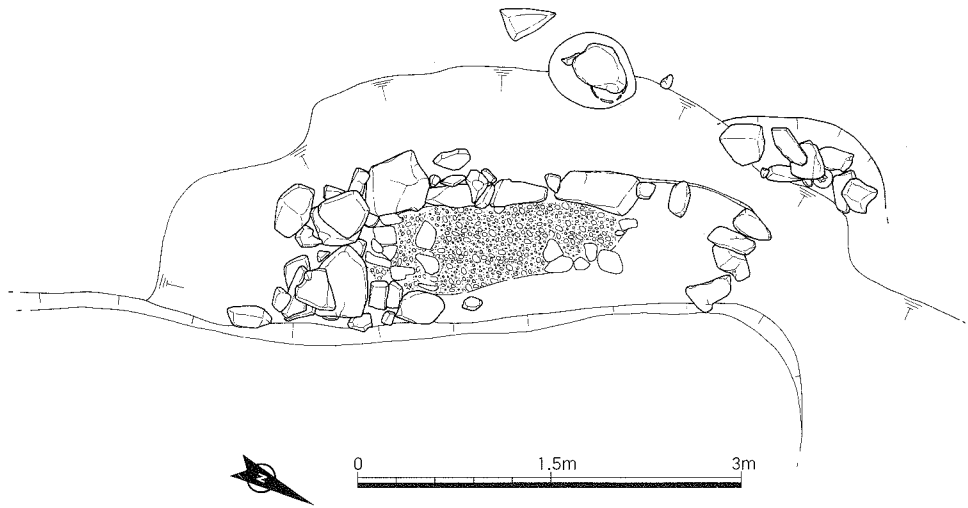
41은 陶質製 大壺로 口緣과 底部가 결실되고, 同體部는 부분적으로 결실된 상태이다. 燒成은 보통이며, 胎土에 石英, 長石, 雲母 등의 석립이 혼입되어 있다. 내외면과 속심은 모두 暗灰青色이다. 외면은 박자후 시계방향으로 회전물손질 하였고, 내면은 박자후 물손질 정면하였다. 잔존높이 46.2cm, 胴最大徑 44cm이다.

## 6. 6號 橫穴式 石室墳

### 1) 遺構

조사구역내 북서쪽 경사면 하단부의 해발 10.5m선상에 축조된 석실(곽)로 대부분 파괴되고 북서쪽 모서리 일부만 남아 있다. 주축방향은 N19°W로 추정되며, 주변에 주로 횡혈식 석실이 분포하고 있는 점으로 미루어 아마도 橫穴式 石室墓의 일부인 것으로 보인다.

북서쪽 모서리에서 확인된 묘광선으로 보아 경사면을 'L'자로 파고 축조한 반지상식으로 추정된다. 石室의 축조방법은 남아 있는 상태에서는 정확히 파악할 수 없었고, 서쪽장벽이 토

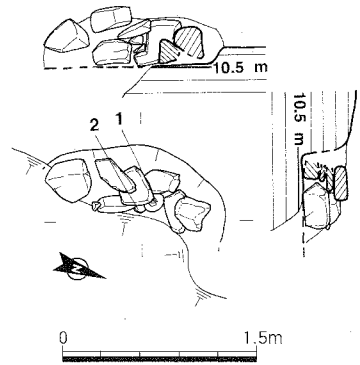


圖面 13. 6號 石室과 7號 石室, 5號 甕棺 (1/60)

압에 의해 石室內부로 밀려 있는 것이 확인되었다.

시상 역시 石室의 내부가 모두 유실되어 확인할 수 없었다. 遺構의 잔존규모는 길이 90cm, 너비 40cm, 최대깊이 40cm 정도이다.

잔존하고 있는 6號 석실의 남서쪽으로 본 遺構와 관련된 것으로 보이는 5號 甕棺이 인접해 있다. 5號 甕棺은 해발 10.7m선상에 수직으로 판 표광내에 把手附壺(44)가 바로 서 있고, 그 안에 底部가 없는 附加口緣長頸壺(45)가 들어가 있다. 그 위에 1개의 할석이 壺를 덮고 있다.



圖面 14. 6號 石室 (1/60)

## 2) 遺物

遺物은 북서 모서리 측벽돌 아래에서 臺附盃과 瓶形土器 각 1점씩 出土되었다.

42는 陶質製의 臺附盃으로 杯身의 1/2정도가 결실되었다. 燒成은 보통이며. 胎土에 長石, 石英, 雲母 등이 다량으로 혼입되어 있다. 내외면과 속심은 회색이며 기면은 전체적으로 회전물손질 정면하였다. 杯身部에는 '山'자 모양의 문양이 施文되어 있으며 臺脚에는 2개의 소형 장방형 透窓이 배치되어 있다. 높이 7.3cm, 口徑 11.7cm, 底徑은 6.8cm이다. 出土位置:2

43은 陶質製의 瓶形土器로 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 石英이 일부 혼입되어 있다. 내외면은 灰靑色이며 속심은 자색이다. 전체적으로 회전물손질 정면하였으며, 동상부는 침선을 사용하여 4分하고 三角集線文과 二條同心圓文(인화문)을 교대로 施文하였다. 口緣部는 附加口緣



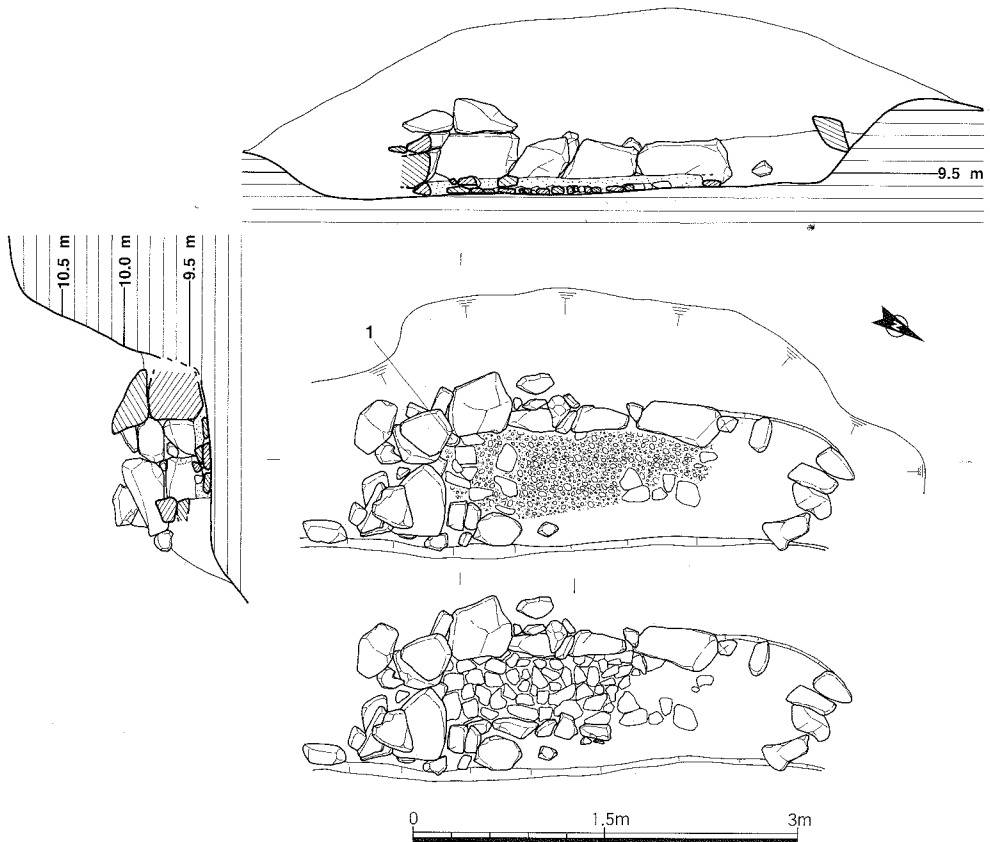
의 형태로 보이는데 결실되어 확실하지 않다. 遺物의 규격은 잔존높이 11cm, 底徑 9.3cm이다.  
出土位置:1

44는 軟質의 把手附壺로 5號 石槨의 주변에서 채집된 40과 거의 동형이다. 동상부는 결실되었고 우각형과수를 포함한 일부만이 남아 있다. 잔존 높이 18cm이다.

45는 44의 내부에 밀려들어간 상태로 확인된 附加口緣長頸壺로 口緣과 底部가 결실되었다. 陶質製이며 燒成은 보통이고 胎土에는 長石과 石英, 雲母 등이 다량 혼입되어 있다. 내외면은 灰青色이며, 속심도 灰青色이다. 동체부는 평행타날후 전체적으로 회전물손질 정면하였다. 동체상부와 口緣內面은 표면박리가 심한 편이다. 잔존높이 16.7cm이다.

## 7. 7號 橫穴式 石室墳

### 1) 遺構



圖面 15. 7號 石室 (1/60)

장방형의 횡혈식 석실로 추정되는데 주축방향은 N29°W이다. 해발 9.3m선상에 6號 석실을 파괴하고 축조되었는데 북으로 12號, 남으로 3號 석실이 인접해 있다. 조사구역의 비교적 낮은 지역에 위치하며 31번 국도가설공사시에 遺構의 절반정도가 파괴되어 남단벽과 서쪽장벽의 일부만 남아 있는 상태이다. 입구부는 남쪽으로 생각된다.

遺構의 구조는 측벽들이 1, 2단정도밖에 남아 있지 않기 때문에 자세히 알 수 없으나 남아 있는 상태만 본다면 최하단석은 가로쌓기를 주로 하였다.

遺構의 바닥에는 관대로 판단되는 부분과 할석과 자갈돌로 채워진 부분으로 구분된다. 먼저 관대로 추정되는 부분은 동쪽벽석과 함께 일부가 유실되었는데 서쪽 가장자리부분에 할석으로 마무리하였다. 바닥보다 약 20~30cm정도 높게 흙을 쌓고 상단부 가장자리에 할석으로 가로쌓기하여 관대를 완성하였다. 그리고 관대부분을 제외한 遺構의 바닥은 15cm 이상의 할석을 한 벌 편평하게 깔고 그 위에 다시 1~2cm 정도 규모의 작은 냇돌을 한 벌 덧깔았다.

遺構의 훼손이 심하고 出土遺物이 빈약하여 추가장의 유무는 정확히 파악할 수 없다. 石槨의 규모는 길이 300cm, 너비 60cm, 잔존 최대깊이 76cm이다.

7號의 남쪽에서도 甕棺으로 생각되는 遺構가 1기 수습되었는데, 이 遺構는 지표면의 삭평으로 상당히 교란되어 원형파악이 불가능하였다. 그러나 壺片들이 수습되고 그 편들 위에 할석 1매가 덮혀 있는 양상으로 보아 주변의 5號 甕棺과 같은 것으로 보인다.

## 2) 遺物

遺物은 遺構의 바닥에서 罍 1점이 확인되었으며 遺構의 주변에서 蓋와 臺附罍이 각각 1점씩 확인되었다.

### 가. 出土遺物

46은 陶質製의 罍이다. 燒成은 보통이며 長石, 石英이 일부 混入되어 있다. 內外面과 속심은 회색이며 전체적으로 회전물손질 정면하였고 口緣部和 底部 내면에 황록색의 자연유가 부착되어 있다. 높이 8.6cm, 口徑 10.5cm, 底徑 5cm이다. 出土位置 : 1

### 나. 周邊採集遺物

47은 陶質製의 蓋로 燒成은 극히 良好한 편이고, 전체적으로 녹색의 자연유가 부착되어 있으며 일부 산화박리되어 있다. 胎土에는 長石, 雲母 등이 일부 혼입되어 있으며 내외면 灰青色이다. 杯身 상부에 반원점문과 삼각집선문이 施文되어 있으며 꼭지에는 깊흔이 남아 있다. 규격은 높이 5.9cm, 口徑 14cm, 꼭지경 4.5cm이다.

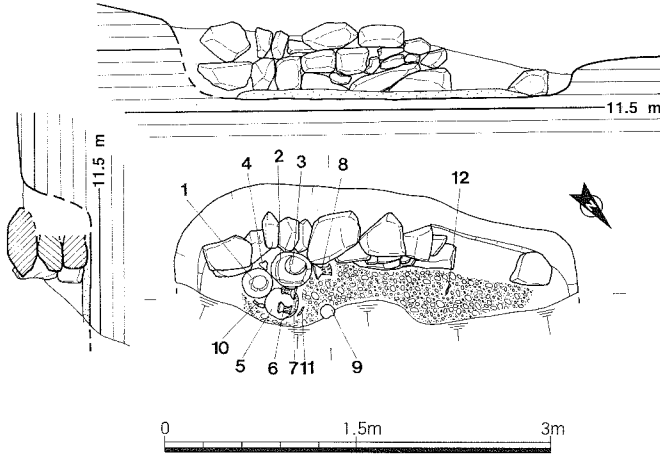
48은 臺附罍인데 臺脚部가 결실되고 杯身部의 1/2정도만 남아 있다. 陶質製이며 燒成은 보통이다. 胎土에는 長石, 石英, 雲母가 다수 混入되어 있다. 內外面과 속심은 회색이다. 회전물손질로 정면하였으며, 杯身部에 十字形 문양이 施文되어 있다. 잔존높이 5.8cm, 口徑 12.8cm이다.

## 8. 8號 豎穴式 石槨墓

### 1) 遺構

20, 21號 豎穴式 石槨墓가 위치한 구릉의 아래에 해발 11.6m선상에 조성된 수혈식 石槨墓이며 주축방향은 N5 0°W이다. 낮은 쪽인 동장벽은 경사면을 따라 대부분 유실되어 遺構의 절반정도만 남아 있었다.

遺構의 축조방법은 남아 있는 장벽을 위주로 살펴보면



圖面 16. 8號 石槨 (1/60)

遺物이 副葬된 위치를 경계로 하여 벽석의 축조형태가 명확하게 구분된다. 遺物이 副葬된 부분은 장벽의 2단 높이로 할석 1매를 세워쌓기하였다. 반면 主槨은 부장공간과 구별되게 가로쌓기를 주로하여 정연하게 벽석을 쌓아 올렸다. 즉 주검공간은 할석을 가로쌓기하였으나 부장공간은 세워쌓기하여 양 공간을 일정하게 구분하고 있음이 명확히 간취된다.

遺構의 바닥은 생토면 위에 자갈들이 포함된 사질토를 遺物副葬空間까지 전면적으로 한 벌 깔았다. 石槨의 잔존규모는 길이 260cm, 너비 40cm, 최대깊이 64cm이다.

### 2) 遺物

#### 가. 出土遺物

遺物의 副葬空間이 따로 분리되어 있지는 않지만 遺構의 남단벽에 접하여 土器遺物의 副葬이 집중되어 있다. 49, 50의 1段透窓高杯와 52, 53의 蓋는 아마도 set관계로 보인다. 개개 遺物의 명세는 아래의 표와 같다.

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
49	蓋	4.9	10	3.3	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 꼭지에 밖에서 안으로 뚫은 透窓 4개.	4
50	蓋	5.3	11.1	4.2	陶質. 口緣缺失. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 杯身 外面 회전목리흔. 나머지 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 3개. 꼭지 표면 산화박리. 杯身 내면에 짙은 부착.	9
51	高杯	10.5	9.6	8.1	陶質. 臺脚 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 다수 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 杯身 접합부에 회전목리흔 잔존. 1단의 長方形 透窓 4개.	6

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
52	高杯	10	9.6	6.9	陶質. 口緣 일부 缺失. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 4개.	7
53	高杯	13.2	11.5	9.1	陶質. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 약간 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 長方形 透窓 4개씩.	8
54	把手附壺	32.3	25.3	12.6	完形. 瓦質燒成. 長石, 石英, 雲母 다량 混入. 外面 회색. 內面 회황색, 속심 회백색. 外面에 格子打捺. 內面에 拍子후 회전물손질. 把手 2개 把手 물손질 정면. 파수 中間에 위에서 아래로 찢러 뚫음. 표면 산화박리. 胴最大徑:31cm	2
55	短頸壺	22.7	20.7	9.5	陶質. 1/2결실. 燒成普通. 長石, 石英, 雲母 다수 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 동체부에 平行타날. 나머지 회전물손질 정면. 胴最大徑:24.5cm	5
56	臺附 長頸壺	(31.6)	.	16.1	陶質. 口緣결실. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 동체부에 拍子후 회전목리. 동상부에 1조의 돌대 있음. 내면 底部는 물손질. 上·下 交叉된 方形 透窓 9개씩. 胴最大徑:25.8cm	1
57	臺附 長頸壺	(28)	15.7	.	陶質. 臺脚 缺失. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 동체부 拍子후 회전목리손질. 臺脚 상단에 透窓 8개. 頸部에 5치구의 集線 波狀文 2조를 왼쪽으로 施文. 동상부에 1조의 돌대. 口頸부와 동상부에 자연유 박리. 胴最大徑:23.5cm	3

58의 鐵鏃은 身部가 결실되고 莖部만 남아 있다. 莖部の 단면은 장방형이며 목질흔이 수작되어 있다. 잔존길이 6cm, 폭 0.8cm이며, 出土位置는 11이다.

59는 鐵鎌으로 身部 일부가 결실되었으며 身部斷面은 이등변삼각형이다. 잔존길이 14.9cm 너비 2.3이며 出土位置는 10이다.

60은 鐵製刀子로 身部和 柄部 일부가 결실되었다. 身部 단면은 이등변삼각형이며 柄部단면은 장방형이다 柄部에 목질흔이 수작되어 있다. 잔존길이 6.2cm, 너비 1.5cm이며 出土位置는 12이다.

#### 나. 内部攪亂遺物

61는 陶質製 蓋로 세부내용은 49, 50과 같으며, 透窓은 4개이다. 높이 5.4cm, 口徑 11.4cm, 꼭지경 3.7cm이다.

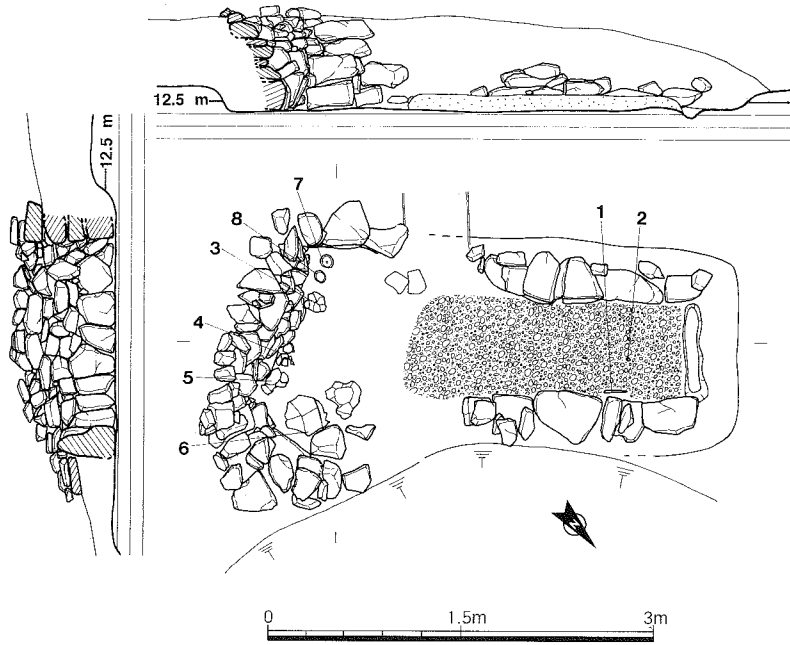
62는 陶質製 高杯로 세부내용은 53과 같다. 잔존높이 8.4cm, 口徑 10.8cm이다.

## 9. 9號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 12.4m선상에 축조되었으며 주축방향은 N48°W이다. 遺構의 묘광선이 石槨의 최하단석 상단 높이에서 확인된 반지하식의 石槨墓이다. 遺物副葬槨을 중심으로 심하게 도굴되었으며 副葬槨의 遺物은 대부분 남아 있지 않았으며 石槨의 상당부분이 훼손된 상태였다.

石槨의 축조방법은 主槨과 副葬槨의 양상이 뚜렷하게 구별된다. 먼저 주곽의 측벽축조는 가



圖面 17. 9號 石槨 (1/60)

로 쌓기와 세로쌓기를 규칙적으로 적용하여 쌓았으나 남아 있는 측벽석이 1, 2단에 불과하여 자세한 내용은 알 수 없다. 반면 副葬槨의 축조는 일단 최하단석을 세워쌓기하여 평면을 구획한 후 2단부터 가로쌓기와 세로쌓기를 불규칙적으로 혼용하여 쌓고 있다. 副葬槨은 弧狀으로 둥그스름하게 처리하여 주곽의 너비에 비하여 다소 넓은 편으로 遺構의 평면이 'T'字狀이다. 그리고 북서쪽의 단벽은 1매의 판석을 사용하여 마감하였는데 단벽을 고정하기 위하여 생토 바닥일부를 판 흔적이 뚜렷하게 남아 있다.

遺構의 바닥은 직경 1cm내외의 자갈들을 포함하는 사질토가 주곽부분에 깔린 상태인데 副葬槨과 구분하여 주곽에만 깔린 것으로 보아 조사시에 아무런 흔적도 남아 있지 않았지만 어떠한 시설로서 양 공간을 명확히 구분하였던 것 같다. 遺構의 규모는 길이 320cm, 너비 80cm, 副葬槨 최대폭 140cm, 최대깊이가 80cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 副葬槨에서 有蓋軟質甕 1세트, 軟質甕 1점, 短頸壺 4점이 出土되었다. 石槨의 북단벽 쪽으로 철모 1점이 동장벽에 붙어서 出土되었고, 중앙에서 耳飾이 1점 검출되었다. 遺構 조사 과정에서 교란된 高杯 2점과 개 3점, 短頸壺 2점이 수습되었다. 遺物의 명세는 표와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
63	有蓋甕	4.1	8.8	2	蓋. 軟質. 完形. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 적황색, 속심 적황색. 회전물손질 정면. 表面에 박리가 심함.	7
		7.4	7.5	4	甕. 軟質. 口緣 약간 결실. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 적황색, 속심 적황색. 회전물손질 정면. 표면 박리.	
64	軟質甕	7.9	8	4.8	軟質. 口緣과 동체 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 적갈색, 속심 적갈색. 회전물손질 정면. 表面剝離.	8
65	短頸壺	25	17.6	10	陶質. 동체부 일부 결실. 燒成보통. 長石, 石英, 雲母 다수 混入. 內外면 회색, 속심 회색. 外面 平行打捺, 內面 拍子후 회전물손질 정면.	3
66	短頸壺	(21.5)	·	14.4	陶質. 口緣 동체부 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 灰青色, 속심 灰青色. 회전물손질 정면.	4
67	短頸壺	(29)	·	7.6	陶質. 口緣 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 다수 混入. 內外면 灰青色, 속심 灰青色. 外面 拍子후 회전물손질 정면. 內面 內拍子痕이 희미하게 잔존.	5
68	大壺	(42)	·	5.2	陶質. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 混入. 內外면 灰青色, 속심 회색. 外面 拍子후 회전물손질, 底部에 格子打捺痕이 잔존. 內面 底部에 指頭痕. 동체부에 平行打捺痕.	6

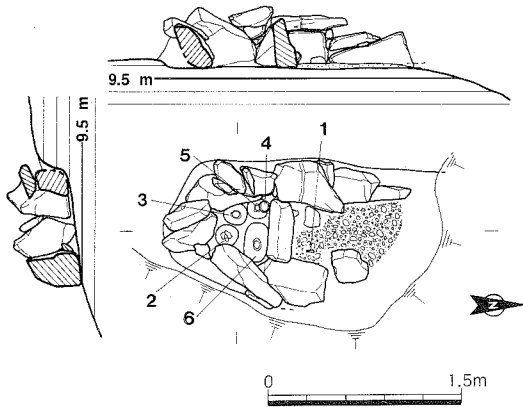
69는 鐵鉢로 身部の 단면은 능형이며 일부가 결실되었다. 蓋部는 燕尾形으로 내부에 목질이 남아 있고 관부가 없는 형식이다. 잔존길이 21.8cm, 폭 1.5cm, 두께 0.9cm이다. 出土位置:1

70은 金銅製 耳飾으로 靑銅環의 표면에 金箔을 입혔다. 외경 2cm, 두께 0.3cm이다. 出土位置:2

#### 나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
71	高杯	(9)	·	9.4	陶質. 杯身결실. 瓦質 燒成. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 회색, 속심 회색. 회전물손질정면 上·下 交叉된 長方形 透窓 4개씩.	
72	高杯	(7.5)	·	8.7	陶質. 杯身 일부 결실. 瓦質 燒成. 長石 混入. 內外면 회백색, 속심 회백색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 3개.	
73	蓋	5.1	12	2.9	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 소량 混入. 內外면 灰青色, 속심 灰青色. 회전물손질 정면.	
74	蓋	5.9	12	3.8	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 內外면 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 6치구의 중집선문을 上·下 交叉하여 4개씩 施文.	
75	蓋	6.2	11.7	4.3	陶質. 杯身 1/2결실. 燒成보통. 長石, 石英 미량 混入. 內外면 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 杯身に 沈線을 한 줄 돌린후 사격자문을 施文.	
76	短頸壺	26.2	16.5	·	軟質. 동체부 일부 결실. 瓦質 燒成. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 회백색, 속심 회백색. 外面 格子打捺, 內面 회전물손질 정면. 胴最大徑:27.6cm	
77	長頸壺	(32)	18.8	·	陶質. 동체부와 底部 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 미량 混入. 內外면 회색, 속심 회색. 外面 格子打捺후 회전물손질. 內面 회전물손질. 頸部에 각각7, 6치구의 集線波狀文 2조를 돌림. 胴상부에 1조의 돌대를 돌린후 위에는 5치구의 집선파상문과 6치구의 집선파상문 施文. 胴最大徑:29.5cm	

## 10. 10號 石槨墓



圖面 18. 10號 石槨 (1/60)

### 1) 遺構

해발 9.5~9.6m선상에 축조된 주축방향이 N1°E인 소형 石槨墓이다. 遺構는 대부분이 파손되고 遺物의 副葬槨과 주곽의 일부만 잔존한다. 파손이 심한 편임에도 불구하고 副葬槨의 遺物이 그대로 남아 있는 점으로 미루어 도굴에 의해 파손된 것이 아니라 31호 국도의 건설과정에서 훼손된 것으로 보인다. 주곽의 일부만이 1, 2단 정도 남아 있다.

남아 있는 遺構의 벽석이 1, 2단에 불과하여 전체적인 遺構의 축조방법은 제대로 알 수 없으나 주곽의 측벽석은 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용하고 副葬槨의 측벽은 세워쌓기를 주로 한 것으로 보인다. 主槨과 副葬槨의 경계부분에는 1매의 판석을 사용하여 양공간을 구분하였다. 副葬槨은 주곽과 축조방법 등에서 구별되나 너비는 주곽의 그것과 별다른 차이가 없다.

遺構의 바닥에는 직경 2~4cm의 자갈들을 전면에 깔아 시상공간으로 활용하였는데 副葬槨에는 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하여 토기류를 副葬하였다.

石槨의 규모는 잔존길이 150cm, 너비 44cm, 잔존 최대깊이 50cm이며, 副葬槨의 길이는 50cm 정도이다.

### 2) 遺物

#### 가. 出土遺物

遺物은 副葬槨에서 주로 出土되었다. 장군형토기 1점과, 臺附長頸壺, 把手附壺 각 1점, 有蓋 臺附直口壺 1세트가 副葬되어 있었고, 直口壺 위에 罍이 1점 놓여 있었다. 주곽에서는 남쪽 시상면 위에서 刀子 1점이 出土되었으며, 내부에서 교란된 채로 把手附壺 1점이 수습되었다. 遺物의 명세는 표와 같다.

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
78	罍	4.5	13.2	5.5	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成불량. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 회백색, 속심 회색. 회전물손질 정면, 底部에 불규칙한 각기함.	4

遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
79	把手附壺	18	11.8	·	陶質. 口緣 일부 결실. 把手 결실. 燒成보통. 長石, 石英, 雲母 소량混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면, 內面に 물손질. 外面에 拍子痕 잔존. 胴最大徑:15.9cm	3
80	有蓋 臺附 直口壺	3.1	9	1.8	蓋: 陶質. 口緣 일부 결실. 燒成보통. 長石, 石英 다수 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면, 外面에 녹색 自然油 부착.	5
		14	7.6	9.5	臺附直口壺: 陶質. 完形. 燒成보통. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 6개. 胴上部에 녹색 자연유부착. 胴最大徑:16cm	
81	臺附 長頸壺	(20.8)	·	10.6	陶質. 口頸部 결실. 燒成良好. 長石, 石英 약간 혼입. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 透窓 8개씩. 臺脚 말단에 표면박리. 內부에 자연유 산화박리. 胴最大徑:18.1cm	2
82	장군형 토기	26.8	16.8	·	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成보통. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 灰青色. 회전물손질. 口頸部 把手 3개부착. 把手 斷面 圓形. 胴上部에 녹색 自然油부착. 부분적으로 박리. 胴最大徑:38cm	6

83은 鐵製 刀子로 身部 일부만 남아 있는데 단면은 이등변삼각형이다. 잔존길이 3.3cm, 폭 1.1cm, 두께 0.3cm이다. 出土位置:1

#### 나. 內部攪亂遺物

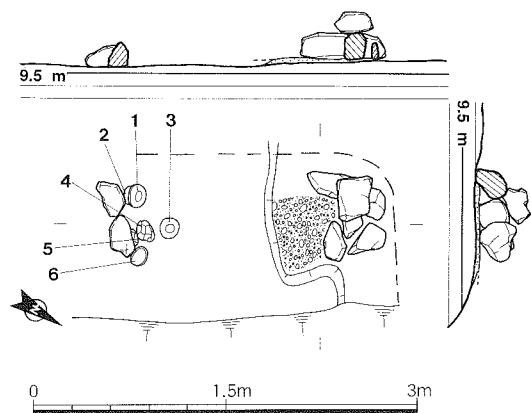
84는 陶質製의 把手附壺로 燒成은 보통이며 胎土에 石英, 長石, 雲母 등이 일부 혼입되어 있다. 내외면과 속심은 灰青色이다. 동체부 2/3정도가 잔존하며 口緣部는 결실되어 남아 있지 않다. 파수의 단면은 원형이며 일부가 결실된 상태이다. 동체부의 윗쪽은 평행타날하였으며 아랫쪽은 불규칙적인 타날을 하였다. 잔존높이 8.3cm

## 11. 11號 石室墳

### 1) 遺構

해발 9.6m선상에 주축방향 N31°W로 축조된 遺構이며 지상식의 구조로 아마도 주변에 입지하고 있는 遺構의 형태로 볼 때 석실일 가능성이 높다. 조사구역내에서 가장 북쪽 말단부에 위치하고 있으며 남서쪽으로 12호 석실이 인접해 있다. 파괴가 극심해 복단벽석 일부만이 남아 있으며 따라서 遺構의 범위도 정확히 파악하기 힘들고, 축조방법도 제대로 알 수 없다.

시상석은 복단벽쪽으로 50cm정도의 폭으로 남아 있는데, 직경 1~2cm 정도의



圖面 19. 11號 石槨 (1/60)



잔자갈들을 이용해 만들었다. 遺物이 위치하고 있는 곳에서 석질의 석재로 보이는 돌이 놓여 있으나 遺物이 상부에 얹혀 있는 점으로 보아 제자리로 보기는 어렵다. 遺物 주변의 돌들은 遺構의 벽석들이 교란된 상태로 방치된 것으로 보인다. 石槨의 잔존규모는 잔존길이 70cm, 잔존 너비 50cm, 남아있는 최대의 깊이는 40cm이다.

## 2) 遺物

出土遺物은 남단벽쪽으로 확인되는데 高杯 2점, 蓋 2점, 臺附把手附盥 1점이 出土되었으며, 遺構노출시 내부에서 교란되어 병 1점과 臺附長頸壺 1점이 수습되었다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格 (cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
85	高杯	7.2	11.8	6.9	陶質. 完形. 燒成普通. 長石, 石英 혼입. 內外面 灰青色, 속심 灰青色. 회전물손질 정면. 1단의 透窓 3개.	1
86	高杯	7.1	12.3	7	陶質. 完形. 燒成普通. 長石, 石英混入. 內外面 회색. 속심 회색. 회전물손질 정면. 1단 透窓 3개.	3
87	蓋	6.2	13.2	4.3	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英混入. 內外面 灰青色. 속심 자색. 회전물손질 정면. 外面 상부에 半圓圈文 17개 施文.	4
88	蓋	6.7	13.1	5	陶質. 口緣과 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 外面 灰青色, 內面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 外面에 三角集線文과 그 아래 半圓圈文 24개 施文.	6
89	臺附把手附盥	8	12.1	6.9	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 灰青色. 회전물손질 정면. 把手 2개. 1단의 透窓 2개. 杯身 내면과 臺脚 말단에 漆흔.	2
90	盥	(2.6)	.	6	陶質. 상부결실. 燒成普通. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 회색, 속심 연황색. 회전물손질 정면.	5

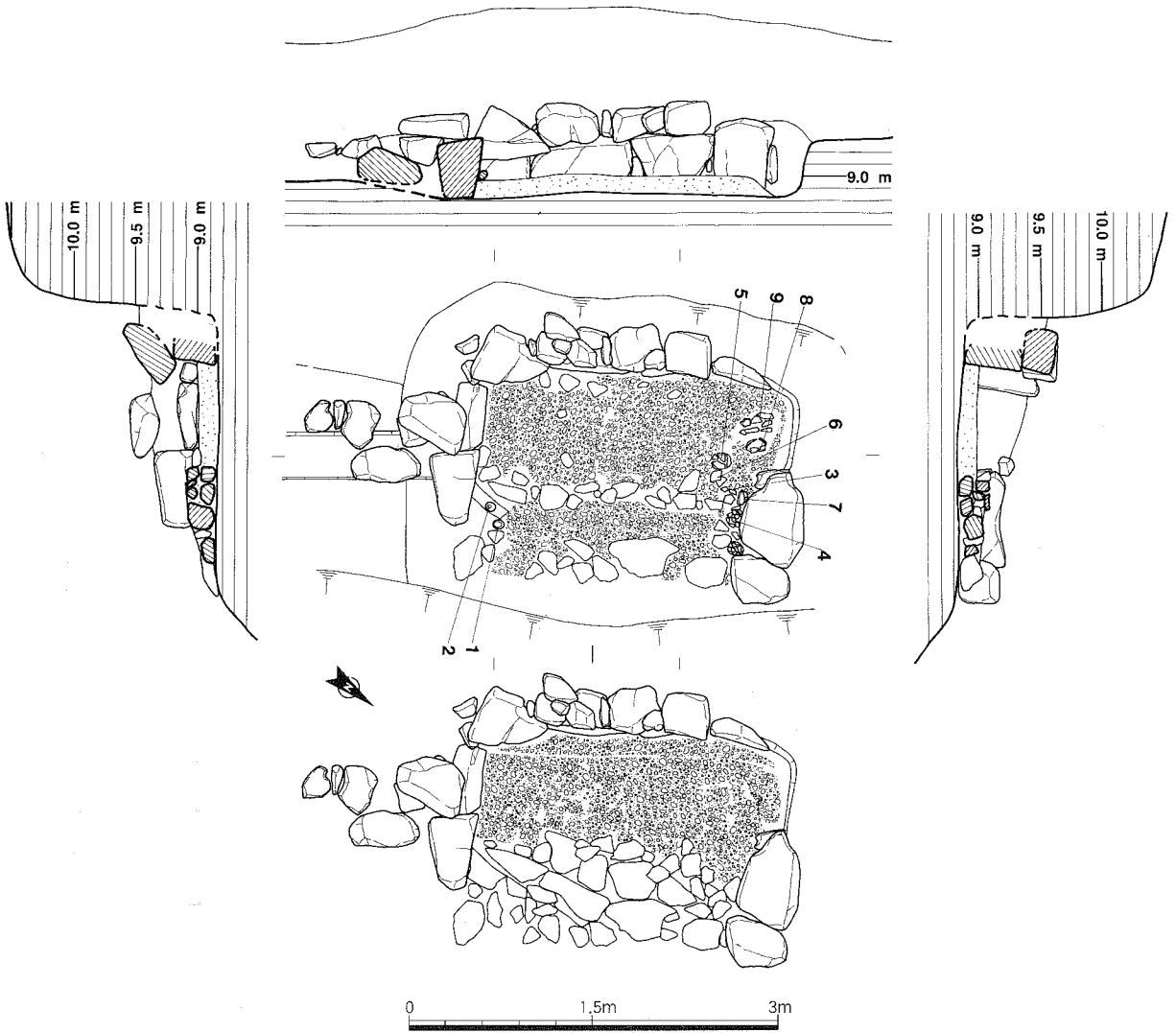
### 나. 內部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格 (cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
91	瓶形土器	(8.3)	.	9.9	陶質. 口緣 결실. 燒成良好. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 동상부에 漆선으로 2구분을 한후 위에는 三角 集線文, 아래에는 人화문을 施文. 동상부에 자연유 산화박리.	
92	長頸壺	(14)	21	.	陶質. 口頸部만 잔존. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 口頸부에 半圓圈文을 기준으로 사이에 여러 가지 모양의 人화문과 三角集線文을 施文. 전체적으로 자연유 산화박리.	

## 12. 12號 橫穴式 石室墳

### 1) 遺構

조사구역의 북쪽끝부분 해발 8.8m선상에 축조된 橫穴式 石室墳이다. 주축방향은 N37° W이



圖面 20. 12號 石室 (1/60)

다. 5號 石槨의 동쪽에 위치하고, 북으로는 11號가, 남서쪽으로 6, 7號가 위치한다. 파괴가 심하여 봉토의 흔적은 확인할 수 없었다. 구릉 사면의 170cm 아래에서 遺構의 바닥이 확인되어 다른 횡혈식 석실에 비하여 상당히 깊은 편이다. 석실의 좌측에 치우쳐 墓道の 흔적이 확인되었고 여러 정황을 고려할 때 단벽에서 서쪽으로 치우쳐 있는 것으로 보인다.

동쪽장벽은 경사면을 따라 완전히 유실되었고, 북쪽단벽도 일부만 남아 있으며, 서북모서리도 유실되어 遺構의 정확한 축조방법은 알 수 없다. 단 2단까지 남아 있는 측벽의 축조에는 가로쌓기가 주로 사용되었다.

입구로 생각되는 남단벽의 좌측공간은 별다른 특징이 확인되지 않지만 墓道로 생각되는 굴광선이 나타나는 점으로 보아 입구부의 추정이 가능하다. 그리고 遺構의 관대가 우측에 치우

친 점으로 볼 때 단벽의 좌측을 입구로 판단하기에는 별 문제가 없다고 생각된다. 그리고 연도가 확인되지 않는 점에서 본 遺構가 횡구식 석실일 가능성을 암시한다.

遺構의 바닥은 생토면 위에 동쪽 장벽에 접하여 90cm의 폭으로 4~50cm 내외의 할석을 비교적 편평하게 한 벌 간 후 유적의 주변에서 쉽게 구할 수 있는 자갈들을 상부에 골고루 덮었다. 그리고 연도에 접한 遺構의 바닥에는 생토바닥 위에 곧바로 자갈들을 15cm 두께로 깔아서 시상을 설치하였다. 따라서 관대로 생각되는 동장벽의 시설은 遺構바닥보다 약 15cm 이상 높은 상태이며 시상석이 깔린 바닥보다는 약 5cm 내외의 높이차를 보였다.

遺構가 전반적으로 파괴되었기 때문에 석실의 전체규모는 정확하게 알 수 없으나 길이 220cm, 잔존너비 170cm, 잔존 최대깊이 80cm의 방형에 가까운 석실이다.

## 2) 遺物

遺物은 크게 1차 副葬遺物과 2차 副葬遺物로 구분되며, 遺構의 조사과정에서 교란된 상태로 확인된 遺物과 주변에서 확인된 遺物로 나뉜다. 1차 副葬遺物은 遺構의 북서쪽 바닥면에서 高杯 3점, 盥 1점, 瓶 1점이 出土되었고, 2차 副葬遺物은 시상대 위에서 高杯 2점, 盥 1점, 瓶 1점이 出土되었다. 遺構내에서 교란된 채로 臺附盥 1점, 盥 1점, 紡錘車 1점, 高杯 1점이 出土되었으며, 주변에서 高杯 1점과 耳飾이 1점 出土되었다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
93	高杯	(5.8)	·	7.7	陶質. 杯身 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 混入. 内外面 암회색, 속심 연자색. 회전물손질 정면. 1단 透窓 2개.	1
94	高杯	8.8	11.6	7	陶質. 杯身 1/2 결실. 臺脚 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 소량 混入. 内外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 透窓 2개씩. 杯身に '井'字 名文.	3
95	蓋	6.1	13	4.7	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 소량 混入. 内外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 上部에 인화문, 아래에 半圓圈文을 왼쪽으로 施文.	2
96	盥	9.2	10	8	陶質. 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 内外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 杯身に 3조의 침선이 2군데 있다.	4
97	高杯	6.1	10.3	7.2	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 内外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 1단 透窓 3개. 口緣부와 臺脚말단에 硃痕. 일부 自然油 박리.	5
98	高杯	(6)	·	8	陶質. 杯身 결실. 燒成普通. 長石, 石英 약간 混入. 内外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면 上下 交叉된 透窓 2개씩.	6
99	高杯	7.6	11.3	8	陶質. 杯身 일부 缺失. 燒成普通. 長石, 石英 混入. 内外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 透窓 2개씩. 杯身 내면에 불규칙한 硃痕.	7
100	盥	4.5	13.5	5.8	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 소량 混入. 内外面 회색, 속심 흑색. 회전물손질 정면. 底部와 내면 바닥에 硃痕.	8
101	柄	(11.3)	·	9.2	陶質. 口緣 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 混入. 内外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 동상부에 2조의 침선. 底部에 오른쪽으로 각기. 동상부에 암록색 자연유 박리.	9

나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	비고
		높이	口徑	底徑		
102	臺附盃	5.5	10	5	陶質. 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 소량 混入. 内外面 회색. 속심 연자색. 회전물손질 정면. 杯身 내면과 臺脚 말단에 짙은.	
103	盃	(4)	·	6.6	陶質. 상부 결실. 燒成普通. 長石, 石英 일부 混入. 内外面 회색, 속심 灰青色. 회전물손질 정면.	
106	高杯	6.8	9.8	6.6	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 약간 混入. 内外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 透窓 2개씩. 杯身に 井字形 名文. 口緣部に 자연유 박리.	

105은 土製 紡錘車이다. 1/2정도 회백색이며, 나머지는 흑색으로 표면 박리되어 있다. 소석립 알갱이가 보인다. 길이 5.4cm, 두께 2.4cm이다.

다. 周邊採集遺物

104은 陶質製 高杯로 杯身과 臺脚이 일부 결실되었다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 石英 등이 混入되어 있다. 内外面 灰青色이며, 속심은 자색이다. 회전물손질 정면하였으며 상단에 長方形 透窓 4개가 배치되어 있다. 잔존높이 7.7cm, 口徑 10.3cm이다.

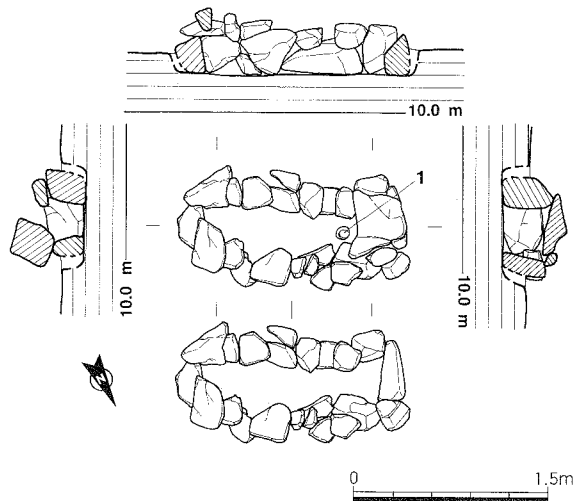
107은 金銅製 細環 耳飾으로 0.3cm의 단면 원형 청동봉에 금박을 덧씌워 둥글게 말았다. 끝부분의 금박이 약간 벗겨져 있으며 안쪽으로 주름이 잡혀 있다. 외경 2.6cm, 두께 0.3cm이다.

13. 13號 石槨墓

13~17號 石槨이 영조된 지역은 이 유적에서 구릉사이의 계곡에 해당하는 곳으로 이 계곡 사이에 흑갈색의 부식토가 채워진 후에 삼국시대의 墳墓들이 조성되었다. 따라서 부식이 심한 토양위에 遺構가 만들어져 遺構의 모양선은 거의 확인할 수가 없었다. 그러나 개별 遺構의 배치상태나 흑갈색 부식토의 상태로 보아 豎穴式 石槨墓로 볼 수 있다.

1) 遺構

본 유구는 해발 10.3m선상에 주축 방향을 N62°W로 하여 축조되었다. 조사구역내 중간 구릉에서 북쪽으로 약간 치우쳐 있으며, 동쪽인 아래쪽으로 14, 15, 16, 17號가 연속적으로 입



圖面 21. 13號 石槨 (1/60)

지하고 있다. 遺構의 상부는 일부가 교란되었는데 북서쪽의 단벽에 1매의 蓋石이 남아 있었다. 遺構의 축조방법을 보면 남아 있는 장벽은 2단정도로, 할석을 사용하여 1, 2단정도를 불규칙하게 가로쌓기 하였다. 1단은 비교적 큰 석재를 사용하였고 2단은 소형의 석재를 이용했다. 그리고 양 단벽은 각 1매씩의 할석을 세워 막았다.

바닥은 아무런 시설물없이 생토면을 그대로 사용하였다. 본 遺構가 조성된 지역이 흑갈색의 부식토을 기반으로 하고 있기 때문에 遺構의 내, 외부의 토양이 거의 같은 양상이다. 石槨의 규모는 길이 140cm, 너비 30cm, 깊이 60cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 遺構내부에서 軟質甕 1점이, 주변에서 高杯와 瓶이 각 1점씩 확인되었다.

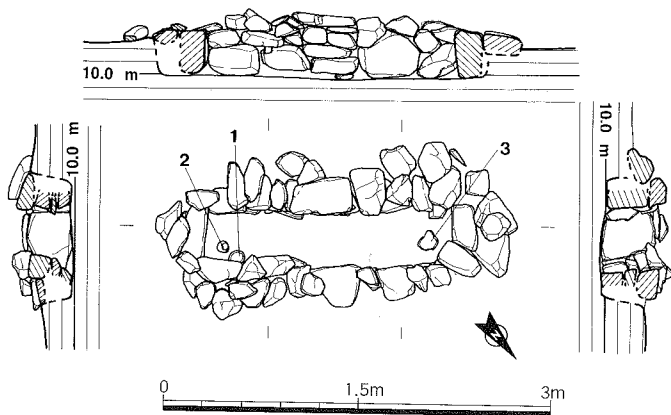
### 가. 出土遺物

108은 軟質甕으로 完形이다. 燒成은 良好하고, 長石, 石英, 雲母 등이 다수 混入되어 있다. 內外面은 연황색이며 속심은 적황색이다. 기면은 전체적으로 회전물손질 정면하였고 底部에 각기 흔적이 희미하게 남아 있다. 遺物의 규격은 높이 8cm, 口徑 9.9cm, 底徑 5cm이며 出土位置는 1이다.

### 나. 周邊採集遺物

109는 臺脚 일부가 결실된 陶質製 高杯이다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 石英이 혼입되어 있다. 내외면은 흑색이며 속심은 자색이다. 外面에 회전목리흔이 남아 있으며 內面에는 회전물손질로 정면하였다. 臺脚에는 透窓 3개가 배치되어 있다. 잔존높이 5.3cm, 口徑 10.2cm이다.

110은 完形의 瓶으로 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 石英이 混入되어 있다. 內外面 灰青色, 속심은 자색이다. 外面의 상부에 회전목리흔이 남아 있으며, 底部는 왼쪽으로 각기하였다. 동상부와 口緣에 자연유가 산화 박리되었다. 높이 12cm, 口徑 5cm, 底徑 6cm이다. 13號 石槨墓와는 아무런 관계가 없는 遺物이다.



圖面 22. 14號 石槨 (1/60)

## 14. 14號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 10~10.3m선 사이에 축조된 堅穴式 石槨墓로 주축방향은 N50°W이다. 동쪽으로 15號 石槨이, 남쪽으로 13號 石槨이 평행하게 위치하고 있다.

遺構의 양 단벽은 관상의 할석 1매를 이용하여 마감하였다. 장벽은 주로 가로쌓기하였으나 일부 세로쌓기를 혼용하기도 하였다. 遺構의 바닥은 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하였다. 石槨의 규모는 길이 200cm, 너비 52cm, 깊이 50cm이다.

### 2) 遺物

遺物은 모두 토기로 북동쪽 단벽에 접해서 把手附甕과 軟質甕이 出土되고, 남서쪽 단벽에 접해서 軟質甕이 出土되었다.

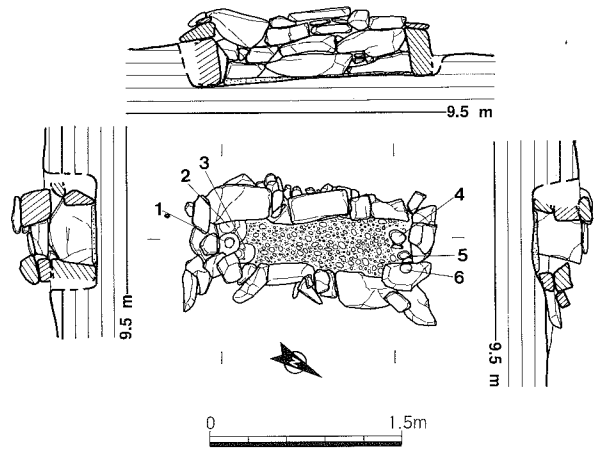
遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
111	把手附甕	9.8	10	5.9	陶質. 完形. 燒成普通. 長石 일부 混入. 内外面 회황색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 把手 斷面 圓形. 把手는 물손질 정면. 底部에 오른쪽으로 각기.	1
112	軟質甕	8	10.8	5.2	軟質. 胴체부 일부, 口緣部 일부 결실. 燒成良好.  전체적으로 황색. 속심 황색. 회전물손질 정면. 底部는 반시계방향으로 회전각기.	2
113	軟質甕	16.7	17.4	6.1	軟質. 胴체부, 口緣部 1/3 결실. 燒成良好.  내외면 황색. 속심 황적색. 시계방향으로 회전물손질 정면. 石英, 長石, 雲母 다량혼입.	3

## 15. 15號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 9.7~10.1m선상에 축조된 수혈식 장방형 石槨墓로 주축방향은 N29°W이다. 遺構의 좌우에는 14號, 16號 石槨이 위치한다. 蓋石이 있었을 것으로 추정되지만 遺構의 상단부가 유실되면서 제거된 것으로 보인다. 그러나 遺構의 내부는 비교적 정연하게 잘 남아 있었다.

遺構의 축조방법을 보면 최하단석부터 가로쌓기하여 축조하였다. 양 단벽은 1매의 대형관석을 이용하여 마감하였다. 장벽은 비교적 정연하게 쌓아 올렸으나 동남쪽 장벽의 일부는 토압에 의해 내경하는 형태로 조사되었다. 遺構의 바닥에는 2~4cm 정도 두께로 자갈돌을 한벌 깔아 시상을 설치하였다.



圖面 23. 15號 石槨 (1/60)

遺構의 규격은 길이 150cm, 너비150cm, 최대깊이 60cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 양 단벽쪽에 접하여 副葬되었는데 동남쪽 단벽에는 장군형토기, 臺附長頸壺 등의 부피가 큰 遺物들이, 북서쪽 단벽쪽에는 주로 소형토기류들이 副葬되어 있다. 동남쪽의 단벽에는 遺物을 포개어 副葬하였다. 각 遺物의 명세는 표와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
114	把手附壺	11.2	9.1	4.8	陶質. 파수 결실. 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英混入. 內外面 속심 회색. 회전물손질 정면. 內面과 外面상부에 자연유산화 박리.	5
115	有蓋甕	4.8	11.5	(2)	蓋: 軟質. 꼭지 일부 결실. 燒成 普通. 長石, 石英, 雲母 多量混入. 內外面 황등색, 속심 황색. 회전물손질 정면. 內面に 표면박리.	4
		10.9	12.5	7	軟質甕: 口緣 약간 결실. 燒成普通. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 황색, 속심 황색. 외면 평행타날흔 잔존. 底部에 깎기후 회전물손질 정면. 內面に 내박자흔 잔존.	
116	短頸壺	28.5	21.3	9.5	陶質. 口緣과 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 약간 혼입. 內외면 灰青色, 속심 灰青色. 外면에 평행타날, 底部에 격자타날. 內면에 내박자흔. 胴最大徑:30cm	2
117	臺附長頸壺	(21.3)	.	11.4	陶質. 口緣部 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 內외면 회색. 속심 회색. 회전물손질 정면. 內면 바닥에 불규칙한 물손질흔. 1단 透窓 8개. 胴最大徑:17.8cm	1
118	臺附長頸壺	17.1	10.1	8.8	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 혼입. 內외면 흑색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 1단 透窓 6개. 胴상부에 1조의 돌대. 전체적으로 자연유 박리. 胴最大徑:11.4cm	6
119	장군형 토기	20	12.8	.	完形. 陶質. 燒成良好. 內외면 회색. 속심 회색. 長石, 雲母, 石英 혼입. 회전물손질 정면. 胴체부 세로방향으로 회전물손질. 口緣部는 가로방향. 胴체 상부에 파수 4개 부착. 胴最大徑:31.9cm	3

### 나. 周邊採集遺物

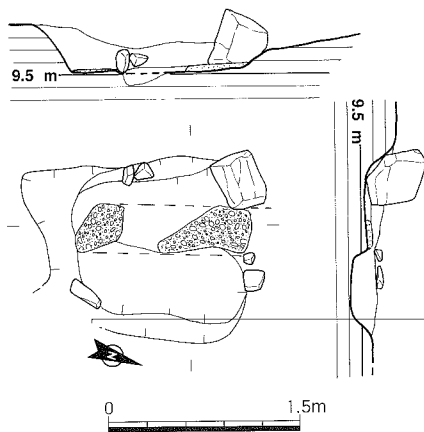
遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
120	高杯	8.8	10.1	7.1	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成 良好. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 3개. 外면에 자연유 산화박리.	
121	高杯	8.8	10	6.9	陶質. 杯身 약간 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 3개. 口緣에 암록색 자연유 부착.	
122	高杯	(7.3)	10.9	.	陶質. 臺脚 缺失. 瓦質燒成. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 회백색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 3개.	
123	蓋	5.4	10.5	3.5	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 混入. 內外面 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 꼭지부분에 표면박리.	
124	蓋	5.5	10.5	3.3	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 內외면 灰青色. 속심 자색. 회전물손질 정면. 꼭지에 깊은적. 口緣과 內면에 회황색 자연유 산화박리	

## 16. 16號 石槨墓

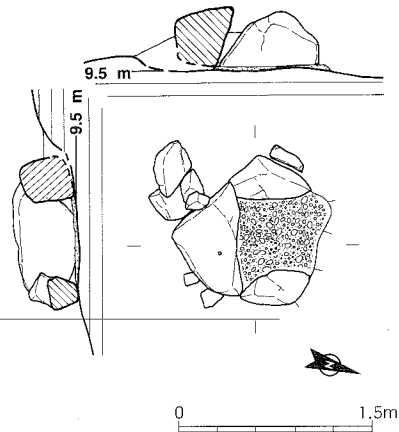
해발 9.5m선상에 위치하는데 남아 있는 측벽석 일부와 측벽석이 빠져 나간 흔적 그리고 시상으로 사용된 자갈들로서 소형 石槨墓가 있었음을 알 수 있다. 그러나 워낙 훼손이 심하여 자세한 구조는 알 수 없다.

동쪽으로 17號 石槨이 나란히 배치되어 있는데 교란이 심하여 양 遺構의 선후관계를 포함한 양자간의 관계는 알 수 없다. 다만 인접하고 있는 이들 遺構가 특정한 관계에 있었을 가능성만을 짐작해 볼 수 있다.

遺構의 바닥에는 시상적으로 보이는 0.5~0.7cm 자갈들이 두께 4cm가량 쌓여 있었다. 이를 근거로 遺構의 방향은 N18.5°W인 것으로 추정할 수 있다. 내부와 주변이 심하게 교란되어 정확한 遺構의 규모는 알 수 없으며, 확인된 遺物도 없다.



圖面 24. 16號 石槨 (1/60)



圖面 25. 17號 石槨 (1/60)

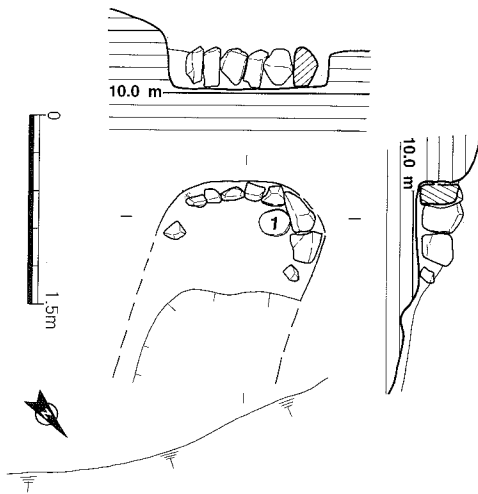
## 17. 17號 石槨墓

해발 9.5m선상에 위치한 石槨으로 남쪽단벽 일부만 1단정도 남아 있다. 서쪽으로 16號 石槨墓와 인접하고 있으며 축을 나란히 하여 배치되어 있다. 주축방향이 N18°W로 하는 장방형 石槨墓로 추정된다. 잔존상태가 불량하여 전체적인 양상은 짐작하기 어려우나 남아 있는 벽석들을 볼 때 遺構의 최하단석은 가로쌓기한 것으로 보인다. 상면에 0.5~0.7cm 가량의 자갈들을 사용하여 시상을 한벌 깔아서 정리하였다. 出土遺物은 없으며, 石槨의 규모는 잔존길이 90cm, 너비 70cm, 잔존깊이 50cm이다.

## 18. 18號 石槨墓



## 1) 遺構



圖面 26. 18號 石槨 (1/60)

것으로 보아 주곽쪽에는 원래 시상이 깔려 있었던 것으로 보인다. 규모는 잔존길이 70cm, 잔존너비 80cm, 깊이 40cm 정도만 남아 있다.

해발 10m선상에 위치한 遺構로 능선의 아랫부분에 해당하는 관계로 지표면 삭평에 의해 거의 유실되고 서쪽단벽 1단만 남아 있는 상태이다. 이 遺構는 주축방향이 N57°W인 장방형 石槨墓로 추정된다. 단벽은 평면상 둥글게 세워쌓기하고 있어 봉길고분군의 일반적인 양상으로 볼 때 이 부분이 遺物副葬空間으로 사용된 것으로 보인다. 단벽에 접하여 壺가 1점 出土되고 있다.

바닥은 생토면을 그대로 이용하였는데, 주곽쪽 부분에서 흘러내린 냇돌이 보이는

## 2) 遺物

### 가. 出土遺物

125는 陶質製의 短頸壺 동체부로 상부는 결실되어 남아 있지 않다. 燒成은 良好하며 胎土에는 長石, 雲母, 石英 등이 혼입되어 있다. 내외면은 灰青色이며 속심은 자색이다. 기면은 평행타날후 회전물손질로 타날흔을 지웠으나 일부가 기면에 남아 있다. 내면에 내박자흔이 남아 있다. 잔존높이 24.5cm, 底徑 10.4cm, 胴最大徑 33.5cm 이다.

### 나. 周邊採集遺物

126은 陶質의 蓋로 口緣 일부가 缺失되었다. 燒成은 良好하며 胎土에는 長石, 石英, 雲母 등이 일부 混入되어 있다. 내외면은 灰青色이며 속심은 회색이다. 전체적으로 회전물손질 정면하였으며 꼭지 아래로 三角集線文을 施文하였다. 높이 5.7cm, 底徑 13.5cm, 꼭지경 2.9cm이다.

127은 陶質 短頸壺로 口緣部는 결실되고 동체부만 남아 있다. 燒成은 良好하며 胎土에는 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 내외면은 암청색이며 속심은 자색이다. 기면은 평행타날 후 회전물손질하였다. 내면에 내박자흔과 지두흔이 남아 있다. 잔존높이 25cm이다.

128은 陶質 短頸壺로 口緣部가 결실되었으며 燒成은 불량하고 胎土에는 長石, 石英이 다수 혼입되어 있다. 器面과 내면은 회백색이고, 器面에 불규칙한 평행타날흔이 남아 있다. 잔존높이 18.5cm이다.

## 19. 19號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 13.2m선상에 위치하는 石槨墓로 주축방향은 N54° W이다. 북동쪽 장벽과 동쪽 단벽은 대부분 유실되었고, 남쪽 장벽은 2, 3단 정도만 남아 있었다. 인접한 곳에 遺構가 확인되지 않는 獨立遺構이다.

遺構의 축조방법은 副葬槨의 경우 호상으로 세워쌓기 하였으며 주곽 장벽의 경우

1단은 가로쌓기하였고, 2, 3단은 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용 하였다. 副葬槨은 주곽과 구분하기 위해 1매의 판석을 세워 양 공간을 분할하였다. 그리고 副葬槨은 등글게 돌리면서 주곽의 폭보다 넓게 처리하여 평면상 'T'자 모양으로 만들어져 있다.

遺構의 바닥은 주곽에 부정형의 할석을 불규칙적으로 배열하여 관대로서 사용한 것으로 보인다. 본 유적의 遺構에서 상면으로 생토면을 그대로 사용한 경우는 있지만, 본 遺構와 같이 할석을 불규칙하게 배열하여 시상(관대)을 사용한 것은 19號 石槨墓가 유일하다. 副葬槨에는 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하였다. 주곽의 동쪽 모서리에서 관정 1점이 검토된 점이나 관대로 판단되는 遺構內 할석의 배치로 보아 목관이 사용되었을 가능성이 있다.

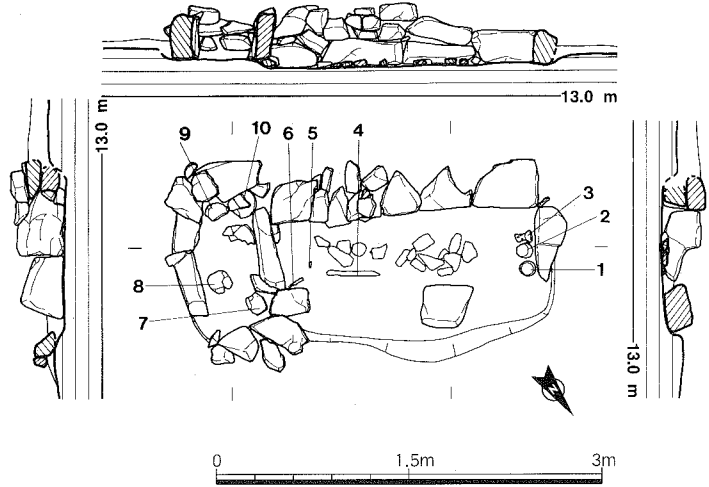
遺構의 규격은 전체길이 260cm, 주곽너비 60cm, 부장곽최대너비 110cm, 최대깊이 50cm이다.

### 2) 遺物

북서쪽 단벽에 접하여 把手附盃 2점과 高杯 1점이 出土되었다. 副葬槨에서는 도굴로 교란되어 파손된 상태의 遺物 10여 점이 수습되었다.

#### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
129	高杯	11.1	10.8	8.4	陶質. 完形. 燒成普通. 長石, 石英 약간 混入. 內外面, 속심 회색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 長方形 透窓 4개씩. 杯身 斜格 字文 施文. 口緣과 杯身 內면에 자연유 산화박리.	3



圖面 27. 19號 石槨 (1/60)

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
130	把手附盃	10.5	10.3	5.5	陶質. 把手 결실. 燒成普通. 長石, 石英, 雲母 소량 混入. 內外面, 속심 회색. 회전물손질 정면. 底部에 오른쪽으로 회전각기. 杯身 외면에 'X'자형 문양施文.	1
131	把手附盃	10.2	11	4.8	陶質. 完形. 燒成普通. 長石, 石英 약간 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 底部에 왼쪽으로 각기. 전체적으로 기포 발생.	2
132	短頸壺	(12.3)	.	.	陶質. 底部 잔존. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 혼입. 전체적으로 회후색을 띠나 底部 일부에 황갈색 보임. 동체부 중상위에 암록색 자연유 산화박리.	7
133	短頸壺	(20.2)	.	11.6	陶質. 동체 상부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 灰青色. 속심 적황색. 외면 불규칙한 평행타날. 내면 박자후 물손질 정면. 胴最大徑:30cm	8
134	臺附長頸壺	(29.4)	.	14.6	陶質. 口緣部, 杯身部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입. 내외면 회색. 속심 자색. 회전물손질 정면. 동체부 중상위에 박자후 회전목리흔. 내면 박자흔, 지두흔. 透窓 8개. 口頸部 상단에 원점문 2개를 단위로 총12개. 하단에 원점문 1개를 단위로 6개 施文. 口頸部와 동상부에 부분적으로 자연유 산화박리. 胴最大徑:22.6cm	10
135	臺附長頸壺	(24.3)	.	15.4	陶質. 口緣部 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 회색. 속심 자색. 외면 회전목리흔. 내면 박자후 회전물손질 정면. 상하 엇갈린 透窓 8개씩. 臺脚 말단부 짙흔적. 내면 底部와 臺脚에 부분적으로 자연유 산화박리. 胴最大徑:21.4cm	9

136은 鐵鎌으로 身部和 基部가 일부 결실되었다. 基部에 木柄痕迹이 수착되어 남아 있다. 잔존길이 16.6cm, 身部幅 2.2cm이다. 出土位置는 6이다.

137는 棺釘으로 생각되는데 대가리 부분과 身部に 수착된 목질의 방향이 일치하지 않는 점으로 보아 목제의 연결에 직접 사용되었을 것으로 보인다. 길이 5.2cm, 폭 0.5cm이며, 出土位置는 5이다.

138은 파손된 大刀의 일부이다. 선단부 일부가 결실되었으며 身部の 단면은 이등변삼각형이며 柄部斷面은 장방형이다. 잔존길이 35.7cm, 폭 3.0cm이며, 出土位置는 4이다.

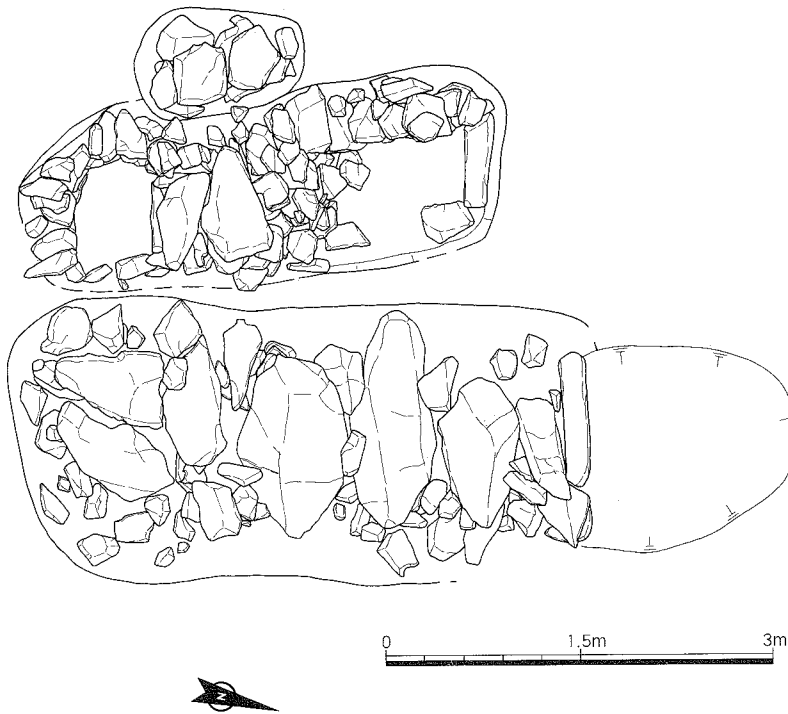
#### 나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
139	高杯	9.4	10.8	8.6	陶質. 杯身 일부 缺失. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 연자색. 회전물손질 정면. 上·下 交叉된 長方形 透窓 4개씩.	
140	高杯	10.7	10	7.6	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色. 속심 암회색. 회전물손질 정면. 1단長方形透窓 4개.	
141	蓋	5.7	11.5	3.9	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面, 속심 灰青色. 회전물손질 정면. 내면에 자연유 부착. 꼭지에 짙흔.	
142	蓋	5.6	11.6	3.5	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 2개. 사격자문 施文. 杯身 내면에 짙흔.	
143	蓋	(4.8)	11	.	陶質. 꼭지 결실. 燒成不良. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 4개.	

遺物番號	遺物名稱	規 格 (cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
144	蓋	4.9	10.4	2.9	陶質. 完形. 燒成 普通. 長石, 石英 일부 混入. 內外면 회색. 속심 회색. 회전물손질 정면.	
145	蓋	5	10.7	3.6	陶質. 꼭지 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 3개. 內面に 자연유 부착. 꼭지에 硃흔.	
146	蓋	5.3	11.5	3.8	陶質. 꼭지 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 4개. 杯身に 圓圈文을 施文.	
147	蓋	5.2	10.5	3.8	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 混入. 內外面 灰青色, 속심 연자색. 회전물손질 정면. 외면 회전 목리흔. 꼭지에 透窓 4개. 부분적으로 자연유 산화박리	
148	鉢形器臺	30	34.5	23.6	陶質. 臺脚, 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입. 內외면 회색. 속심 자색. 회전물손질 정면. 部分적으로 회전목리흔 잔존. 격자문과 2개의 원점문을 번갈아가며 施文. 3단의 각기 交互된 透窓 8개씩. 杯身部 內쪽에 황록색 자연유 산화박리	

## 20. 20號 石槨墓

해발 13~13.5m선상에 20號, 21號 石槨墓와 1號 甕棺이 나란히 조성되어 있다. 조사구역 내에서 가장 높은 곳에 위치하며, 자연구릉의 돌출부에 遺構를 설치하여 거대봉분을 의도한 것



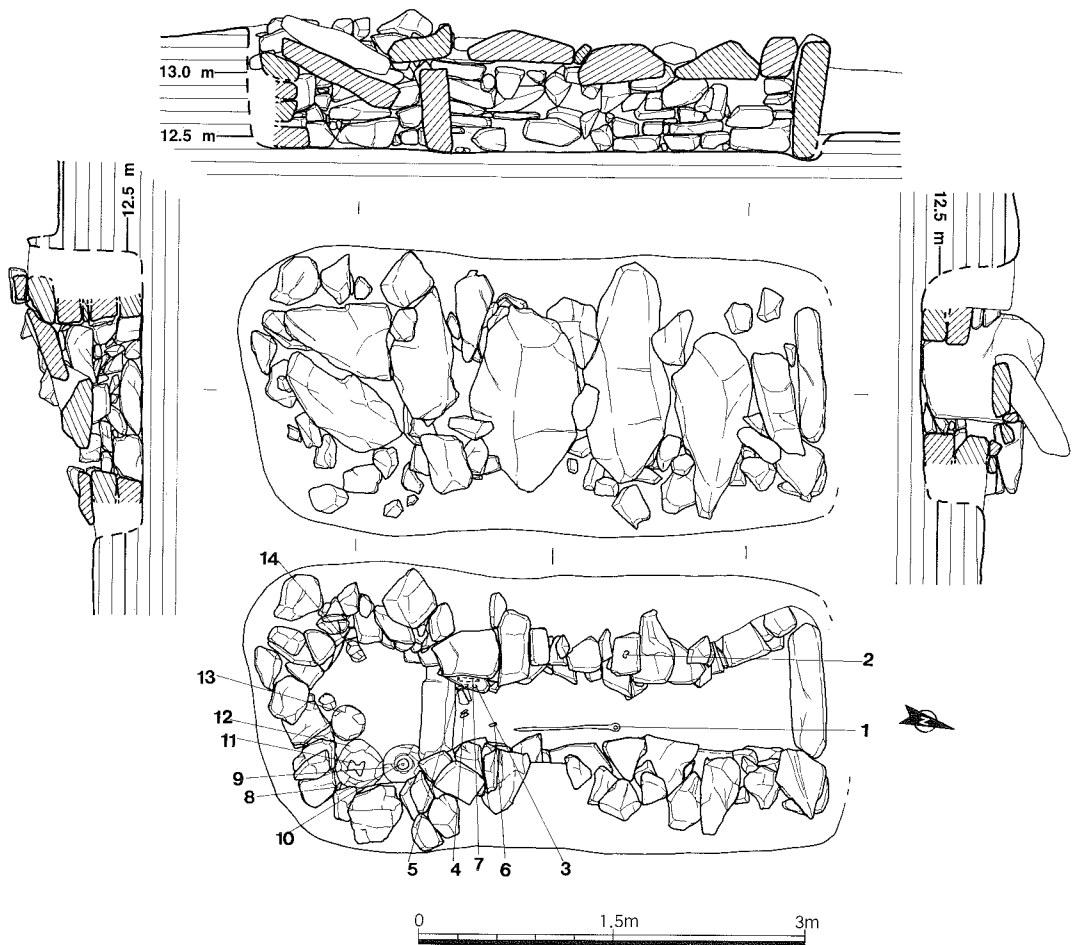
圖面 28. 20號 石槨, 21號 石槨, 1號 甕棺 (1/60)

으로 생각된다. 21號 石槨墓와 매우 가까이 인접하고 있으나 직접적으로 중복되지 않아 양 遺構의 선후관계는 불분명하다. 아마도 20, 21號 石槨墓, 1號 甕棺은 인접하여 나란히 배치되어 있는 점으로 보아 친연관계에 있었던 피장자들의 분묘로 여겨진다.

### 1) 遺構

주축방향이 N18°W인 豎穴式 石槨墓로 21號 石槨墓와 나란히 배치되어 있다. 본 遺構는 蓋石이 남아 있기는 하지만 도굴되면서 위치가 약간씩 이동한 것으로 확인되었다. 遺構의 내부는 副葬槨을 중심으로 심하게 도굴되어 있었다.

石槨의 구조는 먼저 主槨과 副葬槨으로 구별되는데, 주곽은 蓋石이 덮여 있기는 하였으나 내부에 부식토가 채워져 있었고 蓋石과 측벽석의 일부가 제위치에서 벗어나 있었다. 그러나



圖面 29. 20號 石槨 (1/60)

遺構의 내부는 비교적 온전히 보존되어 있었다. 서쪽장벽은 토압에 의하여 遺構 안쪽으로 밀려 들어온 상태였다. 최하단석은 비교적 제자리를 유지하고 있었지만 遺構의 중간부분은 2단부터 내측으로 밀려 들어오면서 벽석의 위치가 심하게 왜곡되었다. 축조방법은 최하단석은 가로쌓기를, 2단부터는 주로 세로쌓기하였으나 부분적으로 가로쌓기도 병행하였다.

副葬槨은 주곽과의 경계지점에 대형판석 1매를 세워 양 공간을 구별하였다. 외형상 蓋石이 남아 있기는 하였으나 副葬槨을 덮었던 蓋石은 이미 제위치에서 벗어나 副葬槨의 내부에 박혀 있었다. 내부는 대부분 도굴되었고 遺構의 바닥에서 일부 遺物들이 수습되었다. 측벽석은 호상으로 처리하였으며 축조방법은 주곽의 그것과 크게 다르지 않았다.

한편 북단벽은 대형판석 1매를 사용하여 마감하였는데 이는 다른 遺構들과 같은 양상으로 본 유적 대부분의 遺構가 규모에 관계없이 副葬槨의 맞은편 단벽은 1매의 판석으로 마감하는 공통점을 보인다.

遺構의 바닥은 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하였다. 遺構의 규격은 묘광길이 460cm, 묘광너비 210cm이고, 석곽길이 365cm, 석곽너비 90cm, 석곽깊이 100cm이다.

## 2) 遺物

出土遺物은 주곽에서는 주로 철기류가, 副葬槨에서는 토기류가 확인되었다. 副葬槨에는 壺類가 바닥에 놓여있고, 상부에 高杯類들이 얹혀 있었다. 副葬槨의 조사과정에서 수습된 토기류도 상당하였다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		器高	口徑	底徑		
149	蓋	5.4	10.5	4	陶質. 燒成普通. 完形. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 3개.	11
150	有蓋 高杯	5.8	12.5	3.2	蓋:陶質. 燒成普通. 完形. 長石, 石英 일부 混入. 內外面 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면.	10
		10.2	10.6	8.0	高杯:陶質. 燒成良好. 臺脚 일부 缺失. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 灰青色, 속심 회색. 外面 회전목리, 內面 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 4개.	
151	軟質壺	(9.4)	.	.	軟質. 燒成良好. 底部만 잔존. 石英, 長石 등 약간 혼입. 內외면 회황색, 속심 명황갈색. 외면 격자타날, 내면 지두흔 있음. 표면 박리.	9
152	短頸壺	42.8	(23.0)	.	陶質. 燒成良好. 口緣과 동체일부 결실. 長石, 石英 등 석립 소량 함유. 內외면 灰青色, 속심은 자색. 내면 물손질 정면. 회전물손질 정면. 胴最大徑:42.1cm.	12
153	短頸壺	(20.0)	.	.	陶質. 燒成良好. 동중하부만 잔존. 長石, 石英 등 혼입. 內외면 灰青色, 속심 자색. 동체하부 불규칙 평행타날, 동체 중상위는 회전물손질로 타날이 지워짐. 내부는 내박자.	13
154	短頸壺	(9.0)	.	.	陶質. 燒成普通. 底部 일부만 잔존. 長石, 石英 등 약간 혼입. 內외면 회흑색, 속심 황갈색. 외면 격자타날, 내면 지두흔. 표면박리 심함.	14

155는 鍛造鐵斧로 釜部斷面이 타원형이며 釜部の 내면에 목질흔이 남아 있다. 刀部는 수화에 의해 벌어져 있다. 길이 11.0cm, 身部幅 5.1cm, 釜部外徑 3.7cm이며, 出土位置는 8이다.

156은 鐵鉞로 身部の 단면은 菱形, 釜部는 燕尾形으로 釜斧 내면에 목질이 남아 있다. 關部가 없다. 길이 20.2cm, 釜部外徑 2.9cm이며, 出土位置는 7이다.

157은 鐵鑿으로 보이는데 先端部の 일부가 缺失되었다. 身部の 단면은 方形이며 선단부는 장방형이다. 잔존길이 19.9cm, 身部幅 1cm이며, 出土位置는 5이다.

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		長	幅	厚		
158	帶金具	6.7	2.2	0.1	윗부분은 타원형, 아랫부분은 방형. 평면에 4개의 圓頭釘이 박혀 있다. 내면에 유기질.	6
159	帶金具	2.4	1.8	0.1	윗부분은 반원형, 아랫부분은 方形. 평면에 3개의 圓頭釘. 내면에 유기질.	3
160	鉸具	3.7	3.3	0.5	鐵製鉸具. 테두리 일부만 잔존. 단면 원형의 철대를 구부려서 반형으로 만들.	2
161	鉸具	6.1	3.9	0.4	鐵製鉸具. 걸쇠결실. 테두리 단면 말각방형의 철대를 활형으로 말아서 만들고 굴대는 테두리에 끼우기식으로 연결.	4
162	鉸具	6.5	3.9	0.5	鐵製鉸具. 걸쇠, 굴대 일부 결실.	4
163	鉸具	(6.5)	.	.	鐵製鉸具. 테두리 일부만 잔존. 단면 말각방형의 철대를 구부려서 만들.	4

164는 環頭大刀로 銹化가 심하여 柄部和 身部に 이물질이 부착되어 전체적으로 원형을 상실하였다. 換頭부분은 오각형에 가깝다. 柄部는 銹化에 의해 뒤틀려 있다. 잔존길이 77.0cm, 幅 3.4cm, 두께 0.6cm이며 出土位置는 1이다.

#### 나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
165	把手附盃	9.5	9.4	6.0	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 파수 단면 원형.	
166	把手附盃	9.5	8.8	6.0	陶質. 燒成良好. 杯身 일부 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면 회색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 부분적으로 자연유 박리. 파수 단면 원형.	
167	把手附盃	(6.8)	9.7	.	陶質. 燒成良好. 底部, 파수 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면 灰青色, 속심 회색. 외면 회전목리흔, 내면 회전물손질 정면.	
168	高杯	10.1	10	8.3	陶質. 燒成普通. 臺脚 일부 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면, 속심 회색. 외면 회전목리흔, 내면 회전물손질 정면. 1단의 장방형 透窓 4개. 杯身 내면에 압록색 자연유 부착.	
169	高杯	(5)	10.2	.	陶質. 燒成普通. 臺脚 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면, 속심 회색. 일부 회전목리흔, 나머지 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 4개.	
170	高杯	(5.5)	8.7	.	陶質. 燒成良好. 臺脚 결실. 長石, 石英, 雲母 일부 혼입. 내외면, 속심 灰青色. 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 4개.	
171	高杯	(5.2)	10.2	.	陶質. 燒成普通. 臺脚, 杯身 일부 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면, 속심 회색. 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 4개. 杯身 내면에 자연유 박리.	

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		器高	口徑	底徑		
172	高杯	(5.2)	11	·	陶質. 燒成良好. 臺脚 缺失. 長石, 石英 일부 混入. 內外면 회색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 杯身에 침선으로 2구역으로 나눈 후 2단의 4치구의 점열문을 施文. 杯身 내면에 녹색 자연유 부착.	
173	高杯	(7.5)	13.3	·	陶質. 燒成良好. 臺脚 缺失. 長石 약간 混入. 內外면 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면. 杯身에 침선을 5줄 단위로 交叉하여 施文. 臺脚 상단에 透窓 4개.	
174	高杯	(7.5)	13.2	·	陶質. 燒成良好. 臺脚 缺失. 長石, 石英 일부 混入. 內外면 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면. 杯身에 3줄을 단위로 침선을 交叉하여 施文. 臺脚 상단에 透窓 4개.	
175	蓋	6.0	11.1	(4)	陶質. 燒成良好. 꼭지 약간 결실. 長石, 石英, 雲母 약간 혼입. 내외면 灰青色, 속심 적갈색. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 3개.	
176	蓋	3.8	9.5	3.5	陶質. 燒成普通. 口緣, 杯身 1/2 결실. 長石, 石英 다량 혼입. 내외면, 속심 명황색. 회전 물손질 정면.	
177	蓋	5.1	11	3.6	陶質. 燒成良好. 杯身 1/2정도 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면.	
178	有蓋高杯	5.5	11.9	3.4	蓋:陶質. 燒成良好. 杯身 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 약간 혼입. 내외면, 속심 灰青色. 회전물손질 정면. 꼭지에 透窓 3개. 杯身 내면에 자연유 박리.	
		10.7	10.4	8.4	高杯:陶質. 燒成普通. 臺脚 일부 缺失. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면, 속심 회색. 외면 회전 목리흔. 내면 회전물손질 정면. 1단의 장방형 透窓 4개. 杯身 내면에 표면 박리.	
179	有蓋高杯	(4.8)	10.4	·	蓋:陶質. 燒成良好. 꼭지 결실. 長石, 石英 소량 혼입. 내외면 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면.	
		10.8	11	7.6	高杯:陶質. 燒成良好. 臺脚 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 약간 혼입. 내외면,속심 灰青色. 외면 회전목리흔, 내면 회전물손질 정면. 1단의 장방형 透窓 4개.	
180	臺附盥	(9.2)	16.5	·	陶質. 燒成良好. 臺脚 결실. 長石, 石英, 雲母 소량 혼입. 내외면 灰青色, 속심 회색. 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 5개. 臺脚 집합부에 회전목리흔.	
181	短頸壺	15.0	·	·	軟質. 燒成良好. 底部만 잔존. 長石, 石英, 雲母 혼입. 외면 회갈색, 내면 암적갈색, 속심 흑갈색. 외면 평행타날, 내면은 박자후 물손질 정면.	
182	牛角形把手附壺	14.3	13.0	5.6	陶質. 燒成普通. 口緣 약간 결실. 長石, 石英 혼입. 내외면, 속심 회색. 외면 박자, 타날 후 회전목리. 내면 회전물손질 정면. 파수 단면 원형.	
183	臺附長頸壺	(17.9)	11	·	陶質. 燒成普通. 臺脚 缺失. 內外면 회색, 속심 암회색. 회전물손질 정면. 臺脚 상단에 透窓 6개. 동상부에 1조의 돌대를 돌림. 頸部에 10치구의 波狀集線文을 오른쪽으로 施文. 胴最大徑:15cm	
184	臺附長頸壺	(21.5)	·	12.1	陶質. 燒成良好. 口緣결실. 長石, 石英, 雲母 약간 혼입. 내외면 灰青色, 속심 회색. 외면 회전목리흔, 내면 회전물손질 정면. 1단 透窓 6개. 내면에 암녹색 자연유 산화박리. 胴最大徑:16cm	
185	臺附長頸壺	(13)	·	15.6	陶質. 燒成良好. 臺脚만 잔존. 長石, 石英 소량 혼입. 내외면 灰青色, 속심 자색. 외면 회전목리흔. 내면 회전물손질 정면. 상·하 交互된 망형 透窓 8개씩. 臺脚에 녹색 자연유 부착.	
186	臺附長頸壺	23.5	·	15.4	陶質. 燒成良好. 口緣, 臺脚 일부 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면 회색, 속심 자색. 외면 회전목리흔, 내면 회전물손질. 1단 透窓 8개. 내외면에 박자흔 잔존. 부분적으로 자연유 박리. 胴最大徑:21.4cm	



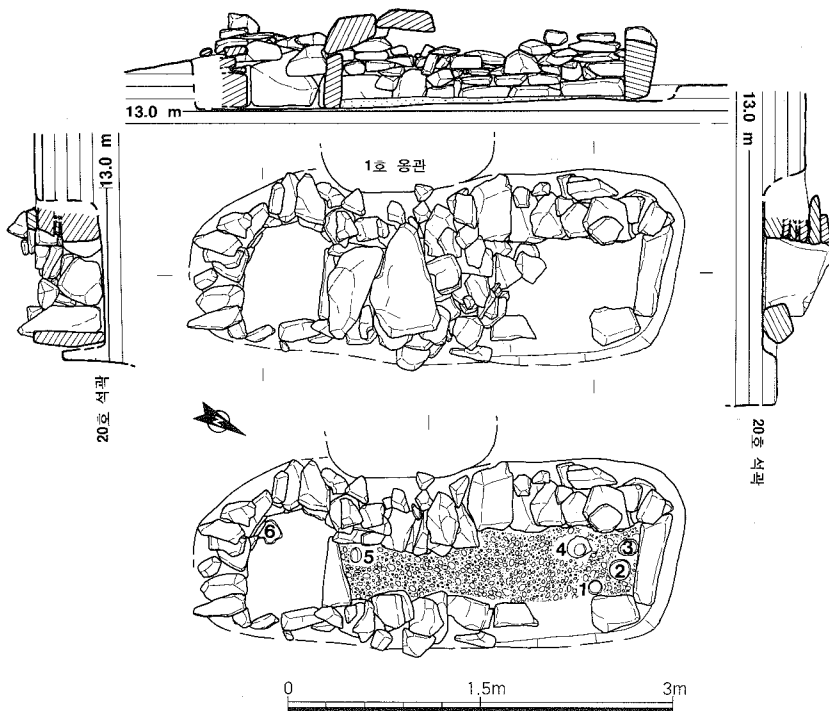
## 21. 21號 石槨墓

### 1) 遺構

주축방향이 N29°W인 수혈식 石槨墓로 20號와 나란하게 배치되어 있고, 축조기법도 동일하다. 주곽과 副葬槨을 별도로 축조하였는데 副葬槨의 경우는 세로쌓기와 판석을 이용한 세워쌓기를 혼용하고 있다. 이점은 주곽의 장벽 축조방식과 확연히 구별되는 것으로 주곽과 副葬槨의 축조가 별도로 이루어졌음을 의미하는 것으로 보인다. 그리고 주곽과 副葬槨의 경계부분에는 대형판석 1매를 세워 구분하였으며 주곽과 별도로 축조된 副葬槨의 너비가 주곽보다 넓어 평면 T자형을 띤다.

조사당시 21號 石槨의 동북편 장벽은 상당부분이 유실되었으며 遺構의 중간부분에 蓋石 2매가 횡가되어 있었다. 그리고 副葬槨은 蓋石이 제거되어 완전히 도굴된 상태였다. 遺構의 북단벽은 1매의 판석으로 마감하고 있는데 이 단벽과 접하여 소형토기류들이 副葬되어 있었다.

遺構의 바닥은 모래를 포함한 자갈들을 사용하여 시상을 설치하였으며 副葬槨의 바닥은 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하였다.



圖面 30. 21號 石槨 (1/60)

石槨의 규모는 묘광길이 380cm, 묘광너비 150cm이고, 석곽길이 300cm, 석곽너비 55cm, 석곽  
깊이 75cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 주곽의 단벽에 접하여 주로 소형 토기류들이 정치된 상태로 확인되었고, 조사과정에서  
교란된 토기들이 다수 수습되었다. 遺物의 명세는 표와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土 位置
		높이	口徑	底徑		
187	蓋	6.0	12.4	2.9	陶質. 燒成良好. 完形. 長石, 石英, 雲母 다량 混入. 內外면 灰青色, 속심 자색.  전면 회전물손질 정면. 蓋身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 口緣에 암갈색 자연유 산화박리. 臺脚 축소형 꼭지에 透窓 3개.	5
188	把手附盃	11.6	9.8	5.0	陶質. 燒成良好. 과수 결실. 石英, 長石, 雲母 혼입.  내외면 灰青色.  내외면에 황녹색 자연유 산화박리.  회전물손질 정면, 底部는 꺾기 (시계방향)	2
189	把手附盃	10.9	10.4	4.5	陶質. 燒成良好. 完形. 石英, 長石, 雲母 약간 혼입.  내외면,  속심 灰青色.  동체부 회전물손질 정면, 底部는 꺾기.  과수 아래에 八무늬 施文.	4
190	軟質甕	2.1		5.8	軟質. 燒成良好. 底部만 잔존. 長石, 石英, 雲母 다량 혼입.  내외면 적갈색,  속심 명황갈색.  회전물손질 정면.	1
191	鉢	5.2	13.1	7.3	陶質. 燒成普通. 完形. 石英, 長石, 雲母 혼입.  외면 灰青色,  내면 명황갈색.  상부 회전물손질,  하부는 물손질 정면. 底部는 꺾기(반시계방향)	3
192	短頸壺	27.8			陶質. 燒成良好.  동체1/3, 口緣 결실. 長石, 雲母 약간 혼입.  내외면 灰青色,  속심 자색.  동체 상부에 황녹색 자연유 산화박리.  전면 회전물손질 정면.  내면 底部에 내박자흔.  외면 底部는 격자타달후 회전물손질.  동체상부와 내면 底部  표면박리.  부분적 기포발생. 胴最大徑:33cm.	6

### 나. 內部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
193	高杯	6.3	10.9		陶質. 燒成良好. 杯身 1/2, 臺脚 완전 결실. 石英, 長石, 雲母 혼입.  내외면,  속심 灰青色.  회전물손질 정면. 杯身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 透窓 4개로 추정.	
194	高杯	6.4	10.6		陶質. 燒成良好. 臺脚 완전 결실. 石英, 長石, 雲母 혼입.  내외면,  속심 灰青色.  회전물손질 정면. 杯身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 透窓 4개.	
195	高杯	6.7		7.4	陶質. 燒成良好. 杯身 결실. 石英, 長石, 雲母 혼입.  외면,  속심 明灰青色.  배신 내면 회흑색.  회전물손질정면(반시계방향).  장방형 透窓 3개.	
196	臺附盃	5.5	11.6		陶質. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입.  내외면,  속심 明灰青色.  전면 회전물손질 정면.  내면에 황녹색 자연유 산화박리. 臺脚에 透窓 4개로 추정.	

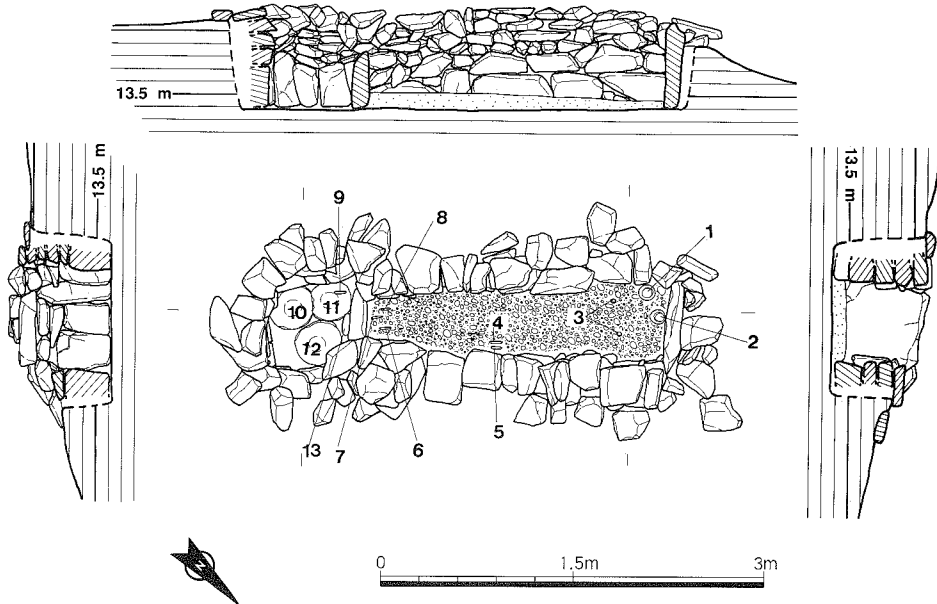
遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	비고
		높이	口徑	底徑		
197	把手附壺	20.2	·	7.6	陶質. 燒成良好. 胴체1/2, 口緣, 과수1개 결실. 長石, 雲母 등 혼입. 내외면, 속심 灰青色. 외면은 격자타날정면. 내면은 박자후 물손질 정면.	

## 22. 22號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 14m선상에 26호와 나란하게 조성되어 있다. 조사구역내의 상단에 위치한 주축방향이 N45°W인 수혈식 石槨墓이다. 遺構의 상부는 교란되었으며 蓋石은 남아 있지 않았다. 주곽의 북서쪽 장벽 일부가 제거된 상태로 조사되었으며 교란된 부분을 통하여 遺構 내부가 도굴되었다. 遺構의 내부는 主槨과 副葬槨을 구분하기 위한 대형판석 1매가 세워져 있다.

遺構의 축조방법을 보면 主槨의 장벽은 최하단석을 가로쌓기하고 3, 4단부터 세로쌓기하는 반면, 副葬槨의 경우는 양 공간을 분리하는 대형판석을 기준으로 최하단석을 평면 호상으로 세워쌓기하였다. 이로 보아 아마도 양 공간이 별도로 축조되어졌을 가능성이 높다. 특히 副葬槨의 너비가 主槨의 너비보다 넓게 조성되어진 것이 뚜렷하게 확인된다. 북서쪽의 단벽은 대



圖面 31. 22號 石槨 (1/60)

형판석 1매를 사용하여 마감하였다.

遺構의 바닥은 主槨에만 1~2cm 내외의 고운 자갈을 10cm 내외로 깔아 비교적 두텁게 만들었다. 副葬槨은 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용하였다. 石槨의 규모는 길이 310cm, 너비 65cm, 최대깊이 80cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 副葬槨의 반대편 단벽에 접하여 把手附盃 2점이 확인되었으며 副葬槨에서 短頸壺가 정지된 채 底部만 남은 상태로 확인되었다. 主槨 내부에서는 細環耳飾 및 철기류들이 검출되었다. 그리고 遺構의 조사과정에서 교란된 상태로 다수의 遺物이 수습되었다. 遺物의 명세는 표와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		器高	口徑	底徑		
198	把手附盃	11.0	9.9	5.0	陶質. 燒成良好. 파수 결실. 長石, 石英, 雲母 다량 혼입. 내외면 明灰青色, 속심 자색. 내외면 회전목리 조정. 내외면에 부분적으로 암녹색 자연유 산화박리. 파수 1개.	1
199	把手附盃	9.9	10.1	6.0	陶質. 燒成良好. 完形. 長石 등 석립 약간 혼입. 내외면 明灰青色, 속심 회백색. 내외면 회전목리 조정(목리 시계방향)	2
200	短頸壺	20.2	.	12.3	陶質. 燒成普通. 동체 하부만 잔존. 長石, 石英 등 혼입. 내외면 회황색, 속심 황갈색. 외면에 불규칙 평행타날, 내박자흔 희미하게 잔존. 胴最大徑:32.3cm	10
201	短頸壺	18.0	.	12.8	陶質. 燒成普通. 동체 하부만 잔존. 長石, 石英 등 혼입. 외면 회백색, 내면 명황갈색, 속심 황갈색. 외면 불규칙 격자타날, 내박자흔 희미하게 잔존. 내외면에 표면박리 심함. 胴最大徑:31.0cm	12
202	短頸壺	15.0	.	.	軟質. 燒成良好. 동체 일부만 잔존. 내외면 회황색, 속심 회흑색. 외면에 격자타날이 희미하게 잔존. 내외면 표면박리 심함.	11

203~206은 鐵鏃으로 203을 제외한 나머지 3점은 주곽의 피장자 발치에서 확인되었다. 203은 副葬槨의 短頸壺 위에 얹힌 상태로 발견되었는데, 遺構의 상부가 교란되었던 점을 감안한다면 교란된 것이 아닌가 추정된다. 4점 모두 일부가 결실된 상태이며 鏃頭의 형태를 알 수 있는 2점이 모두 柳葉形의 長頸式鏃인 점으로 보아 모두 같은 형식의 촉으로 추정된다. 出土位置는 6~9이다.

207과 208은 鐵製 刀子로 207은 刃부와 柄部の 접합부에 鐵製 把金具가 있다. 身部에 목질 혼이 수착되어 있으며 柄部 일부가 결실되었다. 잔존길이 11.0cm, 幅 1.4cm, 두께 0.2cm, 出土位置는 4이다.

208은 刃部 선단부에 목제 칼집혼이 부분적으로 남아있으며 身部와 柄部는 결실되었다. 잔존길이 7.9cm, 幅 1.7cm, 두께 0.3cm, 出土位置는 5이다.

209는 鍛造鐵斧로 鏃部 단면은 타원형이며 鏃部 내면에 木柄흔적이 얇게 남아 있다. 刃部 일부가 결실되었으며 길이는 17.2cm, 幅 7.2cm, 重量 754.4g이다. 出土位置는 13이다.

210은 金銅製 細環耳飾 한쌍으로 얇은 청동막대에 金箔을 입히고 둥글게 말아 돌린 것이다. 때문에 環의 내측의 금박에는 주름이 잡혀 있다. 좌우 모두 일부가 결실되었는데, 直徑 2.0cm 전후이며 두께는 0.3cm, 重量은 0.6g, 出土位置는 3이다.

나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
211	高杯	4.3	10.7	.	陶質. 燒成良好. 臺脚 완전 결실. 長石, 石英 약간 혼입. 內外面 明灰青色, 속심 암자색.  전면 회전물손질 정면. 세장방향 透窓 4개로 추정.	
212	高杯	8.8	9.9	6.9	陶質. 燒成良好. 杯身 일부와 臺脚 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 혼입. 內外面, 속심 명자회색.  전면 회전물손질 정면. 세장방향 일단 透窓 4개.	
213	高杯	8.8	10.0	7.4	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外面 명자회색, 속심 회자색. 杯身部는 회전목리, 臺脚部는 회전물손질 정면.	
214	高杯	10.0	10.8	.	陶質. 瓦질燒成. 臺脚 하단 缺失. 長石 등 석립 소량 混入. 內外面, 속심 회백색.  전면 회전물손질 정면. 상하 각 4개씩 엇갈린 장방향 透窓(하단은 추정).	
215	高杯	8.4	10.3	.	陶質. 燒成良好. 臺脚 하단 결실. 長石, 石英 등 석립 소량 混入. 內外面, 속심 灰青色.  전면 회전물손질 정면. 상하4개씩 엇갈린 세장방향 透窓(하단추정)	
216	高杯	12.5	9.9	8.5	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 혼입. 內外面 明灰青色, 속심 회색.  전면 회전물손질 정면. 杯身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 상하 각 4개씩 엇갈린 장방향 2단 透窓.	
217	高杯	11.8	9.6	8.3	陶質. 燒成良好. 杯身 2/3, 臺脚 일부 결실. 長石, 石英 등 소량 혼입. 內外面, 속심 灰青色.  전면 회전물손질 정면. 상하 4개씩 엇갈린 장방향 透窓. 杯身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	
218	蓋	5.1	12.4	4.1	陶質. 燒成良好. 꼭지와 개하방 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 다량 혼입. 外면 灰青色, 內면 明灰青色, 속심 자색.  회전물손질 정면. 蓋하방과 內면에 녹색 자연유 산화막리. 蓋身 상부에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	
219	蓋	6.0	12.9	4.4	陶質. 燒成良好. 거의 完形. 石英, 長石, 雲母 혼입. 內外面 明灰青色, 속심 회백색.  전면 회전 물손질 정면. 蓋身 상부에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 內면 표면박리 심함.	
220	蓋	5.2	11.8	.	陶質. 燒成良好. 蓋身 일부, 꼭지 결실. 長石, 石英 소량 혼입. 內外面 明灰青色, 속심 자색. 蓋身 상부는 회전목리, 下方은 회전물손질 정면. 蓋身 상부에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 內면에 녹색 자연유 산화막리. 臺脚形꼭지로 透窓4개로 추정.	

221은 鐵製의 낚시바늘이다. 신부의 단면은 방형이며 신부의 일부만이 남아 있다. 잔존길이 3.3cm, 두께 0.5cm이다.

222는 柳葉形 鐵鏃으로 鏃身과 莖部 일부만 남아 있다. 축신의 단면은 볼록렌즈형이며 頸部の 단면은 말각의 장방형이다. 잔존길이 5.8cm, 身部幅 1.2cm. 莖部幅 0.7cm이다

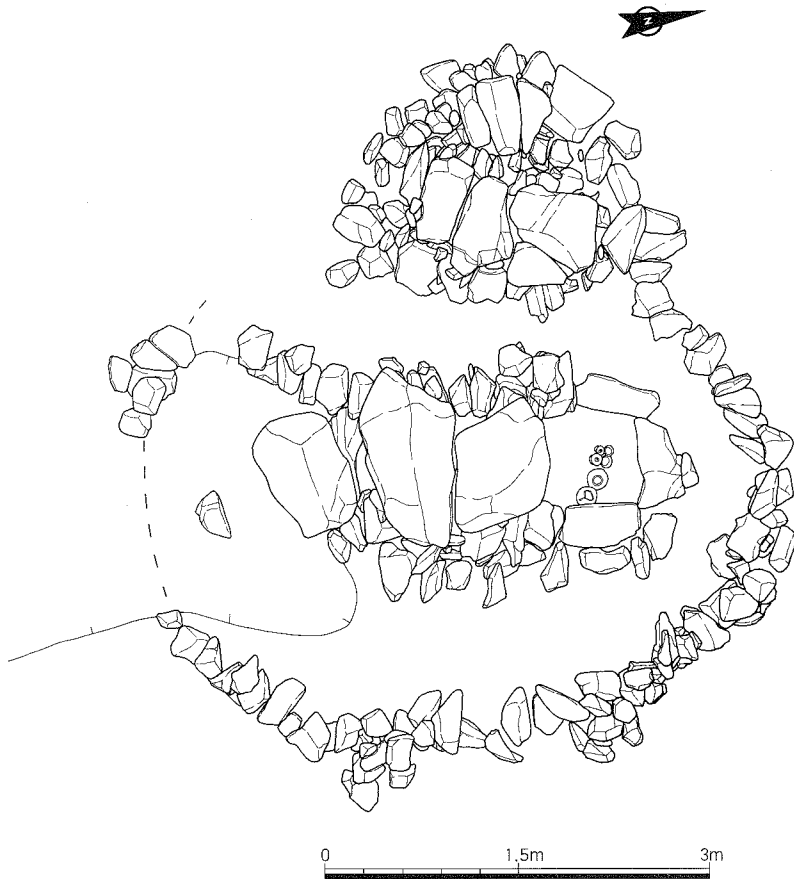
223은 鏃身部가 결실된 鐵鏃의 파편이다. 莖部에는 백화수피의 잔흔이 남아 있다. 莖部의 단면은 방형이다. 잔존길이 3.2cm, 幅 0.7cm이다.

다. 周邊採集遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		器高	口徑	底徑		
224	高杯	(9.8)	10.8	·	陶質. 燒成良好. 杯身1/2, 臺脚하단 결실. 長石, 石英, 雲母 混入. 外面 회백색, 내면·속심 명灰靑色. 회전물손질 정면. 상하 3개씩 엇갈린 2단 透窓(하단은 추정). 상단 透窓 옆에 人字 施文.	
225	蓋	(4.1)	·	3.3	陶質. 燒成良好. 蓋下方 완전 결실. 石英, 長石 등 소량 혼입. 내외면 암회靑색, 속심 자색. 회전물손질 정면. 臺脚形 꼭지에 방형 透窓 3개. 燒成시 작은 기포 발생. 내외면에 짙은 약간.	
226	蓋	5.4	11.1	3.9	陶質. 燒成良好. 蓋下方 일부 결실. 石英, 長石, 雲母 혼입. 내외면 灰靑色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 臺脚形 꼭지 방형 透窓 3개.	

23. 23號 石槨墓

1) 遺構

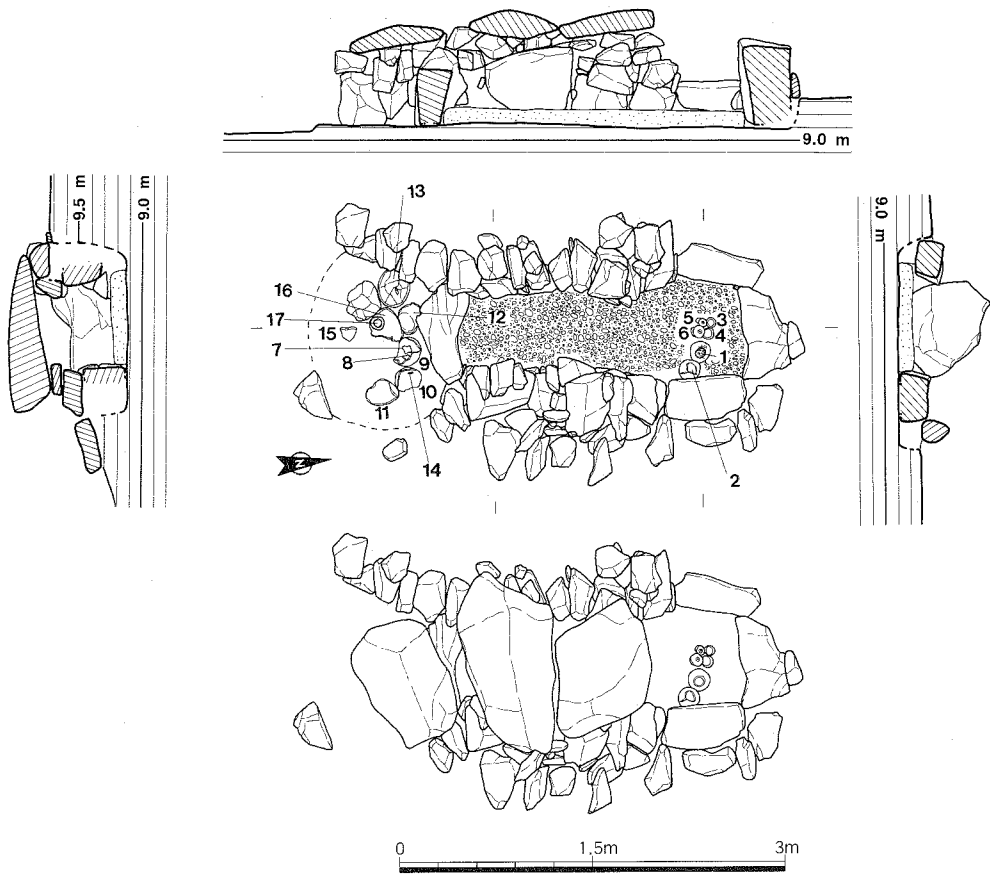


圖面 32. 23號 石槨과 24號 石槨 (1/60)

23號墓는 해발 9.5m선상에 24호와 나란히 조성되어 있으며 주축방향이 N7°E인 수혈식 石槨墓이다. 유구를 중심으로 타원형상으로 호석이 2/3정도 돌려져 있는데 호석의 일부는 후대의 민묘와 24號 石槨墓의 축조과정에 제거되어 버렸다. 유구는 蓋石이 일부 덮여 있었으나 副葬槨은 심하게 교란된 상태였다.

유구의 구조는 크게 피장자의 안장공간인 主槨과 遺物의 副葬을 위한 副葬槨으로 구분되는데 양 공간의 경계부분은 대형 할석 1매를 사용하여 분리하였다. 主槨의 양단벽은 1매의 할석으로 구성되어 있으며 장벽의 1단은 가로쌓기를 주로 하였고 2단부터 세로쌓기를 사용하였다. 副葬槨은 훼손이 심하여 원형을 정확히 알 수 없으나 평면형태는 주곽보다 폭이 넓은 타원형상으로 기획된 것으로 보인다.

조사 당시 主槨에는 2매의 蓋石이 덮혀져 있었으며 머리말로 생각되는 공간에는 蓋石이 제거되어 남아 있지 않았다. 그러나 머리말의 소형토기류들은 바닥에 정지된 채로 확인되었



圖面 33. 23號 石槨 (1/60)

다. 반면 副葬槨은 후대의 민묘를 조성하는 과정에서 파손되어 원형이 제대로 남아 있지 않았다. 하지만 일부 遺物들이 바닥에서 파손된 채로 확인되었다.

주곽 바닥에는 1~2cm 내외의 고운 자갈을 10cm 내외로 비교적 두텁게 깔았으며 부장곽은 아무런 시설없이 생토바닥을 그대로 사용하였다.

호석은 원형으로 둘러져 있었으나 남쪽은 후대 민묘조성시 유실되었고, 서쪽은 24호 축조시 제거되었다. 호석은 2단으로 쌓았으며 직경은 최대 500cm 정도이며 타원형으로 보인다.

석곽의 규모는 길이 340cm, 너비 85cm, 최대깊이 76cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 주곽에서 有蓋高杯를 포함한 소형토기류들이 확인되었고, 副葬槨에서는 壺類를 포함한 비교적 큰 토기류가 底部만 남은 상태로 조사되었다. 그리고 조사과정에서 副葬槨을 중심으로 한 교란된 층위에서 많은 수의 遺物들이 수습되었다. 개개 遺物의 명세는 표와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		器高	口徑	底徑		
227	蓋	5.8	11.8	3.8	陶質. 燒成良好. 完形. 石英, 長石 등 약간 혼입. 內外면 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 蓋身 상부에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	17
228	高杯	10.0	10.5	7.3	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 杯身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	3
229	有蓋高杯	5.9	11.6	3.9	蓋:陶質. 燒成良好. 蓋身 일부 결실. 長石, 石英 混入. 內外면 灰青色, 속심 자색.  전면 회전물손질 정면. 蓋身 상부에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	5
		9.7	10.5	7.1	高杯:陶質. 燒成良好. 口緣 일부 缺失. 長石, 石英 약간 混入. 內外면 灰青色, 속심 회색.  전면 회전물손질 정면. 杯身 아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文. 상하 엇갈린 透窓 3개씩.	
230	有蓋高杯	5.8	11.9	3.9	蓋:陶質. 燒成良好. 蓋身 1/3 결실. 長石, 石英 등 다량 混入. 內外면 灰青色, 속심 자색.  전면 회전물손질 정면. 蓋身 상부에 1조의 침선돌린 후 사격자문 施文	6
		10.8	11.3	8.0	高杯:陶質. 燒成良好. 杯身 일부, 臺脚 일부 缺失. 長石, 石英 약간 混入. 內外면 명회색, 속심 회색.  전면 회전물손질 정면. 杯身아래에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	
231	有蓋高杯	(4.9)	(11.8)	.	蓋:陶質. 燒成良好. 1/2이상 결실. 長石, 石英 등 混入. 內外면 灰青色, 속심 자색.  전면 회전물손질 정면. 蓋身 상부에 1조의 침선 돌린 후 사격자문 施文.	4
		9.3	11.0	7.9	高杯:陶質. 燒成良好. 口緣 일부 缺失. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면 명회색, 속심 자색.  전면 회전물손질 정면.  외면과 杯身 내면에 전체적으로 암녹색 자연유 산화막. 杯身 내면에 부분적으로 기포 발생.	



遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
232	短頸壺	(15.2)	·	11.2	軟質. 燒成普通. 동중하부만 잔존. 石英, 長石 등 다량 혼입. 내외면 황등색, 속심 황갈색. 외면에 격자타날문 施文. 내외면 표면 박리. 胴最大徑:21.5cm	10
233	短頸壺	24.9	16.8	·	陶質. 燒成良好. 口緣 1/2, 동체 일부 결실. 石英, 長石 등 소량 혼입. 내외면 明灰青色, 속심 회흑색. 외면 평행타날 후 회전목리. 내면 동중상부는 회전목리, 동중하부는 내박자흔 뚜렷. 口緣과 동중상부에 압녹색 자연유 산화박리. 胴最大徑:23.8cm	11
234	短頸壺	(20.1)	·	9.0	軟質. 燒成良好. 底部와 동체 일부 잔존(도면 복원). 長石, 石英 등 다량 혼입. 내외면 황등색, 속심 명적갈색. 외면 격자타날. 내박자흔 희미하게 남아있음. 胴最大徑:(21.9)cm	12
235	短頸壺	(16.0)	·	12.4	陶質. 燒成良好. 동중하부 이하만 잔존. 長石, 石英 등 혼입. 내외면 흑갈색, 속심 적갈색. 외면 불규칙 평행타날, 내면 물손질. 내박자흔 희미하게 남아있음. 표면 박리 약간.	13
236	短頸壺	(7.0)	·	·	陶質. 燒成普通. 底部 일부만 잔존(도면복원). 石英, 長石 등 혼입. 내외면 회황색, 속심 회백색. 외면 불규칙 평행타날. 내면에 물손질 흔 희미하게 남아있음.	15
237	短頸壺	(17.0)	·	12.7	陶質. 瓦質燒成. 동중하부 2/3정도 잔존. 석립 소량 혼입. 내외면 暗灰青色, 속심 회백색. 외면 사격자문 타날. 내면에 평행타날 내박자와 무문양 내박자흔 희미하게 남아있음.	16
238	短頸壺	13.5	11.0	7.3	陶質. 燒成良好. 完形. 石英, 長石 등 혼입. 내외면 灰青色. 암녹색 자연유 산화박리. 회전물손질 정면, 底部만 깎기. 동체에 燒成시 작은 기포 발생. 胴最大徑:16.4cm	1
239	臺附 長頸壺	(24.5)	·	15.6	陶質. 燒成良好. 동체1/2, 臺脚 잔존. 長石, 石英 등 약간 혼입. 외면 명자회색, 내면 명자회색, 속심 자색. 전면 회전물손질 정면. 외면에 회황색 자연유 얇게 부착. 燒成時 기포 발생. 臺脚에 세장방향 透窓 8개. 胴最大徑:24.6cm	9
240	臺附 長頸壺	(20.0)	·	13.0	陶質. 燒成良好. 口緣 결실. 長石, 石英 등 혼입. 內外面 明灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 동중하부에 외박자흔, 내박자흔 잔존. 황녹색 자연유 산화 박리. 臺脚에 細長方形 透窓 7개. 胴最大徑:19.0cm	2

241과 242는 辻金具로 동일한 형상이나 크기가 다르다. 半球形으로 사각에 가죽끈을 고정하기 위한 원두정이 3개씩이 박혀 있으며, 끈의 결속을 강화하기 위한 고리도 사각마다 갖추어져 있다. 241의 규격은 전체길이 4.4cm, 半球의 지름 2.7cm이며 出土位置는 8이다. 242는 전체길이 7.7cm, 지름 5.3cm이며 出土位置는 7이다.

243은 圓頭釘으로 추정된다. 못 대가리로 추정되는 부분은 원형으로 둥글게 남아 있고 신부는 단면 방형이다. 전체적으로 목질의 흔적은 남아 있지 않다. 잔존길이 2.1cm, 폭 0.5cm이며 出土位置는 14이다.

#### 나. 周邊採集遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	꼭지경		
244	蓋	5.7	11.4	3.6	陶質. 燒成良好. 口緣 1/3 결실. 長石, 石英 등 혼입. 내외면, 속심 灰青色. 전면 회전물손질 정면(녹로방향은 반시계방향).	
245	蓋	4.8	12.8	2.6	陶質. 燒成良好. 蓋身 1/2 결실. 長石, 石英 등 혼입. 내외면 明灰青色, 속심 자색. 외면 회전목리. 내면에 암녹색 자연유 산화박리. 燒成시 작은 기포 발생.	
246	蓋	5.1	(13.0)	2.6	陶質. 燒成良好. 1/2이상 결실(도면복원). 長石, 石英 등 혼입. 외면 灰青色, 내면 회황색, 속심 자색. 전면 회전물손질. 내면에 암녹색 자연유 산화박리.	
247	蓋	4.6	10.3	3.3	陶質. 燒成良好. 蓋身 1/2 정도 결실. 長石, 石英 등 混入. 內外面 灰青色, 꼭지부분 회황색, 속심 회색. 전면 회전물손질 정면.	
248	蓋	4.6	(13.5)	2.4	陶質. 燒成良好. 1/2이상 결실(도면복원). 長石 등 약간 混入. 外面 灰青色, 내면 속심 자색. 전면 회전물손질 정면. 내면에 암녹색 자연유 산화박리.	
249	蓋	5.4	(10.9)	3.5	陶質. 燒成良好. 1/2이상 결실(도면복원). 長石, 石英 등 混入. 內外面 灰青色, 꼭지 회색, 속심 灰青色. 전면 회전물손질 정면.	

250은 土製 紡錘車로 색조는 암갈색이며 胎土는 비교적 정선되었다. 雲母와 長石이 미량 혼입되어 있다. 지름 4.2cm, 두께 2.6cm이다.

251은 先端部 일부와 身部가 결실된 鎌으로 추정된다. 잔존길이 17.0cm, 幅 2.5cm, 두께 0.2cm이다.

252는 杏葉으로 고리부분은 결실되었으며 身部만이 남아 있는데 外緣을 따라 0.3cm간격으로 圓頭釘을 촘촘히 박았다. 規格은 殘存길이 6.8cm, 너비 9.0cm, 두께 0.3cm이다.

253은 鐵製 낚시바늘이다. 바늘의 귀부분이 비교적 얇게 잘남아 있다. 銹化狀態로 보아 본 유구와 관계될 가능성도 있으나 분명하지 않다. 길이 6.6cm이다.

254는 朝鮮時代의 청동제 숟가락으로 副槨을 파괴하고 축조된 조선시대 민묘에 副葬되었던 것으로 보인다. 손잡이 부분을 포함한 일부만이 남아 있다. 잔존길이 18.7cm이다.

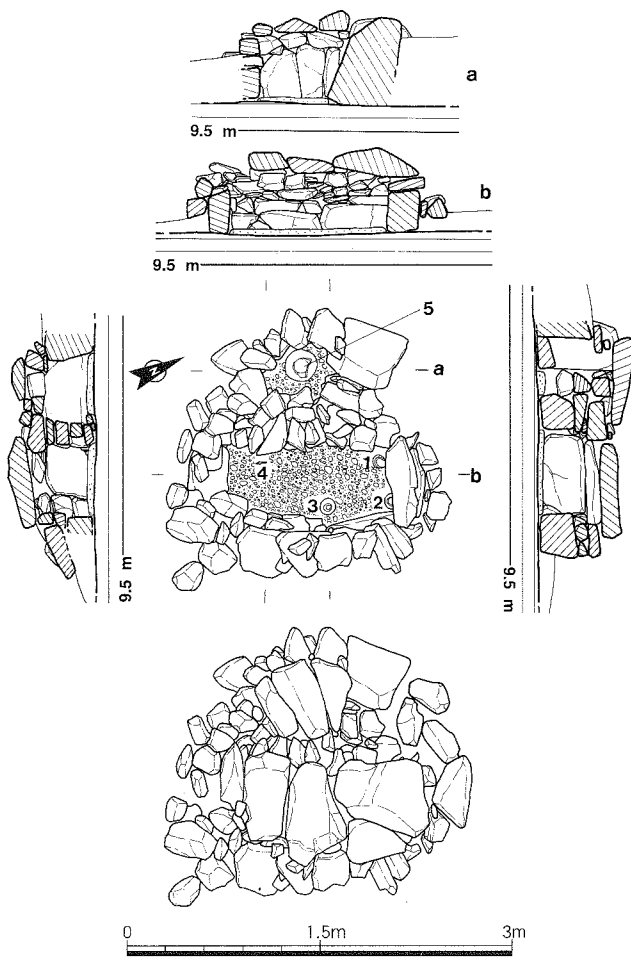
255는 불명철기로 일부만이 남아 있어 전체적인 형상을 알 수 없으며 시기도 명확하지 않다. 잔존길이 5.7cm이다.

## 24. 24號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 10m선상에 주축방향이 N26°E인 수혈식 石槨墓로 23호의 호석 일부를 파괴하고 설치되었다. 유구의 배치상으로 볼 때 23, 24호 양 묘는 친연관계에 있었을 가능성이 높다.

24호 石槨墓는 구조상으로 매우 특이한 구조인데 본 유적의 유구는 단벽에 접하여 副葬槨이 설치된 예가 대부분인데 비하여 24호 石槨墓의 副葬槨은 단벽이 아니라 장벽에 접하여 설치되어 있다. 어떠한 이유에서인지는 명확하지 않으나 주곽의 양 단벽은 1매의 할석을 사용하여 마감하고 부장곽은 장벽의 바깥쪽 일부분을 이용하여 弧狀으로 석곽을 구획한 점은 매우



圖面 34. 24號 石槨 (1/60)

특이하다고 하겠다.

유구는 主槨과 副葬槨이 모두 蓋石에 의하여 덮인 상태로 온전하게 남아있었다. 주곽은 양단벽을 대형 판석 1매로 구성하였고, 측벽은 4, 5단 정도로 인데, 최하단석은 비교적 큰 할석을 세로쌓기하고 2, 3단부터 가로쌓기하였다. 부장곽은 하단석에 비교적 대형 할석을 호상으로 세워쌓기 하였고 2단은 가로쌓기하고 그 위에 蓋石을 올렸다.

유구의 바닥은 주곽과 부장곽에 모두 1~2cm 내외의 고운 자갈을 한벌 깔았다. 석곽의 규모는 길이 120cm, 너비 110cm, 최대깊이 50cm이다.

出土遺物은 주곽에서 주로 소형 토기류와 철촉 1점이 出土되었고, 부장곽에서 臺附長頸壺 1점이 확인되었다.

## 2) 遺物

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		器高	口徑	底徑		
256	把手附甕	10.9	10.5	6.5	陶質. 燒成良好. 口緣 일부, 파수 결실. 長石, 石英 등 다량 혼입. 내외면 灰青色, 속심 자색. 거의 전면에 암녹색 자연유 산화박리. 회전물손질 정면. 底部는 깎기. 파수 1개.	2
257	軟質甕	8.8	10.8	4.3	軟質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英 등 혼입. 내외면 황색, 속심 회황색. 전면 회전물손질 정면. 底部는 깎기(반시계방향). 표면박리 약간. 胴最大徑:11.2cm	1
258	短頸壺	13.7	10.2	5.6	陶質. 燒成良好. 完形. 長石, 石英 등 혼입. 내외면 灰青色. 내면은 회전목리와 물손질, 외면은 회전물손질 정면. 내외면에 부분적으로 암녹색 자연유 산화박리. 燒成時 기포 발생. 胴最大徑:15.2cm	3

遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說 明	出土位置
		器高	口徑	底徑		
259	臺附 長頸壺	34.3	17.8	16.0	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英 등 다량 混入. 外面 회황색, 내면 灰青色, 속심 자색. 외면 회전물손질, 내면 물손질 정면. 내면 동중상위에 지두흔. 동체 하부에 암녹색 자연유 산화박리. 燒成時 작은 기포 발생. 표면박리 약간. 臺脚에 상하 엇갈린 방향 透窓 8개.	5 副槨

260는 頸部와 莖部가 일부 결실된 鐵鍬이다. 柳葉形으로 莖部에 백화수피흔이 일부 남아 있다. 추정길이 7.1cm, 幅 1.4cm이다. 出土位置는 4이다.

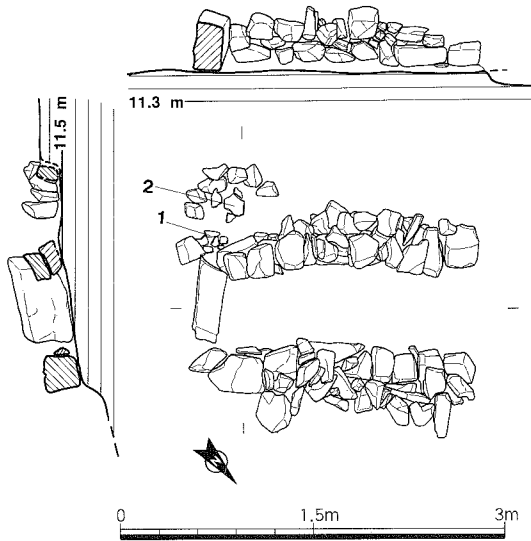
#### 나. 内部攪亂遺物

261은 陶質製의 小形甌으로 燒成良好하며 동체1/3 결실되었다. 石英, 長石 등이 혼입되어 있다. 내외면은 회청색이고 속심은 자색이다. 전면 회전물손질 정면하였다. 암녹색 자연유가 酸化剝離되어 있다. 높이 3.7cm, 口徑 6.0cm, 底徑 4.5cm이다.

## 25. 25號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 11~12m선상에 위치하는 수혈식 石槨墓로 주축방향은 N48°W이다. 독립적으로 위치하고 있으며 유구의 蓋石은 남아 있지 않은데 아마도 상부가 유실되면서 석곽의 장벽이 경사면 아래로 흘러 내린 것으로 보인다.



圖面 35. 25號 石槨 (1/60)

석곽의 구조는 장벽 2, 3단 정도가 남아 있으며, 단벽은 1매의 대형 할석으로 동남쪽만 남아 있다. 장벽은 대부분이 유구의 바깥으로 무너져 본래의 상태가 아닌 것으로 판단된다. 그러나 남아 있는 상태로 보아 최하단석은 비교적 큰 할석으로 가로쌓기하였고 2단부터는 다소 작은 할석을 이용하여 세로쌓기한 것으로 보인다.

副葬槨으로 판단되는 부대시설이 24호 石槨墓와 마찬가지로 장벽의 바깥으로 설치되어 있다. 그러나 대부분이 훼손되고 최하단석 일부만이 남아 있다.

유구의 바닥은 아무런 시설없이 생토바닥을 그대로 이용했다. 석곽의 규모는 잔존길이가 190cm, 너비가 66cm, 잔존한 깊이가 54cm이다.

## 2) 遺物

出土遺物은 副葬槨의 바닥에서 파손된 상태로 短頸壺 底部가 확인되었다.

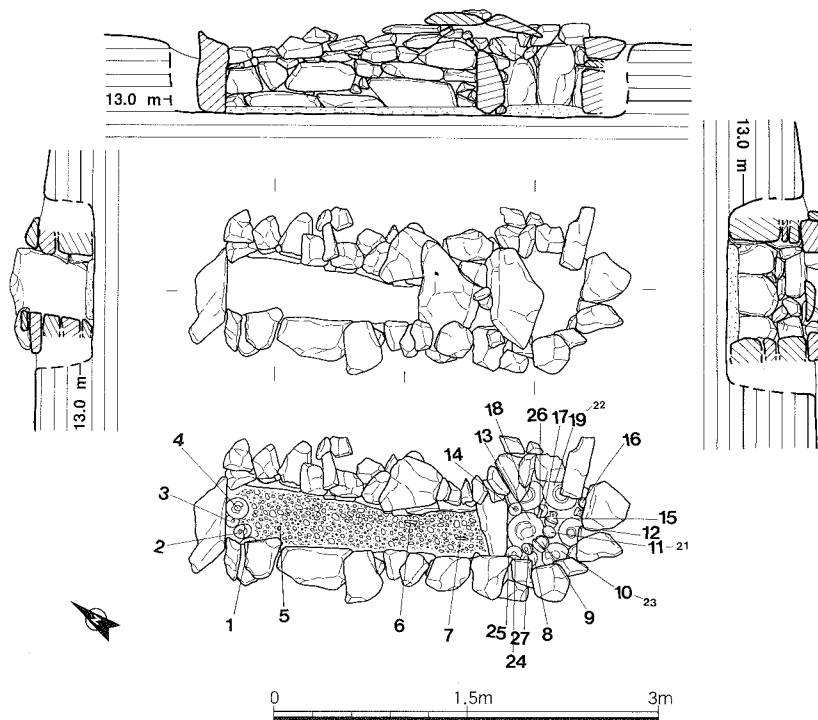
262는 陶質製 短頸壺의 底部로 燒成은 보통이며 胎土에 長石, 石英, 雲母 등이 일부 混入되어 있다. 내외면과 속심은 회색으로 외면에는 불규칙적인 타날흔이 남아 있으며, 내면에는 지두흔 위에 물손질한 흔적이 보인다. 잔존높이 7cm이며 出土位置는 1이다.

263은 陶質製 短頸壺의 일부분이다. 燒成은 보통이며 胎土에는 長石, 石英등이 일부 混入되어 있다. 내외면과 속심은 회색으로 기면에는 불규칙적인 타날흔이 남아 있다. 잔존높이 18cm이며 胴最大徑 27.2cm이다. 出土位置는 2이다.

## 26. 26號 石槨墓

### 1) 遺構

조사지역 중에서 비교적 높은 편인 해발 13m선상에 위치하며 주축방향은 N34°E 이다. 主槨과 副葬槨의 경계부분에 2매의 蓋石이 덮혀 있으나 전체적으로 상부교란이 심한 편이다. 유구의 배치로 볼 때 22號 石槨墓와 나란히 배치되어 있어 양 유구는 일정한 관계를 가지는 것으로 보인다.



圖面 36. 26號 石槨 (1/60)

유구의 구조는 主槨과 副葬槨으로 나누어지며 主槨의 축조방법은 최하단석을 포함한 2단까지 가로쌓기하고 3단부터 세로쌓기를 주로 하여 쌓았다. 반면 副葬槨은 1단을 세워쌓기하여 호상의 평면을 구획하고 2단부터 세로쌓기 하여 석곽의 축조방법에서 주곽과 차이를 보인다. 부장곽의 평면구조를 호상으로 돌려 주곽의 폭보다 다소 넓게 구획하였다. 측벽은 5, 6단 정도가 남아 있는데 蓋石이 제거된 것을 제외한다면 비교적 잘 남아있는 편이다. 주곽의 양 단벽은 모두 1매의 판석을 이용하여 마무리하였다. 유구의 바닥은 주곽에 3~4cm 가량의 고운 냇돌을 전면에 깔아 시상을 설치하였고 부장곽에는 아무런 시설없이 생토면 위에 遺物을 副葬하였다.

석곽의 규모는 주곽의 길이가 200cm, 너비가 40cm이며, 부장곽의 길이는 60cm, 너비 65cm이다. 유구의 총길이는 270cm이고 최대깊이는 70cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 主槨에서는 鐵器類를 비롯한 소형토기류들이, 副葬槨에서는 壺類를 포함한 대형토기류가 주로 副葬되어 있다.

### 가. 出土 遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
264	蓋	5	10.8	·	陶質. 燒成良好. 完形出土. 灰青色. 正선된 胎土에 長石알갱이 소량 혼입. 회전물손질 정면. 杯身일부에 약한 목리흔이 보임. 꼭지는 따로 만들어 蓋身과 접합하여 밀린 흔적이 보임. 꼭지경:3.1cm	20
265	有蓋高杯	4.5	11.4	·	蓋:陶質. 燒成良好. 完形出土. 灰青色. 正선된 胎土에 長石, 黑雲母 혼입. 杯身 안으로 약한 목리 조정이 보임. 꼭지 접합시 반시계 방향으로 밀린 흔적이 보임. 꼭지경:2.9cm	24
		12.5	10.3	6.8	高杯:陶質. 燒成普通. 完形出土.  전체적으로 옅은 灰青色을 띠나 부분적으로 회백색이 보임. 正선된 胎土에 長石, 雲母, 黑雲母 혼입.  전체적으로 회전물손질 정면. 杯身에 목리흔이 뚜렷. 臺脚에 장방형의 透窓이 3개 뚫림	
266	有蓋高杯	5	11.5	·	蓋:陶質. 燒成良好. 灰青色. 正선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 회전물손질 정면. 표면에 기포 약간 발생. 꼭지경:3.7cm	27
		10.4	9.4	7.2	高杯:陶質. 完形出土. 燒成良好. 灰青色. 속심도 灰青色. 正선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 소량 혼입.  전체적으로 회전물손질 정면. 杯身 아래쪽에 목리흔 뚜렷. 臺脚에 長方形 透窓 3개 뚫림	
267	有蓋高杯	4.9	11.4	·	蓋:陶質. 燒成良好. 口緣部 약간 결실. 灰青色. 正선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 회전물손질 정면. 내면은 약한 목리흔. 꼭지경:3.1cm	14
		9.9	9.6	7.8	高杯:陶質. 燒成良好. 臺脚일부 결실. 회백색에 가까운 灰青色. 正선된 胎土에 長石 알갱이 혼입. 회전물손질 정면. 부분적으로 목리조정. 臺脚에 3개의 장방형 透窓이 뚫림. 臺脚접합부에 목리로 조정된 흔적뚜렷	

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土 位置
		높이	口徑	底徑		
268	有蓋高杯	5.1	11.6	.	蓋:陶質. 燒成良好. 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 黑雲母 알갱이 혼입. 회전물손질 정면. 목리조정. 꼭지경:3.2cm	15
		9.2	9.3	8.1	高杯:陶質. 燒成良好. 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 雲母, 黑雲母 알갱이 소량 함유. 전체적으로 회전물손질 정면. 杯身 일부에 약한 목리흔. 臺脚에 장방형 透窓 3개 딸림	
269	有蓋高杯	5.2	10.3	.	蓋:陶質. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 혼입. 꼭지에 타원형 透窓 4개 딸림. 口緣部 내면에 녹색 자연유 부착. 박리심함. 내면 중심부에 짙흔적 보임. 꼭지경:3.1cm	16
		8.9	9.2	7.8	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자회색. 정선된 胎土에 長石·雲母 알갱이 소량 함유. 회전물손질 정면. 부분적으로 목리흔 보임. 臺脚에 장방형 透窓 3개 딸림	
270	有蓋高杯	5	11.3	.	蓋: 陶質. 燒成良好. 口緣部 일부 결실. 灰青色. 정선된 胎土에 長石 알갱이 혼입. 목리조정후 회전물손질 정면. 꼭지경:3.4cm	17
		9.7	9.8	7.2	高杯: 陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 회전물손질 정면. 부분적으로 목리조정. 臺脚에 장방형 透窓 3개.	
271	有蓋高杯	5.3	11.2	.	蓋: 陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 속심도 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 蓋身 상부에 목리흔 보임. 꼭지경:3cm	22
		8.5	9.6	6.8	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 灰青色. 속심도 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 臺脚底部에 짙흔적이 보이고 전체적으로 녹색 자연유박리. 臺脚에 상하 교호 透窓 4개	
272	有蓋高杯	4.9	11.5	.	蓋:陶質. 完形. 燒成良好. 灰青色. 속심도 灰青色. 단추형 꼭지. 정선된 胎土에 長石. 雲母 알갱이 소량 혼입. 회전물손질 정면. 杯身과 내부에 목리조정. 꼭지 접합흔이 보임. 꼭지경:3cm	25
		10.3	9.7	7.3	高杯:陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 雲母, 石英 알갱이 함유. 회전물손질 정면. 杯身部 표면은 목리조정. 臺脚에 장방형 透窓 3개. 杯身과 臺脚에 접합흔이 보임	
273	有蓋把手盃	6.5	12	.	蓋: 陶質. 杯身 1/3정도 결실. 燒成良好. 暗灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 혼입. 회전물손질 정면. 杯身 일부에 자연유 박리. 꼭지에 방형의 透窓 3개. 꼭지경:4.8cm	2
		10	6.1	10.1	把手附盃:陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 정선된 胎土에 長石 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 底部는 깎기. 杯身 일부에 자연유 박리. 파수 양쪽에 2.5cm 길이의 침선이 한줄씩 있음.	
274	有蓋甕	4.5	10.5	.	蓋:陶質. 燒成良好. 灰青色. 口緣일부 결실. 단추형 꼭지. 전체적으로 회전물손질 정면. 정선된 胎土에 長石, 雲母 소량 혼입. 杯身 안쪽에 꼭지 접합시 눌린 흔적 보임. 꼭지경:2.9cm	3
		7.5	9.3	3.9	甕:軟質. 동체부 일부와 口緣部 거의 결실. 燒成良好. 황갈색. 속심은 흑갈색. 정선된 胎土에 石英, 長石, 雲母 알갱이 다량 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 底部는 반시계 방향으로 깎기.	
275	蓋杯	3.4	10.2	.	蓋:陶質. 燒成普通. 完形. 엷은 灰青色 정선된 니질 胎土에 長石 알갱이 혼입. 회전물손질 정면.	9
		3	10.5	.	杯:陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 정선된 胎土에 長石 소량 혼입. 회전물손질 정면.	

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
276	蓋杯	3.5	11.3	.	蓋:陶質. 燒成不良. 口緣部 일부 결실. 회백색. 정선된 胎土에 石英, 長石 알갱이 소량 혼입. 내외면 회전물손질 정면. 전체적으로 박리 심함.	11
		3.5	10.2	.	杯:陶質. 燒成良好. 完形. 엷은 灰青色. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 혼입. 회전물손질 정면. 口緣에 목리흔	
277	蓋杯	3.5	10.5	.	蓋:회백색. 燒成普通(杯身에 부분적으로 燒成불량). 속심도 회백색. 口緣 일부 결실. 정선된 胎土에 石英, 長石 알갱이 혼입. 내외면 회전물손질 정면. 杯身 일부 표면 박리.	21
		2.4	9.4	.	배:陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 속심 灰青色. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 함유. 회전물손질 정면. 杯身부에 기포 발생. 녹색 자연유 부착. 底部에 깊흔적 보임	
278	蓋杯	3.1	11.1	.	蓋:陶質. 燒成不良. 完形. 회백색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 혼입. 내외면 회전물손질 정면. 전체적으로 박리 심함.	23
		3.8	10.9	.	배:陶質. 燒成良好. 完形. 엷은 灰青色. 정선된 胎土에 長石 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 杯身 일부에 약한 목리흔.	
279	短頸壺	25	17	7.8	陶質. 燒成良好. 完形. 灰青色. 속심 자색. 정선된 胎土에 長石, 石英 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 동체부 중위에 타날 정면 후 목리조정. 底部에 목리조정. 동체부에 부분적으로 암녹색 자연유 박리. 기포발생. 胴最大徑:24.6cm	18
280	短頸壺	(27)	21	.	軟質. 底部, 동체부 일부 결실. 燒成良好. 회갈색. 속심은 자색, 내면일부는 암갈색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 혼입. 전체적으로 타날 정면. 口緣部는 타날 정면 후 회전물손질 정면. 胴最大徑:28.9cm	19
281	短頸壺	22.4	11.9	7	陶質. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 내면에는 지두흔 뚜렷. 底部 일부에는 목리흔이 보임. 동체부에 부분적으로 자연유 산화 박리. 胴最大徑:28cm	12
282	瓶	15.7	6.7	9.4	陶質. 口緣部 1/3 결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 混入. 전체적으로 회전물손질 정면. 동체 상부 자연유 산화박리.	1
283	臺附長頸壺	(16.2)	10.8	.	陶質. 臺脚결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 회흑색. 정선된 胎土에 石英, 長石 알갱이 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 내외면 전체적으로 녹색의 자연유 박리. 臺脚결실로 정확한 양상은 알수 없으나 透窓 5개	4
284	臺附長頸壺	(20.3)	.	13.1	陶質. 口緣部 결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 암자색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 단 동체상부는 목리조정. 내면에 지두흔. 臺脚에 長方形 透窓 8개.	8
285	臺附長頸壺	33.3	17.5	16.3	陶質. 口緣 1/2정도 결실. 成良好. 灰青色. 속심 暗灰青色. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 소량 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 동체 하단부는 평행타날. 내면에 지두흔. 동체부와 내면 일부에 녹색 자연유 산화박리. 내면 기포발생. 上下交互透窓 8개.	10
286	臺附長頸壺	37.7	17.3	15.8	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 회녹색. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 내면에 목리조정, 박자흔 보임. 口緣과 臺脚, 동체 일부에 회녹색 자연유 산화박리. 臺脚 일부 표면 박리.	13

287은 鐵製 刀子로 선단부가 결실되고 身部 일부와 柄部만 남아 있다. 身部和 柄部에는 목질이 수착되어 있다. 잔존길이 7.4cm, 너비 1.3cm, 두께 0.3cm이며, 出土位置는 7이다.



288은 身部가 결실된 鐵鍬의 莖部로 보인다. 단면은 말각방형이며 잔존길이 4.6cm, 폭 0.5cm이다. 出土位置는 6이다.

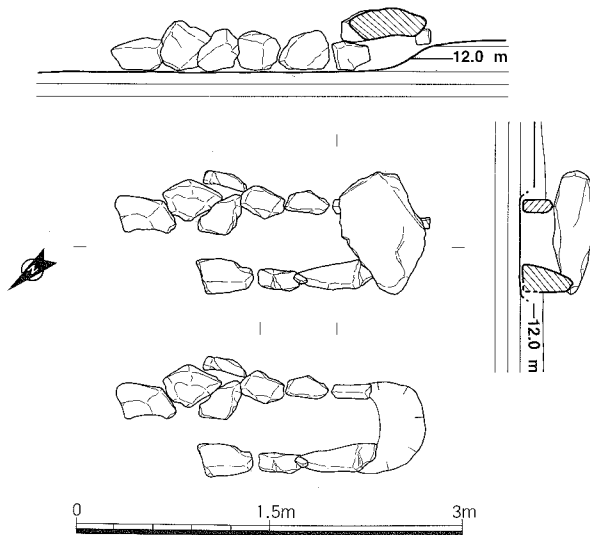
289는 선단부와 基部가 일부 결실된 鍛造製의 鐵鎌이다. 身部の 단면은 비교적 완만한 刃部를 가지고 있어 날을 세우지 않은 것으로 보인다. 잔존길이 12.2cm, 너비 2.4cm, 두께 0.4cm이며, 出土位置는 26이다.

290은 耳飾으로 청동의 막대에 金箔을 말아 입힌 것이다. 環의 내측은 금박이 접혀 주름이 남아 있다. 지름 1.5cm, 두께 0.2cm이며, 出土位置는 5이다.

## 27. 27號 石槨墓

### 1) 遺構

발굴지역 북서쪽 해발 12m에 위치한 장방형 石槨墓이다. 주축방향은 N40°E이며, 북서쪽으로는 3號墳이, 남동쪽으로는 4號墳이 인접하게 배치되어 있다. 3호 석실의 봉분범위 조사과정에서 3호 석실의 봉분 아래에서 확인되었다. 이로 보아 27호 石槨墓는 아마도 3호 석실의 배묘가 아닌가 생각된다. 축조방법은 생토바닥을 20cm 전후로 파고 할석을 세워쌓기하여 축조하였는데 1단으로 구성되어 있으며, 북쪽 단벽은 남아 있지 않아 알 수 없다. 남쪽의 단벽은 벽



圖面 37. 27號 石槨 (1/60)

석이 없이 개방된 형태로 비스듬히 모양이 파여져 있으며 蓋石 1매가 덮여 있다. 이러한 점은 본 유적에서 확인되는 石槨墓와는 차이가 있다.

바닥에는 아무런 시설도 없었으며 遺物도 확인되지 않았다. 석곽의 규모는 잔존길이 166cm, 너비 40cm이다.

### 2) 遺物

遺物은 모두 유구의 상부에서 교란되어 수습되었다. 수습된 遺物은 蓋 2점, 臺附盥 2점, 盥 3점, 瓶 1점이 있다. 엄밀히 말한다면 이들유물은 3號墳의 封土遺物이라고 할 수 있을 것이다.

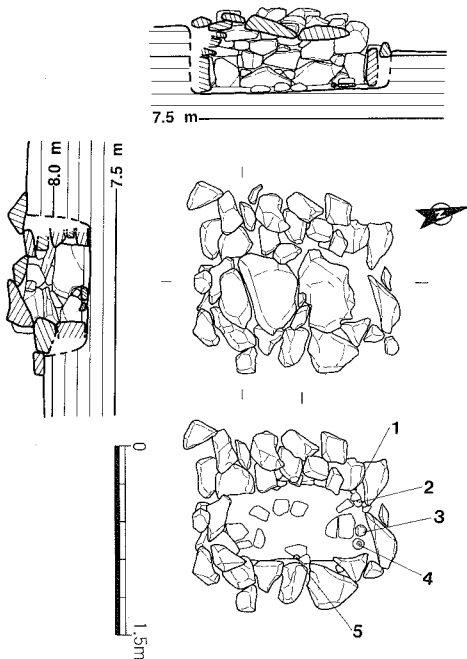
遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	비고
		높이	口徑	底徑		
291	蓋	3.8	8	·	陶質. 口緣部 일부, 꼭지 1/3정도 결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 소량 혼입. 전면 회전물손질 정면. 기표면에 회녹색 자연유 산화박리. 내면에 기포 발생. 꼭지경:3.2cm	
292	蓋	5.9	12.4	·	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 회흑색. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 소량 혼입. 전면 회전물손질 정면. 상부에 횡침선을 돌리고 그 아래로 사격자문 施文. 꼭지경:3.8cm	
293	臺附盃	7.2	11	5.1	陶質. 杯部 대부분 결실. 灰青色. 燒成良好. 정선된 胎土에 長石 소량 혼입. 전면 회전물손질 정면. 臺脚에 방형의 透窓 2개.	
294	臺附盃	(4)	10.3	·	陶質. 臺脚 결실. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石 소량 혼입. 전면 회전물손질 정면. 杯部 내면에 암녹색 자연유 산화박리. 2개의 三角透窓 흔적.	
295	壺(?)	5.4	·	7.1	陶質. 底部만 잔존. 燒成良好. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 長石, 雲母 알갱이 혼입. 전면 회전물손질 정면. 외면에 암녹색 자연유 박리. 내면에 흑색 자연유 산화박리. 기포발생. 底部각기	
296	盃	3.8	10	·	燒成不良. 口緣部 일부 결실. 灰青色. 정선된 胎土에 長石 알갱이 소량 혼입. 전면 회전물손질 정면	
297	盃	3.5	9.7	·	燒成不良. 杯身 반정도 결실. 灰青色. 정선된 胎土에 長石, 黑雲母 알갱이 소량 혼입. 전면 회전물손질 정면. 口緣부에 2조의 침선, 杯身부에 3조의 침선이 돌려져 있음.	
298	瓶	(20.2)	·	7.7	陶質. 口緣部 결실. 燒成良好. 胴체부 일부 결실. 灰青色. 속심은 자색. 정선된 胎土에 石英, 長石 소량 혼입. 전체적으로 회전물손질 정면. 底部는 반시계 방향으로 각기. 杯身 표면은 자연유 박리. 목부분에 침선 2조 돌림	

## 28. 28號 石槨墓

### 1) 遺構

28號 石槨墓는 해발 7.5m~8.0m선 사이에 위치하는 소형의 竪穴式 石槨墓로 主軸方向은 N15° E이다. 蓋石이 확인되었으며 1매가 유실된 것을 제외하고 비교적 완전한 상태이다. 주변에 인접한 유구없이 독립된 채 조사되었으나 조사범위의 경계에 해당하기 때문에 주위에 또 다른 유구가 인접해 있을 가능성도 배제할 수 없다.

유구의 축조방법은 특정한 규칙성없이 마구 쌓은 형태인데 남쪽의 단벽은 장벽과 맞물려 축조되면서 말각조정을 통하여 내경하는 양상을 보이고 있다. 그리고 석곽의 축조과정에 석재의 빈공간에는 10cm내외의 작은 할석을 채워 넣었다.



圖面 38. 28號 石槨 (1/60)

북쪽 단벽은 반대편 단벽과 달리 면이 편평한 할석 2매를 세워쌓기하여 마무리하였다.

유구의 바닥은 15cm내외의 작은 할석을 깔아 屍床으로 이용하였다. 遺構의 規格은 길이 126cm, 너비 60cm, 최대깊이 58cm이다.

## 2) 遺物

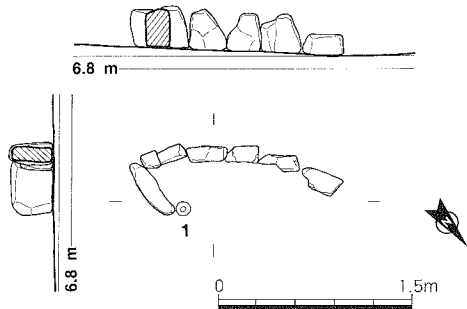
遺物은 북쪽 단벽에 접하여 臺附盥, 把手附甕, 瓶 등의 小形 土器類가 확인되었다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
299	臺附盥	8.2	11.5	6.4	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 내외면 灰青色, 속심 紫色.  전체적으로 회전물손질, 臺脚에 小形 方形透窓 3개.	1
300	把手附甕	6.3	8.3	4.5	軟質. 口緣 1/2, 同體部, 把手 일부 결실. 燒成良好. 長石 혼입.  내외면 赤褐色, 속심 적갈색.  깎기후 회전물손질	3
301	瓶	11.4	5	6.5	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 혼입.  내외면 灰青色.  동상단부 자연유 酸化剝離.	2
302	瓶	10.9	5.7	5.6	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 혼입.  내외면, 속심 灰青色.  목리조정후 회전물손질. 底部는 깎기. 口緣部에서 동상부까지 자연유 酸化剝離	4

303은 土製 紡錘車로 完形이다. 전체적으로 黃褐色이며 지름이 4.4cm이며 두께는 2.2cm이다.

出土位置는 5이다.



圖面 39. 29號 石槨 (1/60)

## 29. 29號 石槨墓

### 1) 遺構

조사범위내의 구릉사이 계곡부에 형성된 흑갈색 퇴적층상에 조성된 석곽묘로, 해발 6.8m선상에 위치하며 主軸方向은 N51°W이다. 본 遺構가 위치하는 곳은 구릉간의 溪谷部에 堆積된 沖積土上인데 주변에 다른 유구는 전혀 확인되지 않

아 독립적으로 조성된 것으로 보인다.

遺構의 축조방법은 27號 石槨墓와 거의 유사한데 벽석은 세워쌓기하고 단벽은 1매의 판석으로 처리하였다. 평면형태는 장방형에 가까운 不定形이며 1단만 남아 있다.

床面의 바닥은 아무런 시설없이 지면을 그대로 사용하였으며, 遺構의 規格은 잔존길이 136cm, 잔존높이 36cm이다.

## 2) 遺物

304는 瓶에 가까운 壺로 口緣部가 3/4정도 결실되었다. 燒成은 良好하며 胎土에는 石英, 長石이 다량 혼입되어 있다. 内外면 灰青色, 속심 暗青色이다. 높이 13cm, 口徑 6.7cm, 底徑 7.1cm이다.

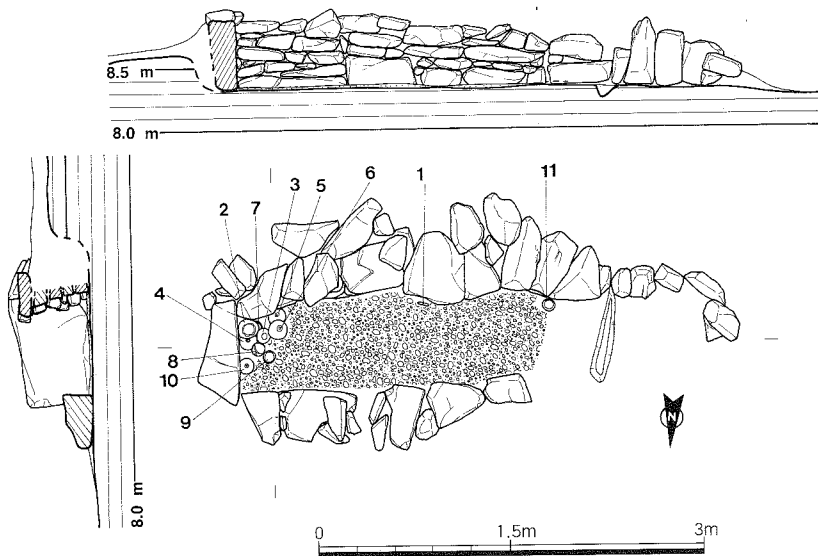
### 30. 30號 石槨墓

#### 1) 遺構

해발 8.5m선상에 위치한 堅穴式 石槨墓로 小形の 堅穴式 石槨墓인 31號 石槨墓와 일정한 거리를 두고 나란히 배치되어 있다. 2號 住居址 일부를 파괴하고 축조되었는데 遺構의 主軸方向은 N85°E이다.

전체적으로 장벽은 4, 5단 정도가 남아 있으며 북쪽 장벽 1/3정도와 서쪽 단벽 1/2정도가 제거된 상태이다. 유구의 축조방법은 1~3단까지는 가로쌓기를 주로 하였고 4, 5단은 세로쌓기하여 쌓아 올렸다. 본 유구도 主槨과 副葬槨을 구분하기 위하여 1매의 板石을 세운 구조인데 판석은 이미 제거되어 버렸고 흔적만 남아 있다. 그런데 副葬槨에 해당하는 長壁은 主槨의 축조방법과 다르게 세워쌓기하여 쌓아 올렸다. 副葬槨은 이미 대부분이 훼손되어 남쪽의 장벽만 남아 있을 뿐이다. 그리고 주곽의 단벽은 1매의 판석을 사용하여 마무리하였다.

床面은 2~6cm정도의 고운 자갈을 한벌 깔아서 바닥으로 이용하고 있다. 동쪽 단벽에서 약 230cm 부근까지 나타나며 副葬槨은 아무런 시설없이 생토면을 그대로 사용한 것으로 보인다.



圖面 40. 30號 石槨 (1/60)

石槨의 規模는 길이 370cm, 너비 82cm, 잔존깊이 64cm이다.

## 2) 遺物

出土遺物은 토기가 주로 副葬槨의 반대편, 머리맡으로 보이는 곳을 중심으로 소형토기류가 副葬되어 있었는데 副葬槨에는 비교적 큰 遺物들이 副葬되었던 것으로 볼 수 있다. 遺物의 명세는 아래와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
305	高杯	11	12.7	9	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내면 회백색 2/3, 암청색 1/3, 외면 灰青色, 회전물손질, 杯身 중하부에 회전목리흔 보임. 상,하 교차된 長方形透窓 5개씩. 口緣部, 臺脚部 자연유 酸化剝離. 306와 세트(?)	7
306	蓋	7.5	.	13.5	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 외면 灰青色, 내면 회색, 속심 회색. 회전물손질. 蓋身상단부 회전목리 흔 조정. 삼각집선문을 오른쪽으로 가면서 9개 施文. 꼭지에 方形透窓 3개. 꼭지 안쪽면과 蓋身 내부 자연유 剝離.	10
307	有蓋高杯	7.2	.	14	蓋:陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 石英,長石 혼입. 내외면 灰青色. 속심 자색. 회전물손질. 蓋身 상단부에 약한 회전목리흔 잔존. 꼭지에 方形透窓 3개. 三角集線文 9개 施文. 내면 황녹색 자연유 박리.	4
		11	12.7	9.2	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 石英, 長石 혼입. 내외면 灰青色, 속심 紫色. 회전물손질, 上下交叉된 透窓 5개씩, 口緣部와 대각말단부 자연유 酸化剝離.	
308	有蓋高杯	5.9	.	14	蓋:陶質. 完形,燒成良好. 石英,長石 혼입. 내외면 회청색. 속심 자색. 회전물손질 정면. 蓋身 상단부에 회전목리흔 잔존. 꼭지에 方形透窓 3개. 口緣部와 蓋身內部 자연유 박리.	5
		10.2	12.2	8.2	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 혼입. 내외면 회색, 속심 자색. 회전물손질, 杯身 하부에 회전목리흔 잔존. 杯身과 臺脚접합부 각기후 회전목리. 5개씩의 상, 하 엇갈린 透窓, 口緣部 자연유 박리.	
309	有蓋高杯	6.5	.	14	蓋:陶質. 口緣 약간 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 외면 灰青色, 내면 회색, 속심 회색. 회전물손질, 蓋身 상단부에 회전목리흔 잔존. 꼭지에 方形透窓 3개. 삼각집선문 9개 施文.	6
		11	12.4	9.4	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 長石,石英 혼입. 내외면 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 杯身 하부에 회전목리흔 보임. 상,하 교차된 透窓 5개씩, 杯身과 臺脚 接합부에 각기후 회전목리.	
310	臺附盥	10	10.1	6.9	陶質. 口緣 1/3 파손. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내면 회색, 외면 灰青色. 속심 회색. 회전물손질.	11
311	把手附盥	10.5	10	5	陶質. 完形. 燒成不良. 石英, 長石 혼입. 외면 암회색 1/2, 회백색 1/2, 내면 회색, 속심 자색. 회전물손질, 底部 接합흔 잔존, 내면 바닥부 자연유 산화박리.	8
312	軟質甕	9.1	10.8	5.9	동체부1/3 파손. 長石, 石英, 雲母 혼입. 내외면 적갈색. 속심 적갈색. 회전물손질.	9
313	長頸壺	14.4	10	11.9	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 회색. 속심 회색. 회전물손질. 동하부 박자후 회전 목리. 底部 물손질. 내면 指頭痕. 頸部 내부에 회전물손질흔 뚜렷. 동최상부 자연유 박리	3
314	臺附長頸壺	25.5	13.4	11.8	陶質. 口緣 1/3정도 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 회색,속심 회색. 외면 박자후 회전목리 조정후 회전물손질. 頸部 내부에 회전물손질흔 뚜렷. 1단 透窓 7개	2

315는 기형 파악이 어려운 鐵器片으로 아마도 刀子가 아닌가 판단된다. 그러나 銹化가 심하여 자세한 것은 알 수 없다. 出土位置 1이다.

나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
316	蓋	5.4	·	10.8	陶質. 동체부 1/3 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 외면 灰青色, 속심 자색. 내면 녹색 자연유 부착, 회전물손질. 부분적으로 자연유 산화박리.	
317	臺附盥	8.2	10.1	5.6	陶質. 杯身 1/2정도 파손. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 외면 灰青色. 臺脚 내면 암회색, 속심 자색. 杯身 내부에 녹색 자연유 부착-부분적으로 박리. 회전물손질. 杯身과 접합부에 접합흔 잔존. 방형 1단 透窓 3개. 臺脚 말단부 자연유 박리-질흔 잔존 표면 박리.	
318	杯	3	10	·	陶質. 1/2 결실. 燒成良好. 石英, 長石 혼입. 외면 회색, 내면 암녹색 자연유 부착, 속심 자색. 회전물손질, 底部 각기(시계방향). 기 내면 일부 박리.	
319	臺附長頸壺	(9)	·	9.8	陶質. 동하부와 臺脚만 잔존. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입. 외면 암청색, 속심 자색, 회전물손질, 일부 회전목리흔 보임. 1단 透窓 6개. 臺脚 말단부와 器內面 바닥부에 자연유 박리. 臺脚 말단부 질흔 잔존.	
320	短頸壺	(31.5)	·	·	陶質. 동체 상부 거의 결실됨. 燒成良好. 泥質 胎土에 長石, 雲母 소량 혼입. 내외면 灰青色. 내면 底部 指頭痕. 胴最大徑:36.3cm	

321은 土製 漁網錘로 흑색이며 일부 적갈색을 띤다. 胎土에 石英, 長石등이 다량 혼입되어 있다. 아마도 2號 住居址의 존재로 보아 靑銅器時代의 遺物일 가능성이 높다. 높이 4.6cm, 지름 2.8cm이다.

다. 周邊採集遺物

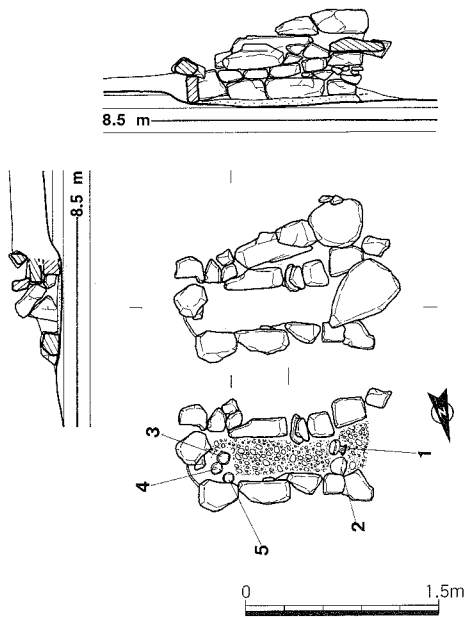
322는 口緣部와 把手 일부가 파손된 陶質製 把手附盥이다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 石英 등이 일부 혼입되어 있다. 외면은 灰青色이며 전체적으로 회전물손질로 정면하였고 동상부에 회전목리흔이 일부 잔존한다. 동체하부는 회전 각기후에 회전물손질로 마무리하였다. 잔존높이는 8.0cm이며 底徑은 5.8cm이다.

323은 小形의 잔으로 完形이다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石과 石英이 일부 혼입되어 있다. 내외면은 암청색이며 속심은 자색이다. 회전물손질 정면하였으며 底部는 각기흔적이 희미하게 남아 있다. 높이 3.8cm, 口徑 6cm 이다.

31. 31號 石槨墓

1)遺構

해발 8.5m선상에 위치하는 小形 石槨墓로 主軸方向은 N72°W이다. 30號 石槨墓와 1.5m정도 거리를 두고 나란히 배치되어 있으며, 2號 住居址를 일부 파괴하고 축조되었다. 전체적으로 장벽은 4단 정도가 남아 있으며 양 단벽은 거의 유실되었다. 서쪽 단벽에 蓋石 1매가 남아 있는 것으로 보아 벽석이 거의 유실되지 않은 본래 석곽의 높이인 것으로 추정된다.



圖面 41. 31號 石槨 (1/60)

와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
324	臺附盥	9.5	11	7.8	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 암회색. 속심 자색. 자연유 酸化剝離, 회전물손질. 臺脚 말단부 부분적으로 적색 멍. 長方形 1단 透窓 4개	1
325	把手附盥	8.7	8.7	7.2	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 灰青色, 속심 紫色. 회전물손질. 바닥과 손잡이 물손질로 정면. 底部각기, 동체부 중하부 회전목리혼 일부 잔존. 器面 自然油 酸化剝離.	3
326	把手附盥	7.8	6.5	3	陶質. 口緣, 동체부 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 灰青色, 속심 紫色. 회전물손질. 底部 각기후 회전물손질. 손잡이가 붙은 器面 안쪽에 점토를 덮어 강화함	4
327	軟質甕	(6.4)		4.8	軟質. 口緣 완전 결실. 동체부 1/2정도 결실. 燒成良好. 내외면 황색, 속심 황색. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회전물손질. 底部 각기후 회전물손질	5
328	長頸壺	17.8	11.2	4.5	陶質. 口頸部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 회색. 속심 회색. 회전물손질. 동중하부에 拍子痕이 희미하게 잔존. 기내면 底部. 녹색 자연유 박리.	2

### 나. 周邊採集遺物

329는 臺脚이 일부 결실된 陶質製의 臺附壺로 燒成은 良好하며 胎土에 長石과 石英 등이 일부 혼입되어 있다. 內외면은 灰色이며, 전체적으로 회전물손질로 정면하였다. 內면 底部에 회전목리혼이 일부 남아 있으며 녹색의 자연유 산화박리되어 있다. 臺脚부와 胴體部 따로 만든 후 접합하였다. 잔존높이 8.5cm, 口徑은 7cm이다.

遺構의 축조방법은 잔존한 장벽으로 보아 대체로 가로쌓기를 주로 한 것으로 보인다. 단벽의 축조방법은 석곽의 유실로 알 수 없다.

遺構의 床面에는 2~6cm 내외의 고운 자갈을 4~6cm 두께로 깔아서 바닥으로 이용하고 있는데 遺構의 全面에 걸쳐 깔렸던 것으로 보인다.

殘存한 遺構의 規模는 잔존길이 136cm, 너비 46cm, 깊이 54cm이다.

### 2) 遺物

遺物은 동쪽단벽에 접하여 소형토기류들이 副葬되어 있는데 유구의 서쪽부분은 유실되어 副葬樣相이 확인되지 않았다.

出土된 遺物은 土器類들로서 臺附盥, 把手附盥, 軟質甕, 長頸壺 등이 있다. 세부명세는 아래와 같다.

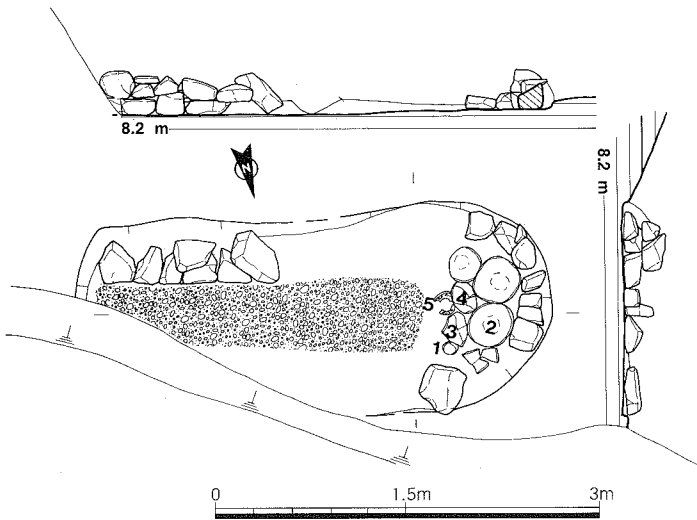
## 32. 32號 石槨墓

### 1) 遺構

32號 石槨墓는 해발 8.2m 선상에 위치하며 30號 石槨墓와 일렬로 배치되어 있다.

31號 石槨墓와 주축방향이 거의 같은 N74°W이다. 전체적으로 벽석이 유실되어 副葬槨의 일부와 동남쪽 장벽 일부만 잔존한다.

遺構의 파손이 심해 정확한 축조기법은 알 수 없으나



圖面 42. 32號 石槨 (1/60)

대체로 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용하였다. 遺構는 主槨과 副葬槨으로 분리되어 있으며, 양 공간의 경계는 확인되지 않지만 상면에 남아 있는 시상석의 범위와 副葬槨의 遺物副葬槨樣으로 副葬槨의 존재를 인정할 수 있다.

遺構의 상면에는 2~3cm 내외의 고운 자갈을 한번 깔아서 바닥으로 사용하였는데 시상석은 副葬空間을 제외한 유구 전면에 깔려 있다.

出土遺物은 副葬槨을 중심으로 副葬되어 있는데 대형토기들이 대부분이다. 아마도 副葬槨의 반대편 단벽에 접하여 소형토기류가 副葬되어 있었을 것으로 추정되나 훼손되고 남아 있지 않았다. 잔존하는 遺構의 規模는 잔존길이 324cm, 추정너비 100cm, 잔존깊이 38cm이다.

### 2) 遺物

出土된 遺物은 토기류가 전부인데 모두 副葬槨에서 확인된 것이다. 세부명세는 아래와 같다.

#### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
330	蓋	5	·	12.3	陶質. 身部 일부 결실. 燒成良好. 長石과 雲母 다량 혼입. 내외면 灰青色, 속심 다갈색, 杯身 내면 녹색 자연유 부착. 회전물손질. 꼭지에 밖에서 안으로 뚫은 透窓 4개. 幼蟲文이 2단으로 나타남.	1
331	短頸壺	(7.3)	·	·	陶質. 底部만 잔존. 燒成不良. 長石, 石英 혼입. 외면 회색 속심 회백색. 평행타날흔 희미하게 잔존. 內拍子. 전체적으로 박리 심함.	2
332	臺附 長頸壺	(20.1)	·	12.4	陶質. 口頸部 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내외면 灰青色. 속심 암갈색. 회전물손질. 동체부 중하부 회전목리흔 잔존. 內拍子痕 잔존. 1단 方形透窓 10개	4



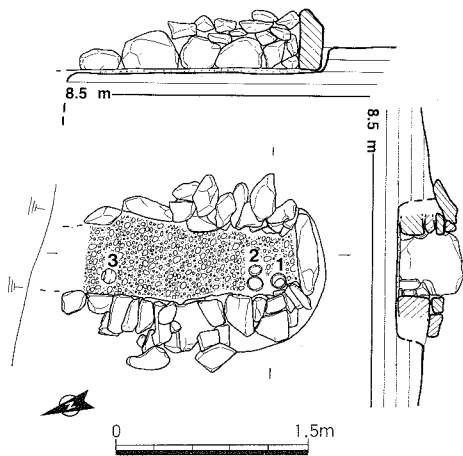
遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
333	臺附長頸壺	(22.6)	·	15.4	陶質. 동체부 1/3과 구경 완전히 결실. 燒成良好. 長石, 雲母, 石英 혼입. 내외면 회색. 속심 암자색. 회전물손질. 1단 透窓 8개. 동체부 내면 底部, 臺脚 말단부 자연유 산화박리	3
334	臺脚	(3.2)	·	15	陶質. 臺附長頸壺의 臺脚으로 추정. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 내외면 회색. 속심 회색. 회전물손질. 대각말단부 부분적으로 표면 박리됨. 상,하 교차된 2단 透窓 9개씩	5

### 나. 周邊採集遺物

335은 陶質製의 高杯로 杯身, 臺脚部 일부가 결실되었다. 燒成은 비교적 良好하며 胎土에 雲母와 長石등이 혼입되어 있다. 外면은 회백색, 內면은 암회색을 띠며 속심은 회색이다. 전체적으로 회전물손질하였으며 臺脚 底部에 회전목리흔이 일부 남아 있다. 臺脚에는 長方形

透窓을 상하 엇갈리게 4개씩 배열하였다. 杯身내면과 臺脚 말단부에 자연유가 일부 酸化剝離되어 있다. 杯身下部에 1조 침선 후 斜格子文을 施文하였다. 잔존높이 9.3cm, 底徑 7.6cm이다.

336은 陶質로 臺附長頸壺의 동체부이다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 內외면과 속심은 灰青色이며 전체적으로 회전목리 조정하였다. 臺脚에는 6개의 透窓이 있었다. 잔존높이는 13.6cm이다.



圖面 43. 33號 石槨 (1/60)

으로 3, 4단 정도가 남아 있으며 유구의 북쪽 부분의 양쪽 장벽 일부가 파손되었다. 유구의 축조방법은 최하단석은 가로쌓기하고 2단부터 세로쌓기하였다. 단벽은 1매의 판석을 이용하여 마감하였다. 남단벽에 접하여 소형토기류가 副葬되어 있는데 주변유구의 경우와 대비해 본다면 남단벽에 副葬槨이 있는 것이 일반적인데 본 유구는 主槨과 副葬槨을 구분한 구조는 아닌

## 33. 33號 石槨墓

### 1) 遺構

33號는 해발 8.7m선상에 위치하는 竅穴式 石槨墓로 동쪽 장벽이 34號 石槨墓와 거의 맞닿아 나란히 배치되어 있다. 遺構의 主軸方向은 N18°E이다. 33號 石槨墓의 최상단석이 34號 石槨墓의 벽석에 걸친 상태인 점으로 보아 아마도 34號 石槨墓보다 시기적으로 늦은 것으로 보인다. 그러나 묘광의 중복은 확인되지 않았다.

본 유구는 國道 31호선 노선공사과정에서 북서쪽의 단벽이 도로 아래에 묻혀 버렸다. 전체적

것으로 보인다. 상면에는 2~6cm 정도의 고운 자갈을 한 벌 깔아서 바닥으로 이용하였고 유구 전면에 2~4cm의 두께로 깔려있다. 잔존하는 遺構의 規格은 잔존길이 174cm, 너비 54cm, 깊이 54cm이다.

## 2) 遺物

出土遺物은 모두 토기류이며 338을 제외한 토기류는 남단벽에 접한 곳에서 확인된 것이다. 遺物의 명세는 아래와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
337	有蓋高杯	6.4	·	11.7	蓋:陶質. 完形. 燒成普通. 長石, 雲母 혼입. 내외면 灰青色, 속심 암청색. 회전물손질. 蓋身 내면 자연유 산화박리. 질흔 잔존	2
		8.9	10.1	7.5	高杯:陶質. 口緣 일부 결실. 燒成普通. 長石, 雲母, 石英 혼입. 내외면 灰青色, 속심 암청색. 회전물손질	
338	把手附盃	10.1	10.3	5.1	陶質. 口緣 결실, 동체부 일부 결실, 口緣部 찌그러짐. 燒成普通. 雲母, 長石 혼입. 내외면 회백색. 회전물손질. 底部 깎기후 물손질. 전체적으로 자연유 산화박리	3
339	軟質甕	10.1	10.5	5.4	軟質. 동체부 1/2 결실. 燒成普通. 長石, 石英, 雲母 혼입. 내외면 갈색, 속심 황등색. 부분적으로 그을음 부착. 회전물손질. 底部깎기.	1

### 나. 周邊採集遺物

340, 341은 臺附盃으로 遺構의 주변정리 과정에서 채집된 것이다. 340은 口緣 일부와 臺脚이 결실되었으며 燒成은 불량한 편이다. 胎土에 石英, 長石, 雲母가 다량 혼입되어 있으며 내외면은 회백색이다. 전체적으로 회전물손질하였으며, 口緣部와 臺脚部에 자연유가 산화박리되어 있다. 잔존높이 6.0cm, 口徑 9.9cm이다.

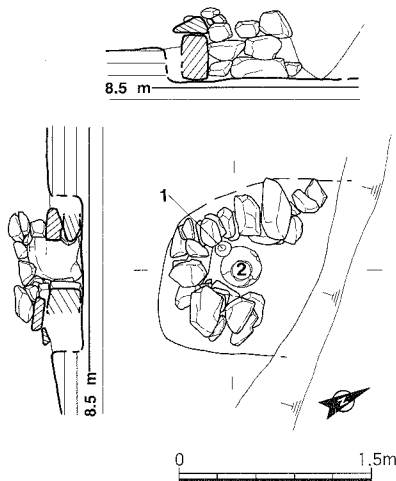
341은 陶質로 燒成은 보통이며 胎土에 長石, 石英 등이 일부 혼입되어 있다. 내외면은 灰青色이고 속심 암청색이다. 전체적으로 회전목리 조정하였으며, 口緣과 杯身, 臺脚 일부가 결실되었다. 臺脚의 透窓은 3개이다. 잔존높이 6.5cm, 口徑 11.1cm이다.

## 34. 34號 石槨墓

### 1) 遺構

주축방향인 N26°W인 石槨墓로 遺物副葬 공간만 겨우 조사되었다. 이는 유구의 파괴에 의한 것이 아니라 국도31호선 조성공사과정에서 副葬空間을 제외한 나머지 부분이 조사과정없이 매몰되었기 때문이다. 따라서 축조방법과 관련하여 유구의 구조를 확인하기는 어렵다.

잔존하는 남단벽의 상태로 볼 때 遺物을 副葬하기 위한 공간은 별도로 만들어지지 않았고 아마도 남서쪽 단벽에 접하여 副葬遺物들을 모아 매납한 것 같다. 유구의 방향으로 볼 때 부장곽이 위치할 수 있는 부분이기도 하고, 또 유물의 부장양상에서도 부장곽의 양상을 보이기



圖面 44. 34號 石槨 (1/60)

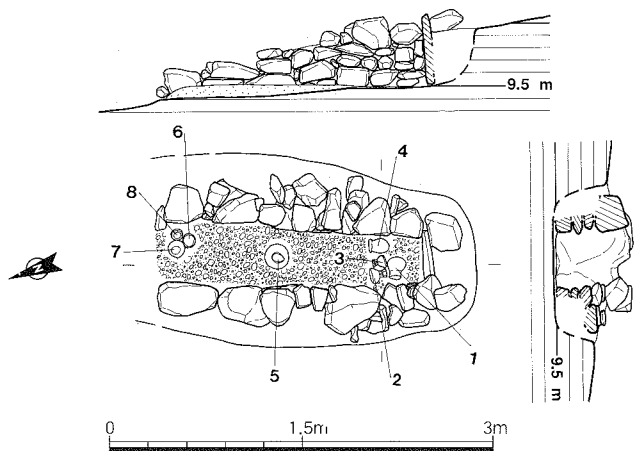
342는 臺附長頸壺로 臺脚이 결실되었는데 결실된 상태로 副葬된 것이다. 燒成은 良好하며 외면은 회백색이다. 胎土에는 雲母, 長石 등이 혼입되어 있다. 전체적으로 회진물손질하였으며 동체의 중하위에 회진목리흔과 박자흔이 남아 있다. 臺脚의 透窓은 8개가 배열되어 있다. 잔존높이 20.1cm이며 口徑은 11.1cm, 出土位置 1이다.

343은 軟質 短頸壺로 燒成은 良好한 편이다. 口緣部 일부와 동체부 1/2이 결실된 상태이다. 내외면은 회황색이고 底部는 灰青色을 띠고 있다. 胎土에 雲母, 長石이 혼입되어 있고, 전체적으로 격자타날 하였으며 내박자흔이 남아있다. 높이는 28.1cm, 推定口徑은 22.8cm, 胴最大徑은 31.8cm 이다.

### 35. 35號 石槨墓

#### 1) 遺構

35호는 해발 9.5m선상에 위치하며 主軸方向은 N55°E인 石槨墓이다. 한다. 36號 石槨墓와 묘광상으로 중복되어 있다. 중복상황으로 보아 35號 石槨墓가 먼저 설치된 것으로 보이는데 명확하지 않다. 인접하여 3號 甕棺이 확인되었으나, 관련성을 알 수 있는 근거자료가 확인되지 않아 자세한 내용을 언급할 수 없다. 아마도 35, 36號



圖面 45. 35號 石槨 (1/60)

는 하나 단벽을 비교적 큰 돌 1매로서 마무리한 점에서 특별히 부장곽을 의도한 것은 아닌 것으로 추정된다. 다만 부장공간을 별도로 만들지 않고 본 유적에서 부장곽이 위치한 단벽쪽 방향과 일치시켜 유물을 부장한 것으로 보인다. 이러한 점은 인근한 33호 석곽묘와 동일한 현상이다. 잔존하는 유구의 규격은 잔존길이 74cm, 너비 40cm, 깊이 59cm이다.

#### 2) 遺物

342는 臺附長頸壺로 臺脚이 결실되었는데 결실된 상태로 副葬된 것이다. 燒成은 良好하며 외면은 회백색이다. 胎土에는 雲母, 長石 등이 혼입되어 있다. 전체적으로 회진물손질하였으며 동체의 중하위에

회진목리흔과 박자흔이 남아 있다. 臺脚의 透窓은 8개가 배열되어 있다. 잔존높이 20.1cm이며 口徑은 11.1cm, 出土位置 1이다.

343은 軟質 短頸壺로 燒成은 良好한 편이다. 口緣部 일부와 동체부 1/2이 결실된 상태이다. 내외면은 회황색이고 底部는 灰青色을 띠고 있다. 胎土에 雲母, 長石이 혼입되어 있고, 전체적으로 격자타날 하였으며 내박자흔이 남아있다. 높이는 28.1cm, 推定口徑은 22.8cm, 胴最大徑은 31.8cm 이다.

石槨墓가 극히 인접하고 있고, 이와 접하여 甕棺이 설치되어 있는 점으로 보아 3기의 분묘는 친연관계에 있었던 것으로 추정된다.

유구의 축조방법은 동서장벽의 측벽은 1단 가로쌓기, 2단부터 세로쌓기를 주로 하고 있다. 단벽은 1매의 판석으로 세워쌓기 하였으며, 남단벽쪽에 이어진 장벽은 비교적 작은 돌들을 사용하고 있다.

석곽의 내부는 함몰토로 채워져 있었으며 시상석은 직경 0.3~3cm가량의 냇돌을 이용하여 유구의 전면에 걸쳐서 깔았다. 북단벽은 이미 유실되어 측벽석이 남아 있지 않았다. 遺物의 副葬空間까지 시상석이 골고루 깔려 있는 점은 다른 유구와 구별된다.

遺物은 시상석 위에서 확인되었으며 양쪽 단벽 근처에 주로 副葬되어 있다. 유구의 중간부분에서 短頸壺 1점이 出土되었다. 이는 유구의 규모로 보아 목관 위에 副葬되었던 遺物이 목관의 함몰과 동시에 유구의 바닥으로 떨어진 것으로 보는 것이 타당할 것 같다. 이는 목관이 있었다는 명확한 증거는 없지만 유구의 규격으로 보아 피장자의 측면에 유물이 놓여 있을 가능성보다 피장자의 상부에 있었을 가능성이 보다 높기 때문이다. 이러한 점은 36號 石槨墓의 경우도 마찬가지이다.

遺構의 규모는 묘광이 잔존길이 270cm, 너비 145cm이고, 석곽은 잔존길이 215cm, 너비 55cm, 깊이 65cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 유구의 양 단벽에 접하여 토기류가 副葬되고 유구의 중앙부분에서 短頸壺 1점이 놓여 있었다. 遺物의 명세는 아래와 같다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
344	高杯	13.3	12.2	9.5	陶質. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 회백색. 회전물손질 정면. 상하 4개씩 엇갈린 透窓. 口緣에 자연유 산화 박리.	2
345	高杯	13.2	11.8	9.3	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 회백색. 반시계방향의 회전물손질 정면. 口緣部 자연유 산화박리. 上下交互透窓 4개씩.	3
346	把手附盃	10.1	10.4	4.7	陶質. 燒成良好. 長石, 雲母 다량 혼입. 외면 灰青色. 회전물손질 정면. 底部와 동체 아래쪽은 깎기.	8
347	軟質甕	12.0		7.5	軟質. 口緣部 1/2, 동체부 1/3 결실. 燒成良好. 石英, 長石 다량 혼입. 황갈색. 평행타날 정면. 부분적으로 회전물손질. 底部 깎기.	6
348	鉢	21.7	16.8	10.3	軟質. 燒成良好. 胎土에 石英, 長石, 雲母 혼입. 연황색. 전면에 회전물손질 정면. 底部 깎기.	4
349	短頸壺	22.1	14.1	6.1	陶質. 口緣 2/3결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입. 회백색. 반시계방향 회전물손질 정면. 동체부 박자흔 잔존. 胴最大徑:23.1cm	5

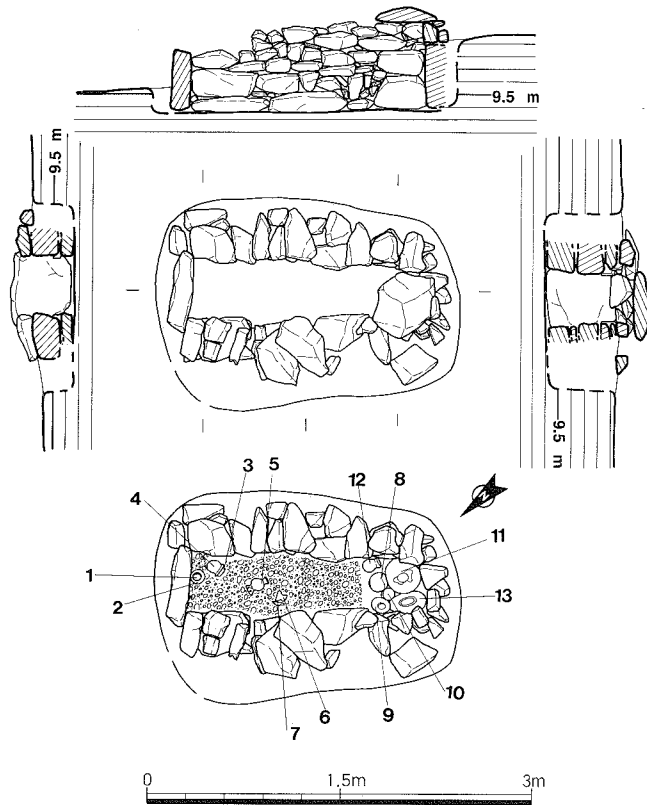
遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
350	臺附 長頸壺	(25.0)	.	.	陶質. 口緣 일부와 臺脚 결실. 燒成良好. 石英, 長石, 혼입. 灰青色. 회전물손질 정면. 내박자흔 잔존. 透窓 9개 잔존. 외면에 자연유산화 박리. 胴最大徑:24.5cm	1
351	臺附 長頸壺	21.2	10.8	10.7	陶質. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 灰青色. 회전물손질 정면. 동체부 회전목리흔. 1단 透窓 5개. 동상부와 頸部에 3치구 波狀文 施文. 胴最大徑:14.4cm	7

## 36. 36號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 9.4m선상에 위치하고 있으며 주축방향은 N40°E인 평면 세장방형의 豎穴式 石槨墓이다. 35호 石槨墓의 묘광 일부를 파괴하고 설치되었으며, 遺構의 잔존상태는 비교적 良好한 편으로 副葬空間 위에 蓋石 1매가 놓여져 있었다.

유구의 구조는 측벽석의 양장벽 1단은 가로쌓기하고, 2단부터는 세로쌓기를 주로하여 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용하였다. 그리고 동서 단벽은 각각 1매의 판석으로 세워쌓기 했다.



圖面 46. 36號 石槨 (1/60)

유구 바닥의 시상석은 서쪽 副葬空間을 제외한 유구의 바닥 전면에 직경1~2cm정도의 냇돌을 이용하여 한벌 깔았다. 시상석에는 부분적으로 고운 사질토가 섞여 있는데 주변의 백사장에서 옮겨 온 것으로 추정된다.

遺構의 규모는 묘광이 길이 235cm, 너비 155cm이고, 석곽은 185cm, 너비 58cm, 깊이 67cm이다.

### 2) 遺物

出土遺物은 남단벽쪽에 주로 副葬되어 있으며, 북단벽에도 소형토기류들이 副葬되어 있어 양단벽 중심으로 遺物이 위치하고

있다. 유구의 중간부분에서 臺附長頸壺와 臺附盃이 각각 1점씩 확인되었다.

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
352	高杯	(5.1)	10.1	.	陶質. 臺脚 결실. 石英, 長石 혼입. 외면 暗灰青色. 杯身部 아래에 臺脚 접합흔 잔존. 口緣部 자연유 산화 박리. 회전물손질 정면.	1
353	高杯	12.2	11.5	9.3	陶質. 燒成良好. 석립 혼입. 灰青色. 회전물손질 정면. 상하 엇갈린 長方形 透窓 3개씩.	2
354	高杯	12.3	11.2	8.8	陶質. 燒成良好. 石英, 長石 다량 혼입. 외면 暗灰青色. 속심 明灰青色. 杯身部 아래쪽에 회전 목리흔. 회전물손질 정면. 口緣部 자연유 산화 박리. 상하 엇갈린 長方形透窓 4개씩.	10
355	臺附盃	10.0	11.6	8.6	陶質. 石英, 長石 혼입. 외면 灰青色. 속심 明灰青色. 회전물손질 整面. 杯身과 臺脚 접합부에 회전 목리흔. 臺脚에 4개의 長方形 透窓.	3
356	臺附盃	11.7	14.1	8.3	陶質. 燒成良好. 세석립 혼입. 외면 灰青色. 속심 암청색. 회전물 손질 정면. 杯身 일부에 목리흔. 杯身 내면 자연유 산화 박리. 상하 엇갈린 透窓 4개씩.	6
357	軟質甕	11.7	14.0	7.5	軟質. 燒成良好. 口緣과 胴體 일부 결실. 세석립 혼입. 적갈색. 표면 박자후 회전물손질 정면. 동체하부와 底部 각기. 전체적으로 표면 박리 심함.	4
358	軟質甕	17.6	14.8	7.3	軟質. 燒成良好. 口緣과 胴體 일부 결실. 적갈색. 石英, 長石 혼입. 회전물손질 정면. 底部 각기. 전체적으로 표면박리 심함.	12
359	短頸壺	27.2	18.5	10.0	陶質. 口緣과 杯身 일부 결실. 燒成不良. 器形이 일그러짐. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회전물손질 정면. 동체하부 각기 후 회전물손질 정면. 胴最大徑:26.3cm	13
360	臺附長頸壺	22.0	11.8	9.8	陶質. 燒成良好. 石英, 長石 혼입. 외면과 속심 회백색. 회전물손질 정면. 頸部 및 동체 상부 자연유 산화 박리. 頸部에 8치구를 이용한 점열문 2단으로 施文. 方形 透窓 6개. 胴最大徑:16.1cm	5
361	臺附長頸壺	(19.0)	.	.	陶質. 口緣, 臺脚 결실. 燒成良好. 石英, 長石 소량 혼입. 박자흔 잔존. 底部와 臺脚 접합시 생긴 指頭痕 잔존. 회전물손질 정면. 頸部에 7치구를 이용한 密集波狀文을 2단 施文. 透窓 흔적 6개 보임. 胴最大徑:19.1cm	8
362	長頸壺	(31.5)	.	11.0	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 石英, 雲母, 長石 혼입. 외면 灰青色. 속심 암자색. 격자타날. 회전물손질 정면. 내면 指頭痕 잔존. 頸部 및 동체 상부 자연유 산화 박리. 胴最大徑:27.5cm	11
363	瓶	39.7	9.3	7	陶質. 燒成良好. 灰青色. 동체부를 상하로 나누어서 만든 후 접합한 표주박형. 접합흔 잔존. 내면 指頭痕. 동체 하부는 각은후 회전물손질 정면.	9

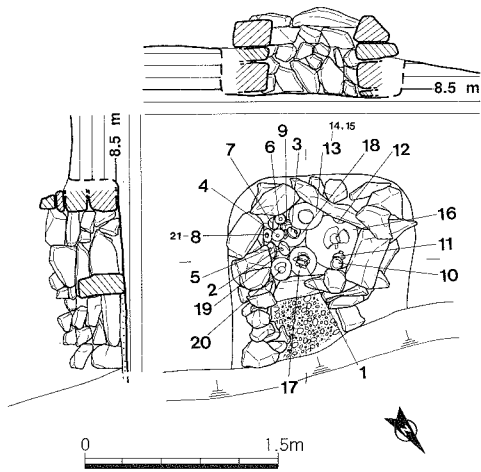
364와 365는 鐵製刀子로 364는 柄部에 목질흔이 일부 잔존하며 신부는 결실되었다. 잔존길이 5.5cm이며 폭은 1.4cm, 두께는 0.2cm이다.

365는 身部와 柄部 경계부분에 木柄을 결속하기 위한 鐵製의 金具가 남아 있다. 잔존길이는 8.5cm, 폭 1.6cm, 두께 0.2cm이며 두 점 모두 出土位置 7이다.

## 37. 37號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 8.5m선상에 위치하며 주축방향은 N35°E인 석곽묘이다. 유구의 북쪽 대부분이 기존의



圖面 47. 37號 石槨 (1/60)

시상적인 깔린 것으로 추정된다. 副葬空間은 시상석없이 생토바닥을 그대로 사용하여 遺物을 副葬하고 있다.

조사된 遺構의 규모는 묘광의 잔존길이 150cm, 너비 145cm이고, 石槨의 잔존길이는 120cm, 너비 63cm, 깊이 55cm이다.

## 2) 遺物

出土遺物은 북쪽단벽의 副葬空間에서 短頸壺나 臺附長頸壺가 아래에 위치하고 그 위에서 有蓋高杯를 포함한 토기류들이 다수 副葬되었다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
366	高杯	(5.2)	12.1	·	陶質 燒成普通. 臺脚 결실. 회백색. 石英, 長石, 雲母 혼입. 전체적으로 약한 박리. 회전물손질 정면. 透窓 痕跡 3개 보임.	12
367	高杯	(5.7)	11.9	·	陶質 燒成普通. 臺脚 결실. 長石, 雲母, 石英 소량 혼입. 외면 灰青色. 내면 회백색. 전체적으로 회전물손질 정면. 잔존상태에서 透窓 3개 확인됨.	14
368	高杯	(8.5)	11.7	·	陶質 燒成普通. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회백색, 회전물손질 정면, 잔존상태로 보아 상하 교차된 透窓 3개씩. 臺脚 접합부에 접합을 위한 침선 보임.	15
369	高杯	11.0	10.8	9.0	陶質. 燒成良好. 외면 회색, 속심 灰青色. 전체적으로 회전물손질 정면. 자연유 산화 박리. 상하 교차된 透窓 4개씩.	9
370	蓋	5.4	10.5	3.0	陶質. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 다량 혼입. 灰青色. 회전물손질 정면. 자연유 부착. 杯身部 콤파스문 7개 施文.	11

31호 국도의 바닥에 묻혀 있어 조사범위가 남단벽쪽 일부로만 국한되었다.

유구의 축조방법은 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용하였으나 주로 세로쌓기를 이용하였다. 2, 3단까지는 세로쌓기를 주로하고 상단석은 판석을 이용하여 세워 쌓기로 마감하였다. 그리고 遺物副葬空間은 1매의 판석을 이용하여 피장공간과 遺物副葬칸을 명확히 구분하고 있다.

바닥면은 유구가 전체적으로 조사되지 못하여 확실히 알 수는 없으나 副葬空間으로 구획된 공간을 제외한 피장공간의 전면에

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
371	有蓋高杯	6.1	12.7	2.8	蓋:陶質. 杯身 1/3결실. 燒成良好. 長石, 雲母 다량 혼입. 외면 灰青色. 속심 암자색. 반시계방향 회전물손질 정면. 杯身部 회전목리. 7조의 침선이 상하 엇갈리게 8개씩 施文.	2
		9.3	9.6	8.1	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 다량 혼입. 灰青色. 반시계방향으로 회전물손질 정면. 상하 엇갈린 長方形 透窓으로 각 4개씩.	
372	有蓋高杯	5.1	11.2	4.0	蓋:陶質. 完形. 燒成良好. 회전물손질 정면. 꼭지부분 暗灰青色. 灰青色. 杯身部 내면 황록색 자연유. 꼭지 상부 짙흔적. 石英, 長石, 雲母 다량 혼입.	10
		12.0	11.0	7.5	高杯:陶質. 燒成良好. 회전물손질 정면. 杯身部 내면 회전목리흔 뚜렷. 외면 灰青色. 내면 회백색. 속심 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 상하 교차된 透窓 4개씩. 부분적으로 약하게 박리.	
373	有蓋高杯	5.7	11.2	2.7	蓋:陶質. 燒成良好. 회백색. 長石, 雲母, 石英 소량 혼입. 회전물손질 정면. 자연유 박리. 꼭지 집합흔 뚜렷.	3
		9.8	9.7	7.7	高杯:陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회전물손질 정면. 약한 박리. 細長方形 透窓 3개.	
374	有蓋高杯	6.0	12.1	2.8	蓋:陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 灰青色. 長石, 雲母, 石英 혼입. 회전물손질 정면. 杯身 상부에 회전목리흔. 중집선문 7조가 8개 施文.	4
		9.6	9.7	6.8	高杯:陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石 혼입. 회전물손질 정면. 細長方形 透窓 4개.	
375	有蓋高杯	5.8	11.5	3.2	蓋:陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회전물손질 정면. 杯身部에 7조 從集線文 6개 施文.	5
		9.8	9.4	6.7	高杯:陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母의 소석립 혼입. 회전물손질 정면. 세장방형 透窓 4개.	
376	有蓋高杯	5.4	11.3	3.4	蓋:陶質. 전체적으로 灰青色. 石英, 長石 혼입. 회전물손질 정면. 三角形 透窓 3개.	6
		(5.5)	9.8	.	高杯:陶質. 臺脚 일부 결실. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石 혼입. 杯身과 臺脚집합 부분은 회전목리조정. 전체적으로 회전물손질 정면. 透窓 3개	
377	有蓋高杯	4.7	11.0	2.7	蓋:陶質 燒成普通. 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 반시계방향으로 회전물손질 정면. 꼭지일부 결실. 약한박리.	7
		10.7	10.0	8.5	高杯:陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 細長方形 透窓 4개.	
378	有蓋高杯	5.5	10.8	3.8	蓋:陶質. 完形. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母의 소석립 혼입. 杯身일부 약한 목리흔. 회전물손질 정면. 자연유 박리. 方形 透窓 4개.	8
		10.7	9.4	7.0	高杯:陶質. 完形. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 소량 혼입. 회전물손질 정면. 자연유 박리. 細長方形 透窓 4개. 약한 자연유.	
379	有蓋高杯	5.0	11.3	3.2	蓋:陶質. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 다량 혼입. 灰青色. 회전물손질 정면. 杯身 상부에 회전 깎기.	21
		10.4	9.6	8.7	高杯:陶質. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 소량 혼입. 灰青色. 杯身내부 자연유 부착. 臺脚에 목리후 회전물손질. 세장방형 透窓 3개.	
380	有蓋高杯	5.6	11.3	2.5	蓋:陶質. 灰青色. 燒成良好. 회전물손질 정면.	1
		12.0	11.0	8.6	高杯:陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회전물손질 정면. 杯身部 7조의 중집선문 10개 상하 엇갈리게 施文. 상하 엇갈린 透窓 4개씩.	
381	短頸壺	27.4	17.7	.	陶質. 燒成良好. 암청색. 石英, 長石, 雲母 혼입. 평행타날 정면. 내박자. 胴最大徑:29.3cm	18



遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
382	短頸壺	(24.0)	·	·	陶質. 동체부 일부 잔존. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 혼입. 외면 회색. 속심 적갈색. 평행타날. 내박자후 물손질 정면. 底部에 약한 박리. 胴最大徑:25.7cm	13
383	臺附 長頸壺	26.6	13.9	12.8	陶質. 燒成良好. 회색. 石英, 長石, 雲母 혼입. 회전물손질 정면. 동체부 박자타날후 회전 목리조정. 내면 동체하부에 물손질 정면. 장방형 透窓 8개. 口緣部 일부 박리. 자연유 부착. 胴最大徑:18.5cm	20
384	臺附 長頸壺	(26.8)	·	·	陶質. 口緣, 臺脚결실. 燒成普通. 灰青色. 長石, 石英혼입. 동체부 타날후 회전목리. 내박자. 외면 전체적으로 자연유 부착. 頸部に 콤파스문 상하 2단으로 엇갈리게 2조씩 5개 施文. 透窓 9개. 胴最大徑:25.5cm	17
385	臺附 長頸壺	25.0	13.6	13.4	陶質. 燒成良好. 灰青色. 石英, 長石, 雲母 혼입. 동체부 하부 회전 목리조정. 회전물손질 정면. 長方形 透窓 7개. 부분적으로 자연유 부착. 胴最大徑:18.5cm	19
386	大壺	39.8	20.2	·	陶質. 燒成良好. 외면 灰青色. 동체상부 및 頸部に 녹색 자연유 부착. 石英, 長石, 雲母 혼입. 박자후 물손질 정면. 동체부에 타날 혼 잔존. 胴最大徑:36.5cm	16

#### 나. 內部攪亂遺物

387은 陶質製 蓋로 燒成은 良好하며 胎土에 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 외면을 회색을 띠면 속심은 자색이다. 전체적으로 회전물손질 정면하였으며 身部 내면에 자연유가 부착되어 있다. 身部 외면에는 杯身 상부에 침선 후 斜格子文을 施文하였다. 높이 5.6cm, 底徑 11.9cm, 꼭지경 3.9cm이다.

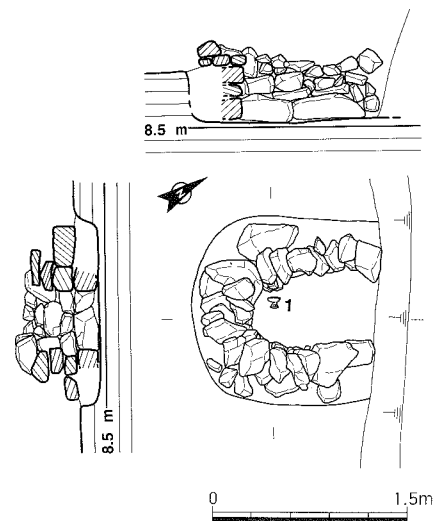
### 38. 38號 石槨墓

#### 1) 遺構

해발 8.5m선상에 축조된 主軸方向은 N32°E 인 石槨墓이다. 37號 石槨墓와 마찬가지로 유구의 북쪽은 31호 국도때문에 조사가 진행되지 못하였으며 남쪽의 일부분만이 조사되었다.

유구의 축조방법은 세로쌓기 후 가로쌓기를 주로 하여 축조하였으며 남단벽과 양장벽은 모서리의 각을 죽이면서 서로 맞물리게 하여 둥글게 처리하고 있다. 남단벽은 遺物副葬空間으로 보이는데 전체적으로 盜掘되고 臺附盃 1점만이 出土되었다. 따라서 분명한 것은 알 수 없으나 遺物副葬간을 구분한 격벽이 있었을 가능성도 배제할 수 없다.

遺構 내부가 상당히 교란되고 또 副葬空間이 이미 도굴되기는 하였지만 조사된 유구의 바닥에 시



圖面 48. 38號 石槨 (1/60)

상석의 흔적이 보이지 않는 것으로 보아 본래 유구의 바닥은 시상석없이 생토면을 그대로 사용하였을 가능성이 높다.

유구의 규모는 묘광이 잔존길이 145cm, 너비 152cm 이고, 석곽은 잔존길이 95cm, 너비 65cm, 깊이 56cm이다.

## 2) 遺物

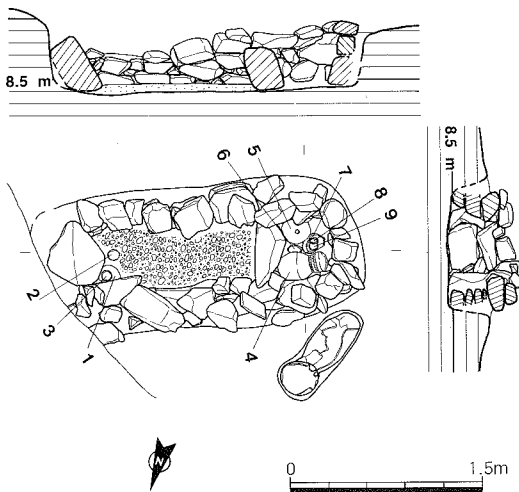
出土遺物은 남단벽의 遺物副葬空間내에서 臺附甌 1점이 수습되었다.

388은 陶質製의 臺附甌으로 燒成 良好하며 胎土에 石英과 長石이 일부 혼입되어 있다. 器面은 灰青色이며 회전물손질로 정면하였다. 臺脚에 세장방형 透窓 3개가 배치되어 있으며 높이는 10cm, 口徑 11.8cm, 底徑 7.1cm이다.

## 39. 39號 石槨墓

### 1) 遺構

39號는 1號 주거지의 일부를 파손하고 축조되었는데 주축방향은 N72°E이고 해발 8.5m선 상에 위치한다. 주변에 40號 石槨墓와 4號 甕棺이 인접하고 있어 이들 유구들은 일정한 관계를 가지는 것으로 이해해도 좋을 것이다.



圖面 49. 39號 石槨 (1/60)

유구의 구조는 主槨과 副葬槨으로 구분되며, 최하단석은 주로 가로쌓기하였으나 2단부터는 비교적 무질서하게 쌓았다. 동단벽은 국도 31호선에 의해서 묘광선이 일부 훼손되었으나 비교적 원형을 파악하는데는 무리가 없다. 主槨과 副葬槨의 경계부분은 대형 할석 1매로 구분하였다. 副葬槨은 주곽과 거의 같은 폭으로 이루어지며 대체로 1단은 세워쌓기하고 그 위에는 세로쌓기한 것으로 보인다.

유구의 상면에는 副葬槨을 제외한 바닥 전면에 1~2cm정도의 넷돌을 5~8cm정도의 두께로 한벌 깔았다. 遺構의 규모는 묘

광의 잔존길이 260cm, 너비 110cm이고, 석곽은 길이 195cm, 너비 55cm, 깊이 56cm이다.

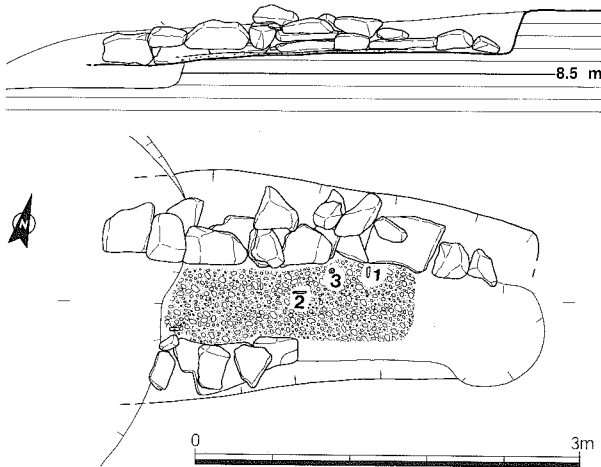
## 2) 遺物

出土遺物은 遺物副葬空間에서 주로 부장되었으며 臺附長頸壺, 把手附盃, 軟質甕 등이 유구의 남단벽에 접하여 매납되었다.

가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
389	高杯	(5.8)	12.5	·	陶質. 臺脚 결실. 燒成良好. 石英, 長石 혼입. 회전물손질 정면. 灰青色. 透窓 흔적 4개.	6
390	把手附盃	9.0	10.2	6.4	陶質. 燒成良好. 胎土에 石英, 長石 혼입. 암청색. 회전물손질 정면. 底部 깎기. 내면 박리. 외면 자연유 부착.	2
391	杯	4.6	9.8	2.7	陶質. 燒成普通. 石英, 長石, 雲母 소량 혼입. 외면 灰青色. 내면 암녹색 자연유 부착. 회전물손질 정면. 底部 깎기.	8
392	軟質甕	7.7	10.0	4.2	軟質. 燒成良好. 세석립 다량 혼입. 외면 황갈색. 속심 적갈색. 회전물손질 정면. 底部 깎기.	9
393	軟質甕	14.5	·	7.1	軟質. 口緣部 결실. 燒成普通. 적갈색. 회전물손질 정면. 底部 목리 후 물손질 정면.	7
394	軟質甕	7.6	(9.5)	5.0	軟質. 전체적으로 2/3 결실. 燒成普通. 적갈색. 세석립 다량 혼입. 회전물손질 정면. 동체하부 깎기.	3
395	臺附長頸壺	21.7	11.8	10.5	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 암회색. 胎土에 石英, 長石 혼입. 회전물손질 정면. 동체상부에 자연유 부착. 頸部 6치구로 밀집과상문 1조 施文. 동체 상부 과상문 施文. 長方形 透窓 6개. 胴最大徑:14.9cm	1
396	長頸壺	37.5	18.0	·	陶質. 燒成良好. 胎土에 石英, 長石 혼입. 암청색. 부분적으로 암회색. 회전물손질 정면. 내면 指頭痕, 拍子痕 잔존. 頸部 4치구 밀집과상문 2단 施文. 동체 상부 ×字狀 文樣施文. 胴最大徑:30.4cm	4
397	把手附壺	20.8	17.5	5.8	燒成良好. 口緣부와 杯身 일부 결실. 石英, 長石 소량 혼입. 회황색. 표면 박리. 외면 타날정면. 내면 회전물손질 정면.	5

40. 40號 石槨墓



圖面 50. 40號 石槨 (1/60)

1) 遺構

39號 石槨墓와 나란히 1號 住居址를 파괴하면서 축조되었다. 遺構의 잔존상태는 遺物이 주로 副葬되는 양 단벽을 중심으로 측벽석이 모두 제거되고 장벽의 측벽석만이 남아 있었다. 주축방향은 N72°E이고 해발 8.6m선상에 위치한다.

유구의 단벽은 대부분 유실되었고 장벽 또한 훼손이 심하다. 잔존상태로 볼 때 가로쌓기로 유구의 평면을 구획하고 2단부터 세로쌓기

를 사용하여 측벽을 쌓아 올린 것을 알 수 있다. 양단벽쪽으로 모두 훼손이 심하여 정확한 시상석의 범위를 알 수 없지만 남단벽쪽의 遺物副葬空間을 중심으로 일정면적은 시상석이 깔리지 않았을 가능성이 높다. 상면에는 전체적으로 직경 1~2cm 정도의 냇돌을 5~6cm 정도의 두께로 한벌 깔고 있다.

遺構의 규모는 묘광의 잔존 길이가 320cm, 너비가 170cm이고, 석곽의 잔존 길이는 310cm, 너비 70cm, 최대깊이 40cm이다.

## 2) 遺物

양 단벽쪽의 遺物은 전혀 남아 있지 않으며 屍床石 위에서 주로 鐵器遺物들이 검출되었다.

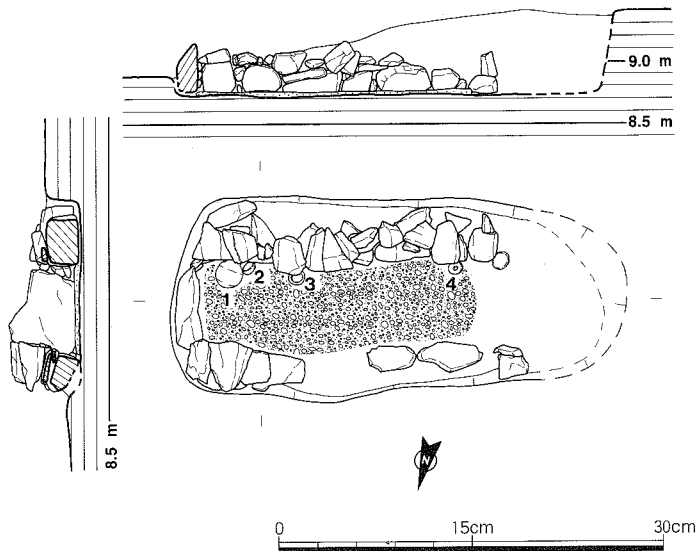
398은 鐵製刀子로 柄部에 木柄痕이 일부 남아 있으며 刀身과 柄의 경계에 鐵製 把金具가 끼워져 있다. 잔존길이 17.7cm, 폭 1.8cm이며 出土位置는 2이다.

399는 鐵製鉸具로 두께 0.5cm의 棒狀의 鐵絲를 구부려 몸체를 만들고, 1자형의 고정쇠를 가운데 끼웠다. 길이 4.2cm, 폭 4.0cm,이며 出土位置는 3이다.

400은 圓錐形의 鐵鐸으로 舌부분은 결실되었다. 단면은 원형으로 목질흔이 일부 수착되어 있다. 길이 7.1cm, 幅 2.5cm이며 出土位置는 1이다.

## 41. 41號 石槨墓

### 1) 遺構



圖面 51. 41號 石槨 (1/60)

41號 石槨墓는 해발 8.7m~9.0m선 사이에 위치하며 남쪽으로 42號 石槨墓와 인접해 있고, 북쪽으로 40號 石槨墓가 위치하고 있다. 주축방향은 N70°E이다.

남쪽장벽이 1, 2단으로 동쪽단벽과 함께 비교적 잘 남아있고, 북쪽장벽은 거의 유실된 상태이다. 서쪽 단벽부근은 교란되었으며 민묘의 묘역에 해당되어 조사를 진행할 수 없었다.

유구의 구조는 축벽이 1, 2단 가량 잔존하고 있는데 최하단석은 가로쌓기로 구획하고 이후 세로쌓기를 주로하였다. 동쪽단벽은 큰 판석 1매를 세워서 단일 단벽으로 처리하였다.

遺構의 床面은 0.5~2cm 내외의 작은 냇돌을 屍床石으로 사용하였으며 전체적으로 골고루 깔려있다. 이 시상의 범위가 피장자의 공간으로 생각되며 확인되지는 않았지만 서쪽의 교란된 부분이 다른 유구들의 양상으로 볼 때 遺物 副葬空間이 아닌가 추정된다.

묘광의 길이는 284cm, 너비는 156cm이며 석곽의 길이가 250cm, 너비가 76cm, 잔존깊이가 52cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 대부분이 토기류이고 鐵鎌片 1점이 出土되었다. 遺物은 모두 남쪽 장벽쪽에 접해서 出土되고 있는데 동쪽 단벽쪽에서는 臺附直口壺, 臺附長頸壺 등의 壺類들이 副葬되고 있다.

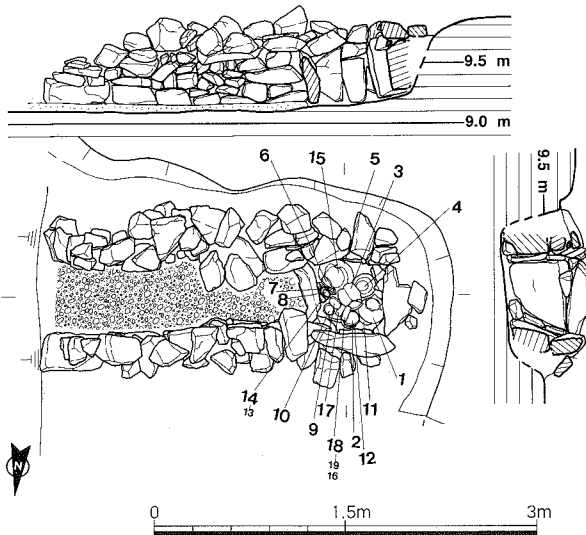
遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
401	蓋	6.5	12.4	(3.5)	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 꼭지부와 杯身部는 暗灰青色, 내부에 녹색자연유. 전체적으로 회전물손질. 杯身部 2단과 口緣部에 삼각集線文施文(上-13조, 下-21조, 口緣-29조). 臺脚形 꼭지로 透窓4개. 꼭지가장자리 박리.	4
402	把手附盃	9.2	10.9	5.5	陶質. 把手결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내, 외면 灰青色. 단면은 자색. 회전물손질. 내면바닥에 자연유박리. 底部에 짙흔. 底部에 각기후 물손질.	2
403	有蓋臺附直口壺	5	9.1	(3.3)	蓋:陶質. 完形. 燒成良好. 石英, 長石 혼입. 내, 외면 灰青色. 단면은 자색. 회전물손질 정면. 단추형꼭지. 杯身部에 암록색 자연유 박리.	1
		26.3	11.3	17.2	臺附壺:陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 雲母알갱이 혼입. 내, 외면 灰青色. 단면은 자색. 전체적으로 회전물손질 정면. 동체상부는 회전목리. 동체상부와 口緣에 암록색 자연유. 전체적으로는 약한 자연유 박리. 透窓6개. 胴最大徑:23cm.	
404	臺附長頸壺	23.6	14.6	.	陶質. 完形. 燒成良好. 石英, 長石, 雲母 혼입. 내외면에 灰青色. 단면은 자색. 회전물손질. 동체하부는 박자후 회전목리조정. 頸部와 동체상부, 臺脚에 회녹색 자연유 박리. 頸部에 波狀문 2단 施文(상, 하8치구). 臺脚에 透窓6개. 胴最大徑:12.3cm.	3

405는 鐵鎌으로 基部만 잔존하는데, 세로방향의 목질이 남아있다. 잔존깊이는 9cm이고, 너비는 2.5cm이며 遺構 내부에서 수습되었다.

## 42. 42號 石槨墓

### 1) 遺構

해발 9.0m~9.5m선 사이에 위치하며 주축방향이 N80°E인 豎穴式 石槨墓이다. 유구의 서남 쪽은 민묘에 의하여 조사가 불가능한 지역이다. 북쪽으로 41호가 인접하여 나란히 배치되어 있다. 이 유구의 동쪽단벽은 완전히 유실되어 남아있지 않으나 북쪽은 3단 가랑, 다른 측벽은 5단 가랑으로 비교적 잘 남아있다.



圖面 52. 42號 石槨 (1/60)

主槨과 副葬槨이 1매의 板石으로 구분되어 있고, 主槨의 평면형은 장방형이며 副葬槨은 둥근 弧狀으로 구획되어 있다. 主槨은 최하단석을 가로쌓기하고 이후부터 세로쌓기를 주로 하고 있다. 副葬槨은 최하단석을 주로 세로쌓기하고 있고 이후부

터 가로쌓기하였다.

副葬槨은 별다른 시설없이 생토면을 床面으로 그대로 사용하였고, 主槨은 1.5~2.5cm 내의 냇돌을 6~7cm 가랑 쌓아서 시상으로 이용하였다.

본 유구는 토압에 의해 서쪽장벽 일부가 석곽 내부로 쏠려 들어온 형상이다. 遺構의 묘상은 확인되지 않았고, 석곽은 길이 280cm, 석곽너비 70cm, 석곽깊이 76cm이다.

## 2) 遺物

遺物은 대부분 副葬槨에서 出土되었다. 바닥에 큰 壺類들이 副葬되고 그 위에 高杯類와 鐵器類가 놓였다. 主槨에서는 교란된 토기 3점과 鐵器가 수습되었다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
406	高杯	12.9	11.8	9	陶質. 臺脚일부결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 내, 외면 灰青色. 전체적으로 회전물손질. 杯身부에 회전목리흔. 臺脚에 상,하 엇갈린 透窓4개.	6
407	高杯	12.6	11.9	8.5	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 내외면 灰青色. 회전물손질 정면. 口緣部 및 臺脚에 약한 자연유. 杯身내부 바닥과 臺脚底部에 짙흔. 臺脚에 상하 交互 透窓4개	8

遺物番號	遺物名稱	規 格 (cm)			說 明	出土 位置
		높이	口徑	底徑		
408	高杯	14.5	11.9	8.8	陶質. 杯身 일부 결실. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 杯身내부와 臺脚底部 暗灰青色. 내외면 灰青色. 단면은 자색. 杯身部 회전목리. 전체적으로 회전물손질. 杯身과 臺脚접합흔 뚜렷. 杯身部에 부분적으로 기포발생. 臺脚에 上下交互 透窓4개	10
409	蓋	6.6	12.8	(3)	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 長石 소량혼입. 내외면 灰青色. 杯身상부 회전목리흔. 전체적으로 회전물손질. 杯身部에 침전으로 4단 구분 뒤 2,3단에 9치구 점열문 施文. 内면과 口緣部에 부분적으로 자연유박리. 臺脚形 꼭지. 透窓5개	9
410	蓋	7	12.7	(4.6)	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 전체적으로 灰青色. 杯身상부는 회전목리흔. 口緣과 꼭지 그리고 内부에 약한 자연유와 박리. 臺脚形 꼭지로 透窓 3개	13
411	蓋	5.9	12.2	(4.3)	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英알갱이 혼입. 灰青色. 杯身상부는 회전목리. 杯身내부와 口緣 암록색 자연유박리. 臺脚形 꼭지. 長方形 透窓 3개.	15
412	軟質甕	21.7	17.5	9.9	軟質. 口緣部와 동체부 일부결실. 燒成良好. 長石, 石英 알갱이 혼입. 전체적으로 황갈색. 부분적으로 회흑색. 외면은 격자타날, 内면과 口緣部는 회전물손질. 胴最大徑:20.1cm	2
413	軟質甕	21.4	18	9.5	軟質. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 内외면 底部는 황갈색. 회전물손질. 표면에 부분적으로 약한 그을음. 内면 동체하부에 회전물손질흔. 胴最大徑:20.3cm	3
414	軟質甕	8.2	8.6	5	軟質. 口緣部 1/3결실. 燒成良好. 長石, 雲母 혼입. 内외면 전체적으로 적갈색. 부분적으로 그을음 부착. 전체적으로 회전물손질. 底部는 회전 각기.	7
415	軟質甕	7.2	10.5	5.6	軟質. 燒成良好. 石英, 長石 혼입. 内외면 황갈색. 평행타날정면. 底部는 회전각기. 口緣과 内면은 회전물손질.	12
416	短頸壺	27.5	21	.	軟質. 동체부, 口緣部 일부결실. 燒成良好. 회갈색. 동체부는 격자타날 정면. 内부는 박자흔. 口緣部는 회전물손질. 표면박리 심함. 胴最大徑:32.6cm	5
417	短頸壺	21.5	18.2	9.6	口緣部, 동체부 일부 결실. 燒成普通. 石英, 長石 혼입. 口緣部의 회백색을 제외하고는 内외면 灰青色. 외면은 격자타날정면. 内면은 박자흔. 底部는 물손질. 胴最大徑:21.5cm	11
418	短頸壺	27.1	15.5	.	口緣部 일부 결실. 燒成普通. 石英, 長石, 雲母 혼입. 전체적으로 灰青色이나 口緣部와 底部는 회백색. 속심은 회백색. 동체부 박자로 두드린 후 회전목리 조정. 口緣部와 内면은 회전물손질. 표면박리 심함. 胴最大徑:25.4cm	14
419	臺附 長頸壺	(25)	.	.	陶質. 口緣部, 臺脚 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 灰青色. 동체상부와 内면바닥에 황록색 자연유. 회전물손질 정면. 頸部에 2단의 파상문(6치구). 臺脚에 透窓 7개. 동체부에 부분적으로 기포발생. 胴最大徑:23.9cm	1
420	長頸壺	27.3	15.2	.	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英알갱이 소량혼입. 灰青色. 頸部와 동체상부, 内면 바닥에 회녹색 자연유 박리. 전체적으로 회전물손질. 동체부 목리조정. 頸部 2단, 동체상부 2단 파상문 施文(頸部상-6치구, 하-5치구, 동체부상, 하-4치구). 胴最大徑:23.5cm	4

421은 원형을 알 수 없으나 아마도 鐵鎌의 身部片으로 생각된다. 잔존길이는 4.5cm, 너비 2.5cm로 出土位置는 19이다.

422와 423은 鑄造鐵斧로 422는 釜部, 身部, 先端部 일부가 결실되었다. 身部는 刃部쪽으로 가면서 외반하는 형태이다. 銹化되면서 身部에서 선단부쪽으로는 뒤틀리면서 갈라졌다. 釜部

斷面形態는 사다리꼴이다. 길이 18.5cm, 너비 5cm이며 出土位置는 17이다.

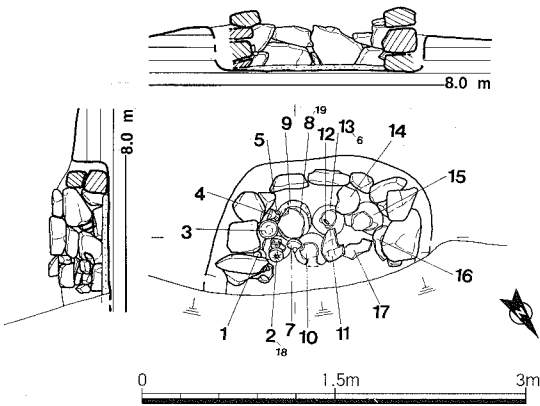
423은 釜部 일부가 결실되었다. 器形은 422와 동형인 것으로 보인다. 釜部 内部에 목질이 남아 있다. 잔존길이 10.5cm, 너비 3.6cm 이며 出土位置는 18이다.

424는 鍛造鐵斧로 釜部는 타원형이며 내면에 목질흔이 남아 있다. 刃部는 사용으로 인한 마모흔이 있다. 길이 9.0cm, 너비 4.3cm, 出土位置는 16이다.

나. 内部攪亂遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
425	蓋	6.5	12	(4.3)	陶質. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입.  전체적으로 灰青色. 속심은 자색. 杯身내부에 회녹색 자연유박리. 身部에 3단의 점열문 施文(7치구)-施文방향은 반시계방향. 臺脚形 꼭지에 透窓 3개	
426	臺附 長頸壺	26.6	14.5	13.2	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 雲母, 石英 소량 혼입. 灰青色. 口緣部와 동체상부, 底部가장자리, 내부 바닥에 회녹색 자연유. 회전물손질. 頸部에 2단의 波狀文 施文(7치구)臺脚에 8개의 長方形 透窓	
427	臺附 長頸壺	23	11.8	10.6	陶質. 口緣部1/2결실. 동체부1/3결실. 燒成良好. 長石, 雲母, 石英 혼입. 灰青色. 동체하부 일부 목리를 제외하고 전체적으로 회전물손질. 臺脚에 5개 透窓	

428은 비교적 상태가 良好한 鐵製 刀子로 身部和 柄部 경계부분에 把金具 일부 남아 있다. 刃部는 사용으로 인한 마모흔이 관찰된다. 莖部에 목질이 잘 남아있다. 길이 12.3cm, 爆 1.5cm 이다.



圖面 53. 43號 石槨 (1/60)

43. 43號 石槨墓

1) 遺構

해발 8.5m선상에 축조된 주축방향이 N33°E인 竪穴式 石槨墓이다. 遺構가 31번 국도 아래에 매몰되어 석곽의 전체적인 양상은 알 수 없었다. 노출이 가능한 남쪽 단벽만을 조사하였다. 석곽의 남쪽 평면이 비교적 넓고 둥글게 처리된 점과 遺物 出土 상태로 보아 副葬槨으로 보인다.

측벽은 현재 2, 3단 정도 남아있는데, 하단은 세워쌓기와 세로쌓기를 혼용하였고 3단부터 가로쌓기한 것으로 보인다. 남쪽 단벽은 2단 정도 밖에 남아있지 않은데 모두 세로쌓기 하였다. 유구의 상면에 副葬槨까지 자갈들을 이용한 시상석이 깔린 점으로 보아 主槨과 副葬槨을 구분하는 격벽시설이 없었을 가능성이 높다.

유구의 상면에는 지름 1~2cm 내외의 고운 자갈들이 얇게 한 벌 깔려 있었다. 석곽의 너비는 106cm이며 석곽의 잔존깊이는 36cm이다.



## 2) 遺物

遺物은 土器類 21점과 鐵鎌 1점이 出土되었다. 壺類를 바닥에 놓고, 그 사이에 高杯類를 넣어 副葬槨 내부에 빈틈없이 副葬하였다.

### 가. 出土遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
429	高杯	12.0	12.8	·	陶質. 燒成普通. 臺脚1/2, 口緣 일부 결실. 長石, 石英 등 소량 混入. 內外면, 속심 회백색. 회전물손질 정면. 상하 엇갈린 長方形 透窓 3개씩.	3
430	高杯	9.7	12.4	·	陶質. 燒成普通. 臺脚1/2, 口緣 일부 결실. 長石 등 석립 소량 혼입. 전체적으로 회백색, 부분적으로 灰青色. 臺脚 접합부 목리흔, 전체적으로 회전물손질. 상하 엇갈린 透窓 3개씩.	4
431	高杯	9.0	9.8	8.0	陶質. 燒成良好. 完形. 長石, 雲母 등 혼입. 내외면 灰青色. 회전물손질 정면. 臺脚 底部에 짙흔. 臺脚에 상하 엇갈린 透窓 4개씩.	6
432	蓋	6.6	12.0	4.8	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 혼입. 내외면 암灰青色, 속심 회흑색. 회전물손질 정면. 침선 3조를 둘러 구획하고 9치구 幼蟲文 2·3단 施文. 臺脚形 꼭지에 方形透窓 3개.	1
433	蓋	(5.0)	13.0	·	陶質. 燒成良好. 꼭지 결실. 長石, 石英 등 혼입. 내외면, 속심 灰青色. 회전물손질 정면. 蓋身에 침선 3조를 둘러 9치구 점열문 2·3단 施文. 꼭지에 透窓 3개로 추정됨.	5
434	有蓋高杯	6.4	12.5	4.25	蓋:陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石, 石英, 雲母 混入. 內外면, 속심 灰青色, 蓋身部는 회전목리 후 회전물손질, 전체적으로 회전물손질 정면. 蓋身部에 침선 2조를 둘러 구획하고 8치구 점열문 두단에 施文. 臺脚形 꼭지에 透窓 3개.	2
		12.4	11.3	8.7	高杯:陶質. 燒成良好. 口緣 일부 缺失. 長石 등 混入. 內外면 灰青色, 속심 자색. 전면 회전물손질 정면. 臺脚접합부는 회전목리 후 회전물손질 정면. 臺脚 底部에 짙흔. 전체적으로 1/2 자연유 산화 박리. 臺脚에 상하 엇갈린 透窓 4개(上 장방형, 下 사다리꼴).	
435	有蓋高杯	6.9	12.2	4.9	蓋:陶質. 燒成良好. 完形. 長石, 石英 混入. 內外면 灰青色. 蓋身部에는 회전목리흔. 침선 3조를 돌리고 幼蟲文 3단 施文(上 8치구, 中 9치구, 下 6치구). 臺脚形 꼭지에 方形透窓 3개.	7
		(8.5)	·	·	高杯:陶質. 燒成良好. 杯身과 臺脚 1/2 缺失. 長石, 石英 약간 混入. 內外면 灰青色, 속심 회백색. 회전물손질 정면. 상하 엇갈린 透窓 3개씩.	
436	杯	3.4	11.5	·	陶質. 燒成良好. 口緣 일부 결실. 長石 등 혼입. 灰青色, 회전물손질 정면. 底部는 회전갸기. 底部 일부에서 짙흔 약간. 杯身안쪽과 口緣에 녹색자연유 酸化剝離.	19
437	軟質甕	6.7	8.4	4.8	軟質. 燒成良好. 完形. 長石, 石英 등 소량 혼입. 내면 황갈색, 외면 적갈색. 회전물손질 정면, 底部는 갸기. 표면박리 약간.	18
438	短頸壺	(26.4)	·	·	軟質. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 등 다량 혼입. 底部는 황갈색이나 전체적으로 암갈색. 속심 적갈색. 동체부에 횡평행타날, 내면은 박자흔. 박리 약간.	8
439	短頸壺	28.9	16.0	9.4	陶質. 燒成普通. 口緣部 1/2 결실. 石英, 長石, 雲母 다량 혼입. 회흑색, 속심 暗灰青色. 동체부는 底部까지 중평행타날. 내면에 박자흔. 口緣部는 회전물손질. 동체부와 口緣 일부 부분적으로 찌그러짐. 胴最大徑:27.7cm	9

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	出土位置
		높이	口徑	底徑		
440	短頸壺	29.4	19.8	8.0	陶質. 燒成良好. 胴체부 일부 결실. 長石, 雲母 다량 혼입. 灰青色, 底部는 회백색. 胴체 평행타날 후 회전목리흔, 胴체 상부 목리흔, 나머지는 회전물손질. 胴最大徑:29.8cm	10
441	短頸壺	(24.5)	.	9.3	陶質. 胴체 일부와 底部만 잔존. 石英, 長石, 雲母 혼입. 내외면 회색, 속심 적갈색. 외면 평행타날, 내면은 내박자흔. 底部와 내부 바닥에 표면박리. 胴最大徑:26.5cm	14
442	短頸壺	(31.7)	.	12.6	軟質. 燒成普通. 口緣部, 胴체 일부 결실. 石英, 長石 다량 혼입. 내외면 황갈색, 속심 흑색. 외면 평행타날정면, 내부 내박자. 底部에 굽이 따로 제작되어 접합됨. 胴最大徑:33.8cm	15
443	短頸壺	34.5	14.2	.	陶質. 燒成良好. 1/2 결실. 長石, 石英 혼입. 내외면 灰青色, 속심 자색. 목리조정과 회전물손질. 내면에 지두흔. 胴체상부, 底部 암녹색 자연유 산화박리. 底部에 짙흔 약간. 胴最大徑:37.7cm	17
444	臺附 長頸壺	(26.8)	13.5	.	陶質. 燒成良好. 口緣部, 胴체 일부, 臺脚 결실. 石英, 長石 등 혼입. 내외면 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 臺脚 접합부에 회전목리흔. 頸部 돌대와 胴체 상부, 내면 底部에 암녹색 자연유 산화박리. 頸部に 2단 과상문(上4치구, 下6치구). 臺脚에 透窓 6개.	11
445	臺附 長頸壺	31.9	15.5	13.9	陶質. 燒成良好. 口緣, 胴체 일부 결실. 長石, 石英 혼입. 내외면, 속심 灰青色. 胴체하부에 박자흔 희미하게 잔존. 頸部に 2단의 波狀文 施文(7치구). 臺脚에 1단 透窓 7개.	13
446	臺附 長頸壺	(24.6)	13.9	.	陶質. 燒成良好. 口緣 1/2, 胴체 일부 결실. 長石, 石英 혼입. 灰青色. 회전물손질 정면. 胴체부는 회전목리흔. 頸部に 1단의 波狀文 施文(4치구). 胴체상부에 자연유 酸化剝離.	16

447은 鐵鍊으로 基部에 木柄 흔적과 裏面에 木柄의 결속을 강화하기 위한 쇠기흔이 남아 있다. 길이 21.8cm, 너비 2.5cm이며 出土位置는 12이다.

#### 나. 内部攪亂遺物

448은 陶質製 高杯로 燒成은 良好한 편이며 口緣 및 臺脚이 일부 결실되었다. 胎土에는 長石과 雲母가 소량 混入되어 있다. 전체적으로 灰青色이며 전면에 회전물손질로 정면하였다. 臺脚에는 長方形 透窓 3개가 배치되어 있다. 잔존 높이 6.0cm, 口徑 11.7cm이다.

449와 450은 陶質製 蓋로 449는 燒成 良好하며 꼭지, 口緣部 일부가 결실되었다. 胎土에 石英과 長石이 혼입되어 있으며 전체적으로 灰青色을 띤다. 전체적으로 회전물손질 정면하였고 口緣과 杯身 내부에 회녹색 자연유가 酸化剝離되어 있다. 杯身에 2조의 침선을 돌린 후 2단의 점열문을 施文(8치구)하였다. 口緣部에 三角集線文을 施文하고 꼭지에는 透窓 3개가 배치되어 있다. 잔존 높이 5.6cm, 口徑 12.5cm이다.

450은 燒成 良好하며 꼭지, 口緣部 일부가 결실되었다. 胎土에 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 내외면 회녹색, 속심 회청색이며 전체적으로 회전물손질로 정면하였다. 身部를 침선 3조로 구분하여 2단에 점열문(上 8치구, 下 9치구)을 施文하였다. 臺脚形 꼭지에 透窓 3개가 배치되어 있다. 추정높이 5.0cm, 口徑 12.4cm이다.

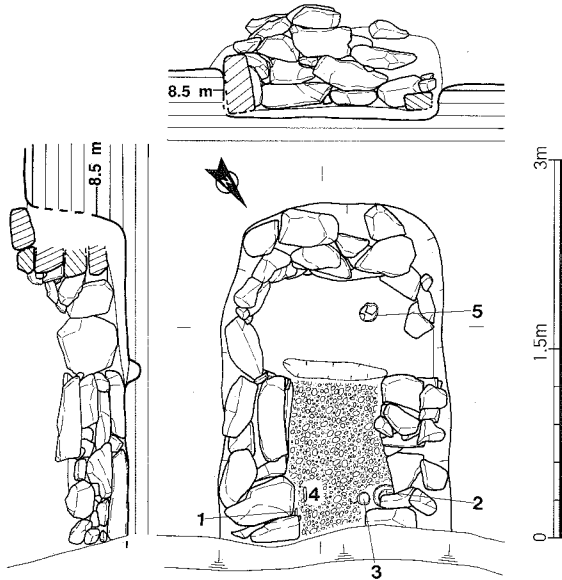
### 44. 44號 石槨墓

## 1) 遺構

44號 石槨墓는 해발 8.3m~9m선 사이에 위치하고 있는 豎穴式 石槨墓로 주축 방향은 N34°E이다. 북서쪽으로 43호 石槨墓와 나란히 배치되어 있으며, 북동쪽 단벽은 도로가 접해 있어 더 이상의 조사를 진행할 수 없었다.

遺構의 구조는 主槨과 副葬槨으로 나누어지는데 경계부분에 70cm가량의 판석으로 양 공간을 구분하고 있다. 경계지점의 판석은 제거되어 버렸고 바닥에서 그 흔적만이 확인되었다. 장단벽은 3, 4단 가량 남아 있다.

유구의 축조방법을 보면 主槨은 최하단 석부터 가로쌓기를 주로하고 2단부터 가



圖面 54. 44號 石槨 (1/60)

로쌓기와 세로쌓기를 혼용하고 있다. 副葬槨은 세위쌓기를 주로 하여 主槨과 副葬槨이 별도로 축조되었음을 알 수 있다. 主槨과 副葬槨의 묘방선은 거의 같은 폭을 유지하고 있어 특별히 副葬槨의 폭을 넓게 의도한 흔적은 보이지 않는다. 단 副葬槨의 평면은 둥글게 처리되어 있다는 점에서 다른 유구의 副葬槨과 동일한 양상을 보이고 있다. 副葬槨은 완전히 도굴되었으며 短頸壺 일부편만이 바닥에서 확인되었다.

遺構의 상면에는 副葬槨을 제외한 전면에 걸쳐 1~3cm의 넷돌을 4~5cm두께로 깔아 시상바닥으로 사용하였다. 주곽의 바닥보다 부장곽의 바닥이 8cm가량 높다.

遺構의 규격은 석곽길이 220cm, 석곽너비 120cm, 석곽깊이 80cm이다.

한편 收拾遺構 1기가 44호 石槨墓의 남쪽으로 5m지점에서 석곽의 하부구조 형태로 확인되었다. 이 遺構는 지름 50cm정도의 원형으로 남겨져 있으며 4~7cm정도의 넷돌을 이용하여 바닥을 이용하였다. 유구 구조는 전혀 알 수 없다. 遺物은 시상대 위에서 軟質甕 1점이 수습되었고, 교란된 주변에서 高杯 1점과 鑄造鐵斧 1점이 수습되었다.

## 2) 遺物

副葬槨은 대부분 도굴되고 臺附長頸壺의 파편만이 수습되었다. 그리고 主槨內에서 일부 遺物이 확인되었다. 遺物의 명세는 아래와 같다.

451은 陶質製의 把手附甕으로 把手부분이 결실되었다. 燒成은 良好한 편이며 胎土에 長石

과 石英 등이 혼입되어 있고 器面은 灰青色을 띤다. 전체적으로 회진물손질 정면하였다. 높이 11.0cm, 口徑 10.0cm, 底徑은 7.7cm이며 出土位置는 3이다.

452는 陶質製의 直口壺로 동체부 일부가 결실되었다. 燒成은 良好한 편이며 胎土에 長石과 雲母가 일부 혼입되어 있다. 器面은 灰青色을 띠며, 일부 회녹색의 자연유가 부착되어 있다. 동체부 중하위에 타날흔이 남아 있다. 높이 16.3cm, 口徑 9.3, 底徑 7.2cm이며, 出土位置는 2이다.

453은 臺附長頸壺로 副葬塚에서 확인된 유일한 遺物이다. 臺脚과 口緣部가 일부 결실되었다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石과 石英등이 혼입되어 있다. 기면은 회청색, 속심는 자색이며 황녹색의 자연유가 부착되어 있고 간헐적으로 酸化剝離되어 있다. 동체상부에 3단의 卍상문 施文(6치구)되어 있으며 臺脚部에 7개의 透窓이 배치되어 있다. 잔존높이 24.9cm, 胴最大徑 30.71cm이며, 出土位置는 5이다.

454는 鐵鎌으로 선단부의 일부가 결실되었으나 거의 完形에 가깝다. 基部는 'ㄷ'자형으로 격여 있으며 刃部에 일부 마모흔이 관찰된다. 길이 18cm, 너비 2.9cm, 두께 0.2cm이며, 出土位置는 4이다.

455는 釜部가 일부 결실된 鑄造鐵斧로 釜部의 단면은 사다리꼴(4.1×3×3cm)이며 내면에 사용흔이 남아 있다. 刃部에는 사용에 의한 마모흔이 보인다. 身部 윗면에 유기질이 부착되어 있고 身部에서 선단부로 갈수록 외반하는 형태이다. 길이 14cm, 너비 4.4cm이며, 出土位置는 1이다.

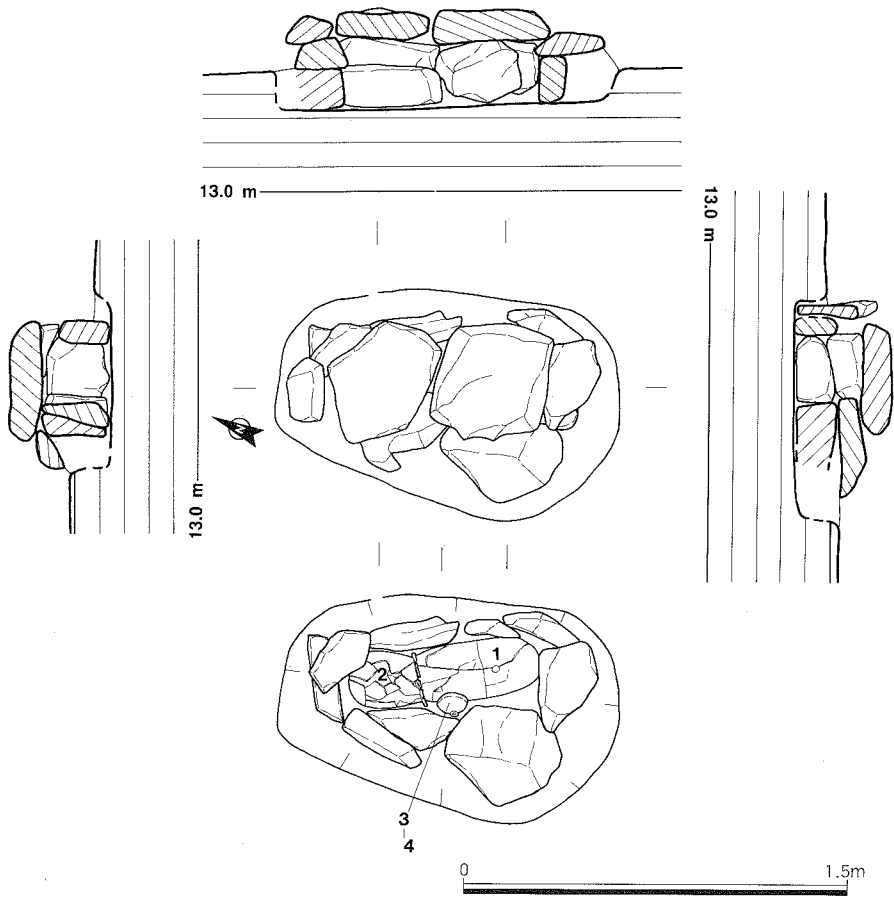
456과 457, 458은 收拾遺構에서 수습된 遺物로 456은 軟質甕으로 口緣部와 동체부 일부가 결실되었다. 燒成은 良好하며 胎土에는 石英, 長石, 雲母가 혼입되었고 황갈색을 띤다. 회진물손질로 정면하였고, 底部는 각기로 정면하였다. 높이 10.2cm, 口徑 10.6cm, 底徑 7.2cm이다. 457은 高杯로 杯身部와 臺脚이 일부 결실되었다. 胎土에 長石과 石英이 혼입되어 있으며 器面은 灰青色으로 전체적으로 회진물손질 정면하였다. 臺脚에는 方形的 透窓 4개가 배치되어 있다. 잔존높이 5.1cm, 口徑 11.6cm이다. 458은 鑄造鐵斧로 刃部가 결실되었다. 잔존길이 10.5cm, 너비 5cm, 釜部幅(밑×위×높) 5×3.6×2.7cm, 重量 259.8g이다.

## 45. 1號 甕棺

### 1) 遺構

이 甕棺은 石槨系 甕棺으로 동쪽으로 21號 石槨墓와 맞닿아 있다. 21號의 배묘로서 동일 봉토안에 副葬된 것으로 보인다. 해발 13.4m에 위치하고 있으며, 주축의 방향이 N28°W이다.

2매의 판석으로 석곽을 덮고 있으며, 측벽은 비교적 편평한 판석 1, 2 매를 세워쌓기하여 축조하였다. 석곽내에 甕棺이 안치되어 있는데 甕棺은 長卵甕을 主甕으로, 短頸壺를 막음甕으



圖面 55. 1號 甕棺 (1/30)

로 사용하였다. 主甕이 막음甕 안으로 들어가서 막음된 合口式 甕棺이다. 副葬遺物은 서쪽 장벽과 접해서 主甕 옆에서 軟質甕과 蓋가 세트로 出土되었다.

묘광길이 137cm, 묘광너비 80cm, 석곽길이 80cm, 석곽너비 30cm, 석곽 깊이 28cm이다.

## 2) 遺物

459와 460은 세트로 副葬된 遺物이다. 459는 陶質製의 蓋로 完形이며 燒成이 良好하며 胎土에 長石과 石英등이 혼입되어 있다. 내외면은 회색이며 전체적으로 회전물손질 정면하였다. 杯身에 사격자문이 施文되어 있으며 자연유가 산화박리되어 있다. 높이 5.8cm, 口徑 12.1cm, 桴지경 3.6cm이며, 出土位置는 3이다.

460은 軟質甕으로 燒成良好하며 胎土에 長石, 石英, 雲母 등이 다수 혼입되어 있다. 내외면 황색이며 전체적으로 회전물손질 정면되어 있다. 높이 6cm, 口徑 9cm, 底徑 5cm이며 出土位置

는 4이다.

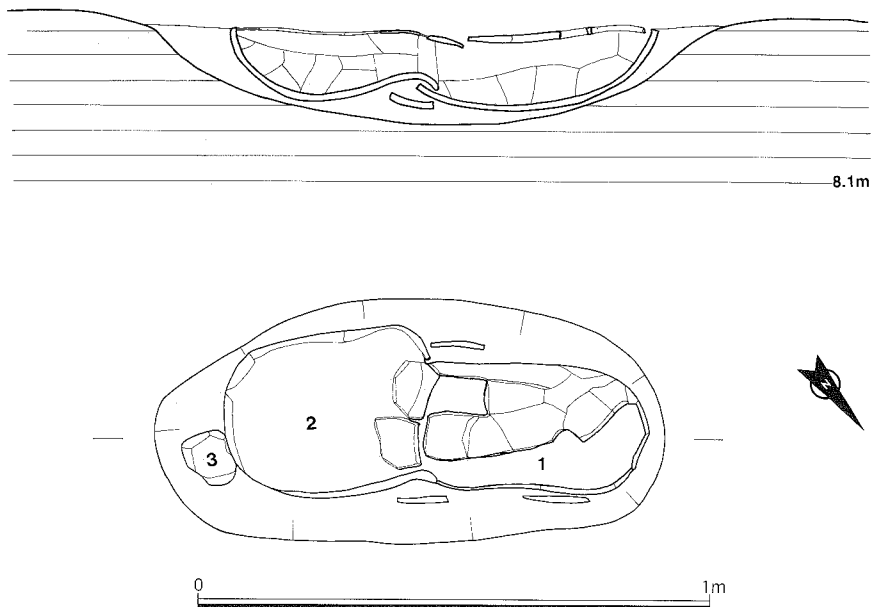
461은 主甕으로 사용된 軟質의 長卵甕으로, 口緣部를 잘라내고 사용하였다. 燒成은 良好하며 胎土에 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되었고 내외면은 암갈색 혹은 적갈색을 띤다. 내면에 지두흔이 관찰되며, 전체적으로 물손질 정면하였다. 부분적으로 표면박리가 보이며, 외면은 격자타날로 마무리하였다. 잔존높이 52.6cm, 胴最大徑 23.5cm이다.

462는 막음甕으로 사용된 短頸壺로 口緣部와 동체부 일부가 결실되었다. 燒成은 보토이며, 색상은 전체적으로 회백색이다. 胎土에 石英, 長石, 雲母가 혼입되었으며 口緣部는 회전물손질 정면하였으며 외면은 격자타날로 마무리하였다. 전체적으로 표면박리되었다. 높이 25.8cm, 口徑 25.2cm, 胴最大徑 27.6cm 이다.

## 46. 2號 甕棺

### 1) 遺構

해발 8.2m신상에 위치한 甕棺으로, 31號 石槨墓와 인근해서 확인되었다. 묘광은 평면이 긴 타원형이다. 주축이 N50°W인데 석곽없이 묘광내 甕棺만 안치된 형태이다. 長卵甕을 主甕으로 하고 短頸壺를 막음甕으로 사용한 合口式 甕棺이다. 양 棺의 合口部分에 토기편을 덧대어 없었다. 막음甕 남동쪽 가장자리에 접하여 把手附盥 1점이 副葬되어 있다. 묘광길이 98cm, 너비



圖面 56. 2號 甕棺 (1/15)

48cm, 최대깊이 18.5cm 이다.

## 2) 遺物

遺物은 副葬遺物로서 把手附盥 1점이 있으며 主甕과 막음甕으로 구성되어 있다. 명세는 아래와 같다.

463은 副葬된 把手附盥으로 口緣部와 동체부 일부가 결실되었다. 燒成은 良好하며 胎土에 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 전체적으로 灰青色이나 底部는 황회색을 띠고 단면은 자색이다. 기면 일부에 자연유가 부착되어 있으며 일부 酸化剝離되어 있다. 전체적으로 회전물손질 정면하였고, 底部는 각기 후 물손질 하였다. 높이 8.4cm, 底徑 5.8cm이며, 出土位置는 3이다

464는 主甕으로 사용된 軟質製 甕으로 瓦質燒成이며 동체 및 底部 일부가 결실되었다. 전체적으로 회갈색이며 부분적으로 흑반이 형성되어 있다. 胎土에는 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 외면는 격자타날되어 있으며 내면은 물손질하였다. 내면부의 동상부에는 指頭痕이, 동하부에는 박자흔이 희미하게 남아있다. 잔존높이 49cm, 口徑 18.6cm, 胴最大徑 23.6cm이다.

465는 막음甕으로 사용된 軟質製 短頸壺로 동하부가 일부 결실되었다. 燒成은 良好하며 기면은 흑갈색이나 부분적으로 적갈색을 띤다. 단면은 적갈색이다. 胎土에 石英, 長石이 일부 혼입되어 있다. 전체적으로 평행타날 하였으며 내면은 물손질 정면 하였다. 잔존높이 24cm, 口徑 24.4cm, 胴最大徑 30.7cm이다.

## 47. 3號 甕棺

### 1) 遺構

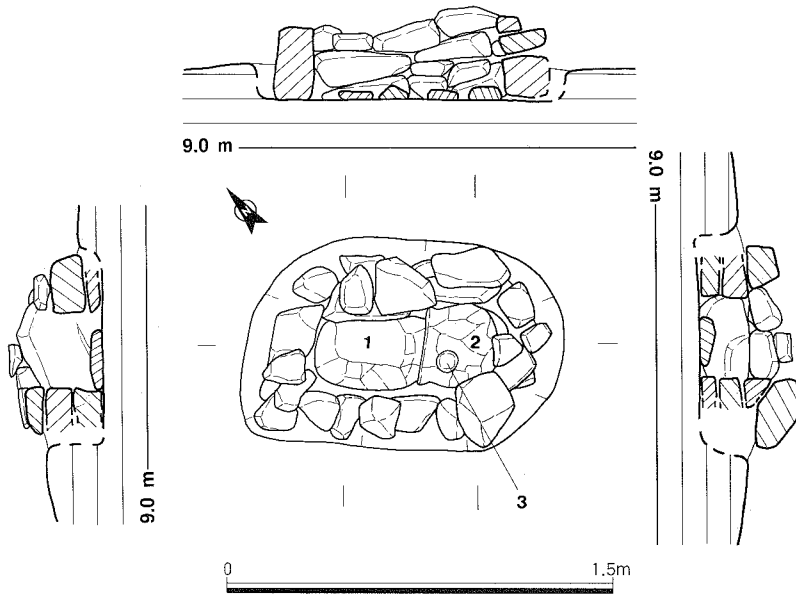
해발 9.2m선상에 위치하는데 서쪽으로 35號 石槨墓와 36號 石槨墓가 위치하고 있다. 주축 방향은 N50°W이다.

甕棺은 3, 4단으로 구성된 석곽의 내부에 안치된 상태이다. 석곽은 최하단부터 가로쌓기와 세로쌓기를 혼용하였다. 북서쪽은 비교적 크기가 큰 1매의 할석을 세워 단벽으로 처리하였다. 그리고 모서리의 결구방식으로 볼 때 북서쪽 단벽이 가장 나중에 채워진 단벽인 듯 하다. 동남쪽 단벽은 약간 둥글게 축조하였다. 석곽안에 14~20cm내외 4매의 할석 시상을 편편하게 깔았다. 묘광길이 124cm, 너비 88cm, 석곽길이 77cm, 석곽너비 35cm, 석곽깊이 38cm이다.

### 2) 遺物

主甕은 長卵甕이고 막음甕은 兩耳附壺로 된 合口式 甕棺이다. 막음甕 위에서 軟質甕 한 점이 확인되었으며, 막음甕 내부에서 臺附盥과 軟質甕이 한 점씩 出土되었다.

466은 陶質製 臺附盥으로 臺脚이 결실되었다. 燒成은 良好하며 胎土에 長石, 石英, 雲母 등이 혼입되어 있다. 내외면 灰青色이며 속심은 자색이다. 회전물손질 정면하였고 臺脚 상단에



圖面 57. 3號 甕棺 (1/30)

透窓 4개가 배치되어 있다. 전체적으로 자연유가 산화박리되어 있다. 잔존높이 5.4cm, 口徑 11.5cm이며, 出土位置는 4이다.

467과 468은 軟質甕으로 467은 燒成 良好하며 胎土에 長石과 石英, 雲母 등이 다수 혼입되어 있다. 내외면은 흑갈색이며 속심은 황갈색이다. 회전물손질 정면하였고. 底部에는 왼쪽으로 각기한 흔적이 남아 있다. 잔존높이 5.2cm, 底徑 5.4cm이며, 出土位置는 3이다.

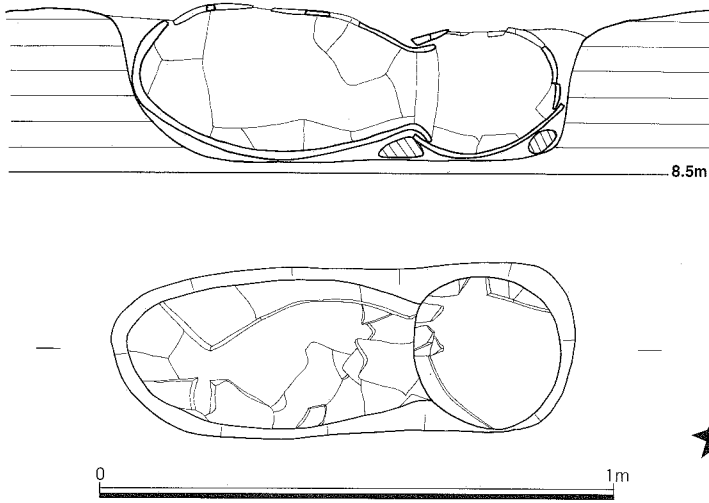
468은 完形으로 燒成 良好한 편이며 胎土에 長石, 石英, 雲母 등이 소량 혼입되어 있다. 내외면은 황갈색이며 속심은 황갈색이다. 정면 기법은 467과 동일하다. 높이 6.8cm, 口徑 9.5cm, 底徑 4.5cm이며, 出土位置는 5이다.

469는 主甕으로 사용된 長卵甕으로 燒成은 普通이며 底部를 포함한 동체부 일부가 결실되었다. 기면은 회색기운이 강하고 단면은 갈색이다. 胎土에는 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 전체적으로 격자타날하였다. 口徑은 21.6cm, 胴最大徑 22.6cm이다.

470은 막음甕으로 사용된 把手附軟質甕으로 동체 및 口緣 일부가 결실되었다. 胎土에 石英, 長石, 雲母 등이 혼입되어 있다. 器面은 灰青色이며 단면은 회백색이다. 표면에 사격자 타날문이 남아 있다. 底部에는 指頭痕, 동상부는 박자후 물손질하여 박자흔이 희미하게 남아있다. 높이 30.3cm, 口徑 24.8cm, 胴最大徑 32.5cm이다.

#### 48. 4號 甕棺





圖面 58. 4號 甕棺 (1/15)

부 하단에 할석 1매를 넣어 입구를 받치고 있다. 막음甕의 북쪽 하단부에도 하면에 돌 1매가 막음甕을 약간 떠받치고 있다. 遺物은 主甕과 막음甕뿐 별다른 遺物은 없다. 묘광길이 89cm, 묘광너비 34cm, 잔존깊이 30cm이다.

## 2) 遺物

471은 軟質의 長卵甕으로 동체 일부가 결실되었다. 燒成은 普通이며 胎土에 石英, 長石, 雲母가 혼입되어 있고 황적색을 띤다. 주로 平行타날하였으며 내면은 물손질 정면하였다. 口緣과 口緣内部에 일부 박리현상이 관찰된다. 추정높이 40cm, 口徑 21cm, 胴最大徑 24cm이다.

472는 軟質製의 甕으로 燒成은 보통이며 胎土에는 石英, 長石 등이 혼입되어 있다. 器面은 암갈색을 띠고 平行타날흔이 남아 있으며 내면은 전체적으로 물손질 정면하였다. 잔존높이 12.5cm, 胴最大徑 31.2cm이다.

## 49. 1號 住居址

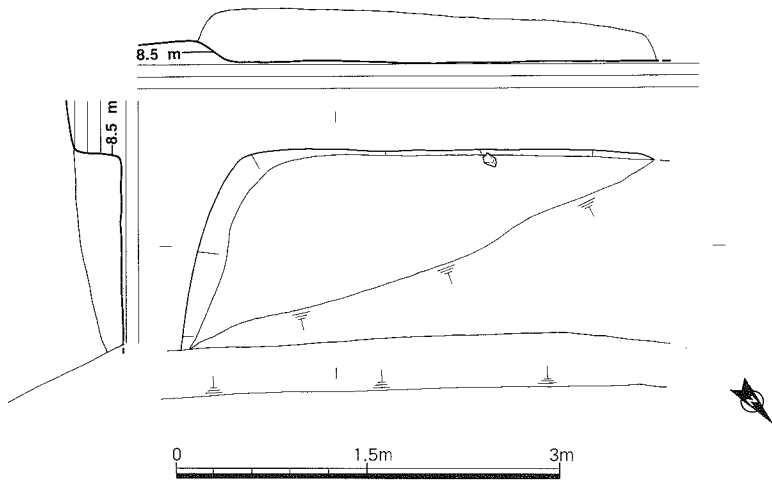
해발 8.4m~8.8m선 사이에 위치하며 주축방향은 N50°W인 장방형 주거지로 추정된다.

유구는 대부분 삼국시대의 석곽에 의해 파괴되고 일부만 잔존한다. 서쪽으로 39號 石槨墓와 40號 石槨墓가 축조되면서 파괴되었고 동쪽은 지표면이 유실되면서 대부분 삭평되었다. 유구 내에서 遺物이나 부대시설은 전혀 확인되지 않았다. 2號 주거지와 동일한 시기로 판단되므로 청동기시대의 것으로 볼 수 있을 것이다. 잔존길이 368cm, 너비 160cm, 최대깊이 44cm 가량이다.

## 1) 遺構

해발 8.5m선상에 위치한 甕棺으로 서쪽으로 39號 石槨墓가 인접하고 있으며, 39號 石槨墓와 바닥 높이가 거의 같다. 主軸方向은 N24°E로 묘광의 형태는 타원형이다.

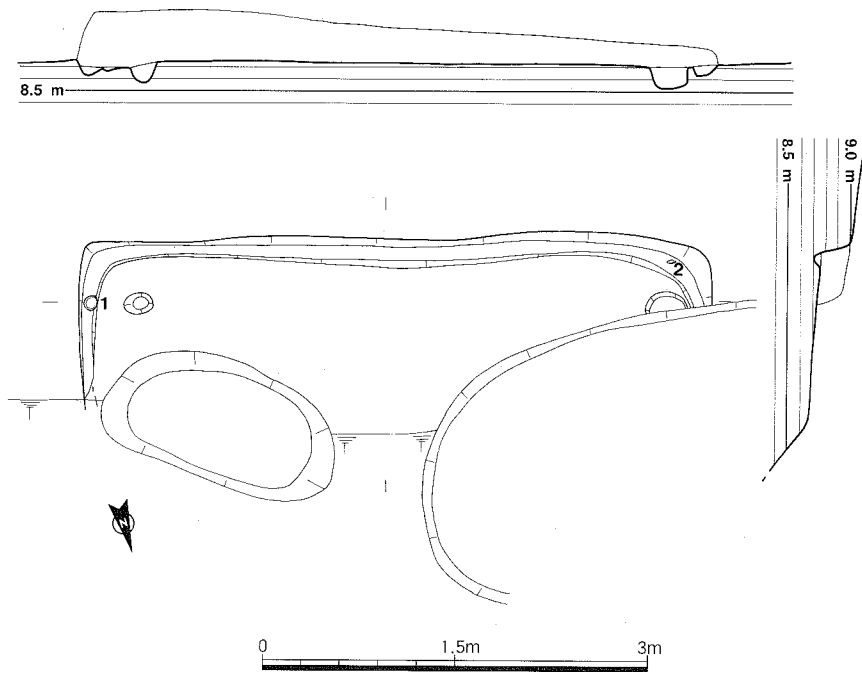
長卵甕을 主甕으로 하고 壺 일부를 막음甕으로 한 甕으로 主甕이 막음甕 안으로 들어가서 막음되어 있는 合口式 甕棺이다. 主甕과 막음甕의 접합



圖面 59. 1號 住居址 (1/60)

## 50. 2號 住居址

### 1) 遺構



圖面 60. 2號 住居址 (1/60)

해발 8.7m~9.0m선 사이에 위치하고 있고 주축방향은 N73°E이다. 주거지는 동쪽 단벽 일부와 남쪽 장벽이 비교적 잘 남아 있으나 서쪽과 남쪽은 三國時代 이후 축조된 석곽에 의해 대부분 파괴되었다. 남쪽 장벽은 31號 석곽의 북쪽장벽과 인접하고, 북서쪽은 30號 石槨墓 축조시 파괴되었다. 북동쪽은 32호 석곽묘에 파괴되었다.

서남쪽 모서리부분에서부터 남쪽을 거쳐 동쪽까지 폭 20cm내외의 벽구가 주벽을 따라 길게 돌려져 있다. 주구의 깊이는 6~8cm 내외이다. 주거지의 각 모서리부분에 인접하여 주거지 바닥에서 주혈이 1개씩 확인되고 있는데 20~30cm가량의 지름을 가진 타원형으로 깊이는 20cm 가량이다. 주거지 길이 520cm, 잔존폭 160cm, 깊이가 가장 잘 남아있는 곳이 44cm이다.

## 2) 遺物

서남쪽 모서리 부분과 동쪽 모서리 부분의 周溝에서 有莖式 石鏃 1점과 無文土器 底部 1점이 出土되었다. 그리고 주거지 내부에서 無文土器 口緣片이 수습되었다.

473은 無文土器의 底部이다. 燒成은 良好하고, 胎土에는 石英, 長石, 雲母가 비교적 많이 혼입되었으며 외면은 적황색을 띤다. 내면에 목리조정흔이 있으며, 底部에 희미하게 指頭壓痕이 남아 있다. 잔존높이 5.9cm, 底徑 8cm이며 出土位置는 1이다.

474는 柳葉形의 有莖式 石鏃으로 完形이다. 身部는 치밀하게 마연하였고, 莖部는 약간 거칠다. 身部斷面은 마름모꼴이고, 莖部斷面은 長方形이다. 길이는 5cm, 身部길이 3.7cm, 너비는 1.9cm이며 出土位置는 2이다.

475는 주거지 내부에서 수습된 無文土器 口緣部이다. 燒成은 良好한 편이며 전체적으로 적갈색이나 외면에 흑반이 일부 형성되어 있다. 胎土에는 石英, 長石이 다량 혼입되었다. 잔존높이 14.5cm, 推定口徑 12cm이다.

## 51. 周邊採集 遺物

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
476	高杯	9.2	9.6	6.8	陶質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 혼입. 내외면 灰青色, 속심 灰青色. 외면 회전목리흔. 내면 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 4개.	
477	高杯	9.4	10.1	7.5	陶質. 完形. 燒成良好. 長石, 石英 약간 혼입. 내외면 灰青色, 속심 紫色. 회전물손질 정면. 1단의 長方形 透窓 4개. 일부 자연유박리.	
478	盃	6	12.1	6.8	軟質. 口緣 일부 결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 일부 혼입. 내외면 황색, 속심 회색. 회전물손질 정면. 底部각기.	

遺物番號	遺物名稱	規 格(cm)			說 明	비고
		높이	口徑	底徑		
479	瓶	(14.4)	·	5.8	陶質. 口緣 결실. 燒成良好. 長石, 石英 혼입. 內외면 灰青色, 속심 자색. 회전물손질 정면. 東상부에 자연유 박리.	
480	臺附 長頸壺	(29.5)	16.8		陶質. 臺脚결실. 口緣部 일부 결실. 燒成良好. 長石, 雲母, 石英 혼입. 灰青色. 속심은 회색. 外면은 회전목리후 平行타날. 頸部に 2조의 파상문. 상,하 8치구 施文. 臺脚透窓8개. 胴最大徑:25.3cm	
481	臺附 長頸壺	(26.7)	15		陶質. 臺脚결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입. 灰青色. 속심은 회색. 東체상부와 內면 底部에 자연유,박리. 頸部に 2조 파상문(상-8치구,하-6치구). 透窓8개. 胴最大徑:21.8cm	
482	臺附 直口壺	(20)	10.8		陶質. 臺脚결실. 燒成良好. 長石, 石英, 雲母 혼입. 灰青色. 속심은 자색. 外면은 회전목리. 東체하부에 희미한 박자흔. 東체상부, 頸部, 內면 底部에 靑黃색 자연유. 透窓7개. 胴最大徑:22.6cm	

## 맺음말

경주 봉길고분군은 대규모 분묘군으로 학술적으로 매우 중요한 유적이다. 조사범위에 포함된 지역은 전체 고분군 중에서도 극히 일부에 해당한다. 그나마 31호 국도 공사과정에서 심하게 훼손되어 원형을 파악하는 데 상당한 어려움이 있었다. 특히 지상식 구조인 석실묘의 경우 대부분이 파손되어 전모를 파악하는 것이 거의 불가능한 지경이었다.

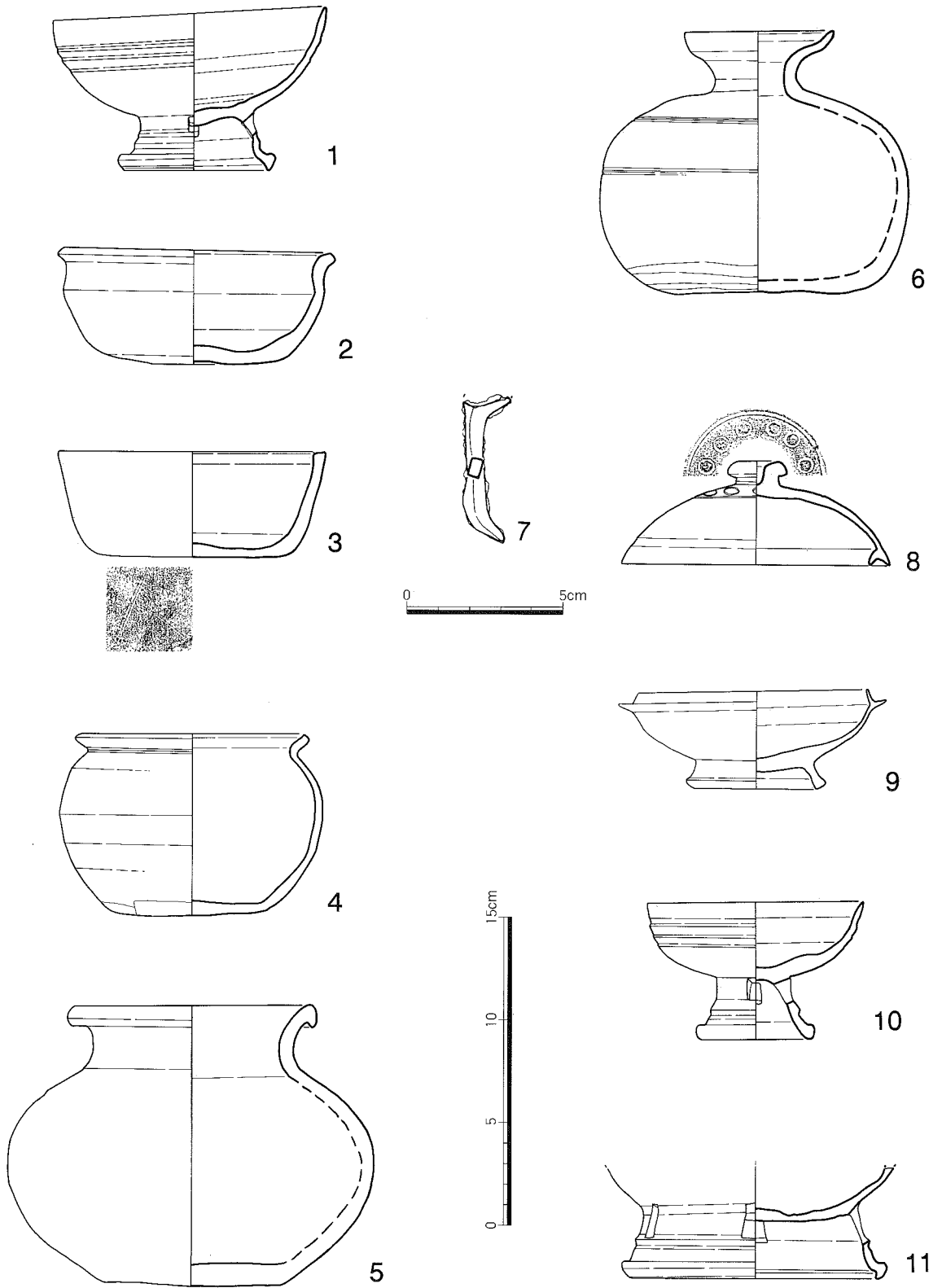
본 유적에서 조사된 유구 가운데에는 삼국시대의 고분뿐 아니라 청동기시대의 주거지 2동이 포함되어 있어 이 일대에서의 인간의 자취가 최소한 청동기시대까지 거슬러 올라감을 확인할 수 있었다. 이번 조사의 의미 있는 결과 가운데 하나라고 하겠다. 비록 출토유물이 빈약하여 정확한 연대를 유추하기는 어려웠지만, 이 사실은 이 지역에 대한 앞으로의 조사에 참고가 될 것이며 동해안지역 청동기시대 문화양상에 대한 연구에도 중요한 자료가 될 것이다.

이번 발굴에서는 수혈식 석곽묘에서 橫穴式 石室墳에 이르는 다양한 유형의 유구가 조사되어 시기에 따른 유구 및 유물의 변화양상을 확인하는 데에 큰 도움이 되었다. 석곽묘의 경우, 일반적으로 6세기 신라의 세력권에서 주로 확인되는 ‘T’자형 평면을 지닌 유구가 조사되었다. 이러한 특이한 평면구조의 유구는 남으로는 울산 조일리고분군(울산대박물관 조사), 북으로는 안동 태화동고분군(안동대박물관 조사)에 이르는 넓은 영역에 걸쳐 확인된다. 석곽묘들이 횡으로 나란히 배치되는 점, 또한 가야지역에서는 거의 확인되지 않는 방식이어서 눈길을 끈다. 때문에 우리 박물관에서는 이러한 평면구조 및 배치방식으로 조성된 석곽묘를 앞으로 ‘신라식 석곽묘’로 일컫고자 한다.

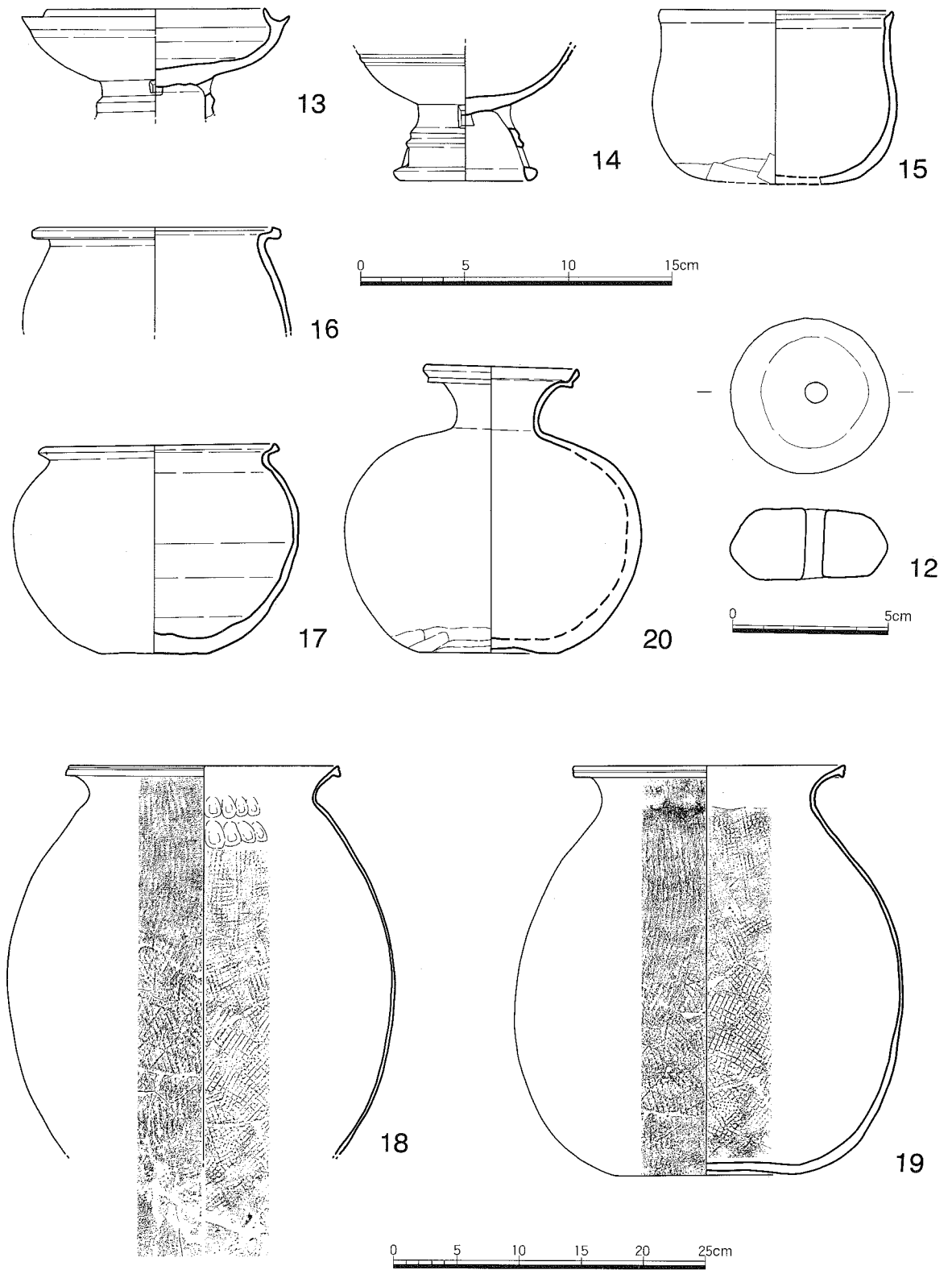
본 유적에서는 횡구식 석실과 횡혈식 석실도 다수 조사되었다. 그러나 유구가 지상식인 데에 더하여 유물도 거의 부장되지 않은 상태에서 인위적으로 심하게 훼손되어 전체적인 양상을 파악하는 것이 거의 불가능하였다. 따라서 다른 지역의 유사한 형태의 유구와 비교하기 어려웠다. 앞으로 이 지역에 대한 발굴조사가 추가로 이루어져 그 결과가 나오기를 기대할 수밖에 없다.

본 봉길고분군 조사는 울산대학교 박물관이 설립된 후, 두 번째로 실시한 본격적인 발굴이었던 까닭에 주변 연구기관의 여러 선생님들의 지도와 격려를 받으면서 작업과정에서 맞게 되는 어려움들을 이겨낼 수 있었다. 이번 조사보고서 역시 학계 선배들의 조언에 힘입어 무사히 마무리할 수 있었다. 다시 한번 감사드린다. 보고서에 대한 질정을 바라며 글을 마친다.

# 圖 面

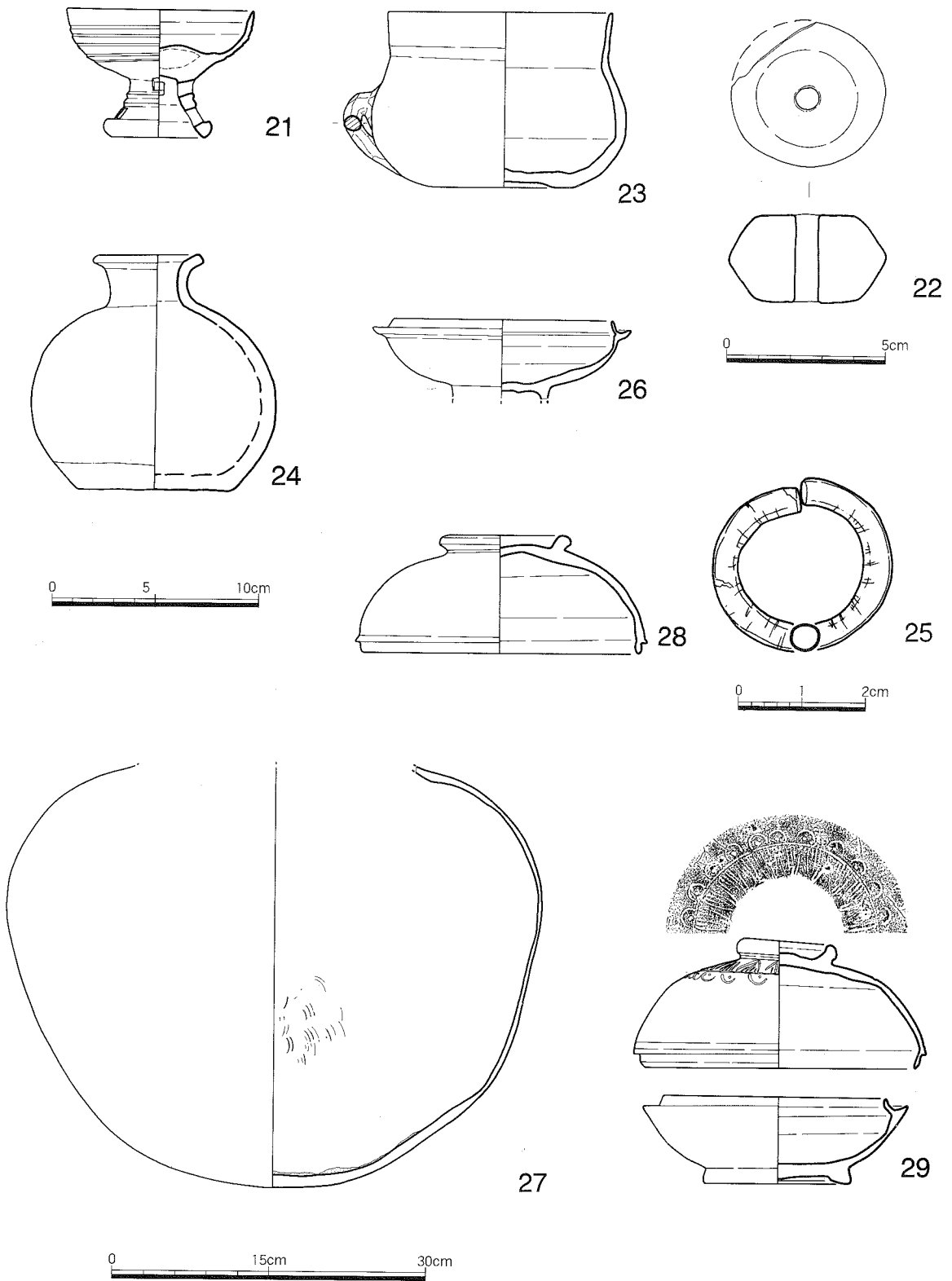


圖面 61. 1號(1~7, 봉토 8~11) 出土遺物 < 1~6, 8~11 : 1/3 , 7 : 1/2 >

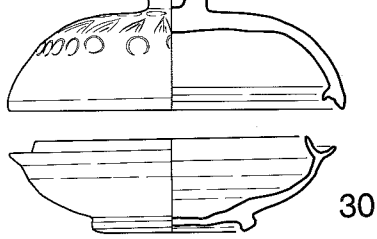
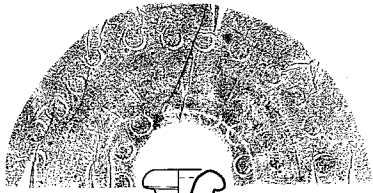


圖面 62. 1號(봉토 12, 교란 13~15), 1-1號(교란 16), 2號(17~20) 出土遺物  
 < 12 :1/2, 13~17·20 :1/3, 18·19 :1/5 >

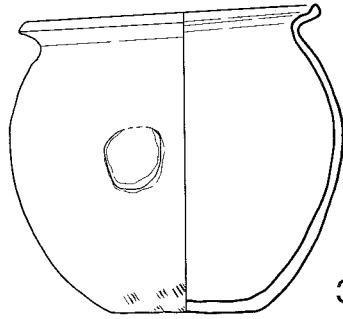




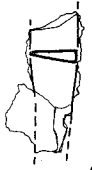
圖面 63. 2號(봉토 21·22, 교란 23), 3號(24, 교란 25·26, 봉토 27), 4號(28·29) 出土遺物  
 〈 21·23·24~26·28·29 :1/3, 22 :1/2, 25 :1/1, 27 :1/6 〉



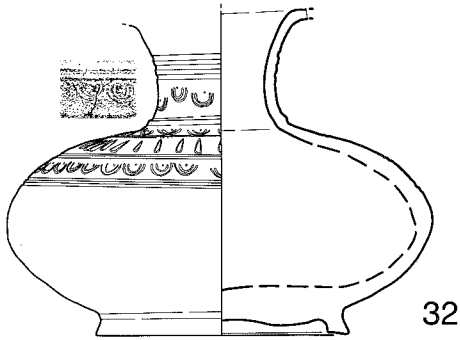
30



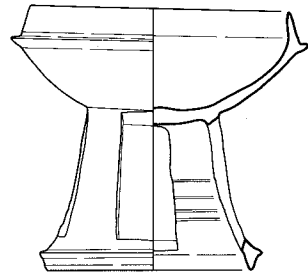
31



33



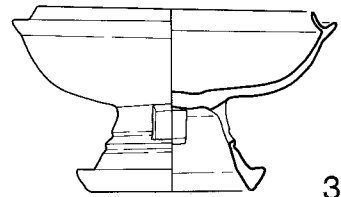
32



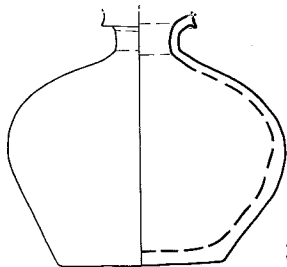
35



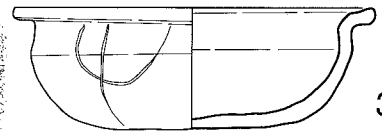
34



36

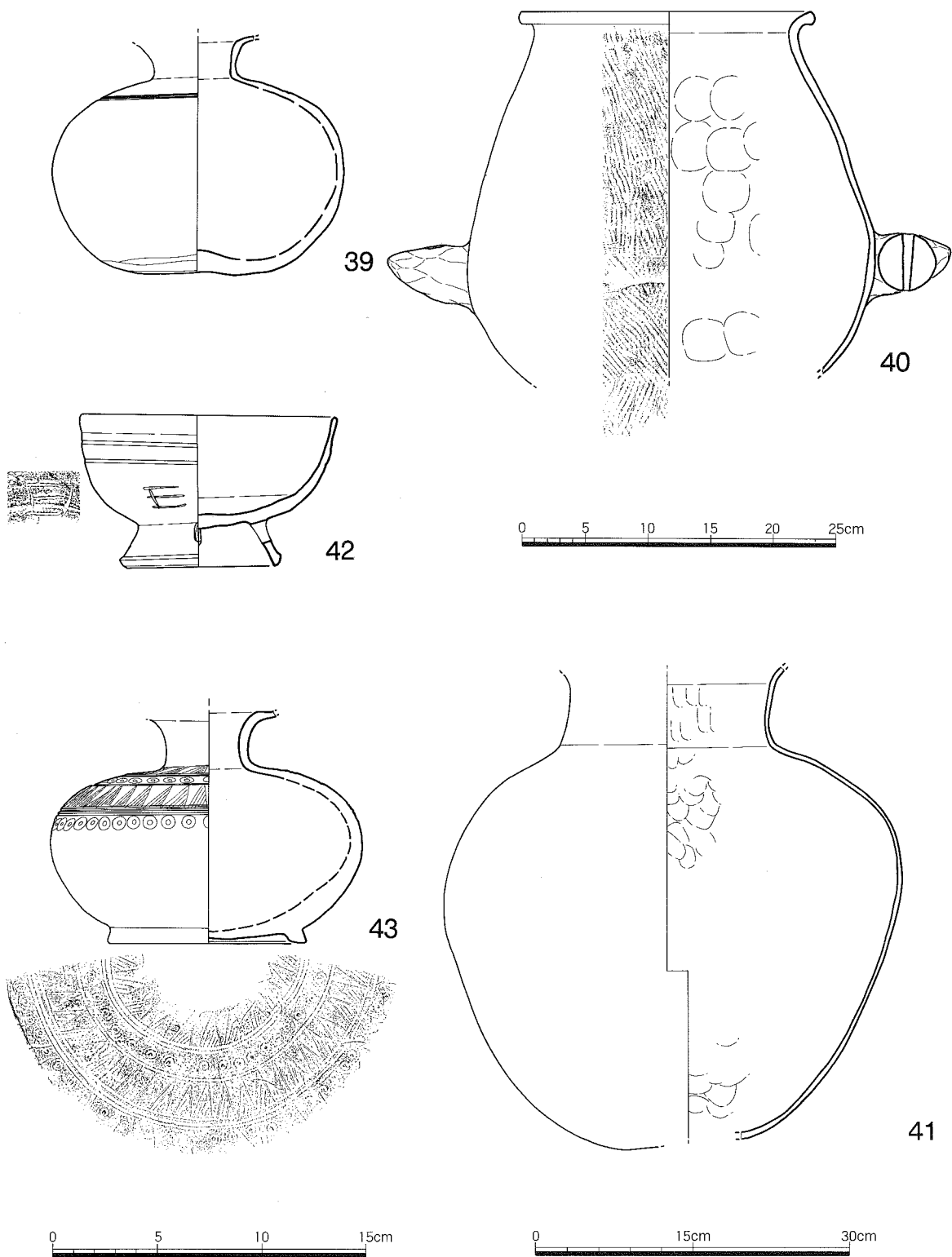


37

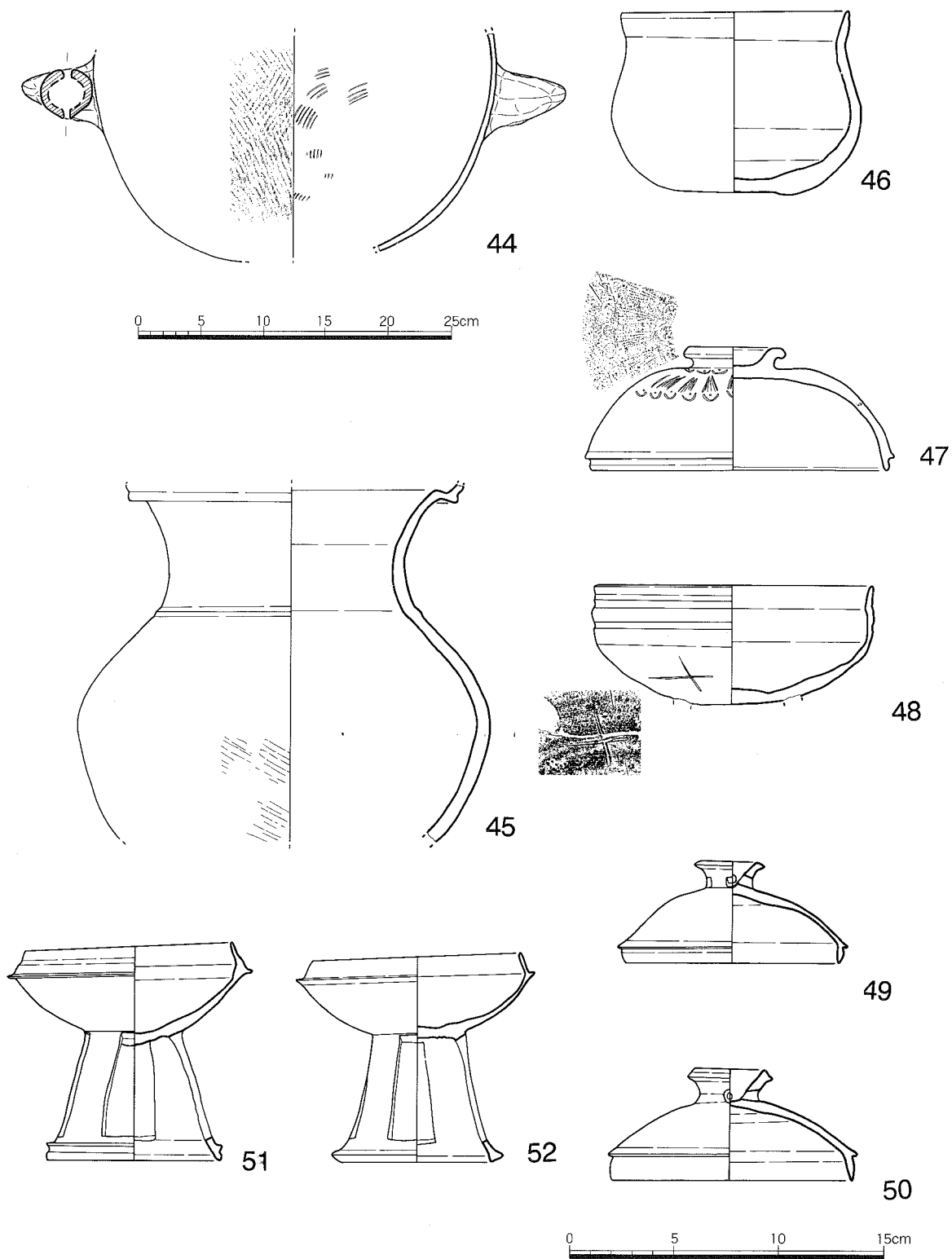


38

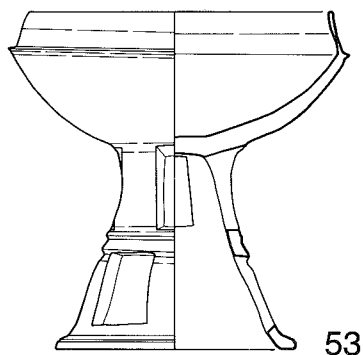
圖面 64. 4號(30~34, 周邊 35~37), 5號(38) 出土遺物  
 〈 30~32 · 35~38 :1/3; 33 · 34 :1/2 〉



圖面 65. 5號(39, 周邊 甕棺 40·41), 6號(42·43) 出土遺物  
 〈 39·42·43 :1/3, 40 :1/5, 41 :1/6 〉



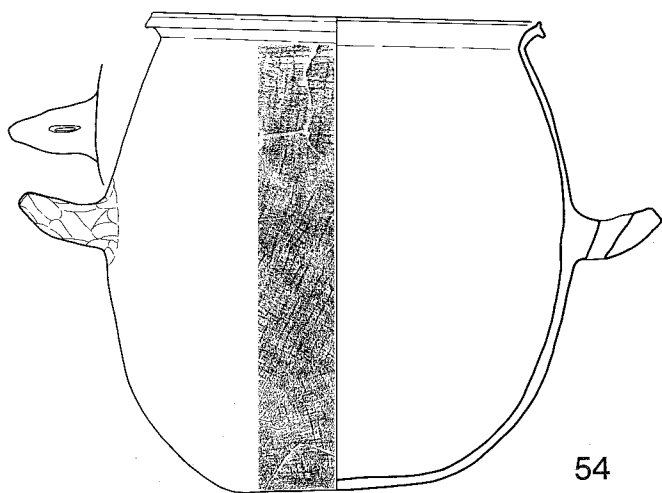
圖面 66. 5號甕棺 (44・45), 7號(46, 周邊 47・48), 8號(49~52) 出土遺物  
 < 44 :1/5, 45~52 :1/3 >



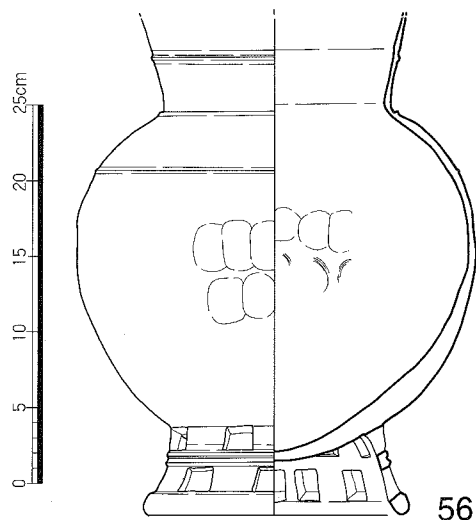
53



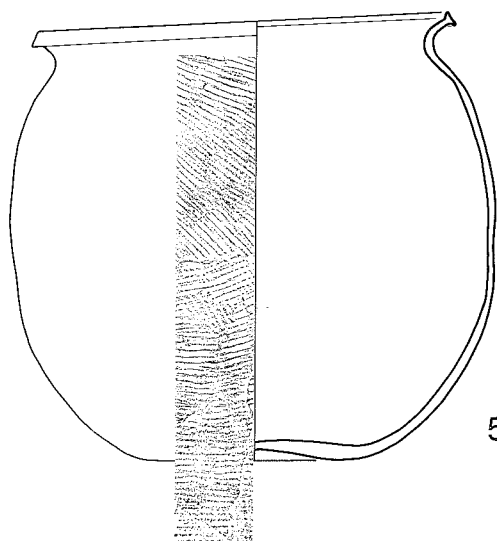
58



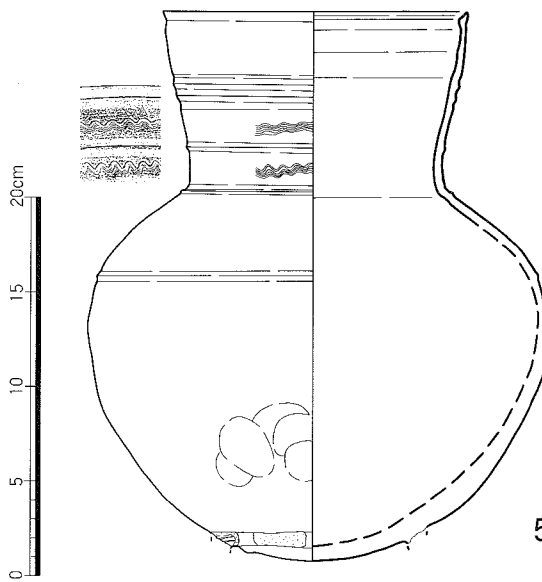
54



56

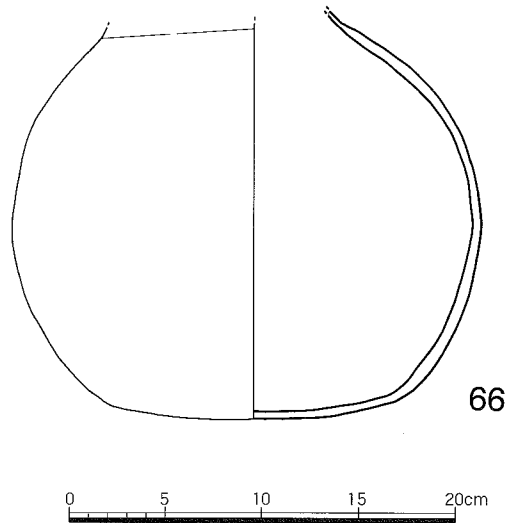
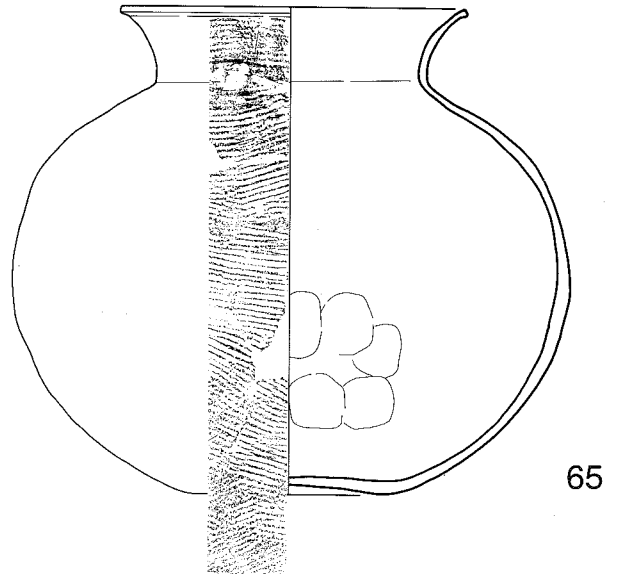
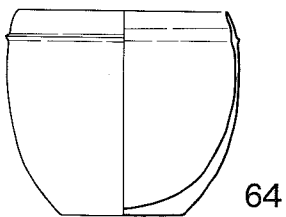
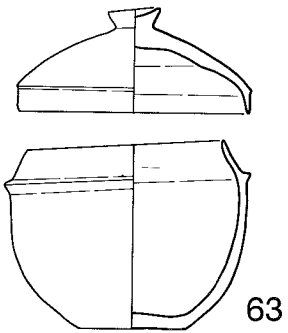
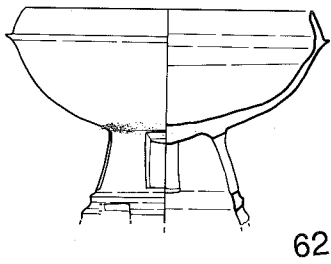
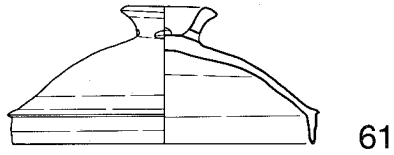
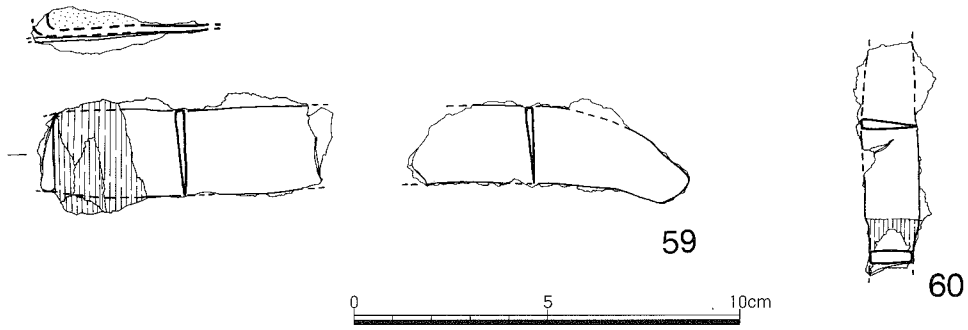


55

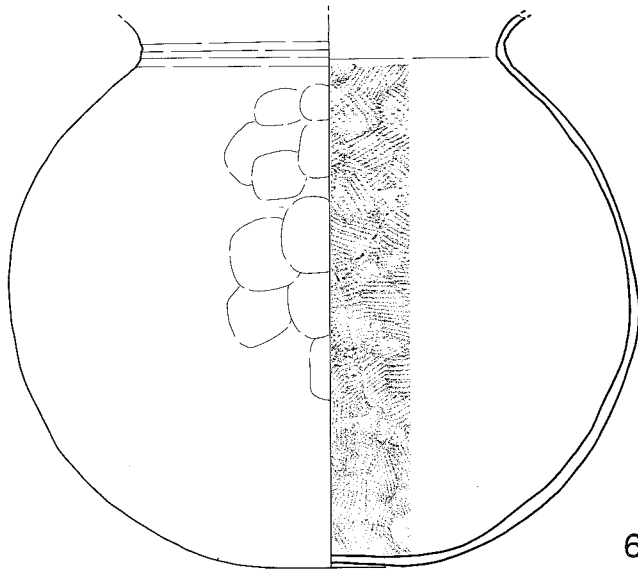


57

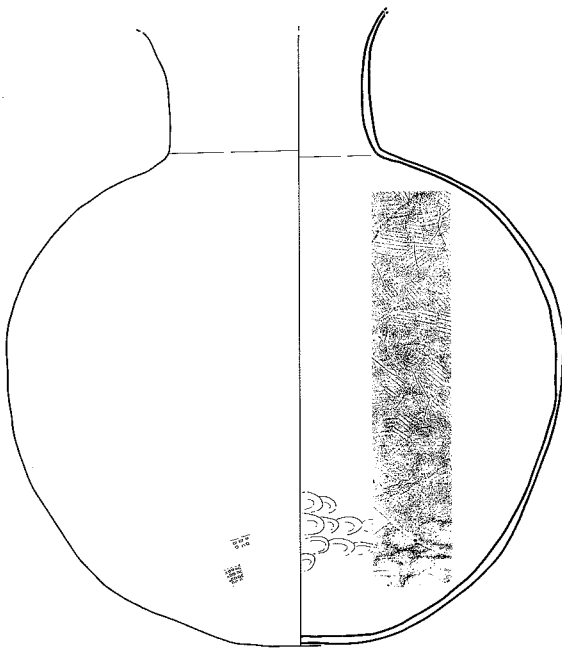
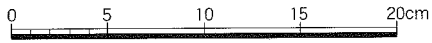
圖面 67. 8號 出土遺物 < 53 :1/3, 54·56 :1/5, 55·57 :1/4, 58 :1/2 >



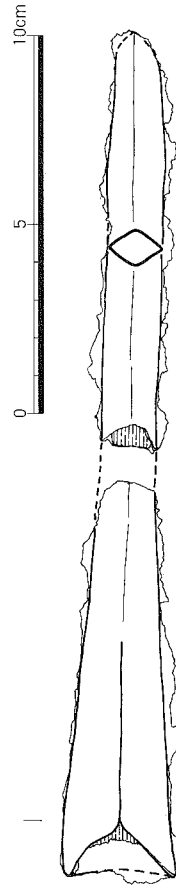
圖面 68. 8號(59·60, 교란 61·62), 9號(63~66) 出土遺物  
 < 59·60 :1/2, 61~64 :1/3, 65·66 :1/4 >



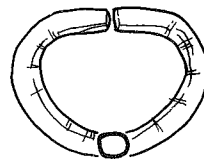
67



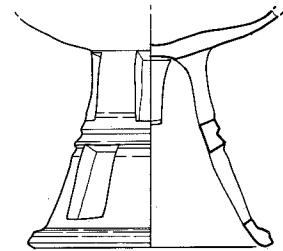
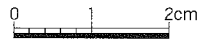
68



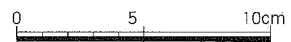
69



70

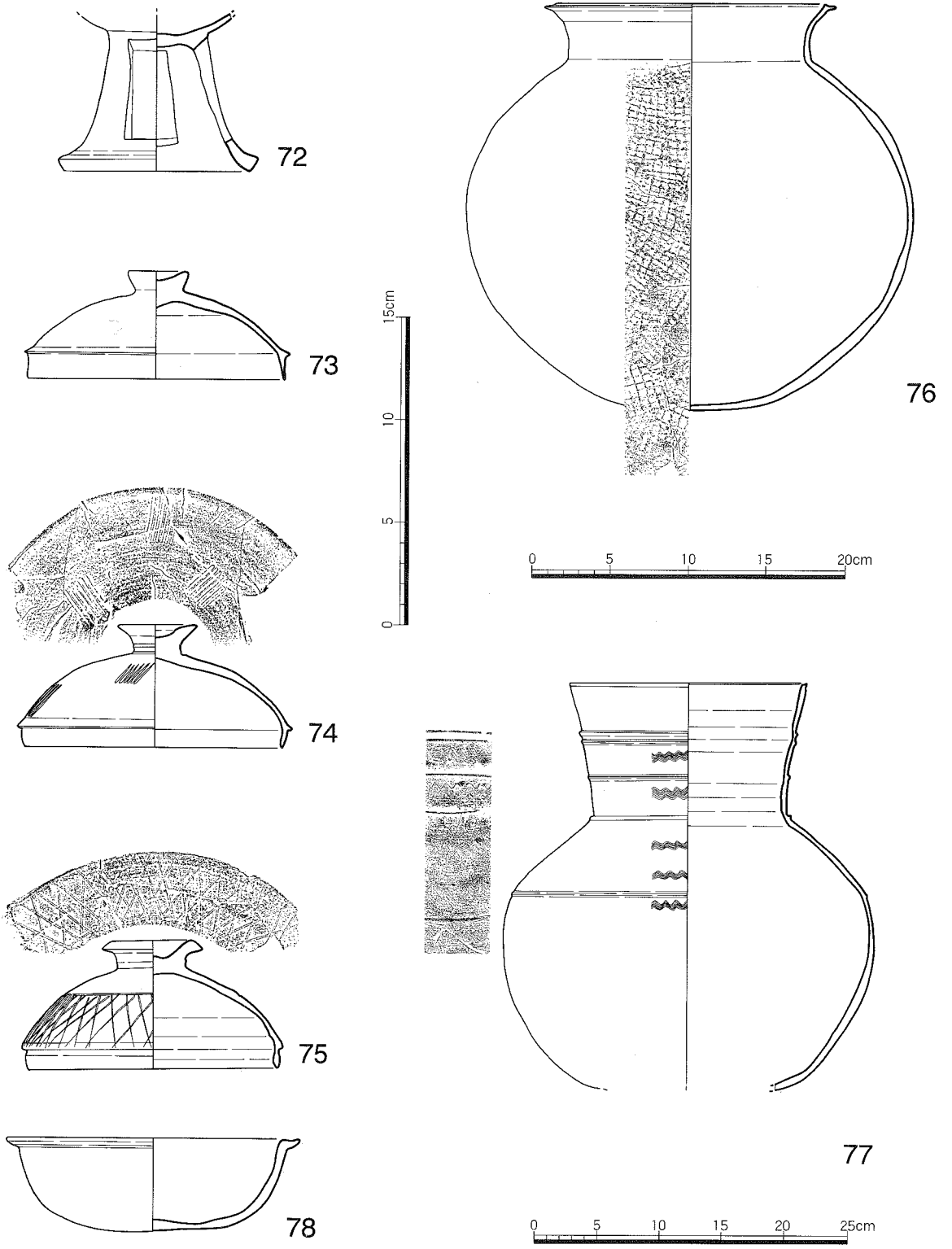


71



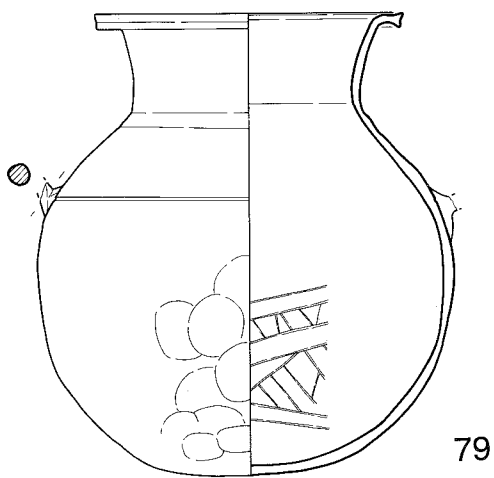
圖面 69. 9號(67~70, 竪란 71) 出土遺物

< 67 :1/4, 68 :1/5, 69 :1/2, 70 :1/1, 71 :1/3 >

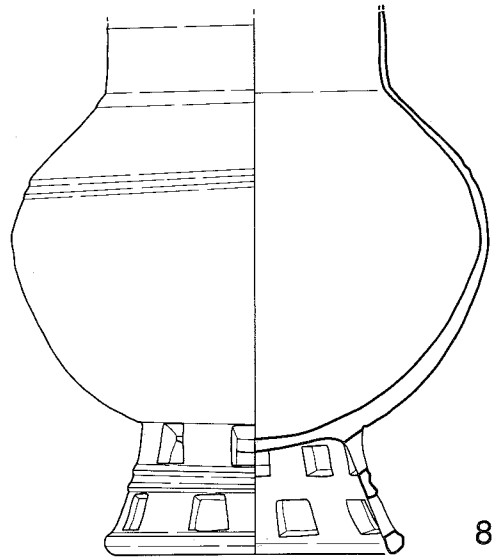


圖面 70. 9號(교란 72~77), 10號(78) 出土遺物 < 72~75·78 :1/3, 76 :1/4, 77 :1/5 >

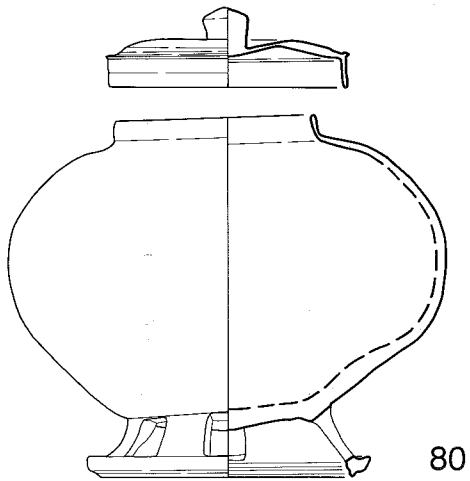




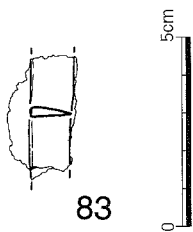
79



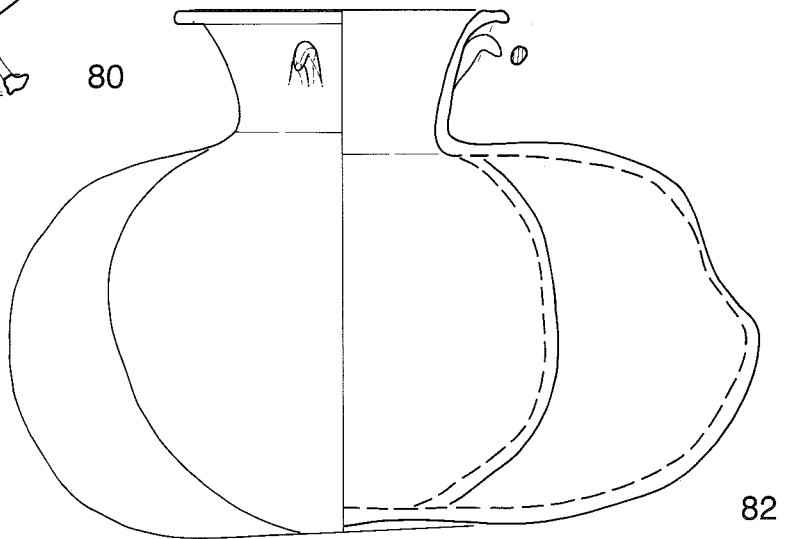
81



80



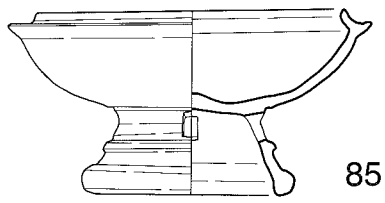
83



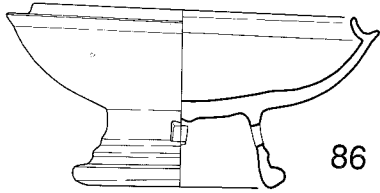
82



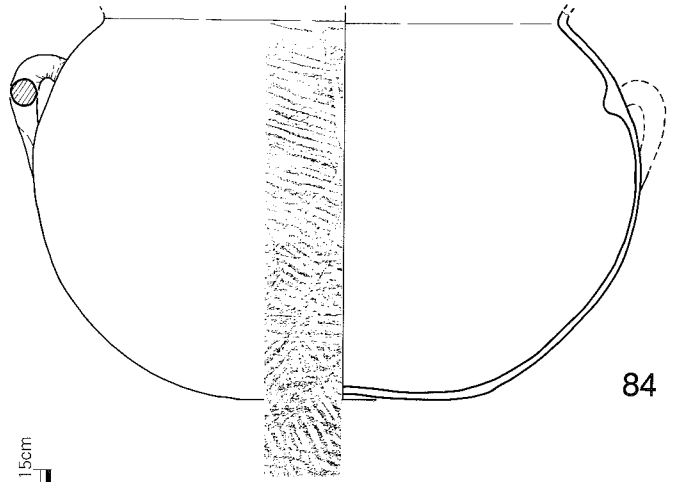
圖面 71. 10號 出土遺物 < 79~81 :1/3, 82 :1/4, 83 :1/2 >



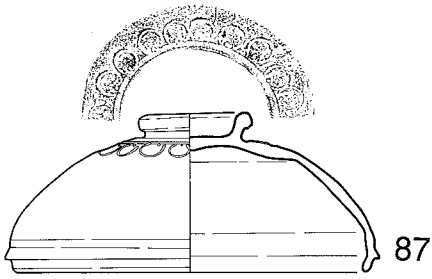
85



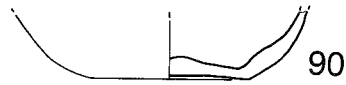
86



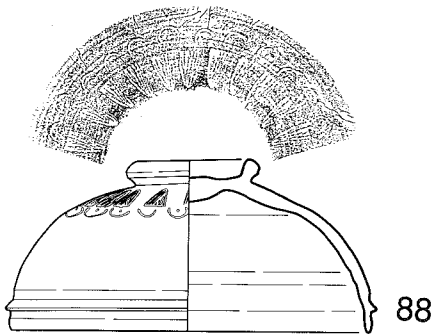
84



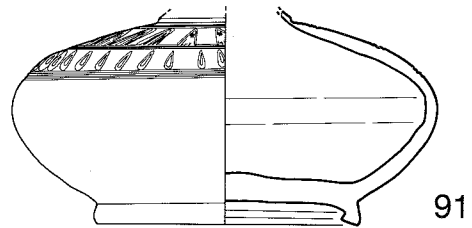
87



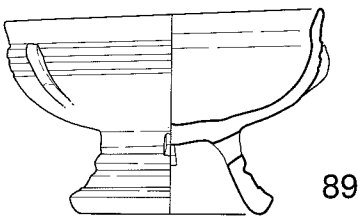
90



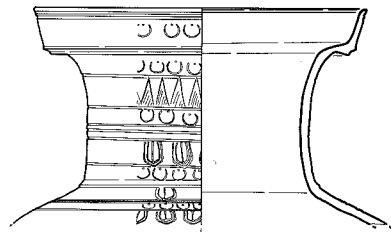
88



91



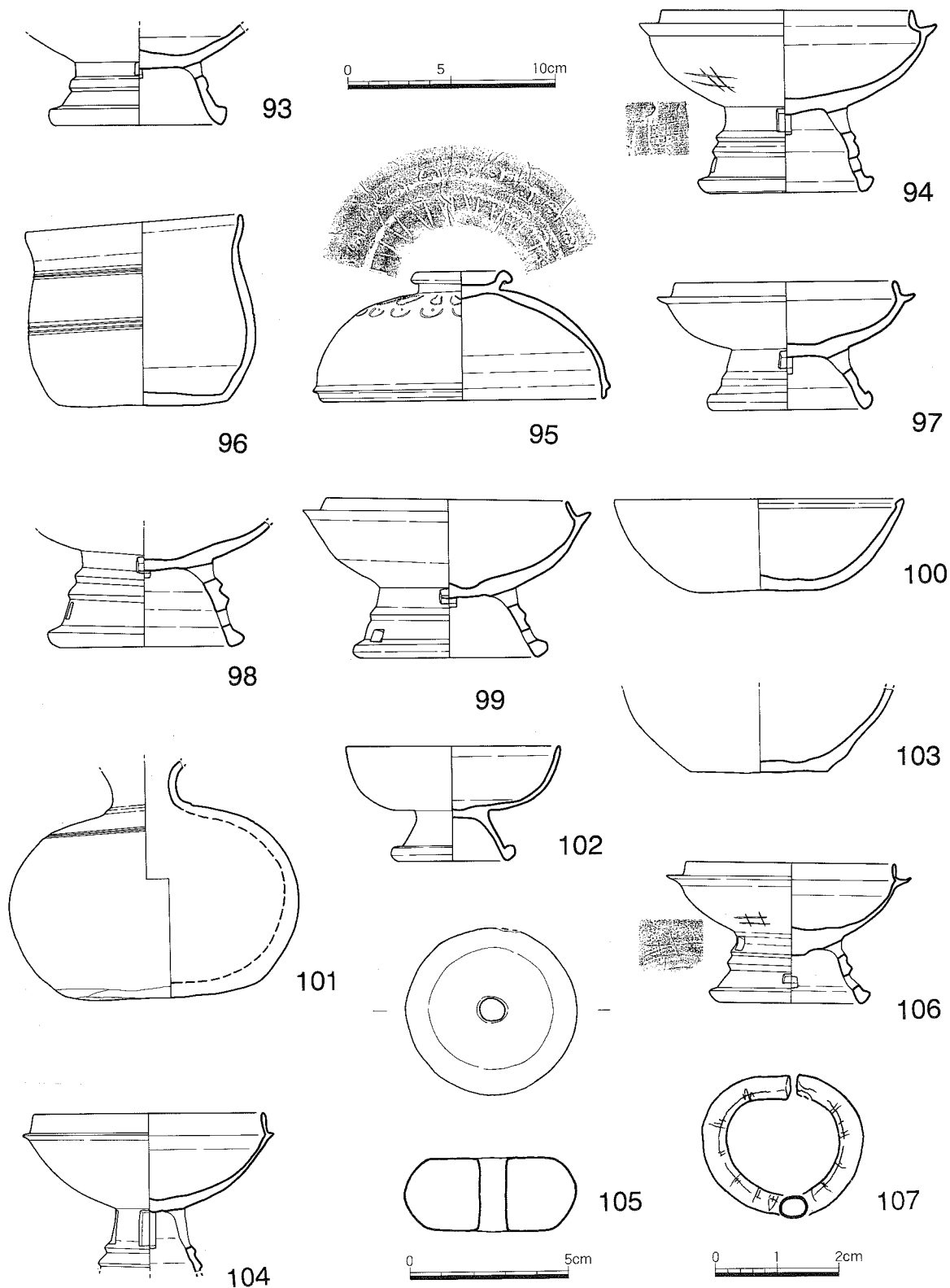
89



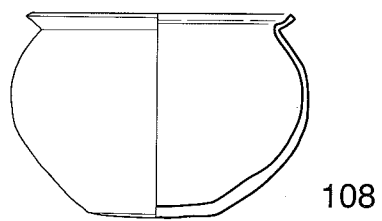
92



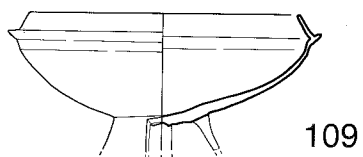
圖面 72. 10號(교란 84), 11號(85~90, 교란 91·92) 出土遺物 < 84~91 :1/3, 92 :1/5 >



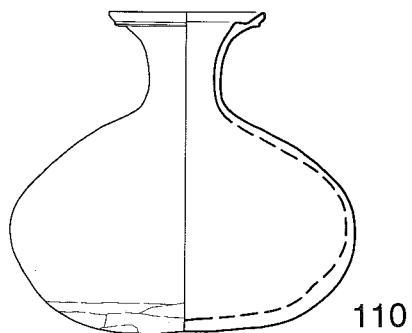
圖面 73. 12號(93~101, 교란 102~105, 周邊 106·107) 出土遺物  
 < 93~104·106 :1/3, 105 :1/2, 107 :1/1 >



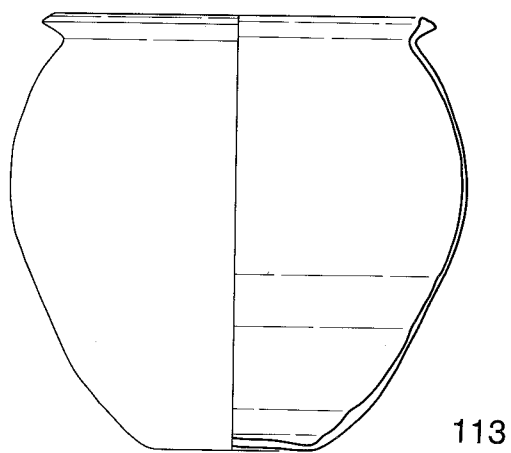
108



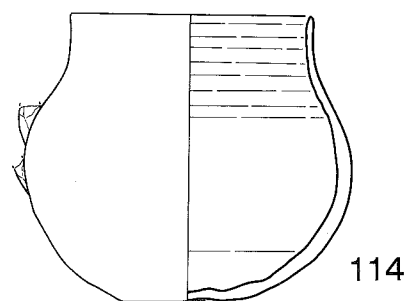
109



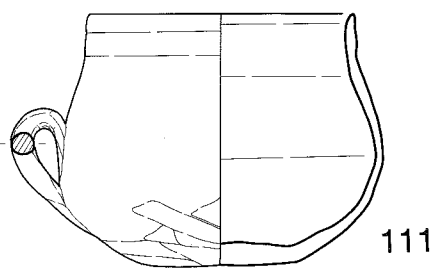
110



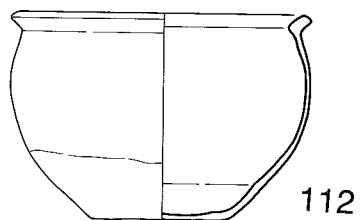
113



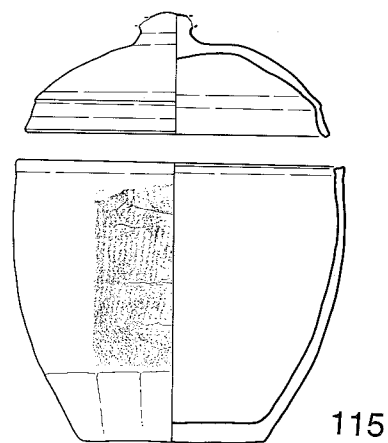
114



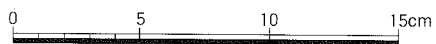
111



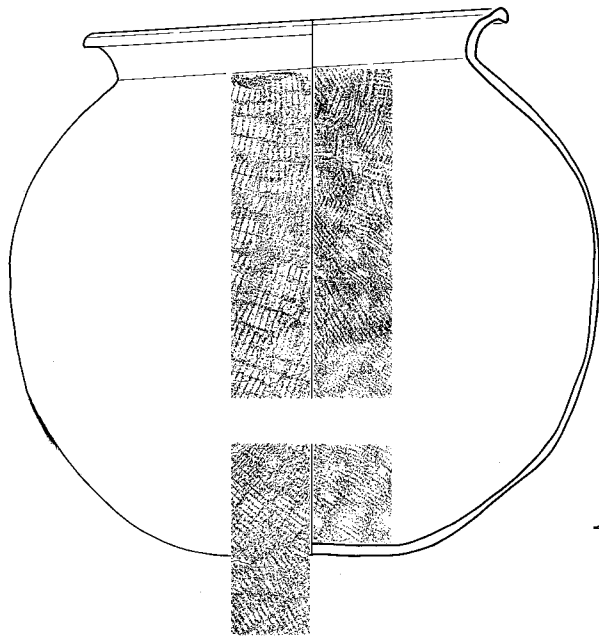
112



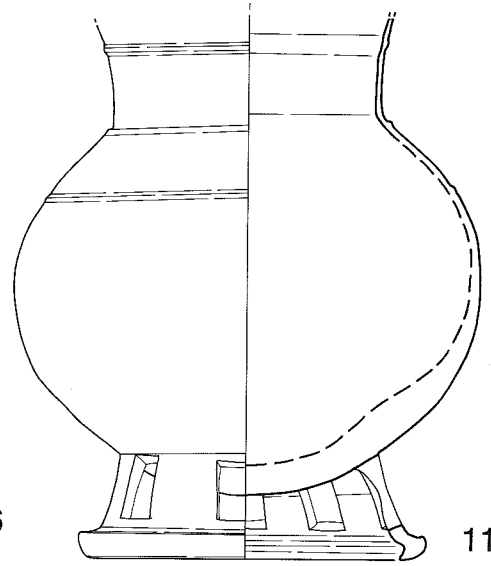
115



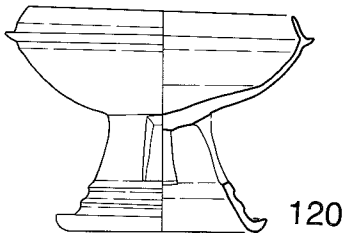
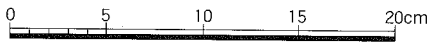
圖面 74. 13號(108, 周邊 109・110), 14號(111~113), 15號(114・115) 出土遺物 < 1/3 >



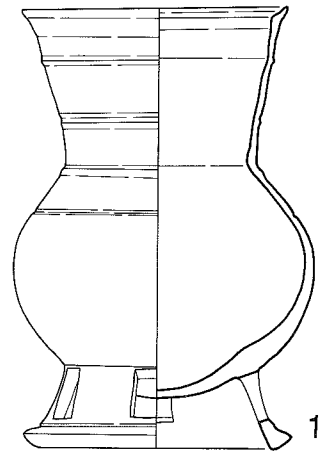
116



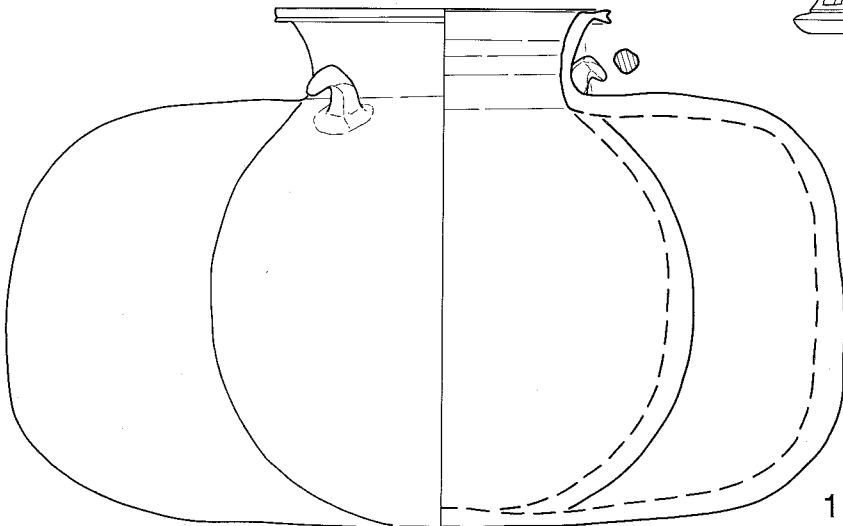
117



120



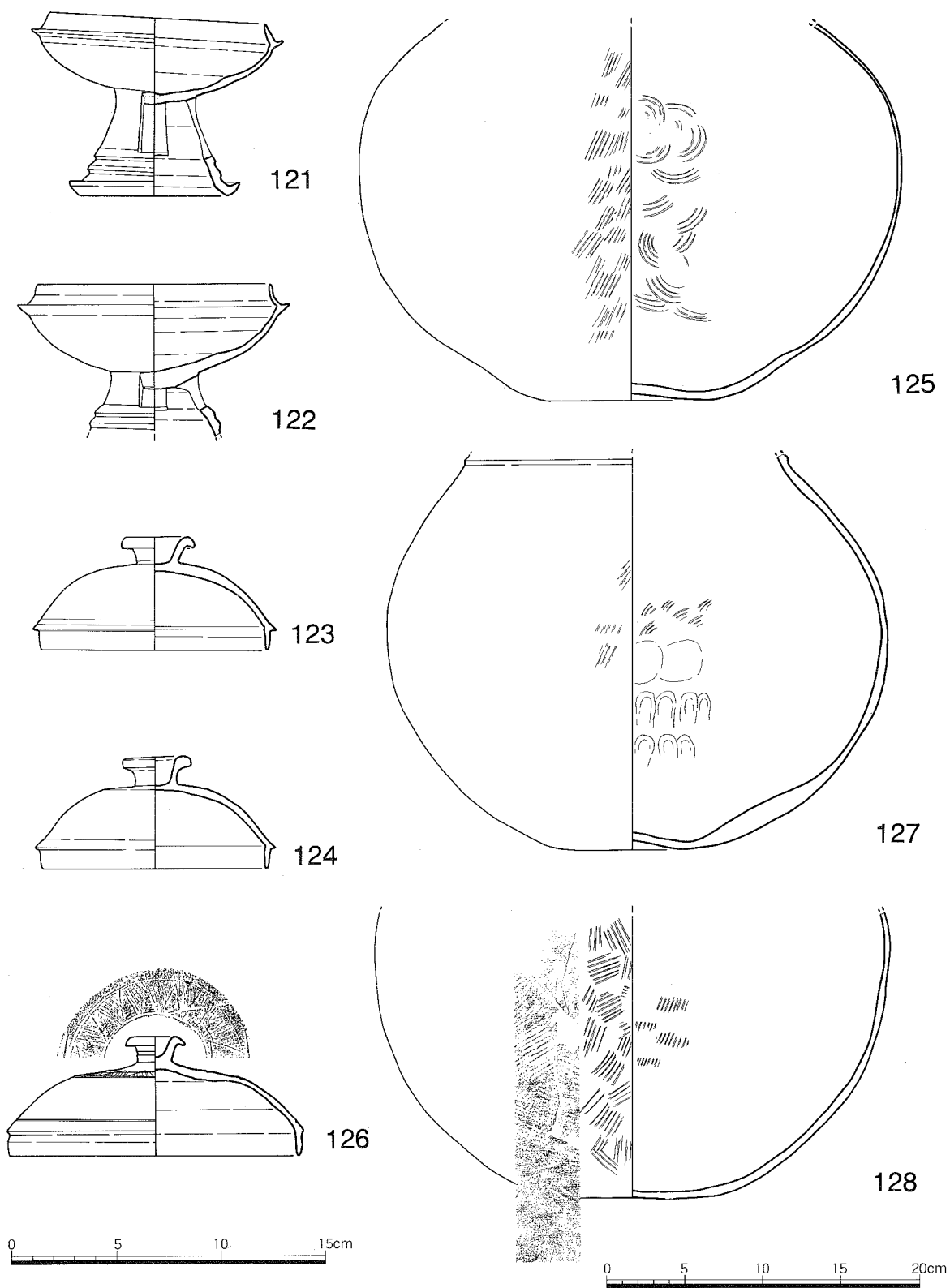
118



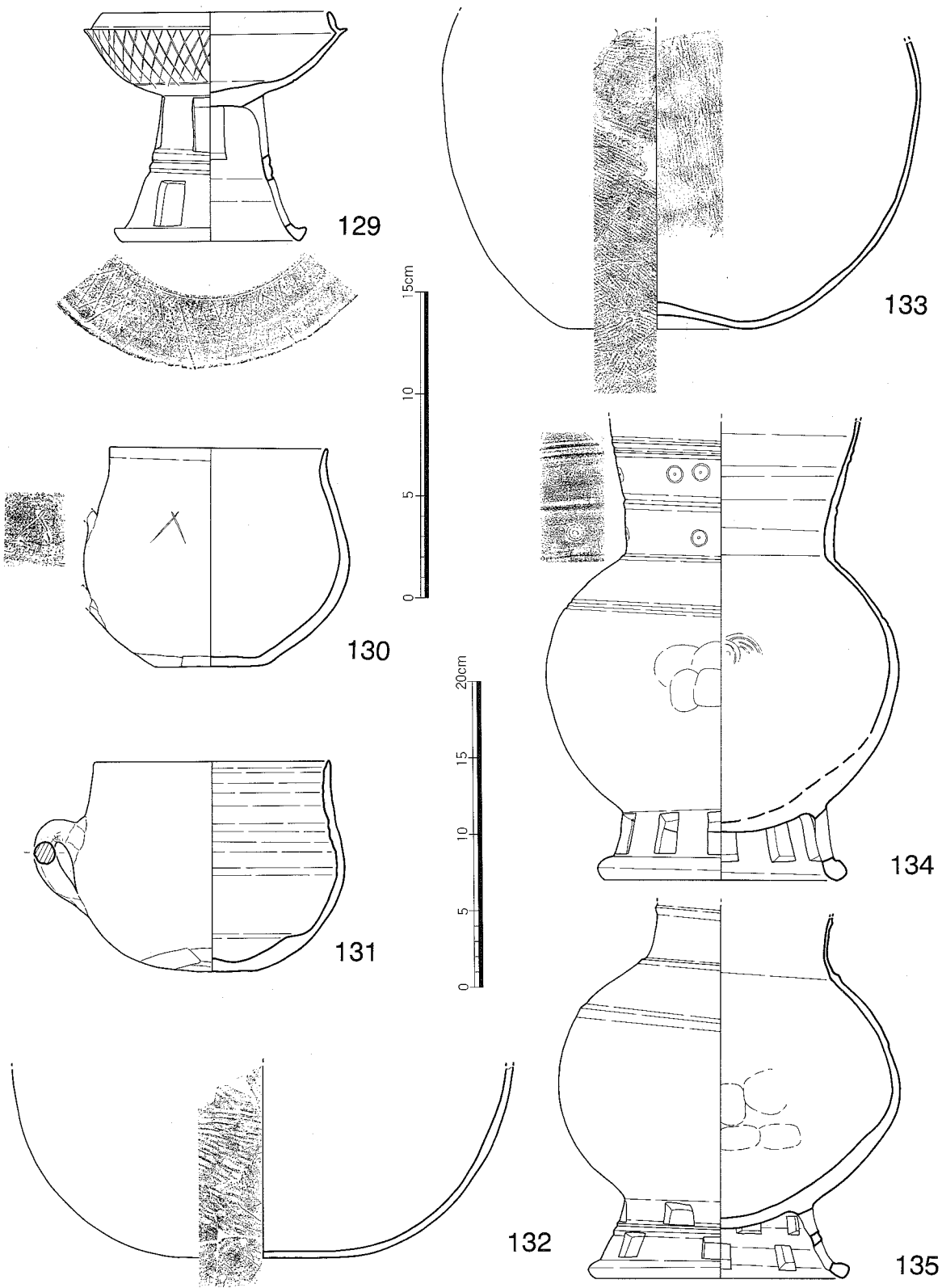
119



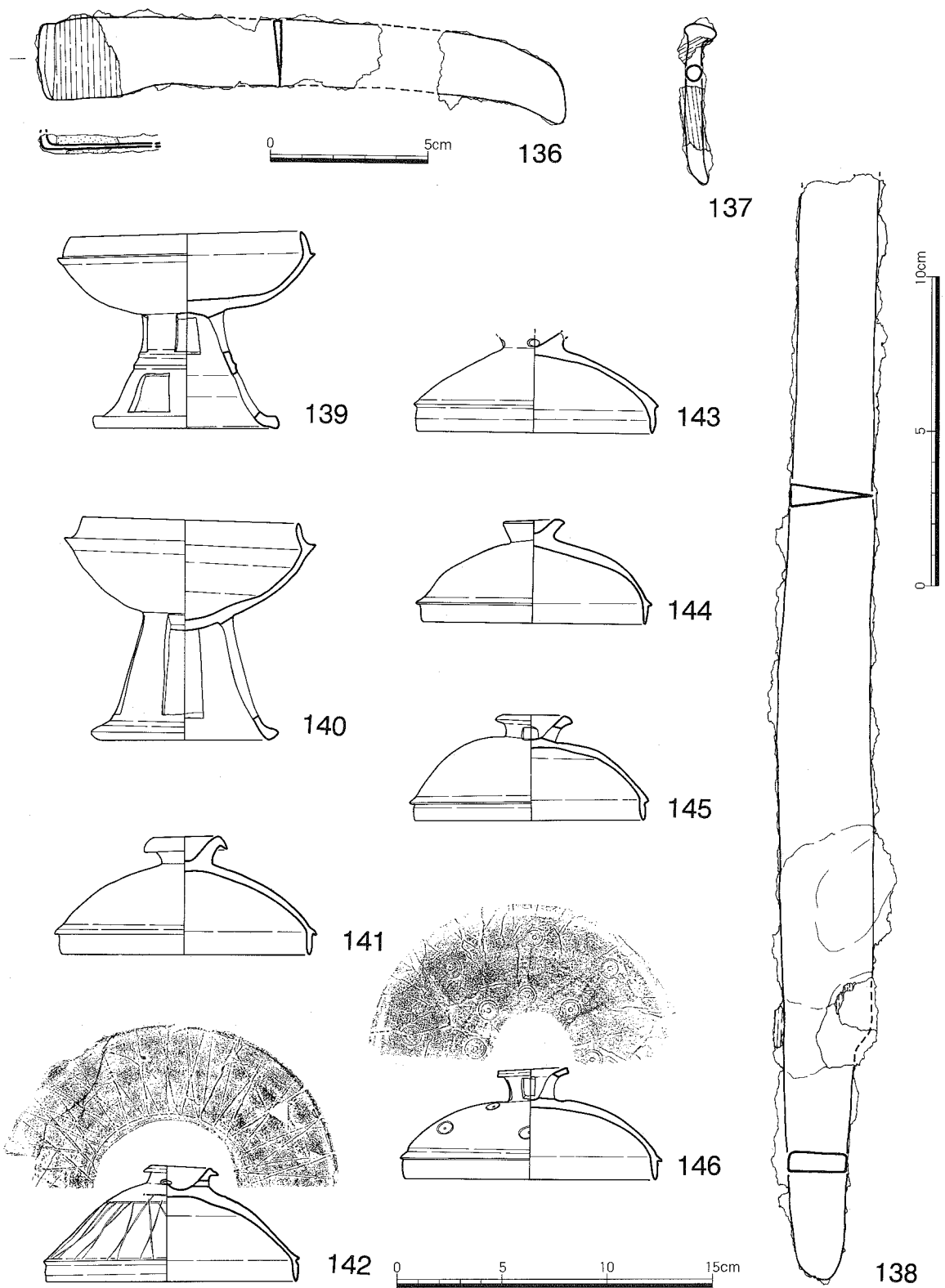
圖面 75. 15號(116~119, 周邊 120) 出土遺物 < 116 :1/4, 117~120 >



圖面 76. 15號(周邊 121~124), 18號(125, 周邊 126~128) 出土遺物  
 〈 121~124 · 126 : 1/3, 125 · 127 · 128 : 1/4 〉

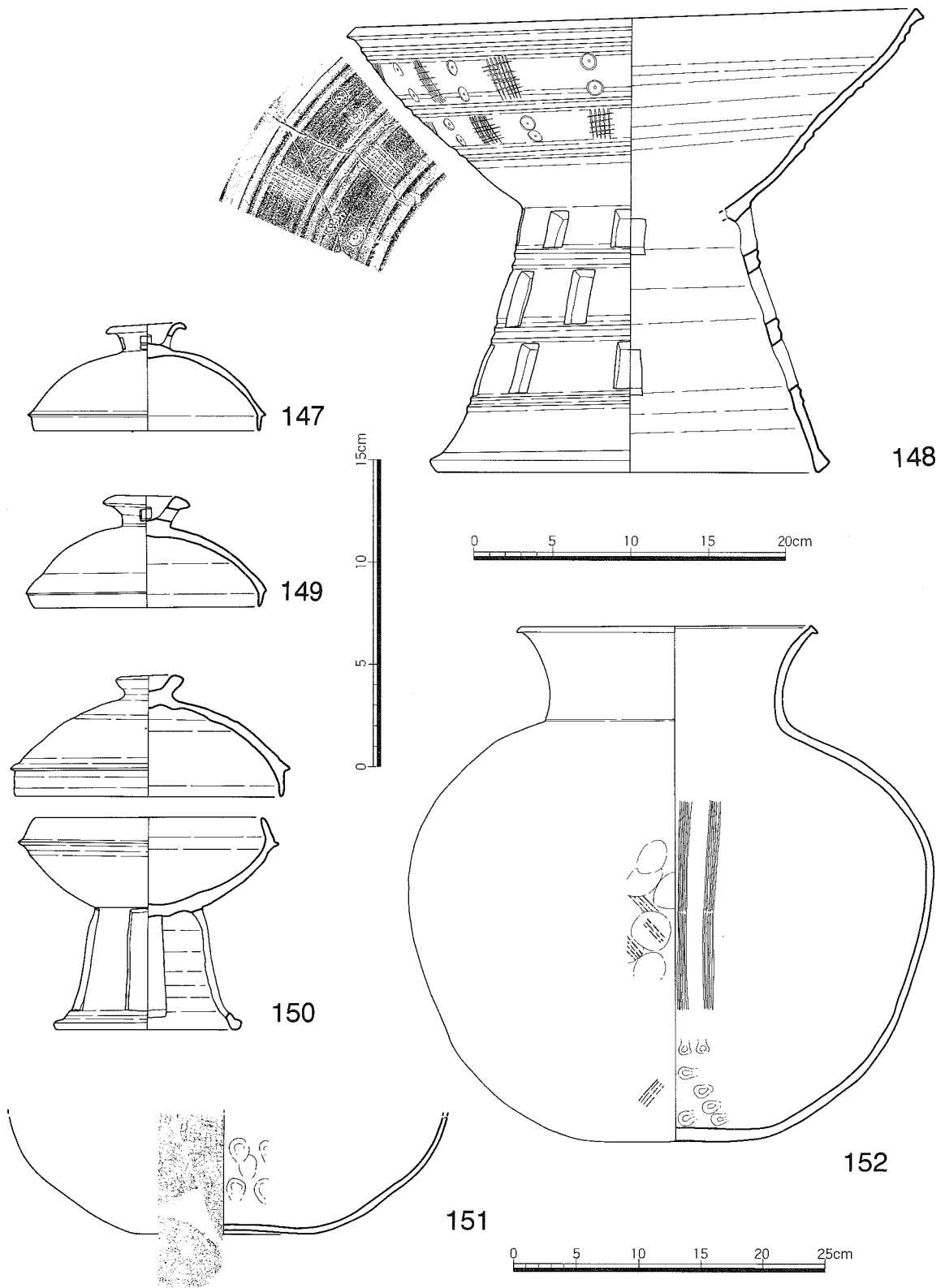


圖面 77. 19號 出土遺物 < 129~132 :1/3, 133~135 :1/4 >

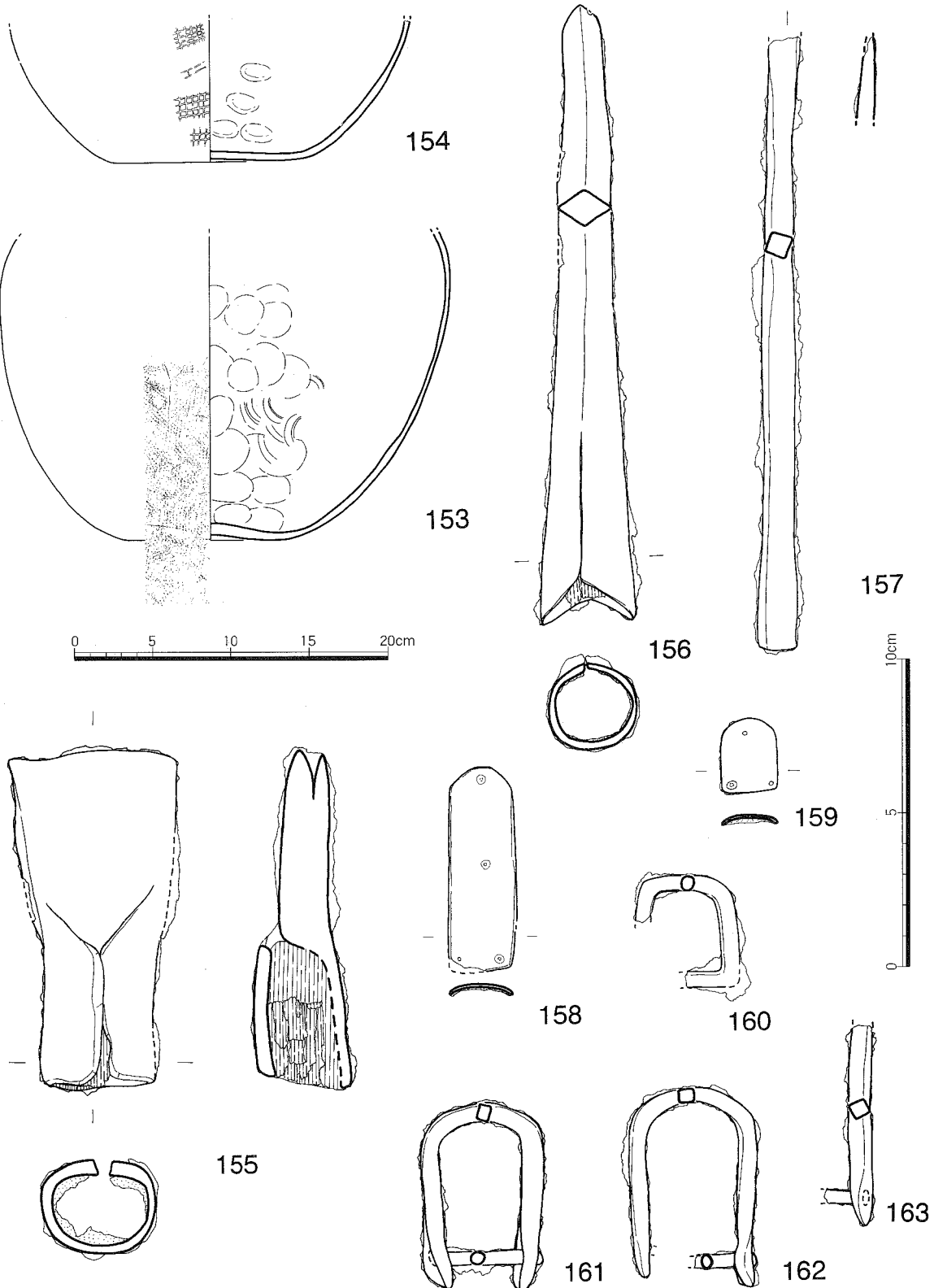


圖面 78. 19號(136~138, 교란 139~146) 出土遺物 < 136~138 :1/2, 139~146 :1/3 >

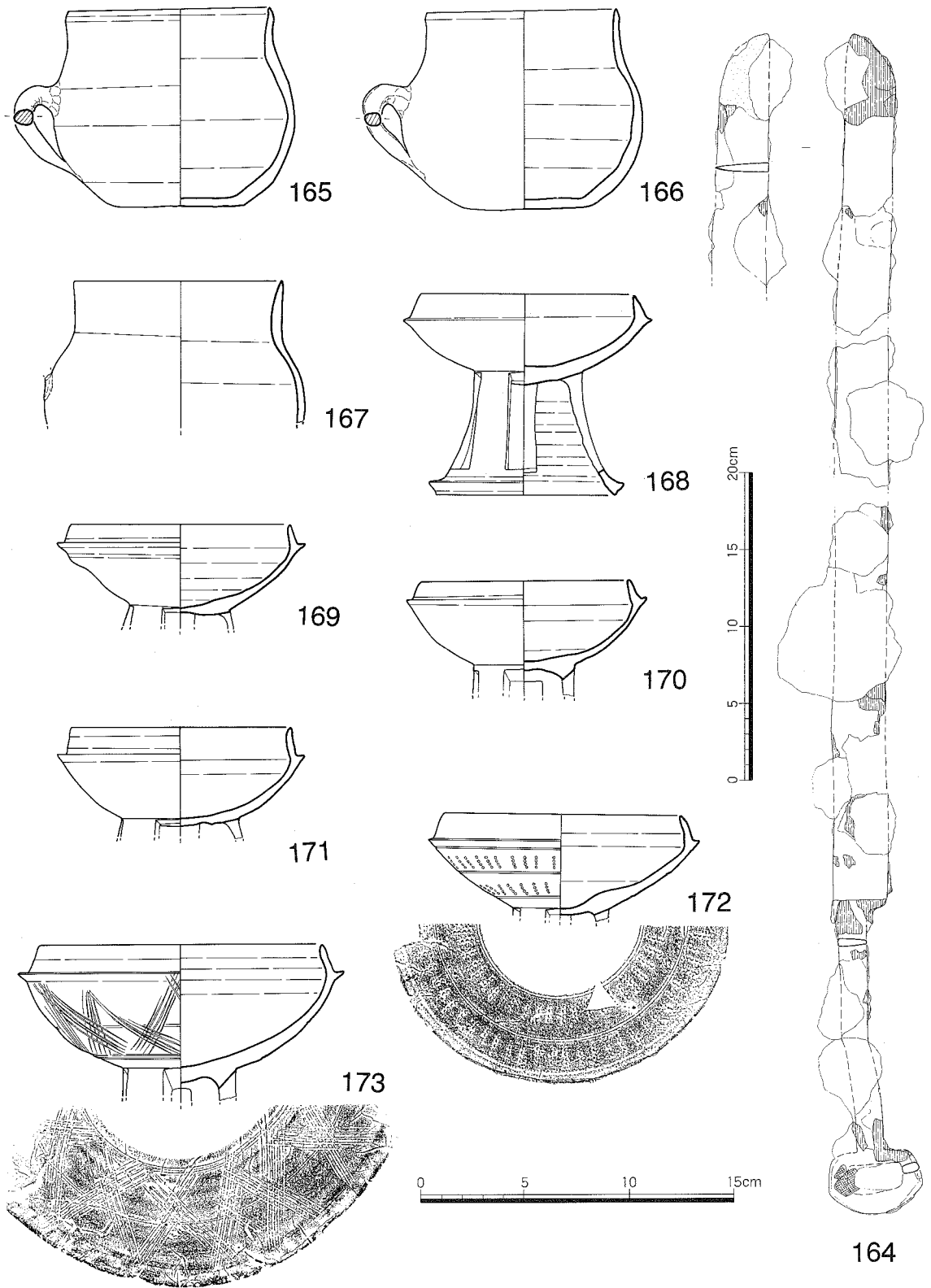




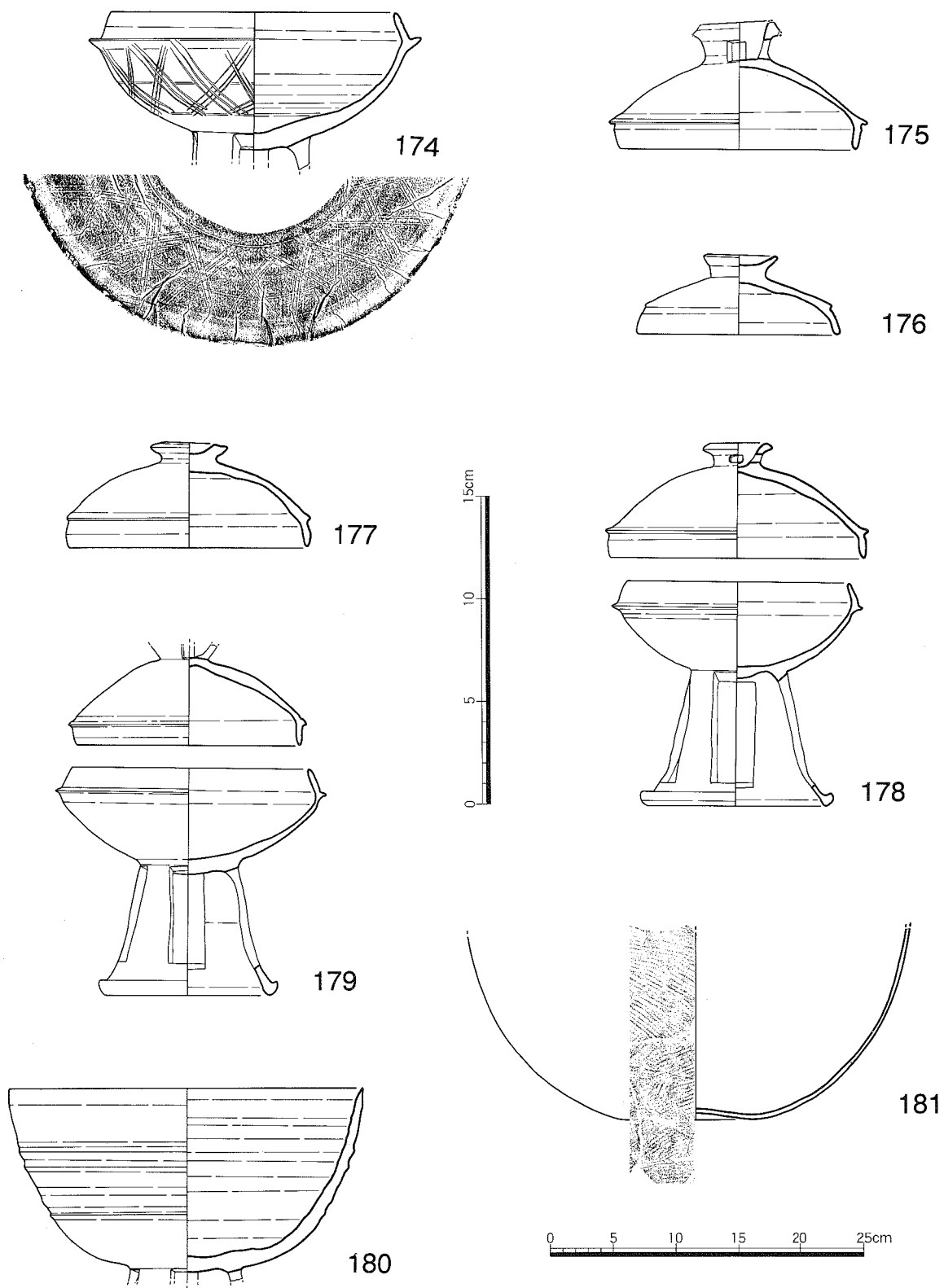
圖面 79. 19號(교란 147·148), 20號(149~152) 出土遺物  
 〈 147·149·150 :1/3, 148 :1/4, 151·152 :1/5 〉



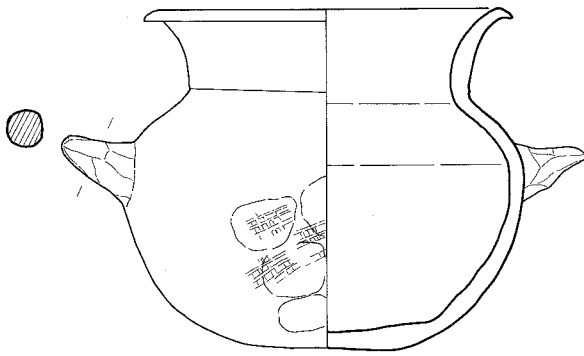
圖面 80. 20號 出土遺物 < 153・154 :1/4, 155~163 :1/2 >



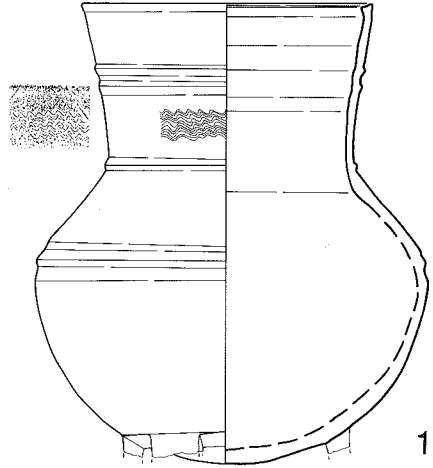
圖面 81. 20號(164, 교란 165~173) 出土遺物 < 164 :1/4, 165~173 :1/3 >



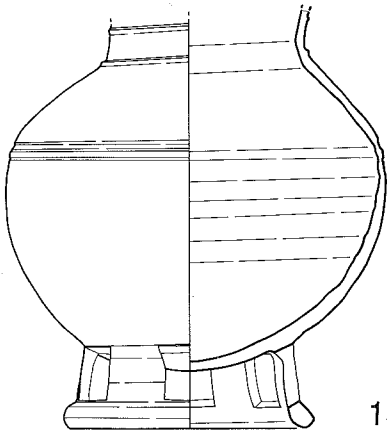
圖面 82. 20號(교란 174~181) 出土遺物 < 174~180 :1/3, 181 :1/5 >



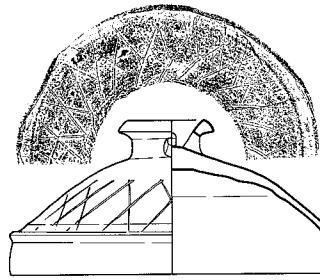
182



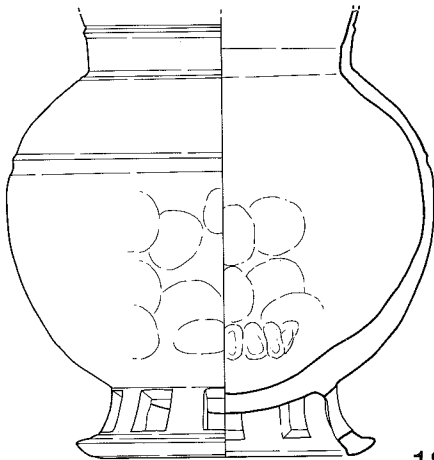
183



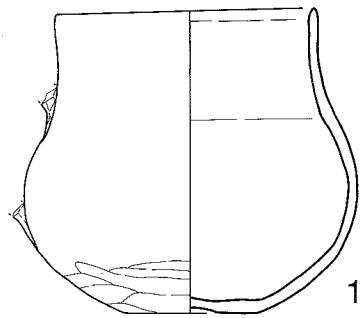
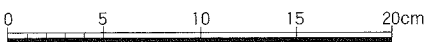
184



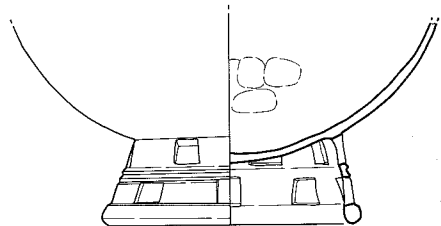
187



186



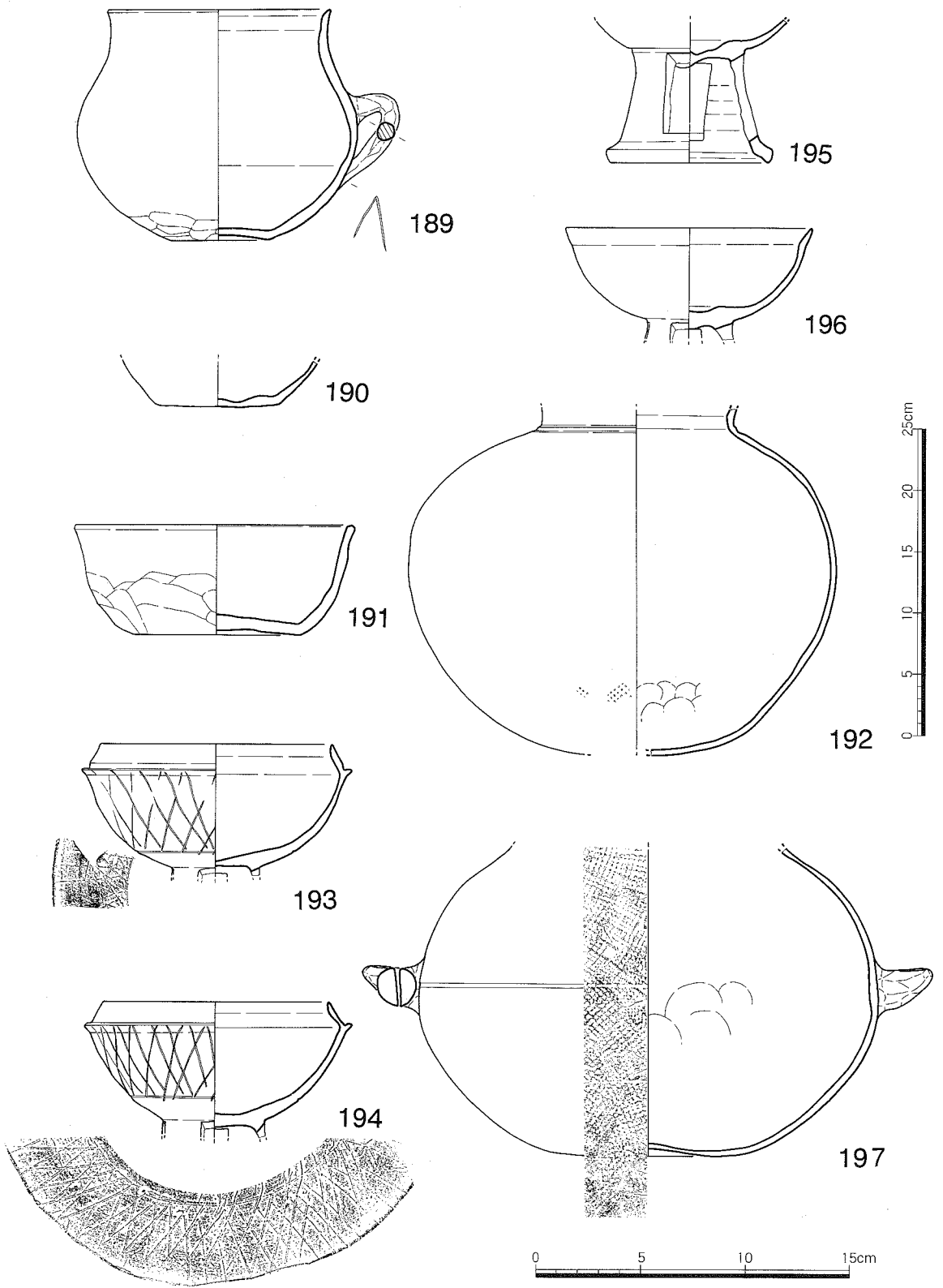
188



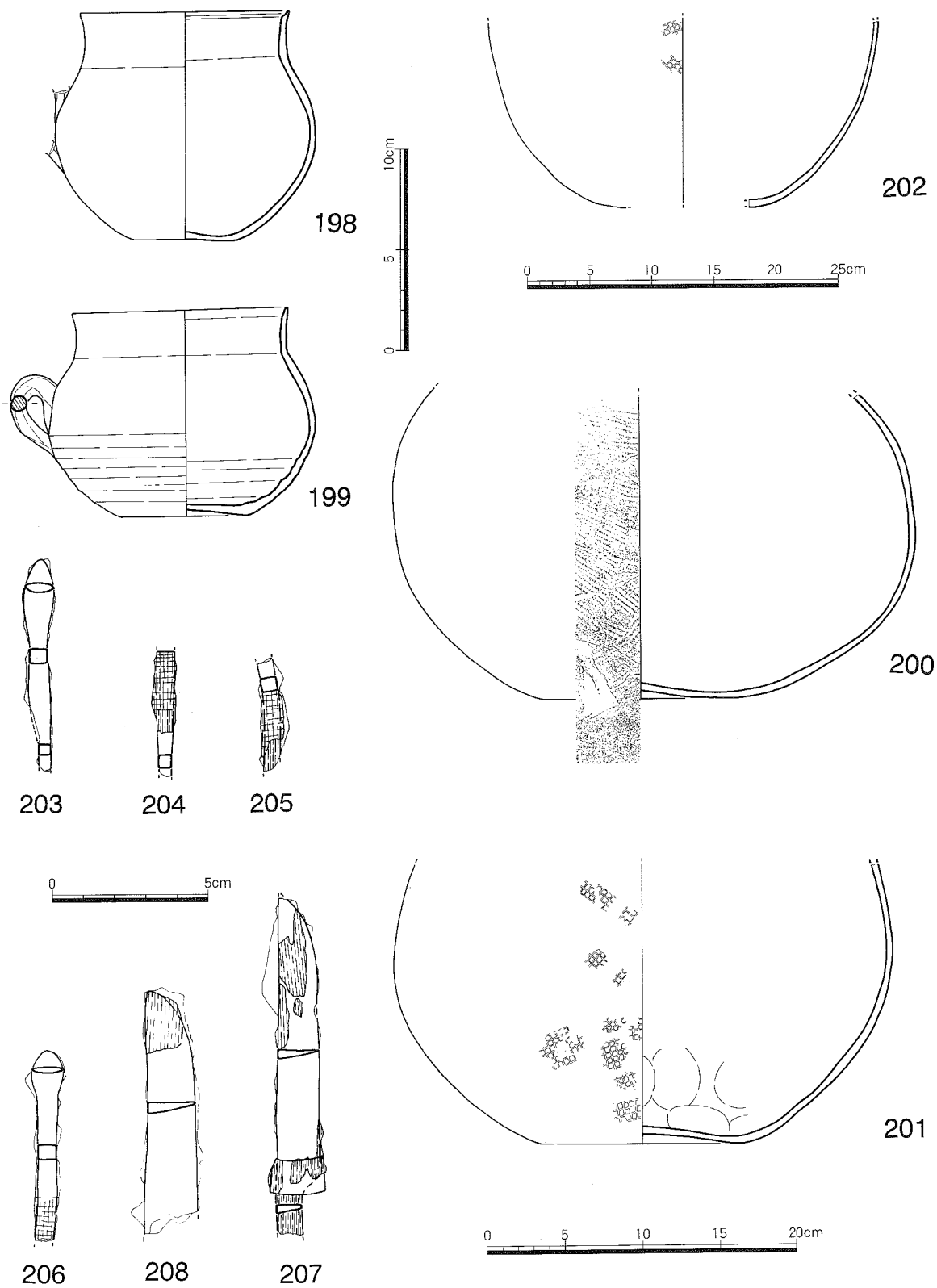
185

圖面 83. 20號(교란 182~186), 21號(187·188) 出土遺物

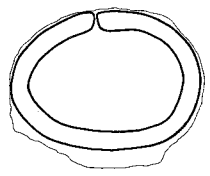
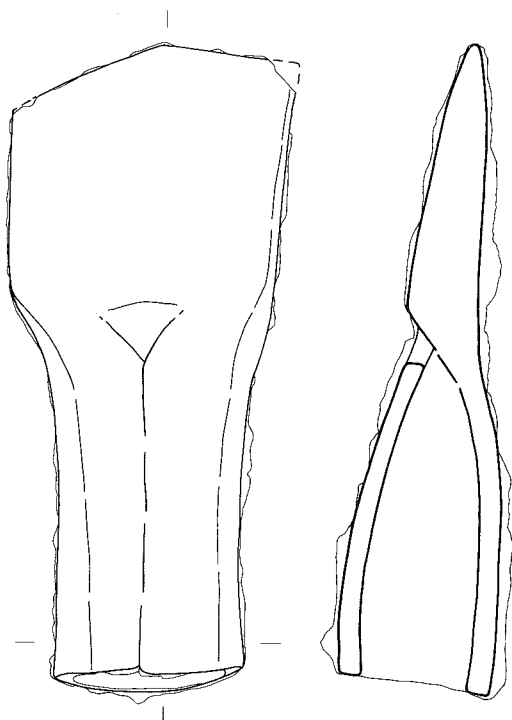
< 182·183·187·188 :1/3, 184·186 :1/4, 185 :1/5 >



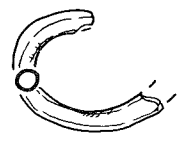
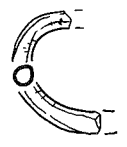
圖面 84. 21號(189~192, 교란 193~197) 出土遺物 < 189~191,193~197 :1/3, 192 :1/5 >



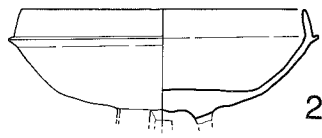
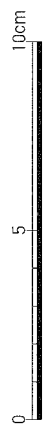
圖面 85. 22號 出土遺物 < 198・199 :1/3, 200・201 :1/4, 202 :1/5, 203~208 :1/2 >



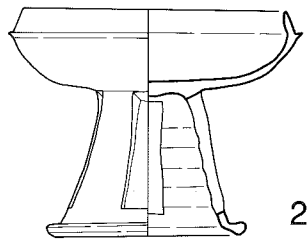
209



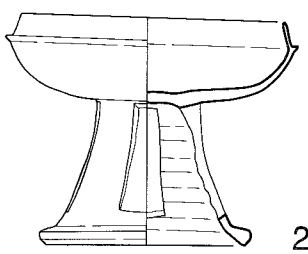
210



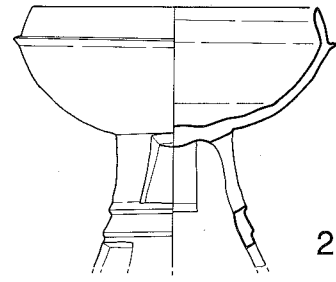
211



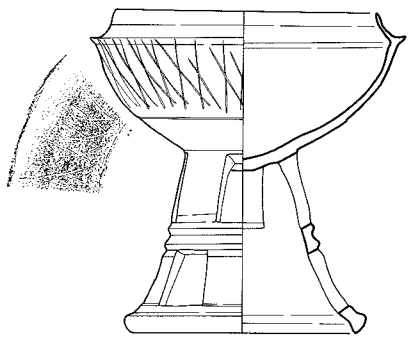
212



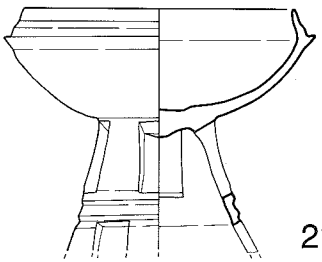
213



214



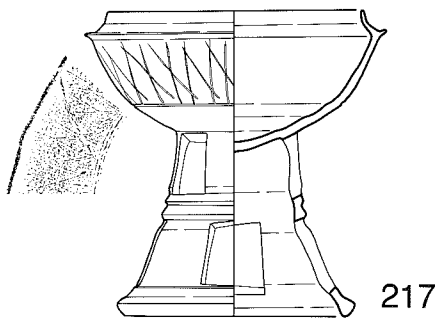
216



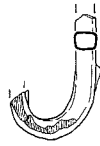
215

圖面 86. 22號 (209 · 210 교란 211~216) 出土遺物 < 209 : 1/2, 210 : 1/1, 211~216 : 1/3 >





217



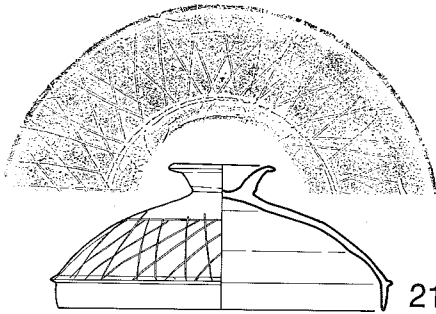
221



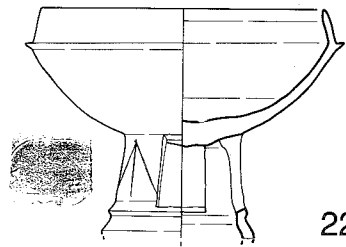
222



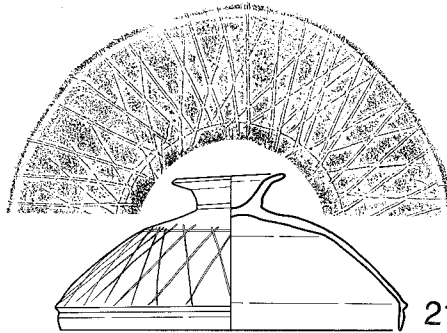
223



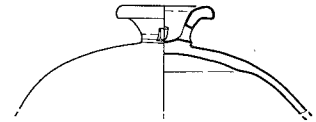
218



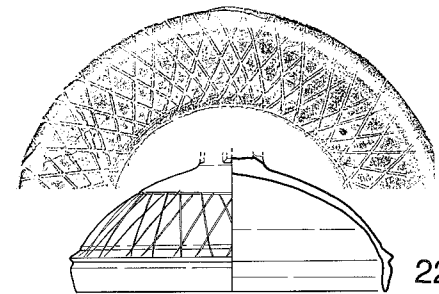
224



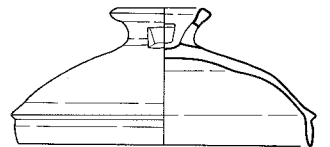
219



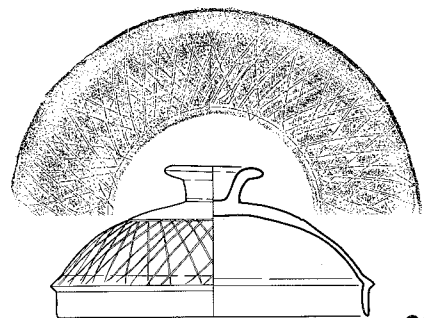
225



220

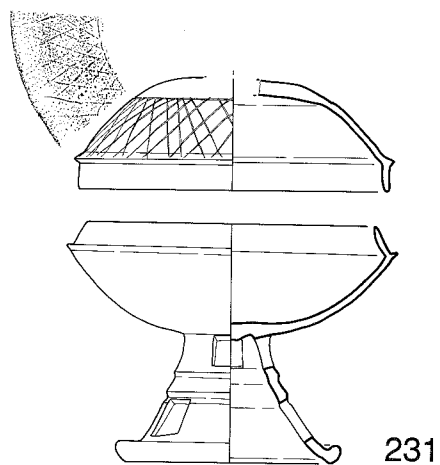
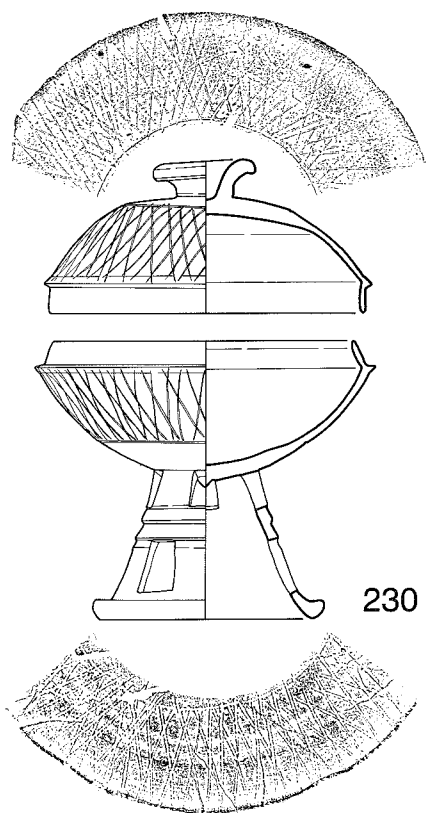
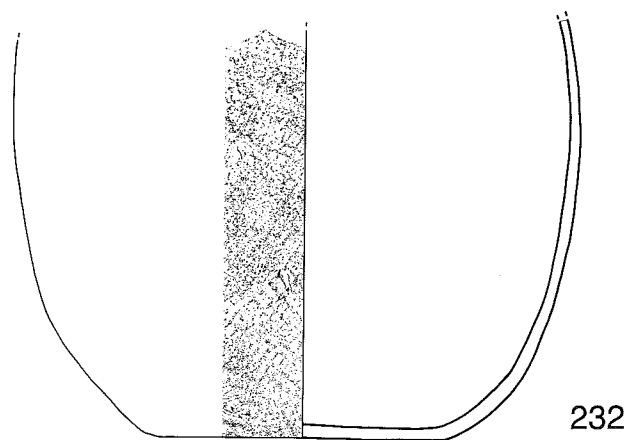
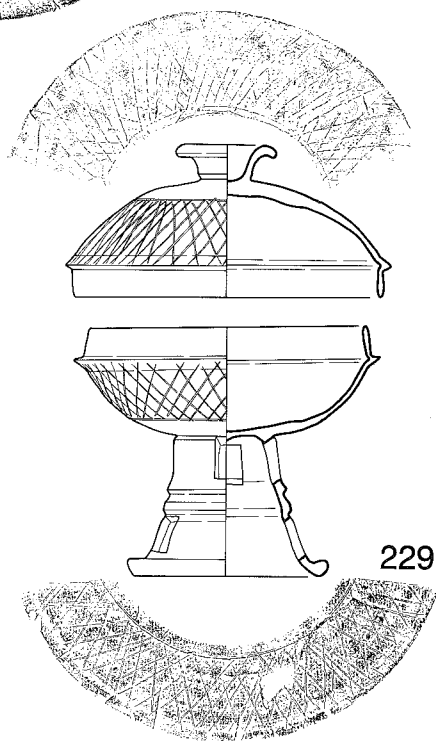
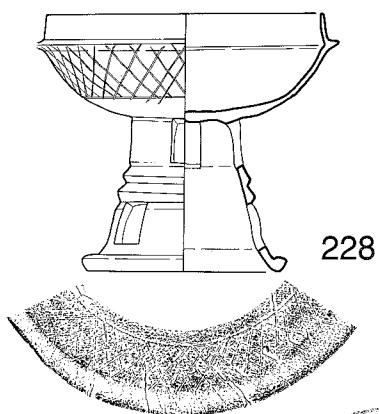


226

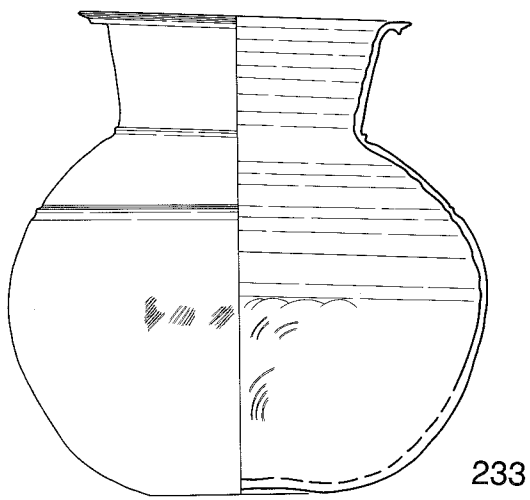


227

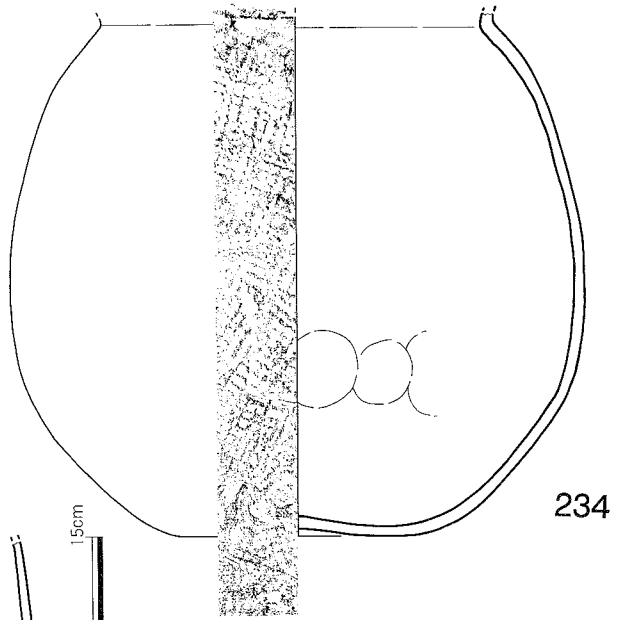
圖面 87. 22號(교란 217~223, 周邊 224~226), 23號(227) 出土遺物  
 < 217~220, 224~227 : 1/3, 221~223 : 1/2 >



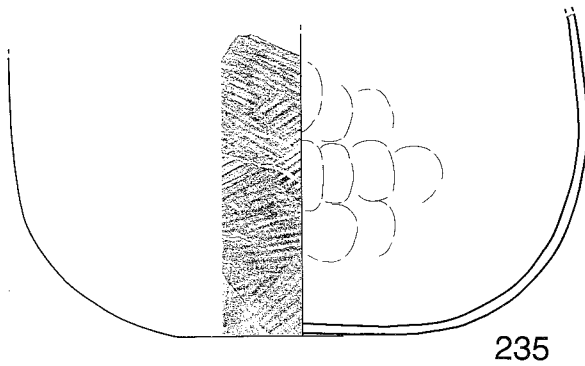
圖面 88. 23號 出土遺物 < 1/3 >



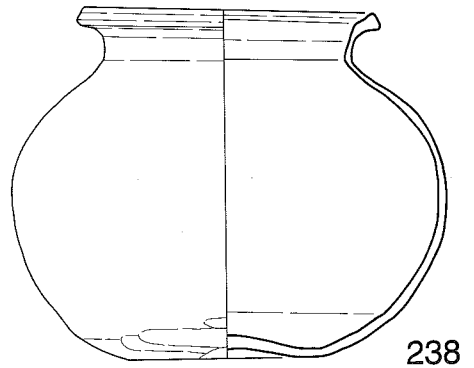
233



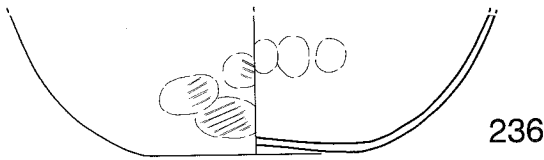
234



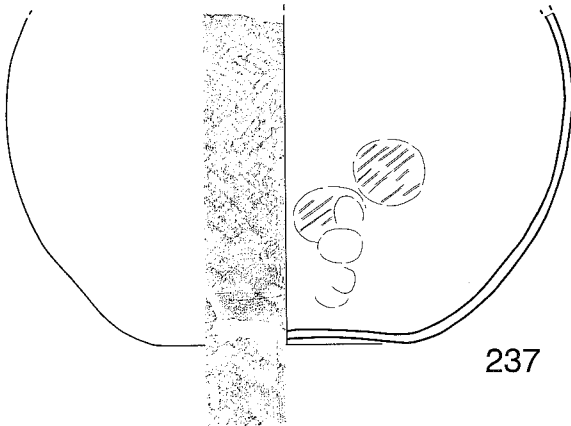
235



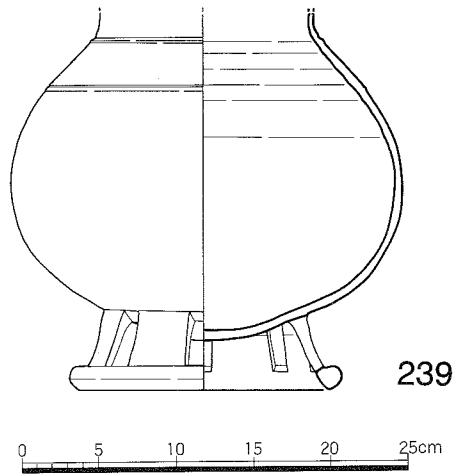
238



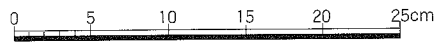
236



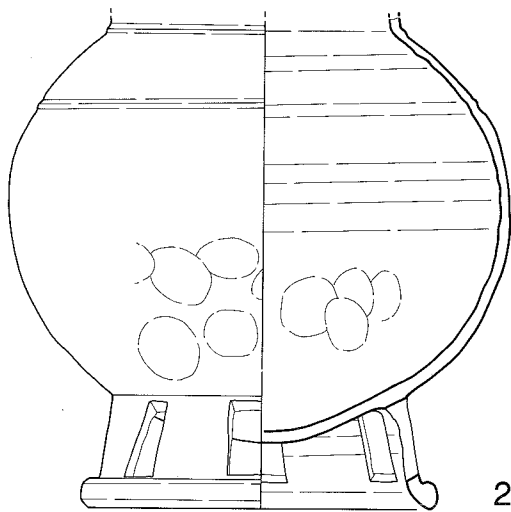
237



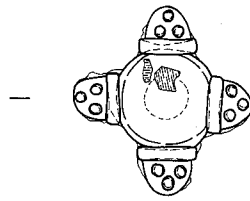
239



圖面 89. 23號 出土遺物 < 233 · 235~237 :1/4, 234 · 238 :1/3, 239 :1/5 >



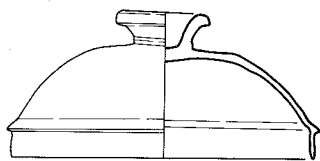
240



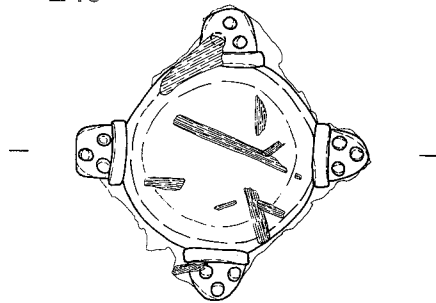
243



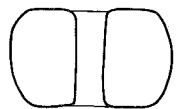
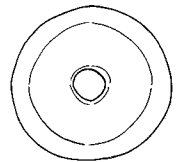
241



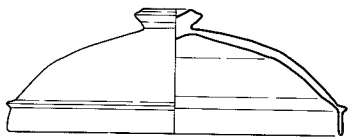
244



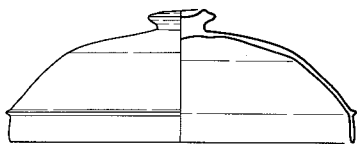
242



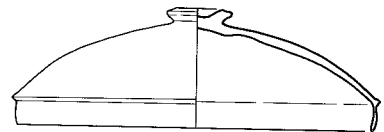
250



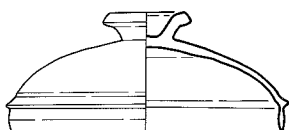
245



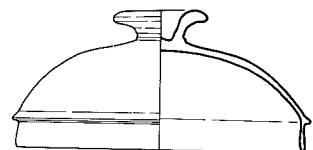
246



248

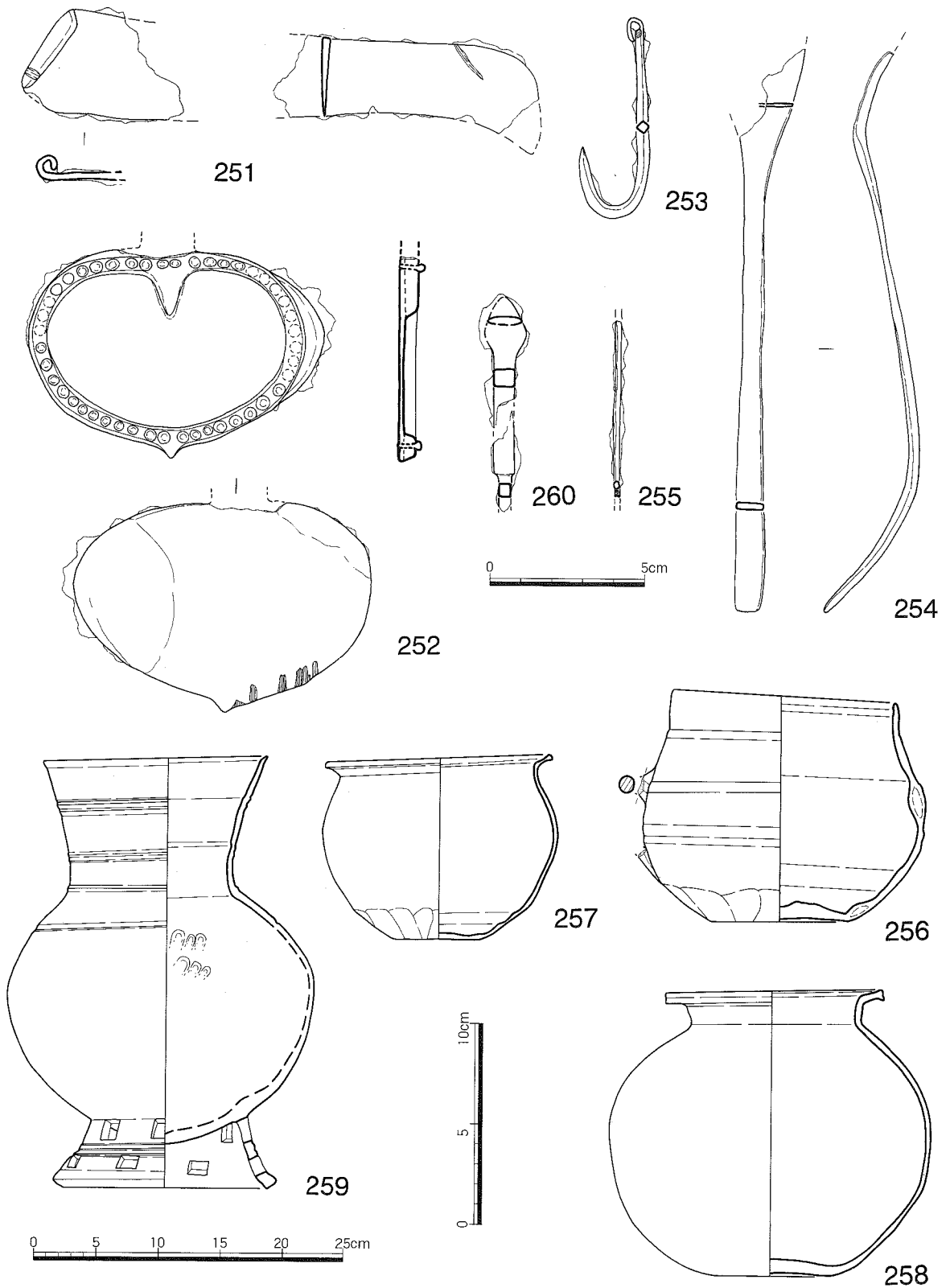


247

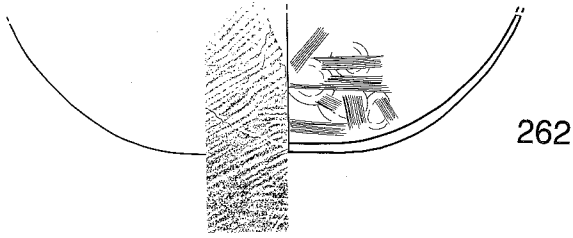


249

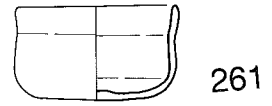
圖面 90. 23號(240~243, 周邊 244~250) 出土遺物 < 240・244 :1/3, 241~243・250 :1/2 >



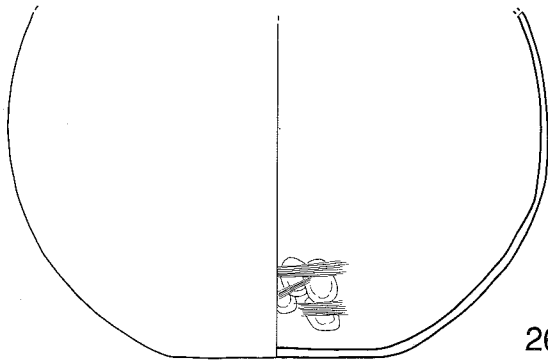
圖面 91. 23號(周邊 251~255), 24號(256~260) 出土遺物  
 < 251~255・260 :1/2, 256~258 :1/3 >



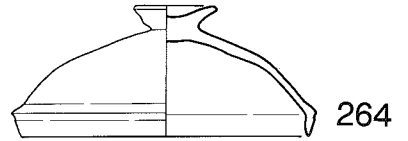
262



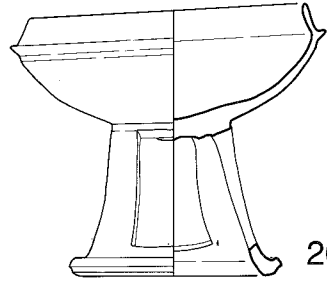
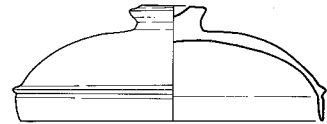
261



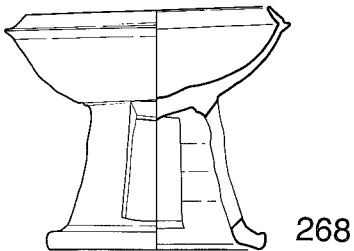
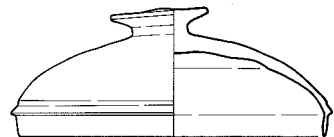
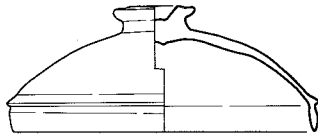
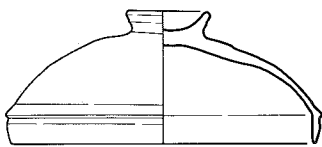
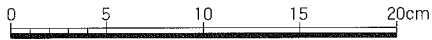
263



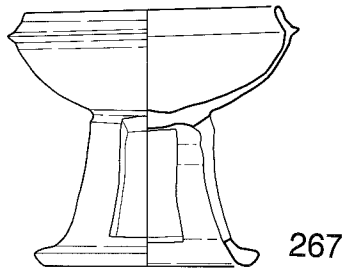
264



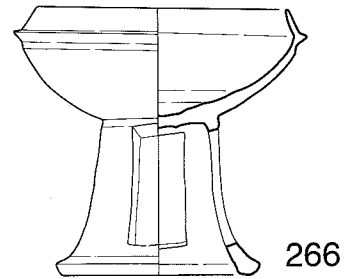
265



268



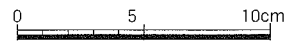
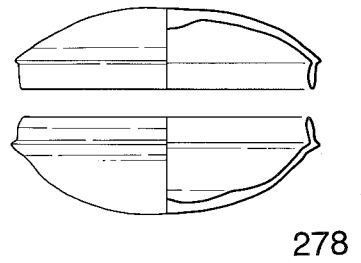
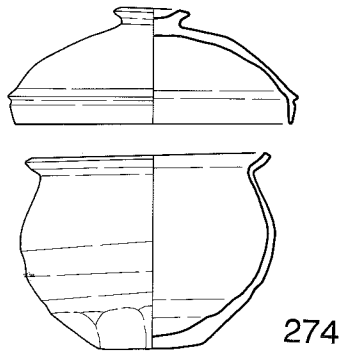
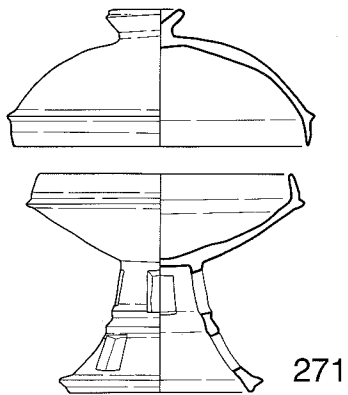
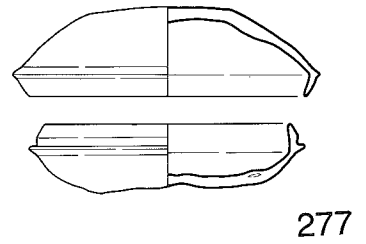
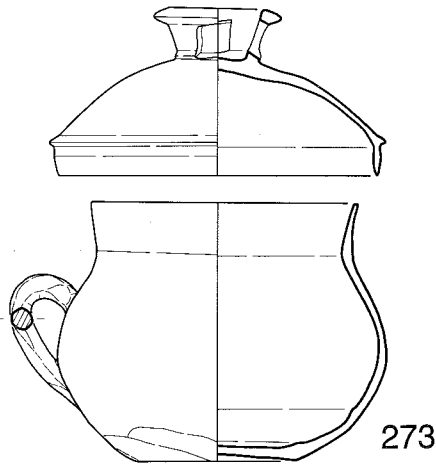
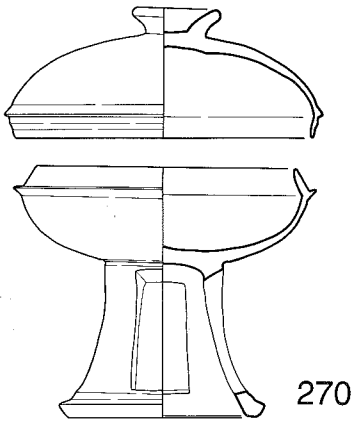
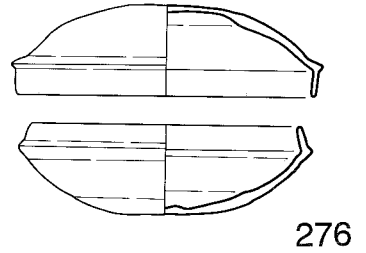
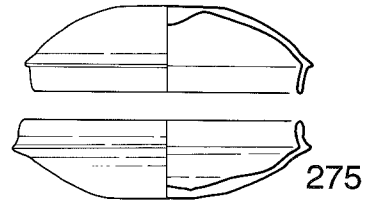
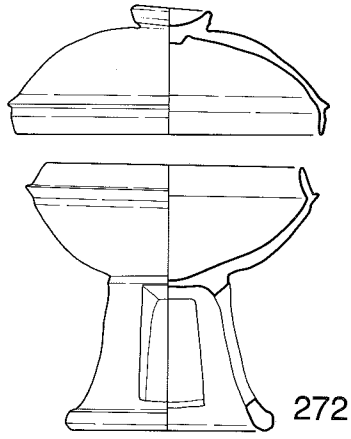
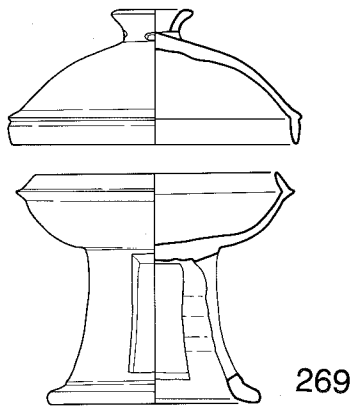
267



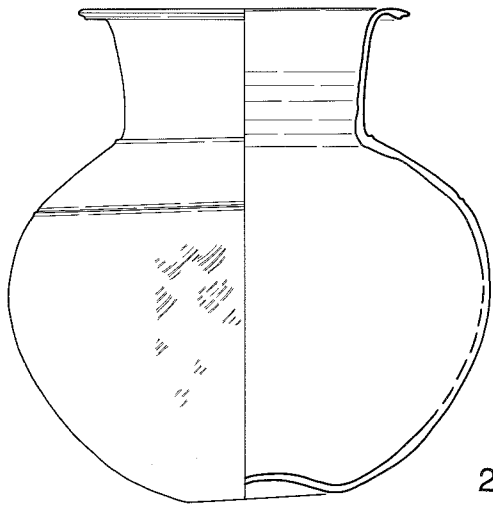
266



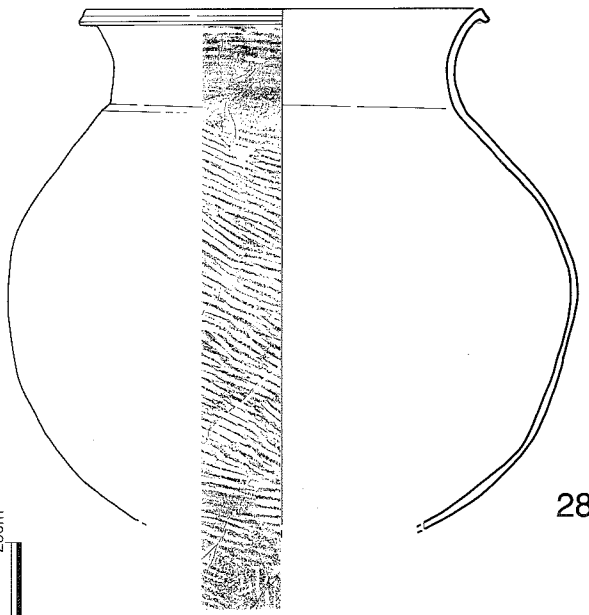
圖面 92. 24號(교란 261), 25號(262·263), 26號(264~268) 出土遺物  
 < 261·264~268 :1/3, 262·263 :1/4 >



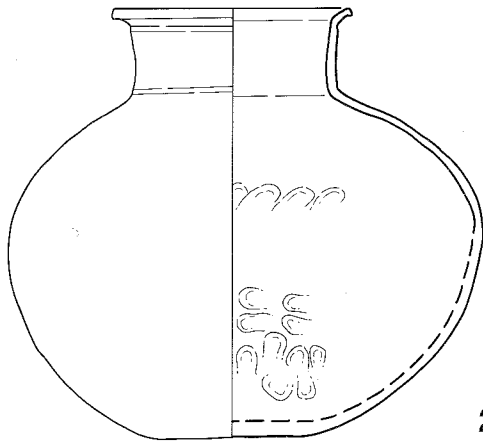
圖面 93. 26號 出土遺物 < 1/3 >



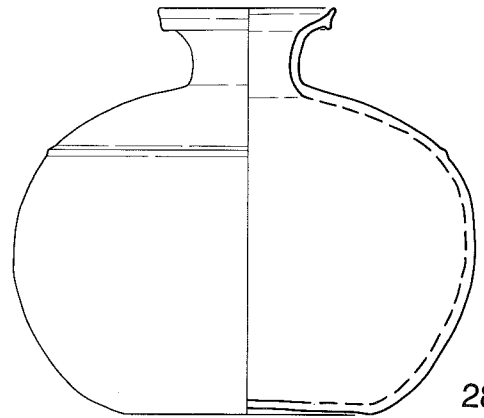
279



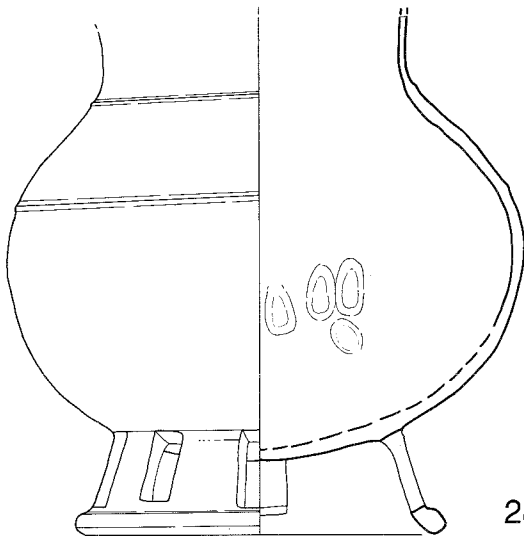
280



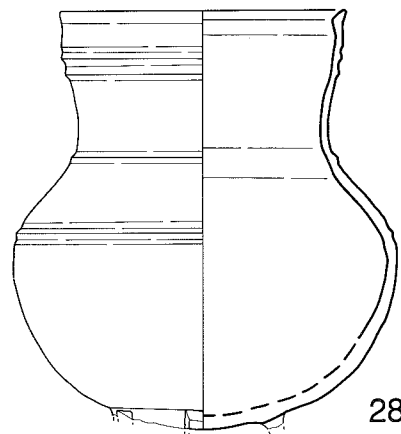
281



282



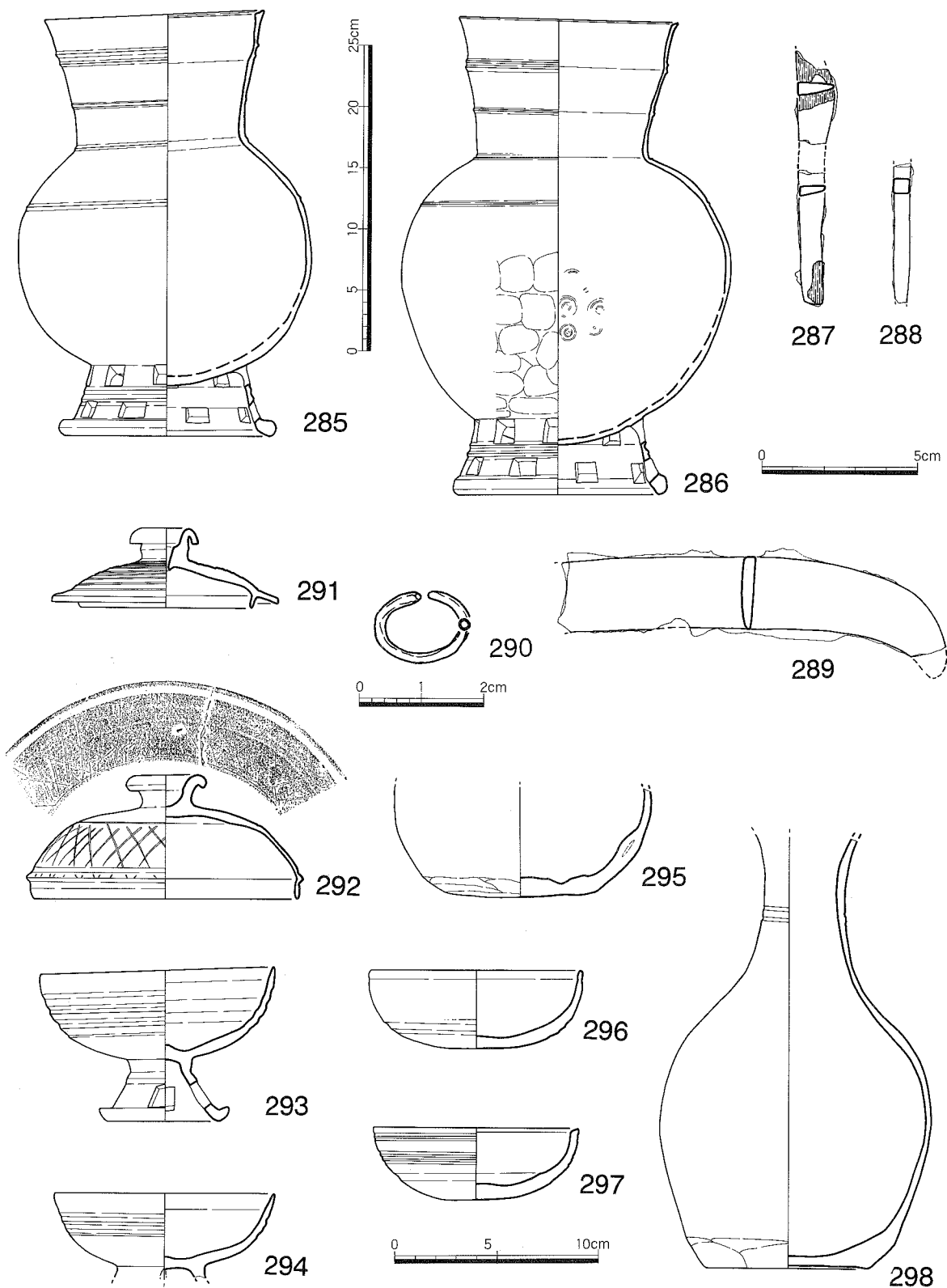
284



283

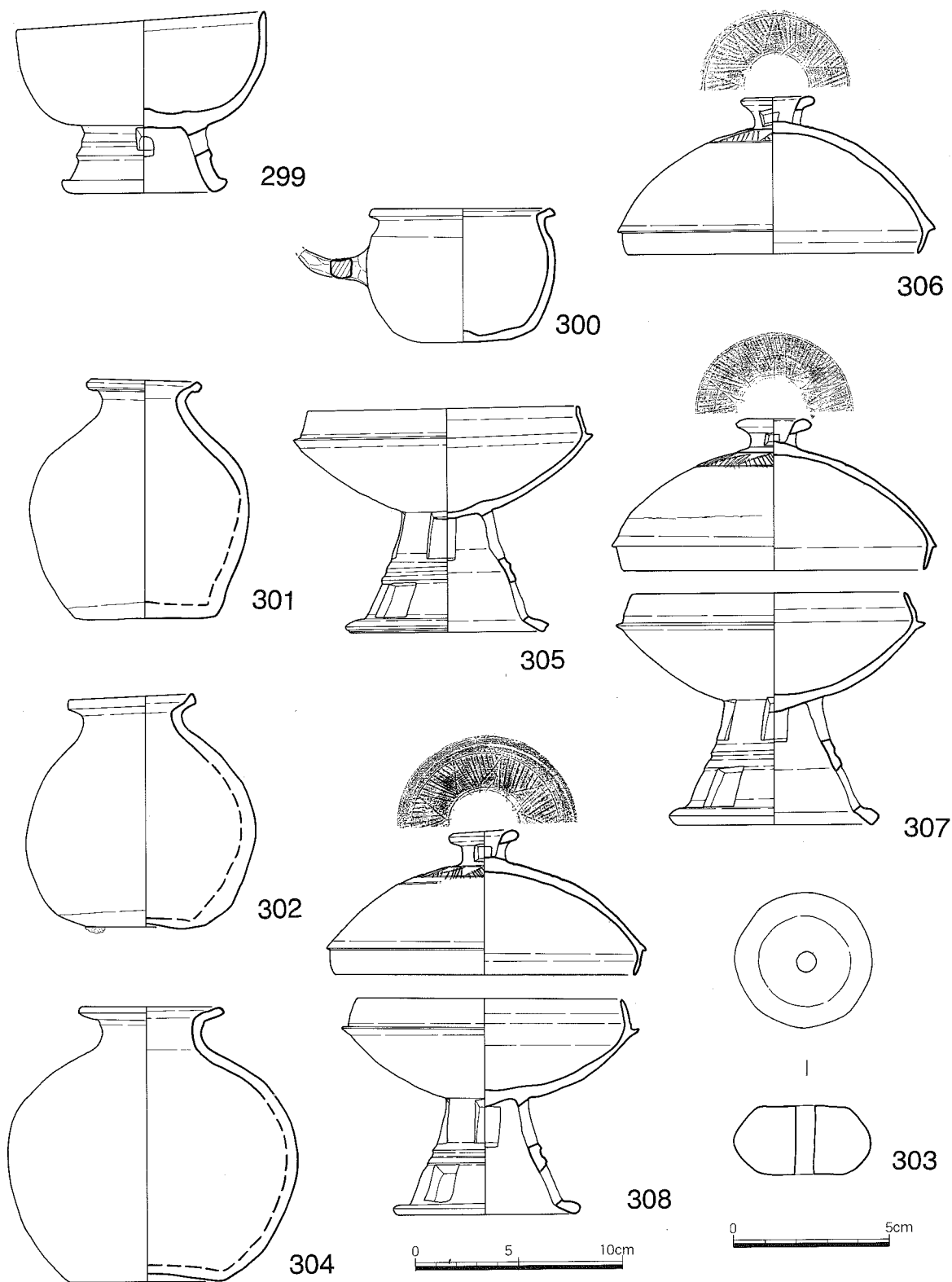
圖面 94. 26號 出土遺物 < 279~281 :1/4, 282~284 :1/3 >



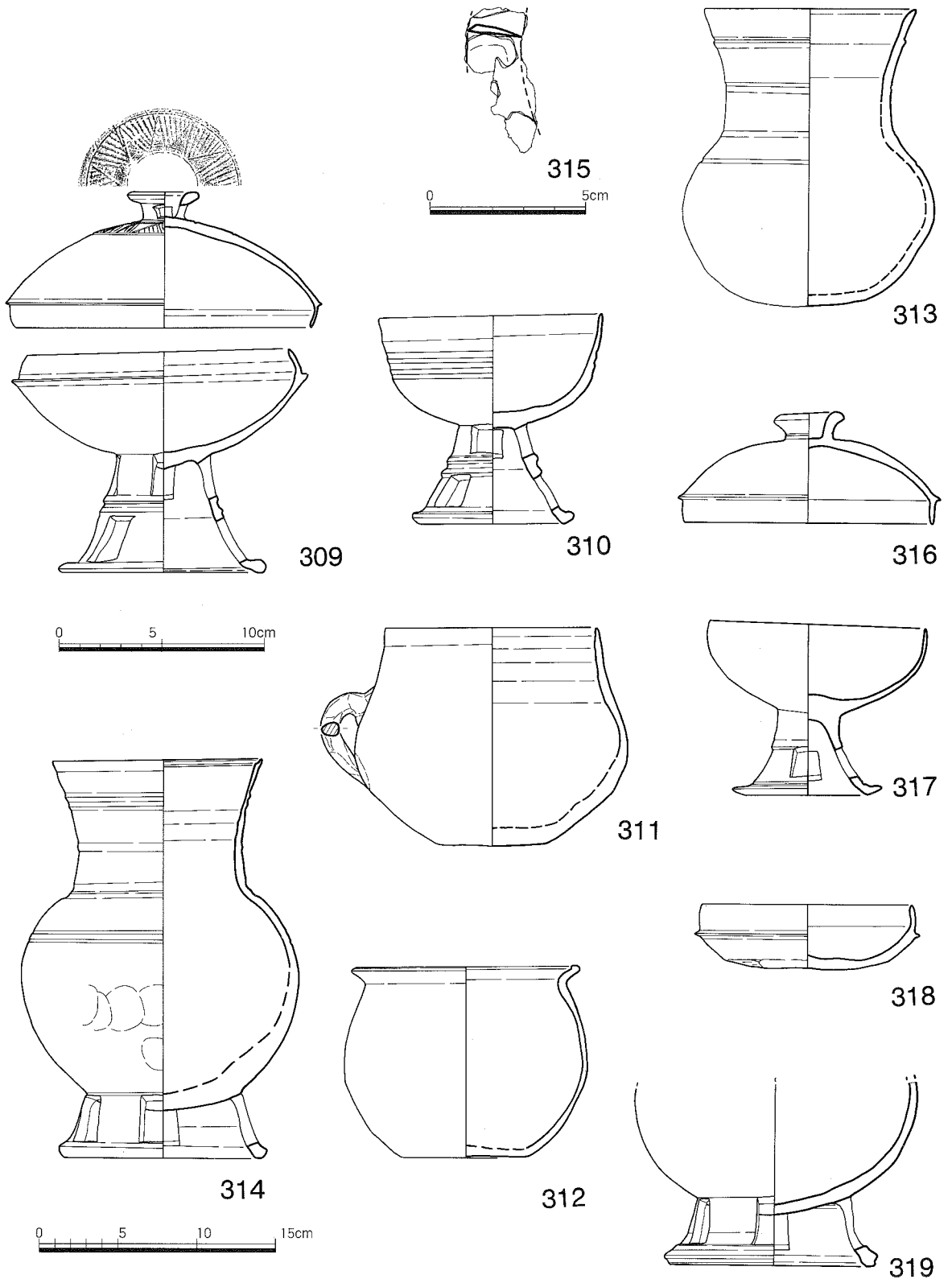


圖面 95. 26號(285~290), 27號(291~298) 出土遺物

< 285 · 286 : 1/5, 287~289 : 1/2, 290 : 1/1, 291~298 : 1/3 >

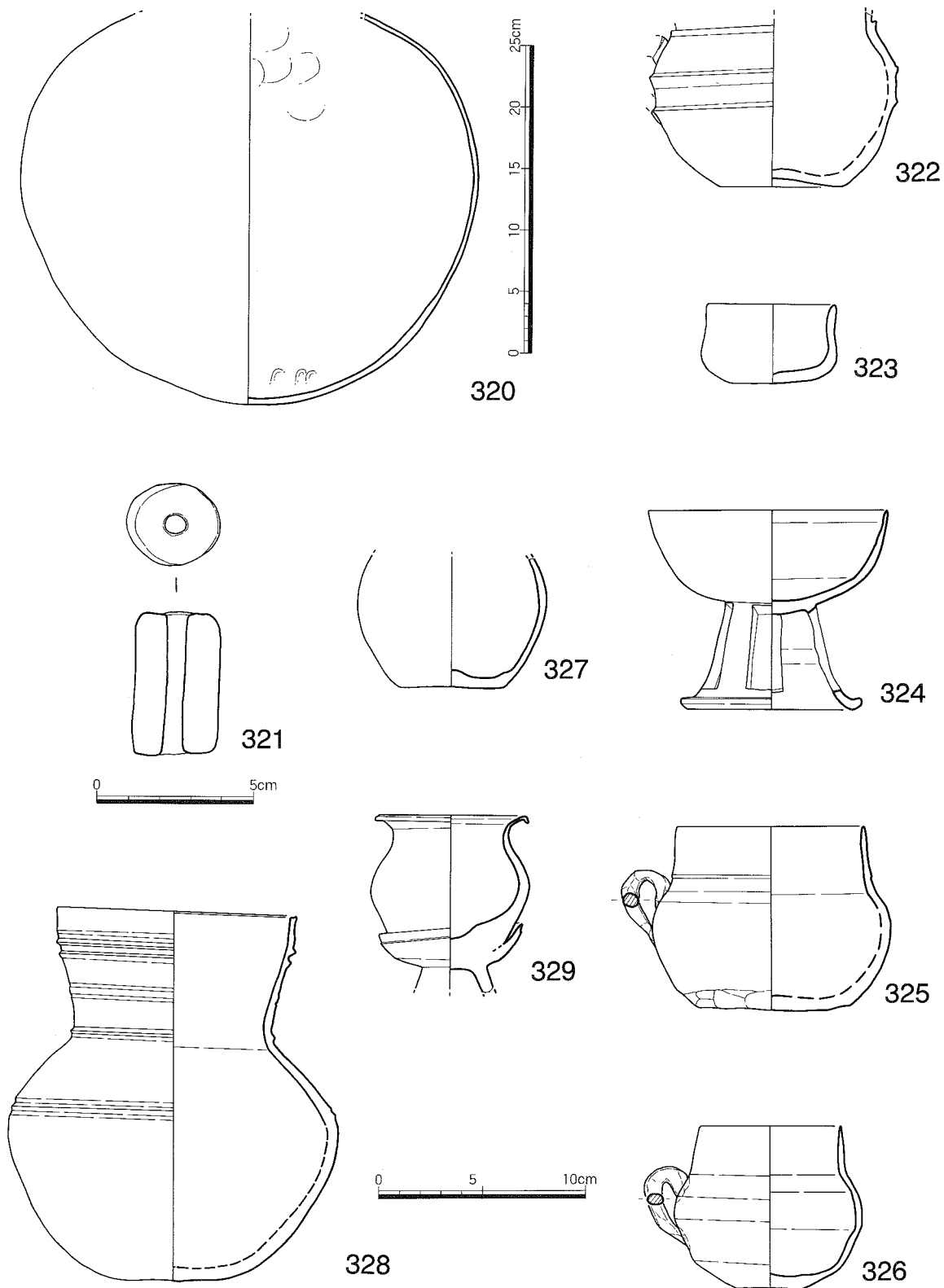


圖面 96. 28號(299~303), 29號(304), 30號(305~308) 出土遺物  
 < 299~302,304~308 :1/3, 303 :1/2 >

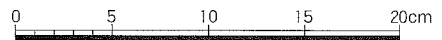
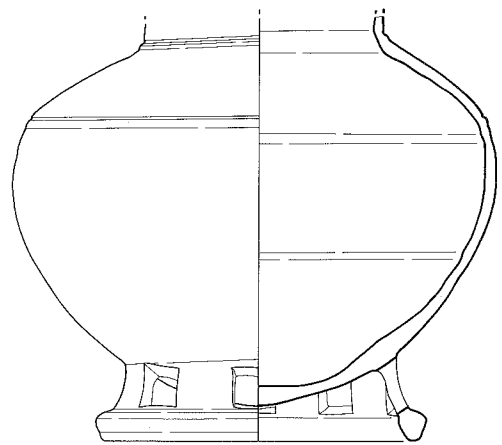
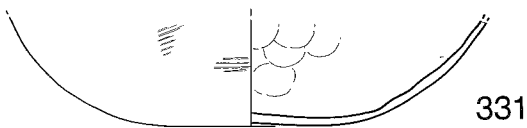
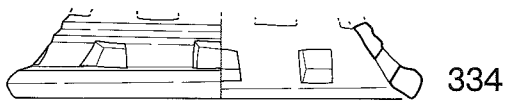
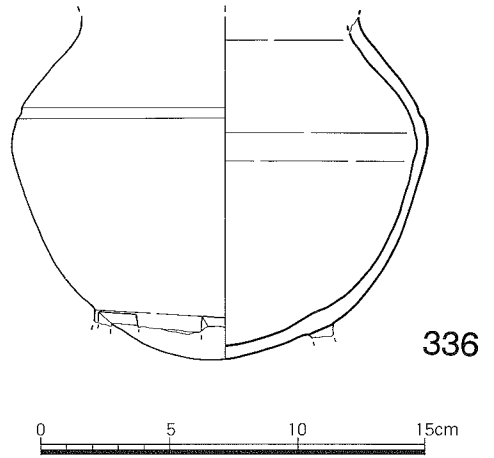
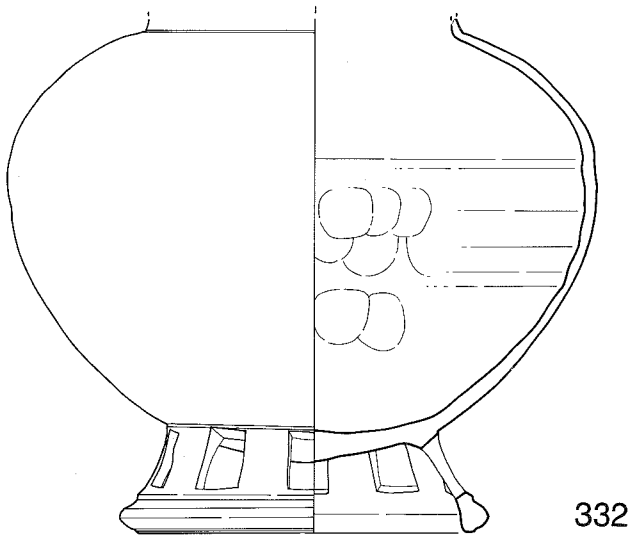
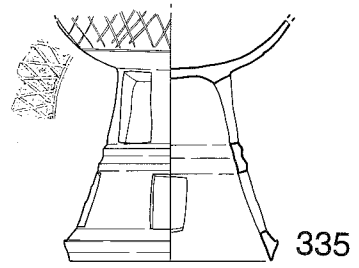
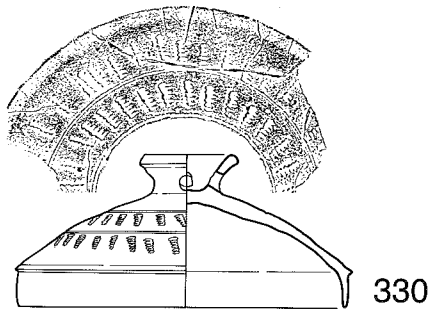


圖面 97. 30號(309~315, 교란 316~319) 出土遺物

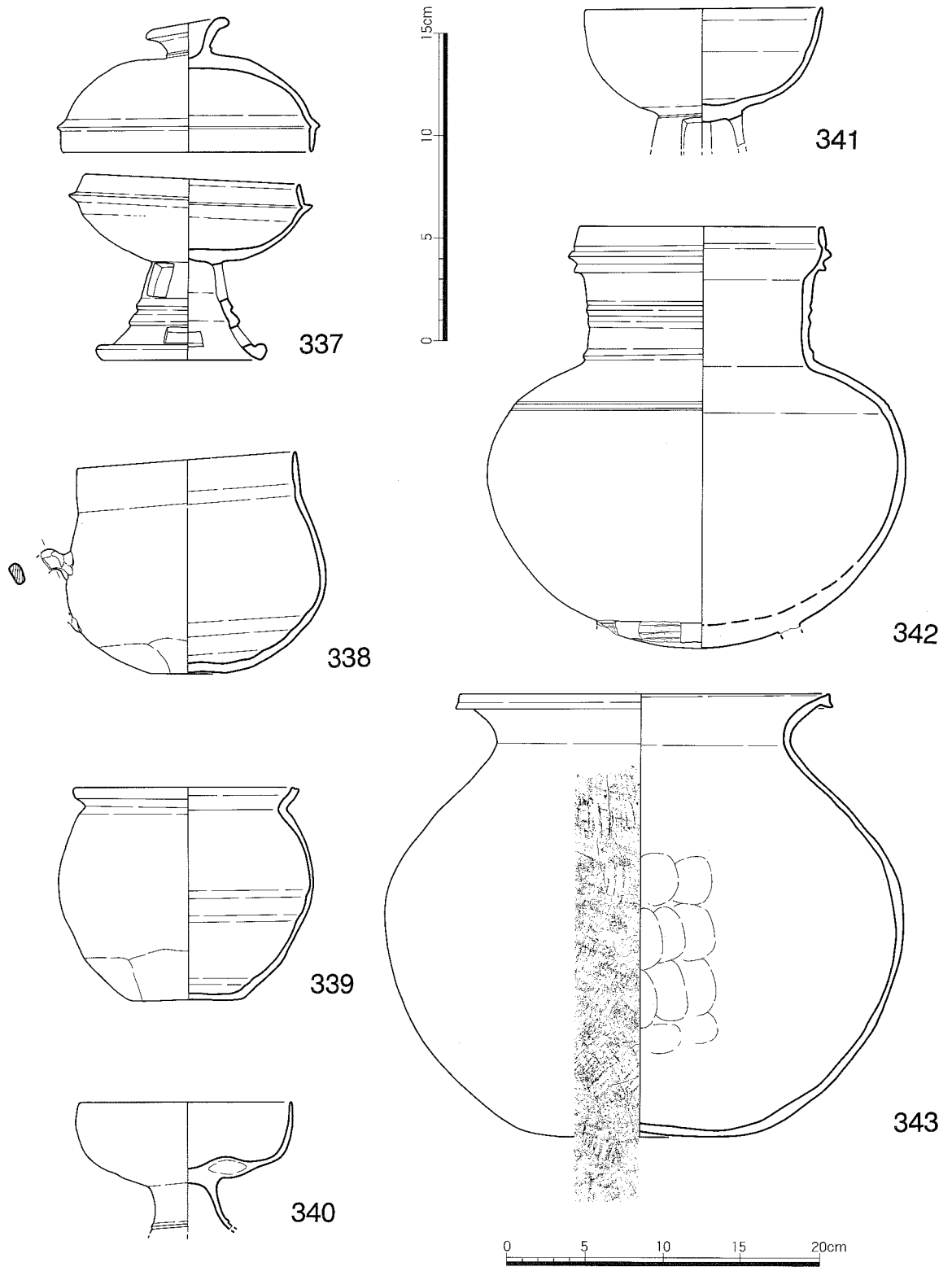
< 309~313,316~319 :1/3, 314 :1/4, 315 :1/2 >



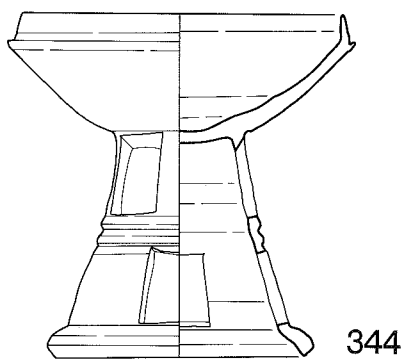
圖面 98. 30號(교란 320·321, 周邊 322·323), 31號(324~328, 周邊 329) 出土遺物  
 < 320 :1/5, 321 :1/2, 322~329 :1/3 >



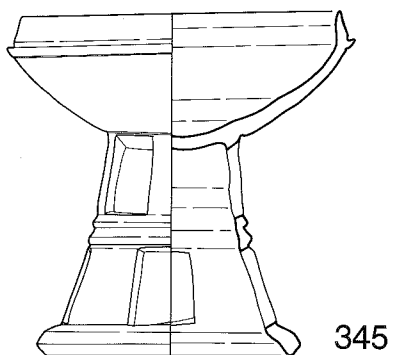
圖面 99. 32號(330~334, 周邊 335·336) < 330·332·334 :1/3, 331 :1/5, 333 :1/4 >



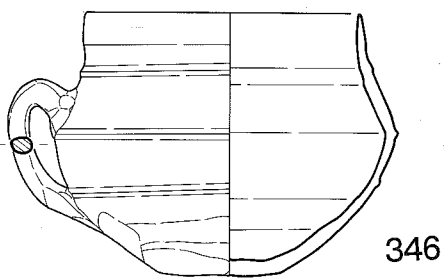
圖面 100. 33號(337~339, 周邊 340·341), 34號(342·343) 出土遺物  
 〈 337~342 :1/3, 343 :1/4 〉



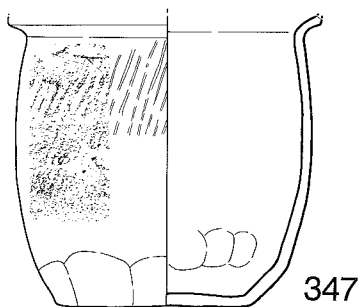
344



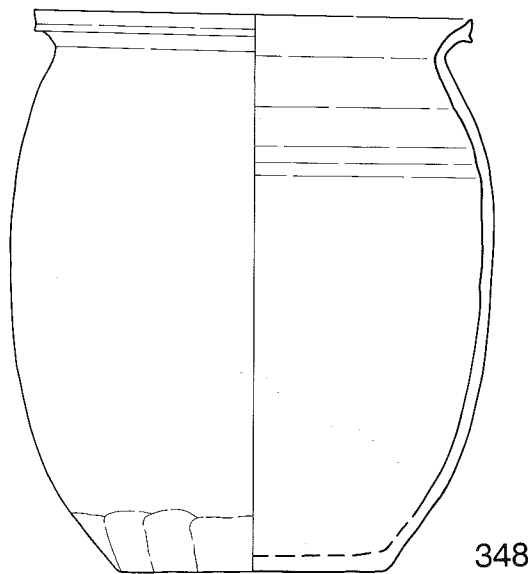
345



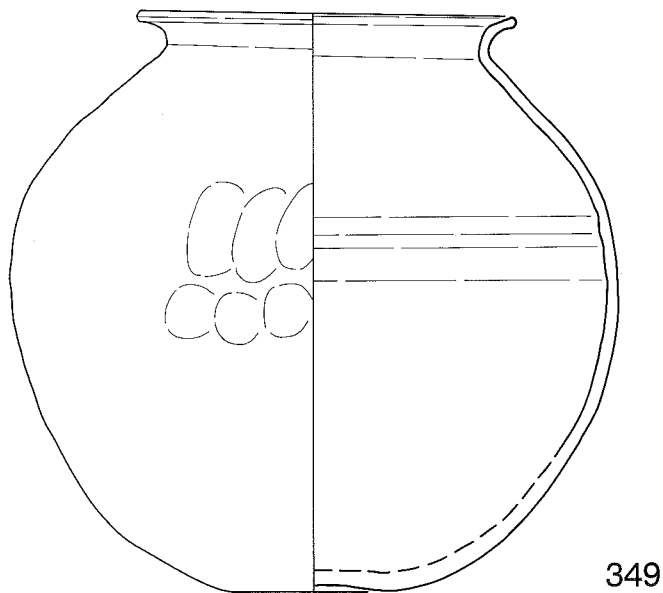
346



347



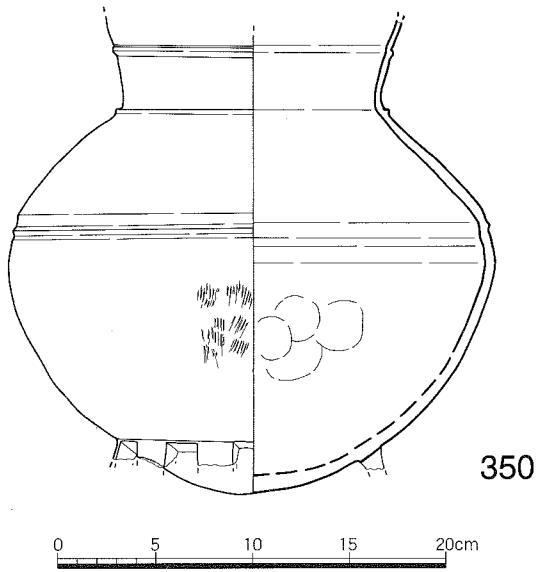
348



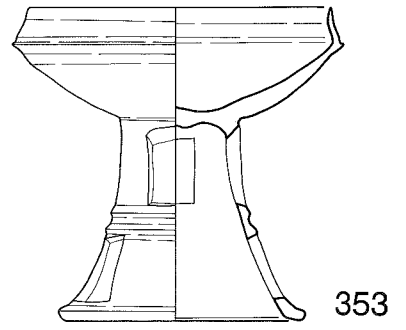
349



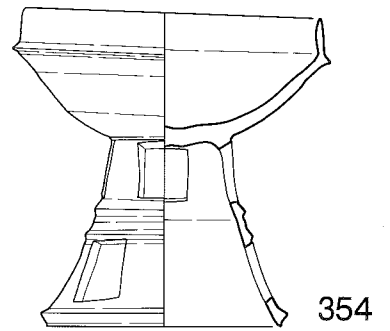
圖面 101. 35號 出土遺物 < 1/3 >



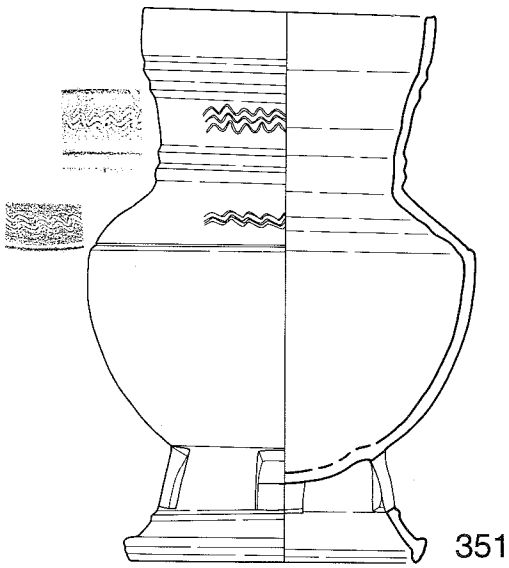
350



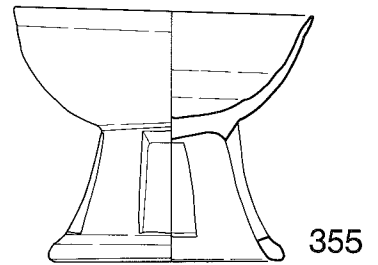
353



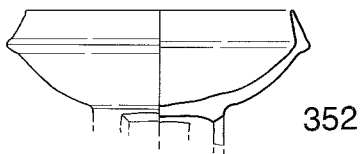
354



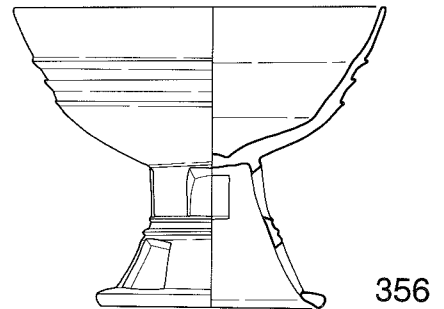
351



355



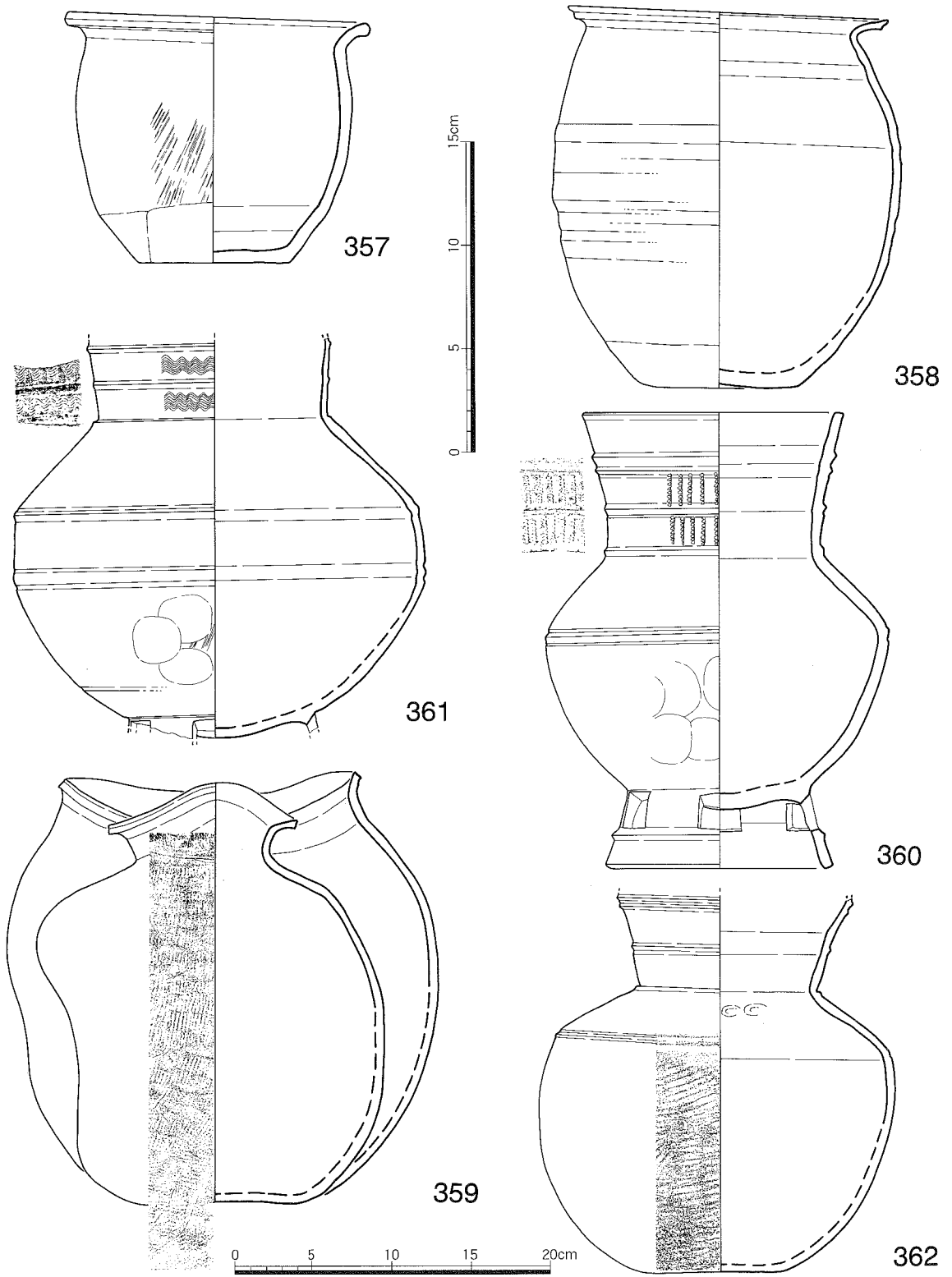
352



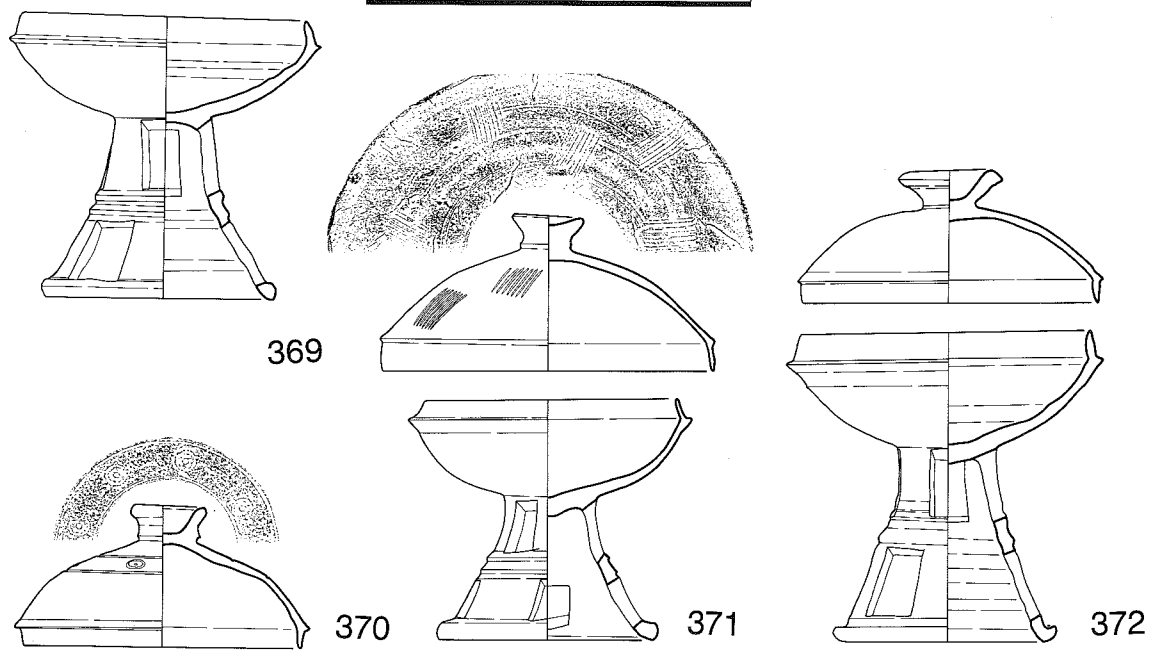
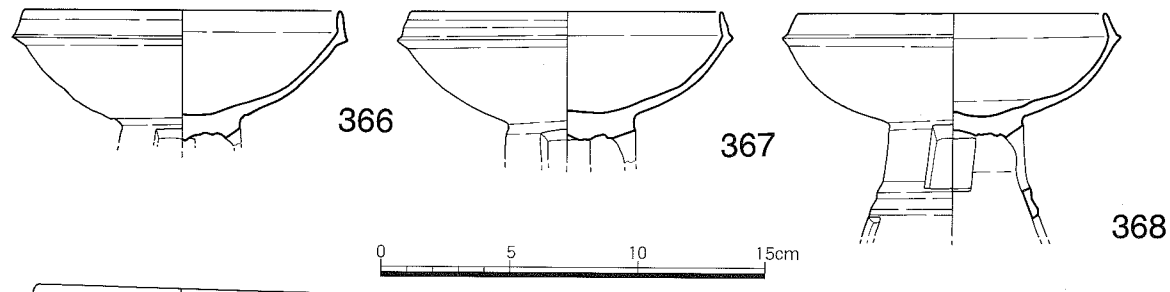
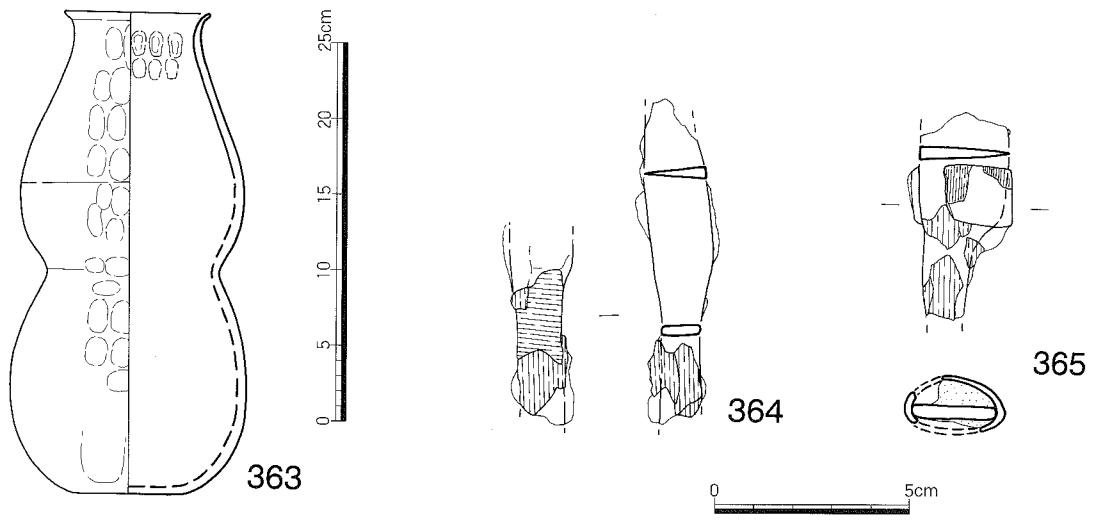
356

圖面 102. 35號(350・351), 36號(352~356) 出土遺物 < 350 :1/4, 351~356 :1/3 >

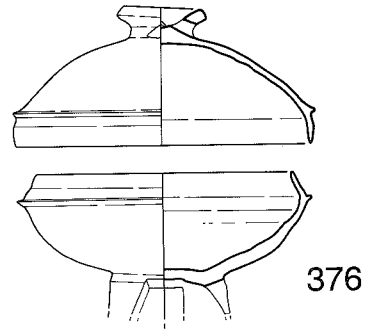
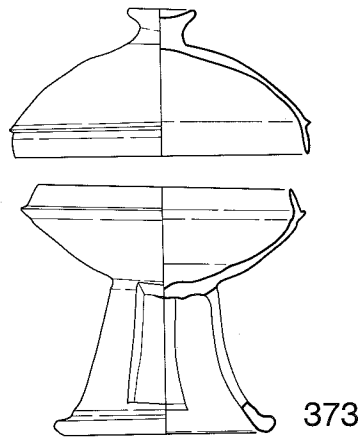




圖面 103. 36號 出土遺物 < 357 · 358 · 360 · 361 :1/3, 359 · 362 :1/4 >

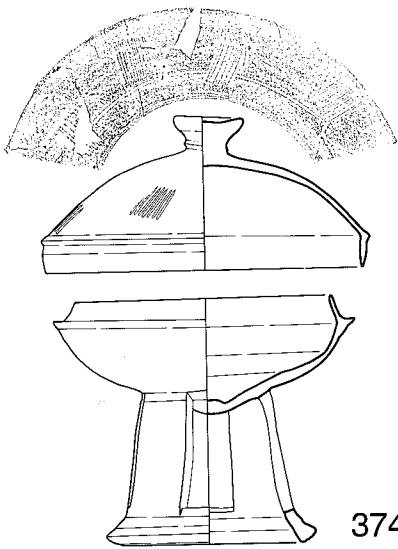


圖面 104. 36號(363~365), 37號(366~372) 出土遺物  
 < 363 :1/5, 364·365 :1/2, 366~372 :1/3 >

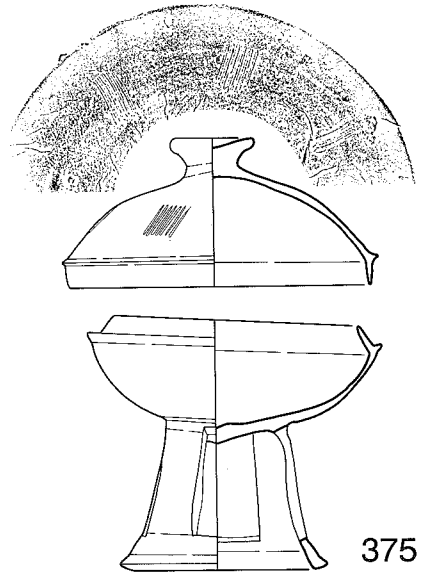


376

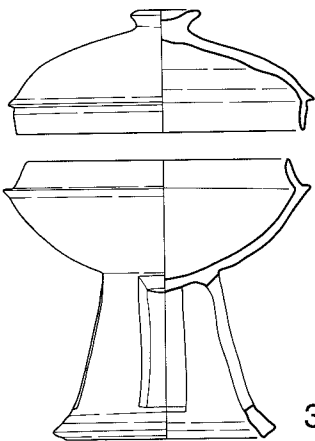
373



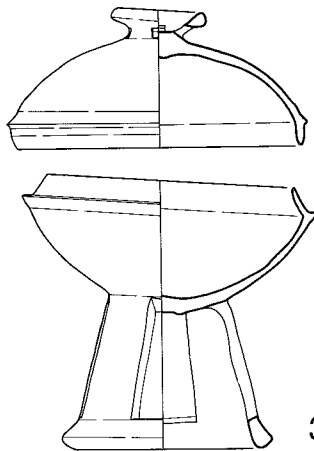
374



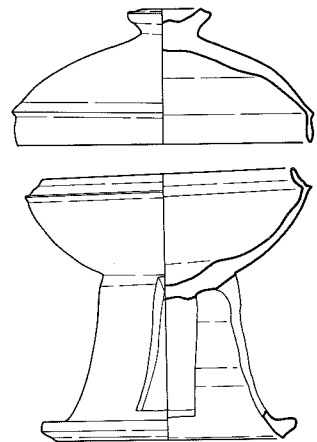
375



377

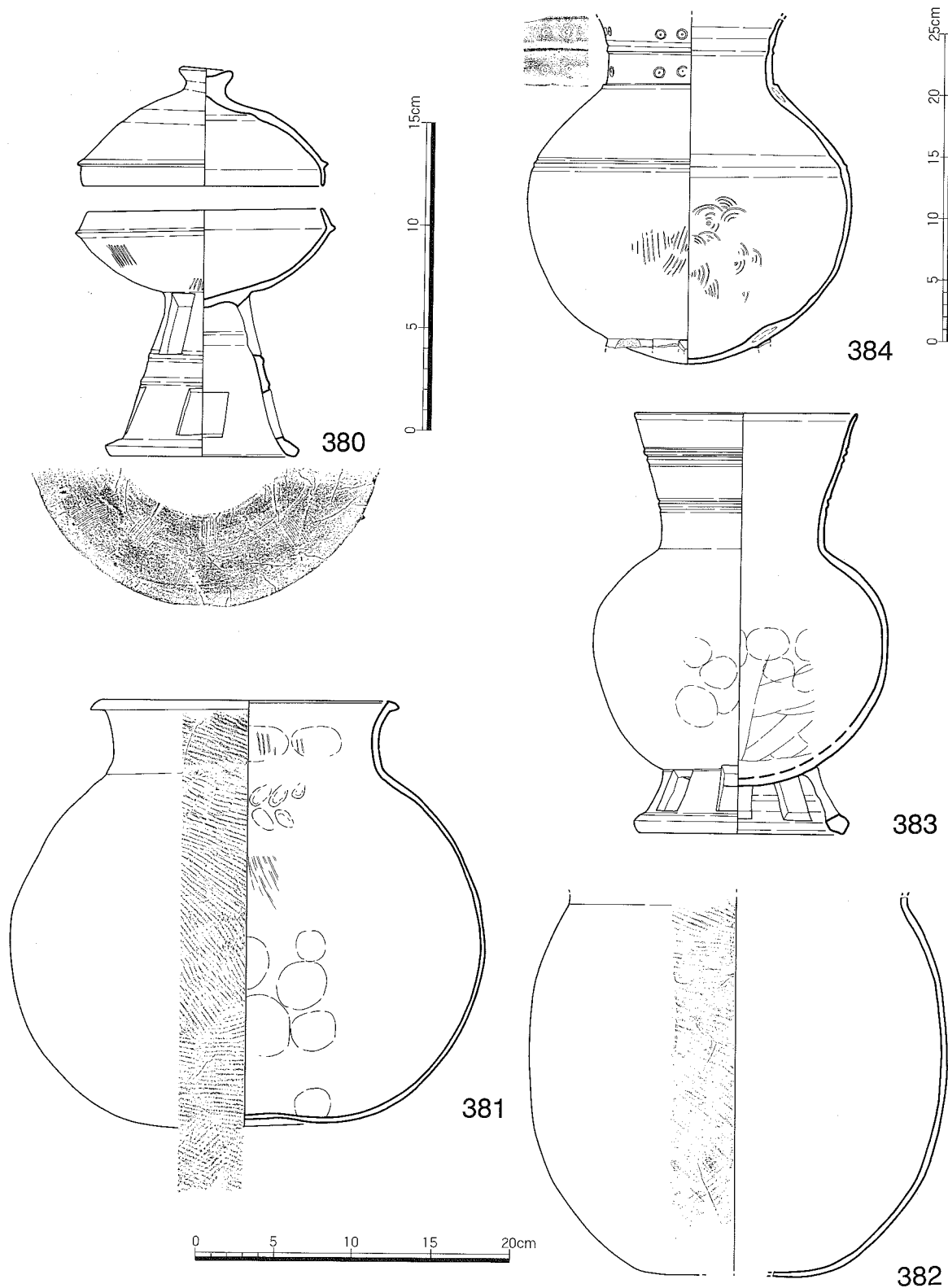


378

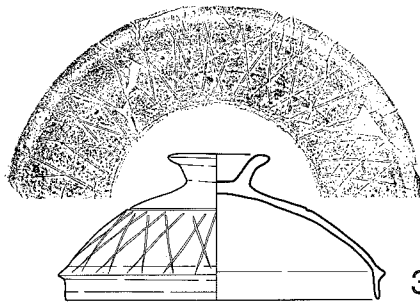


379

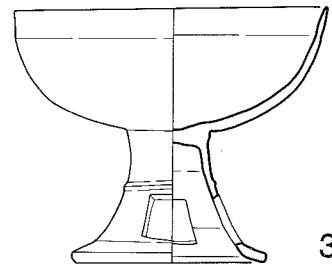
圖面 105. 37號 出土遺物 < 1/3 >



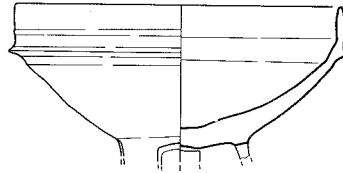
圖面 106. 37號 出土遺物 < 380 :1/3, 381~383 :1/4, 384 :1/5 >



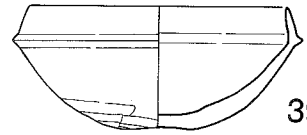
387



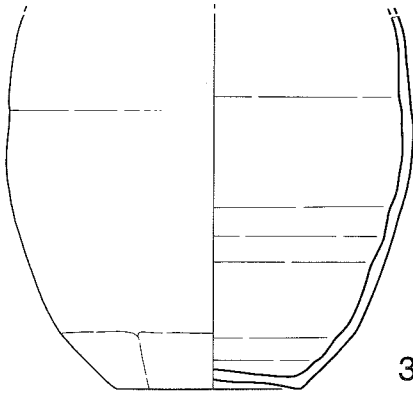
388



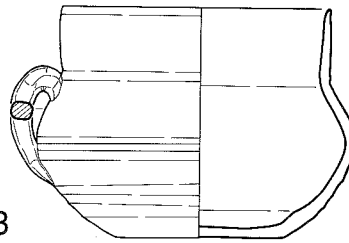
389



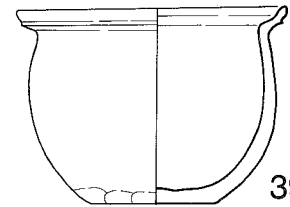
391



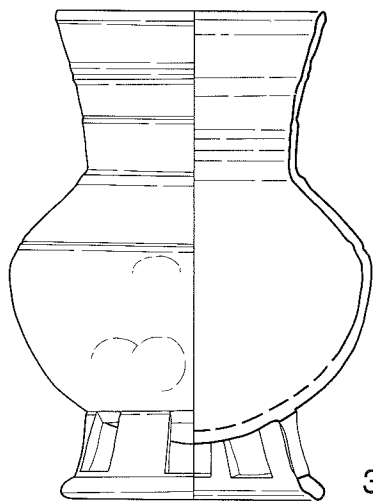
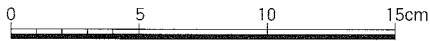
393



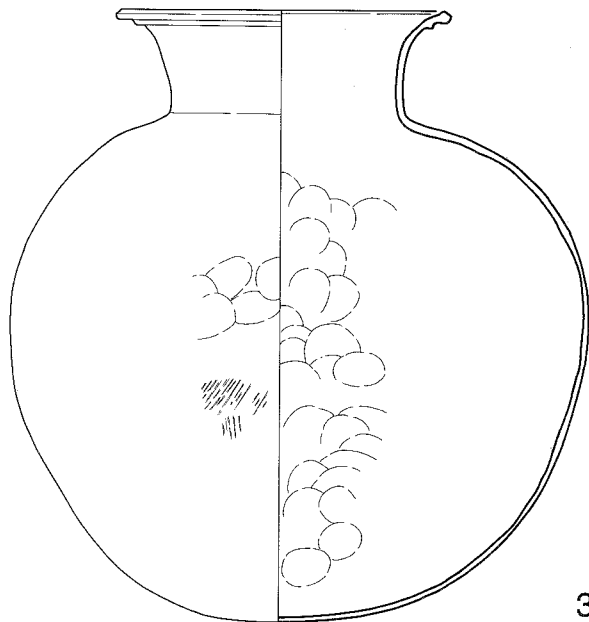
390



392



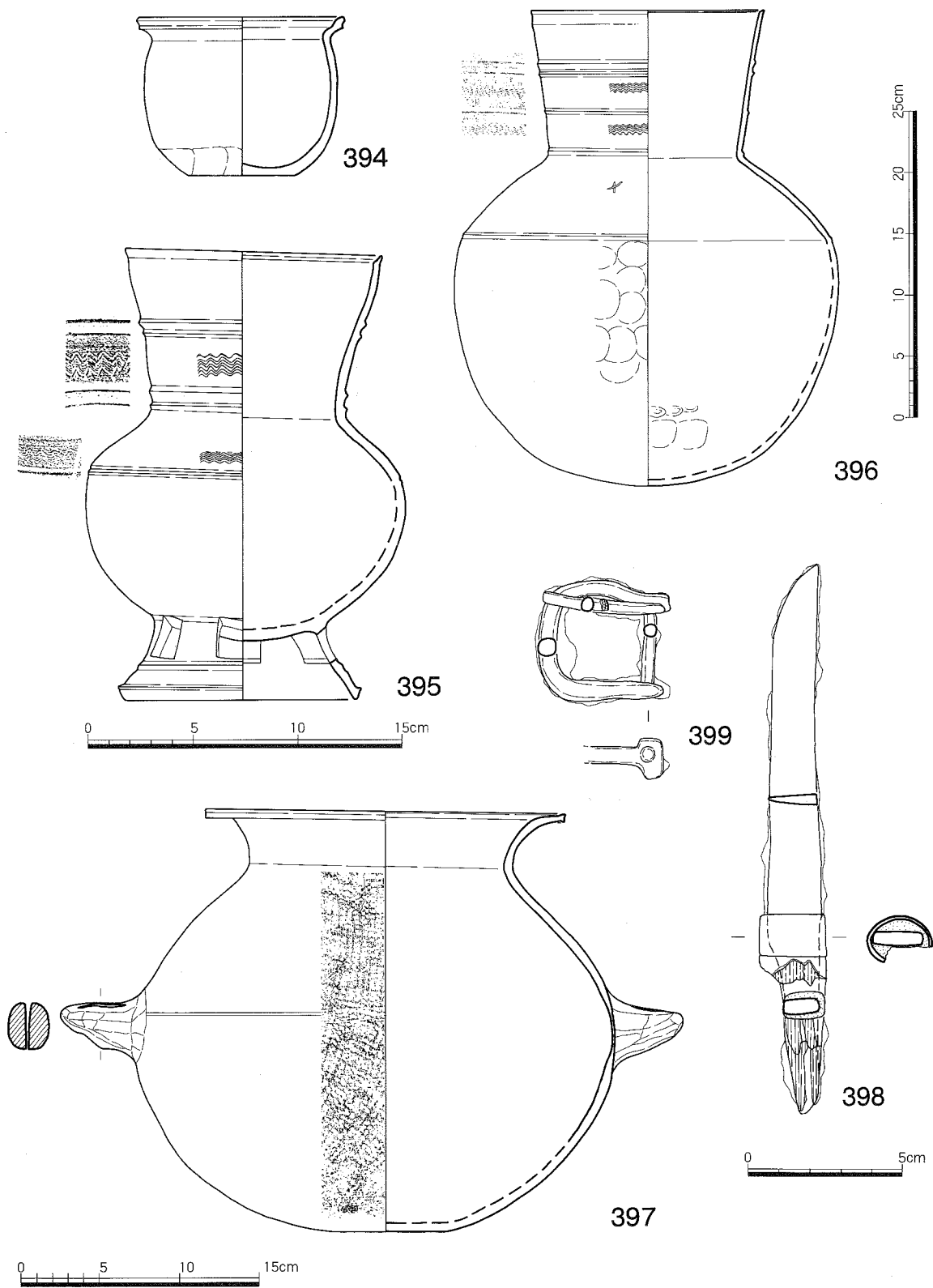
385



386

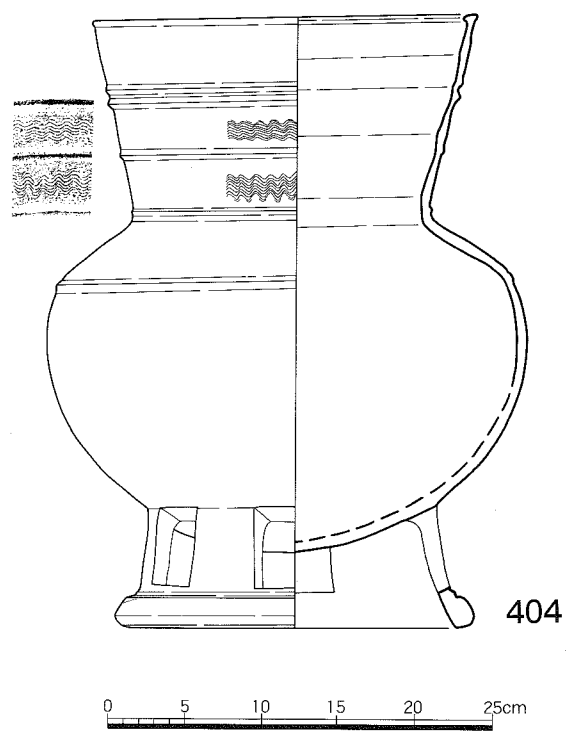
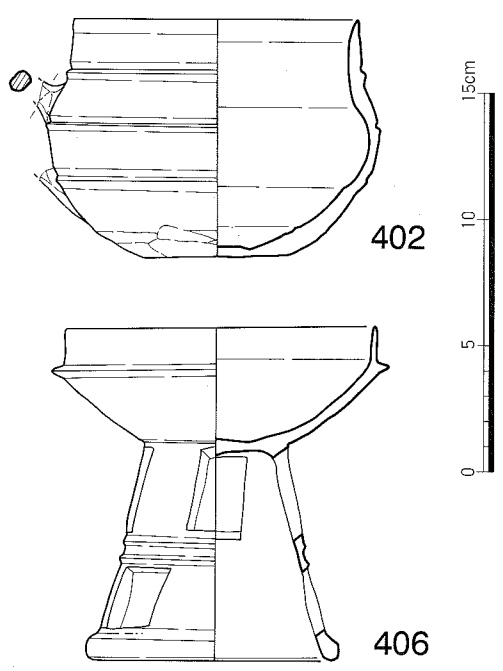
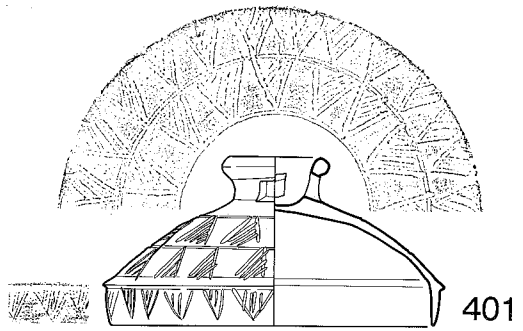
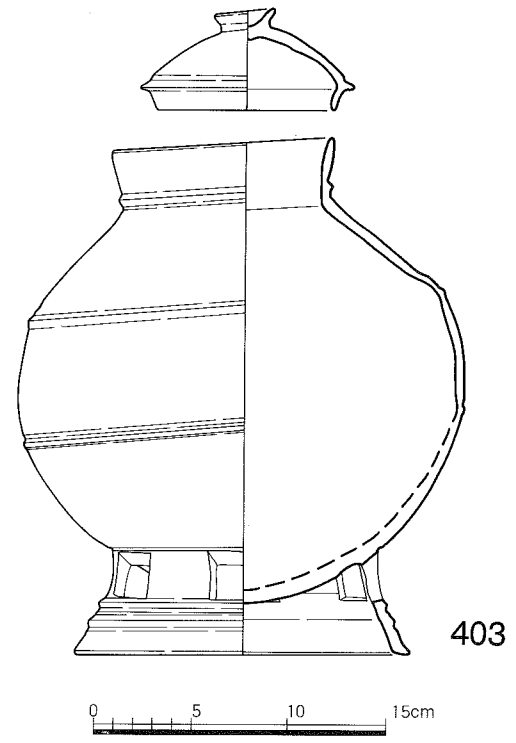
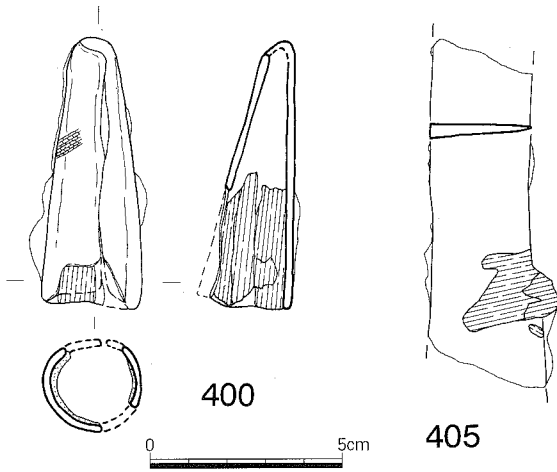


圖面 107. 37號(385 · 386, 교란 387), 38號(388), 39號(389~393) 出土遺物  
 < 385 : 1/4, 386 : 1/5, 387~393 : 1/3 >

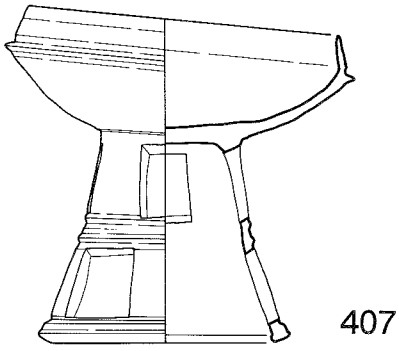


圖面 108. 39號(394~397), 40號(398·399) 出土遺物

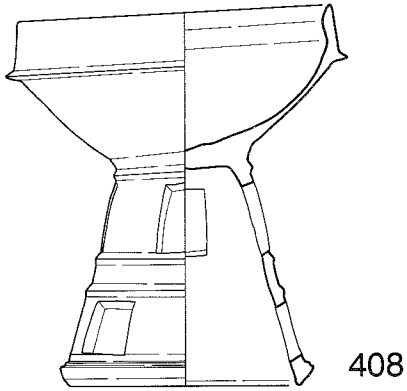
< 394·395 :1/3, 396 :1/5, 397 :1/4, 398·399 :1/2 >



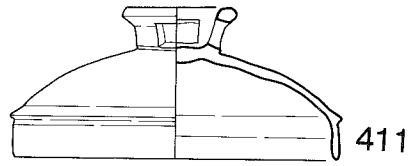
圖面 109. 40號(400), 41號(401~404, 교란 405), 42號(406) 出土遺物  
 〈 400 · 405 : 1/2, 401 · 402 · 406 : 1/3, 403 : 1/4, 404 : 1/5 〉



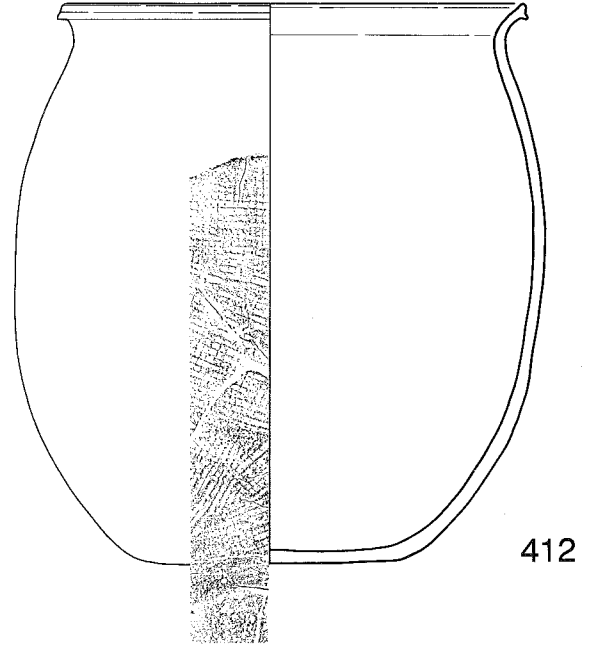
407



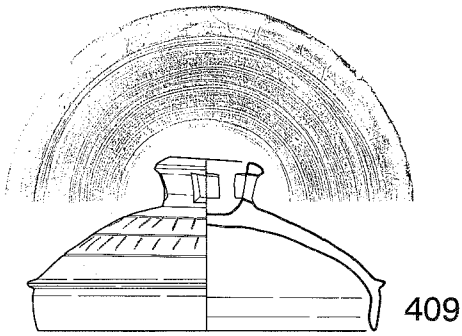
408



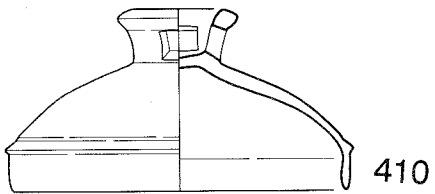
411



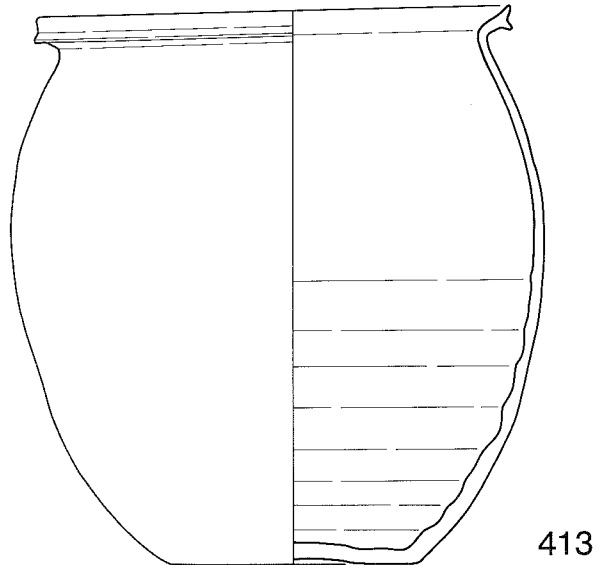
412



409



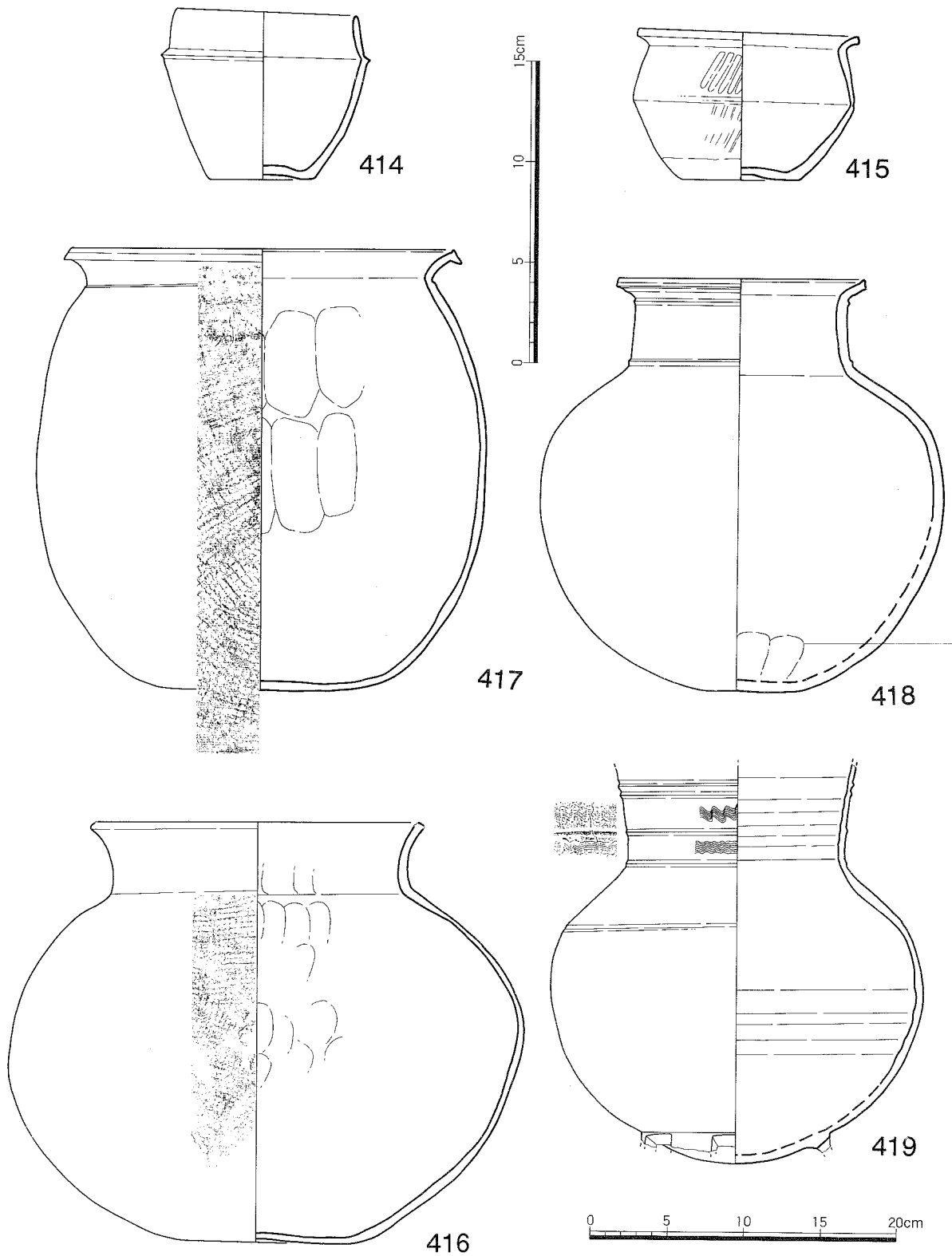
410



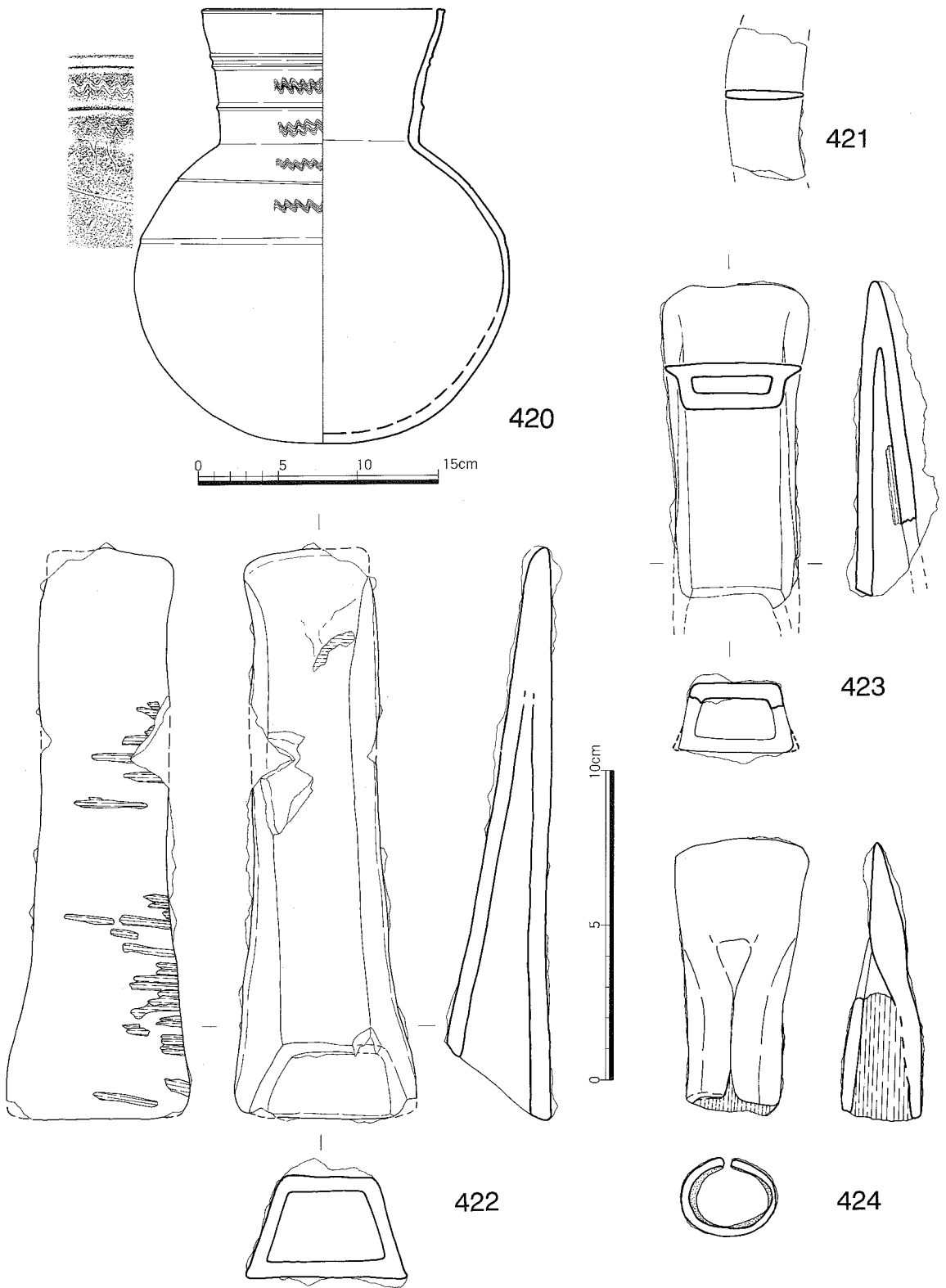
413

圖面 110. 42號 出土遺物 < 1/3 >

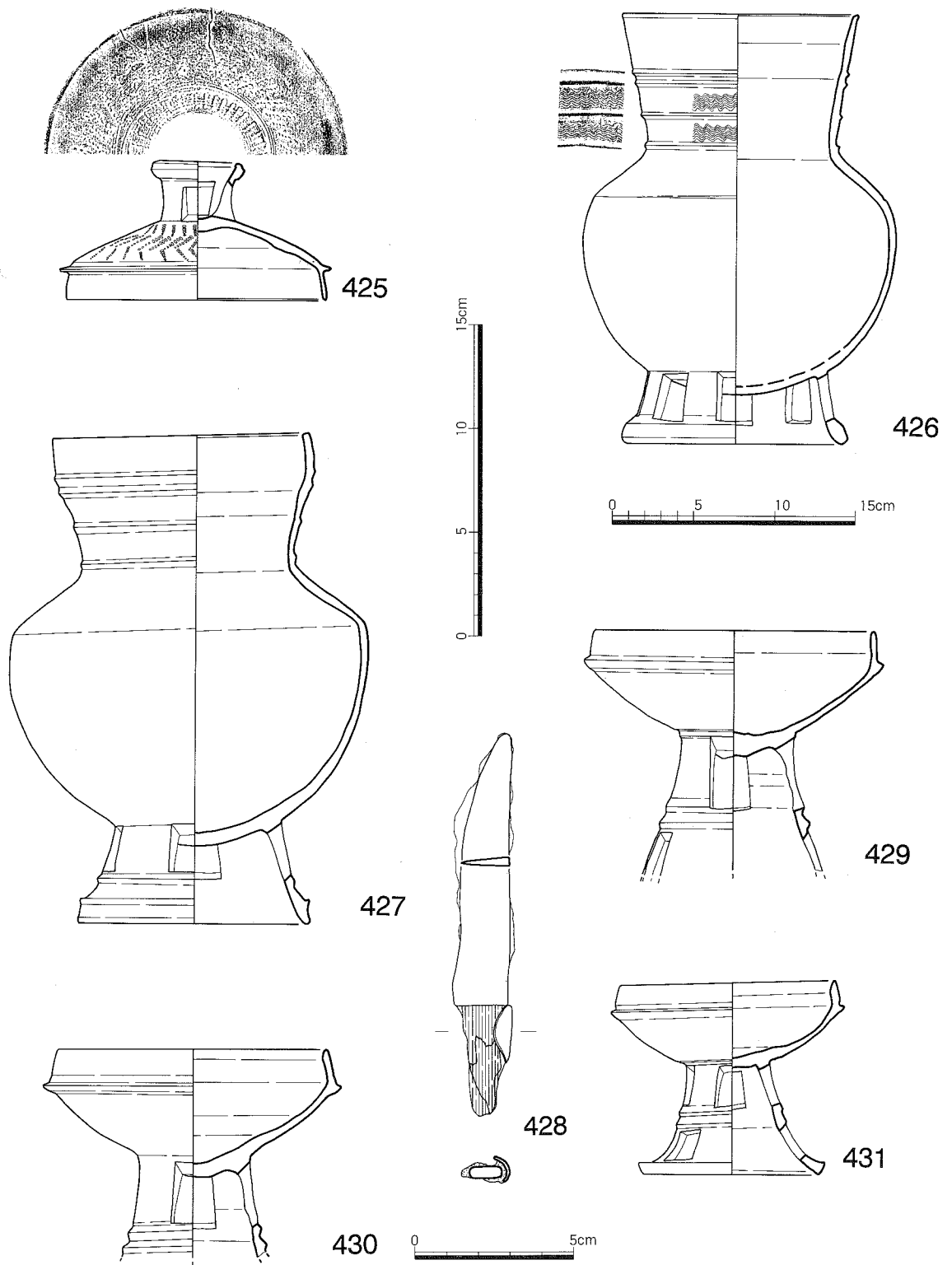




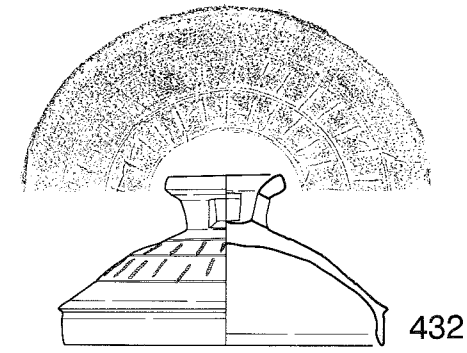
圖面 111. 42號 出土遺物 < 414 · 415 · 417 : 1/3, 416 · 418 · 419 : 1/4 >



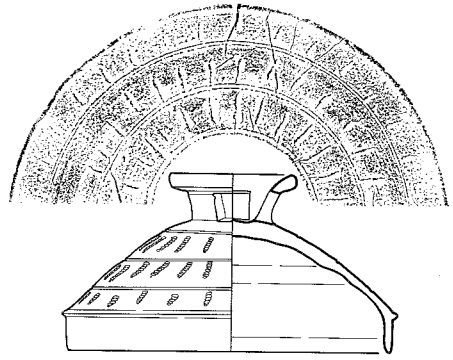
圖面 112. 42號 出土遺物 < 420 :1/4, 421~424 :1/2 >



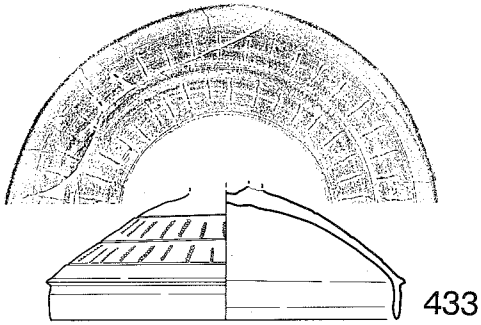
圖面 113. 42號(교란 425~428), 43號(429~431) 出土遺物  
 < 425 · 427 · 429~431 : 1/3, 426 : 1/4, 428 : 1/2 >



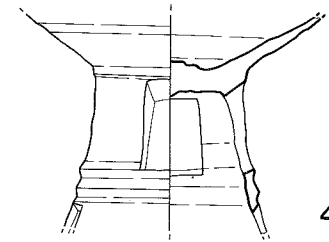
432



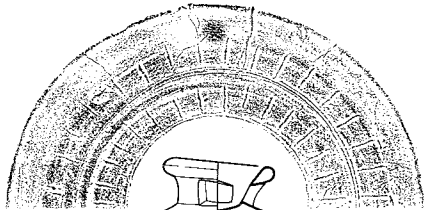
435



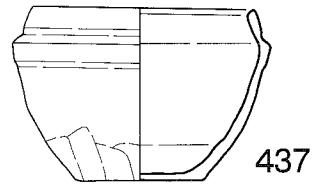
433



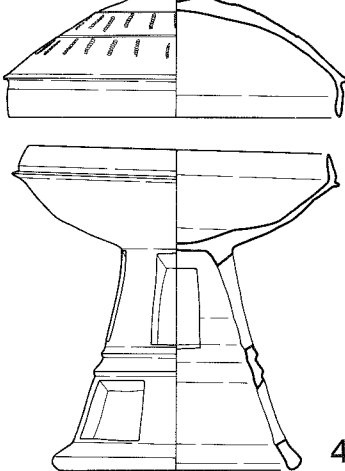
436



434



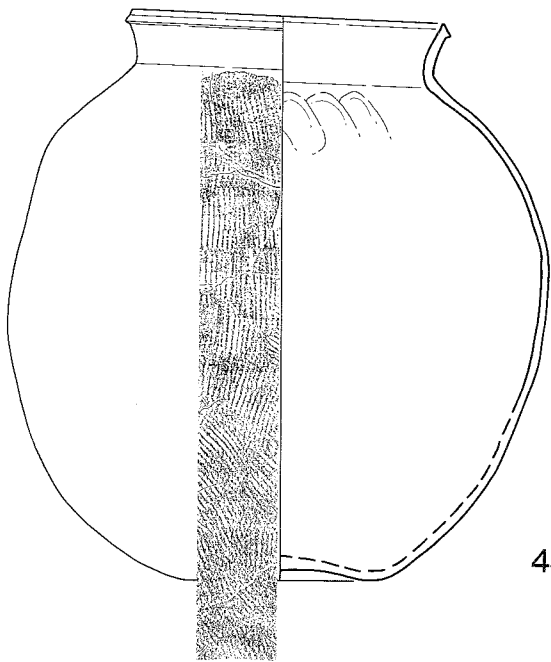
437



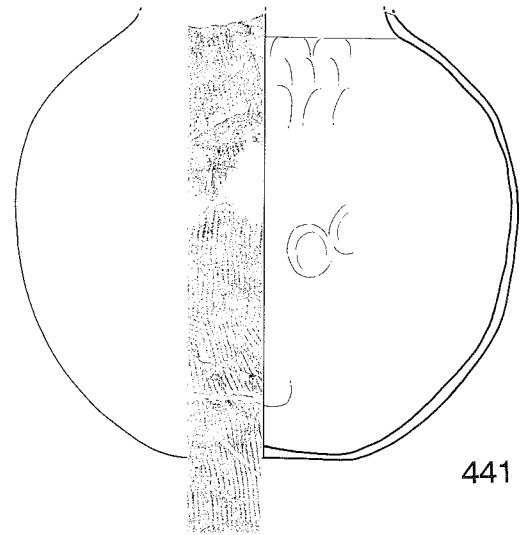
438



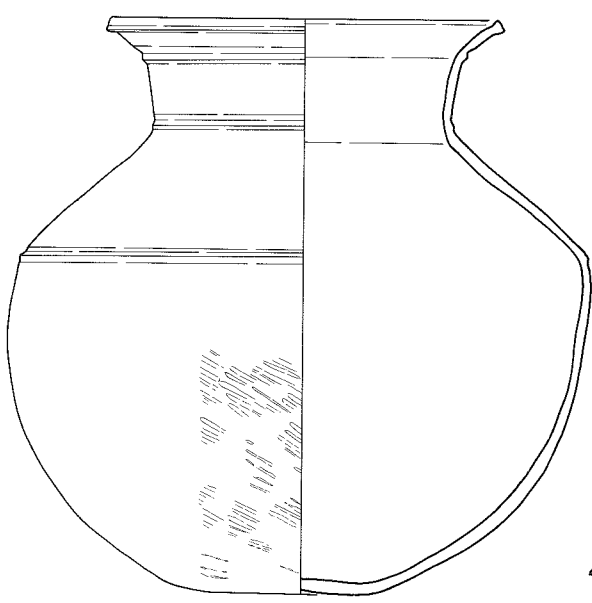
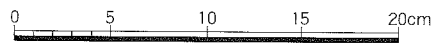
圖面 114. 43號 出土遺物 < 432~437 :1/3, 438 :1/5 >



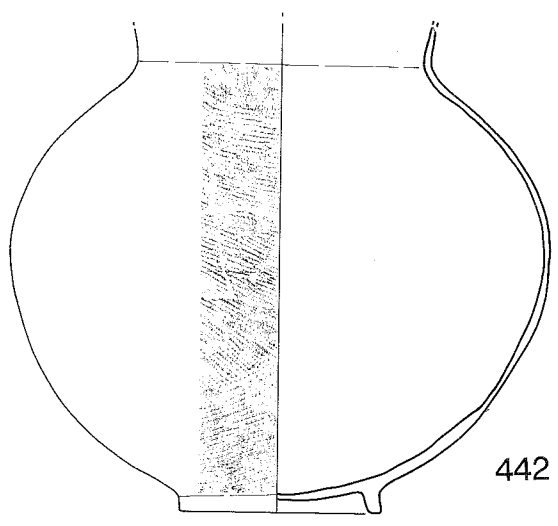
439



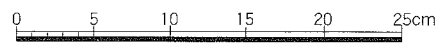
441



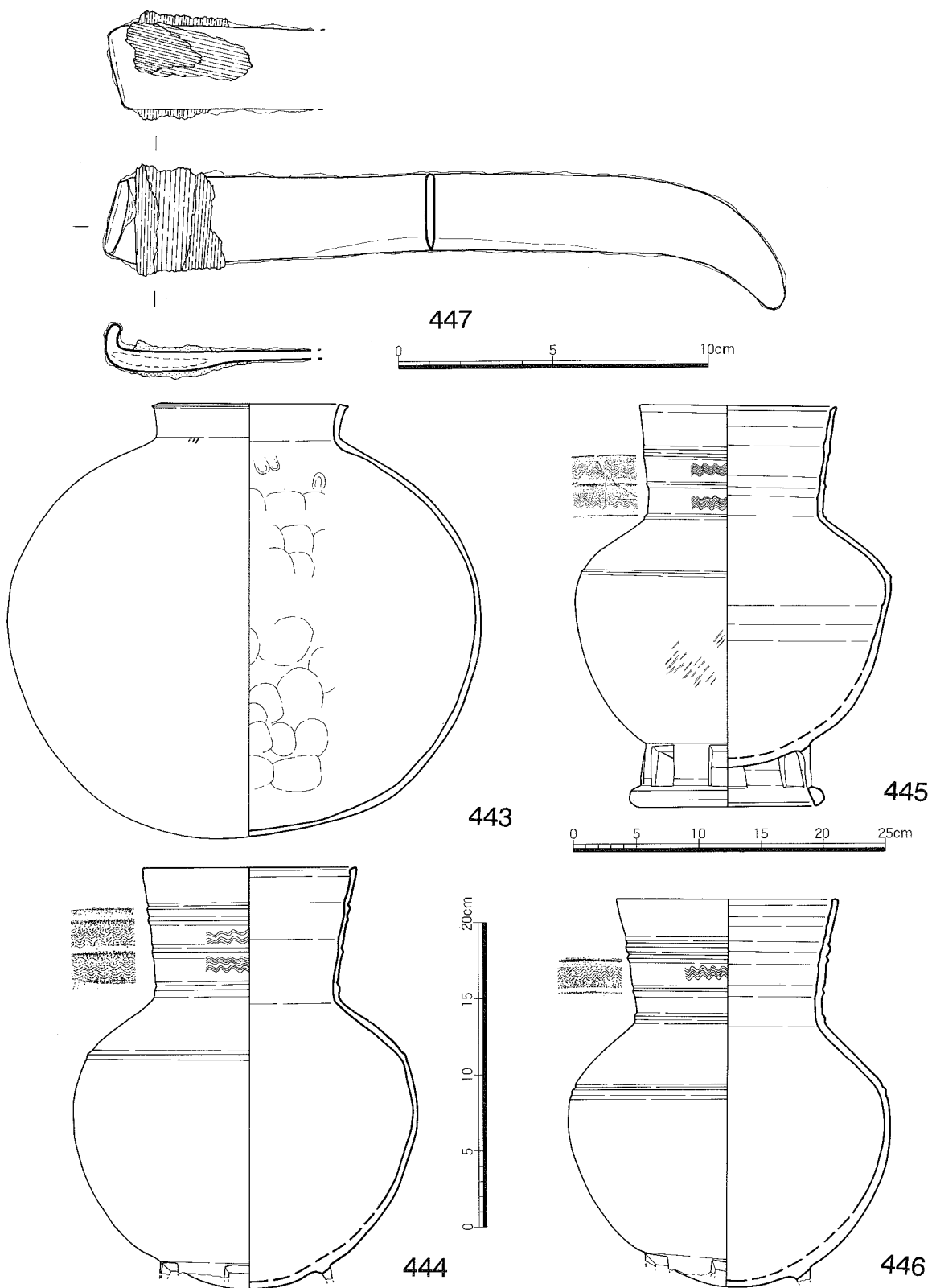
440



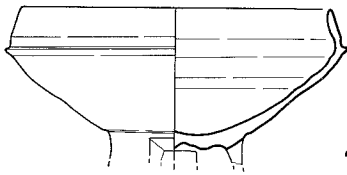
442



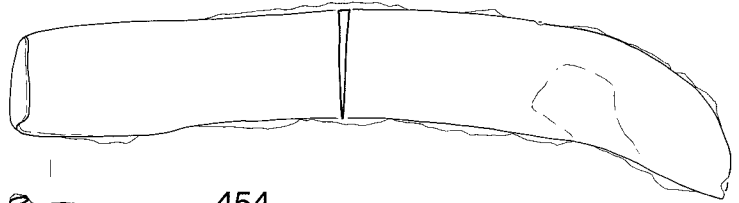
圖面 115. 43號 出土遺物 < 439~441 :1/4, 442 :1/5 >



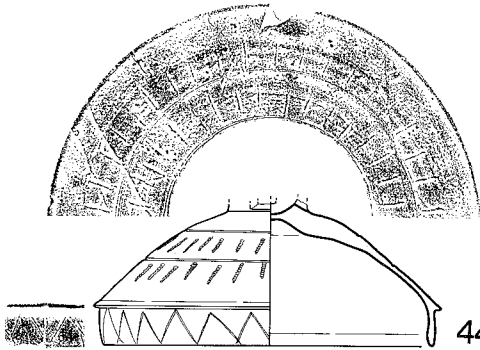
圖面 116. 43號 出土遺物 < 443・445 :1/5, 444・446 :1/4, 447 :1/2 >



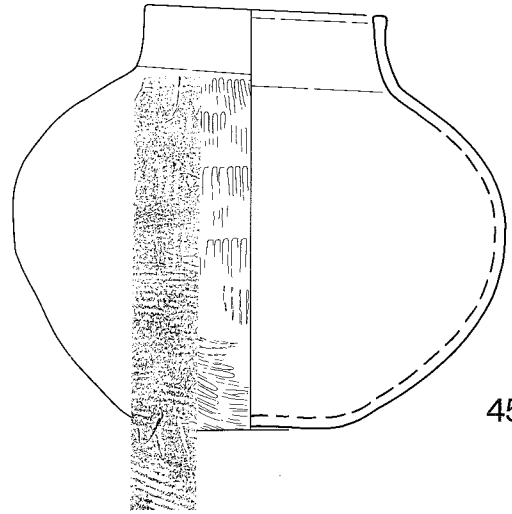
448



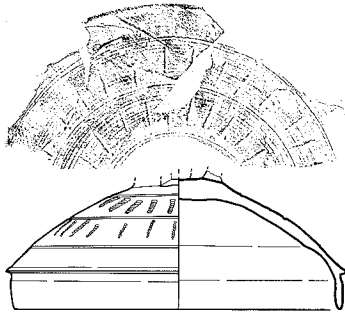
454



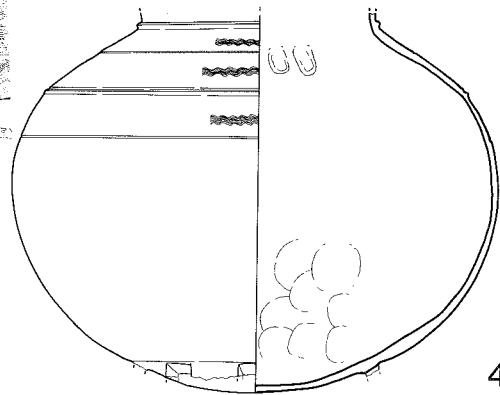
449



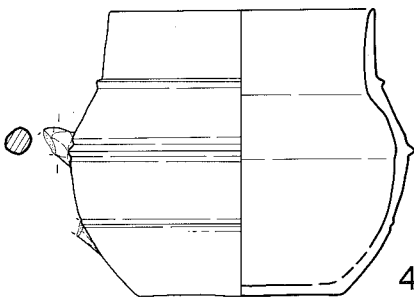
452



450

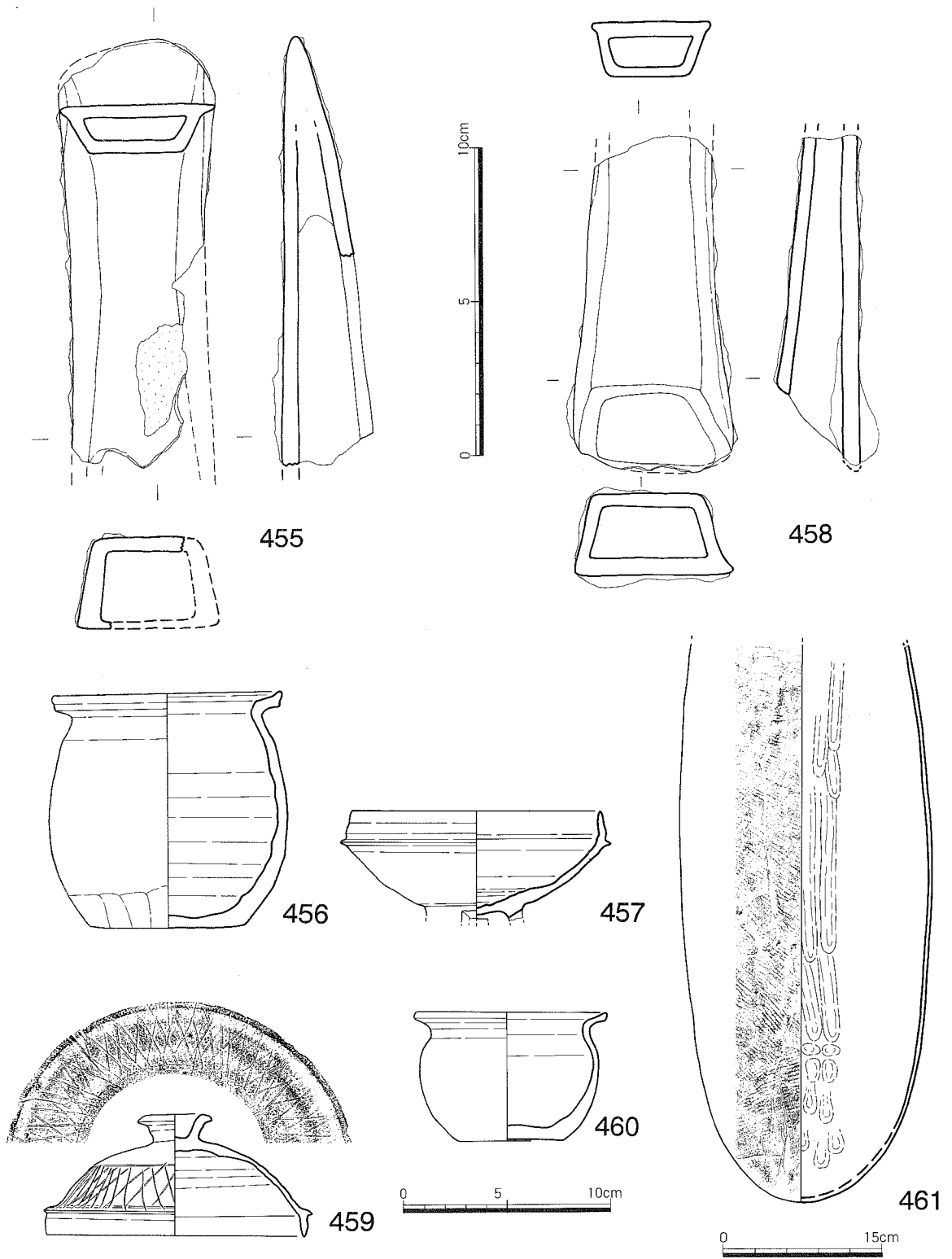


453



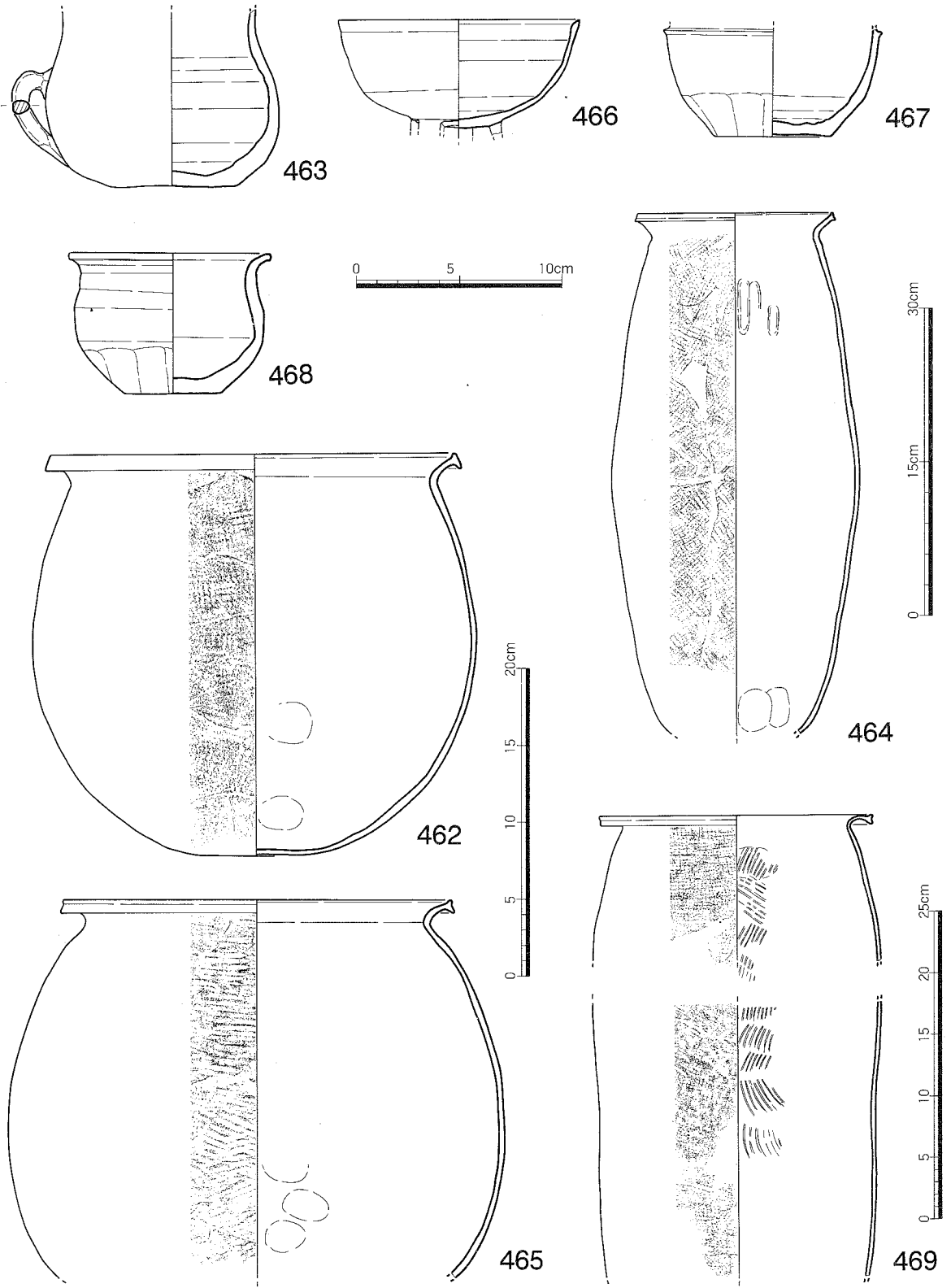
451

圖面 117. 43號(교란 448~450), 44號(451~454) 出土遺物  
< 448~452 :1/3, 453 :1/5, 454 :1/2 >

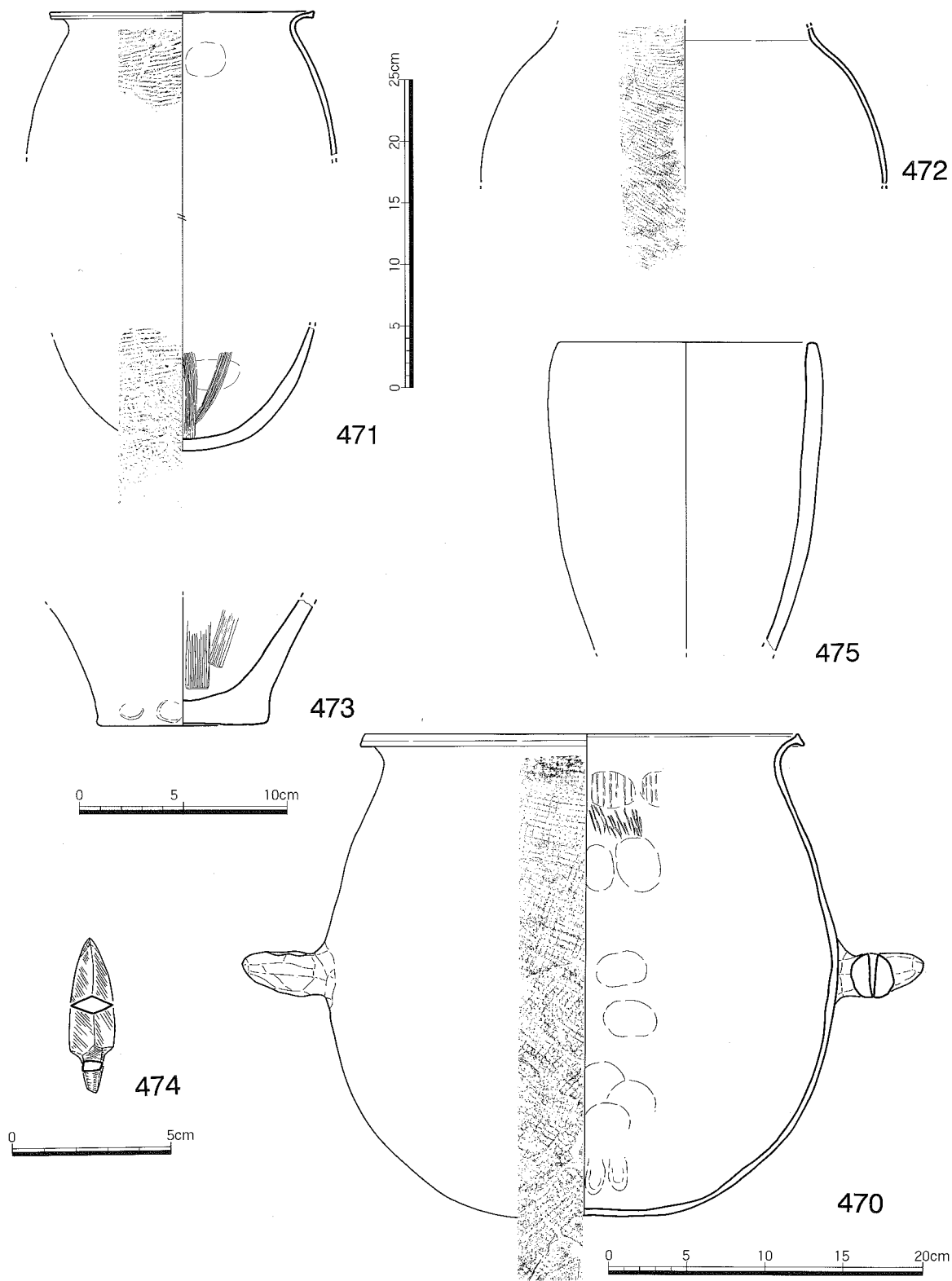


圖面 118. 44號(455, 周邊 456~458), 1號 甕棺(459~461) 出土遺物  
 < 455・458 :1/2, 456・457・459・460 :1/3, 461 :1/6 >

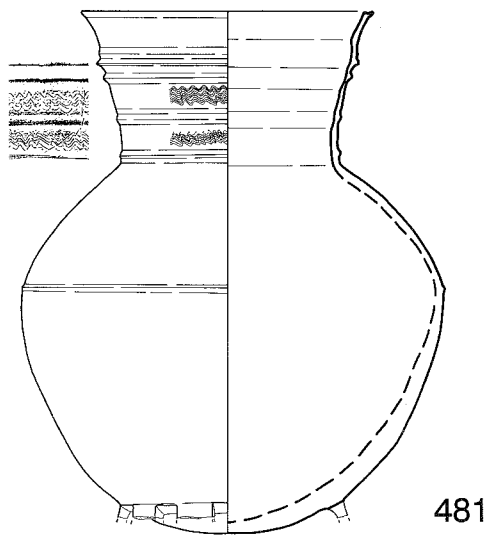
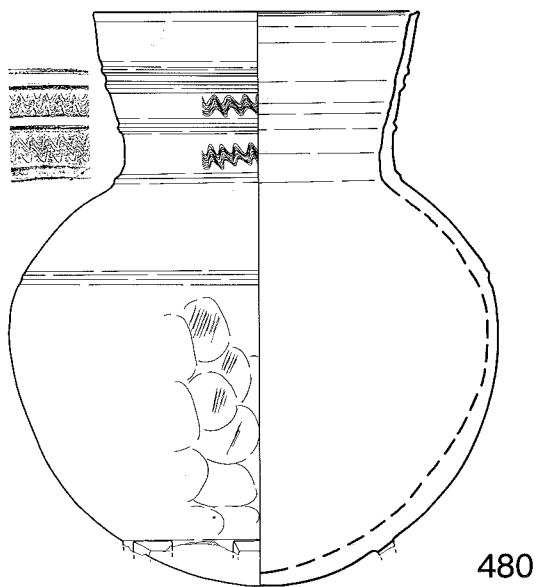
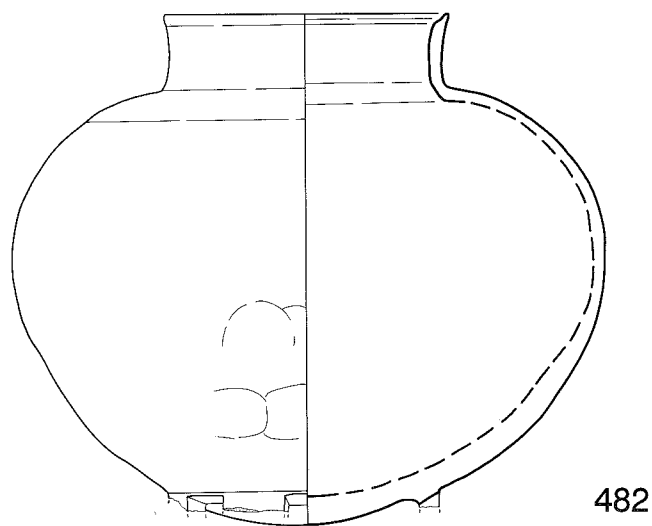
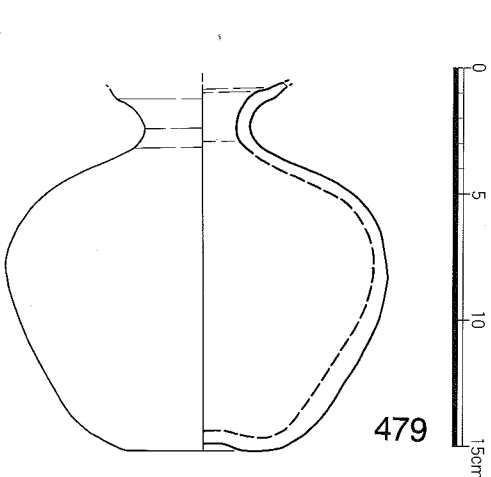
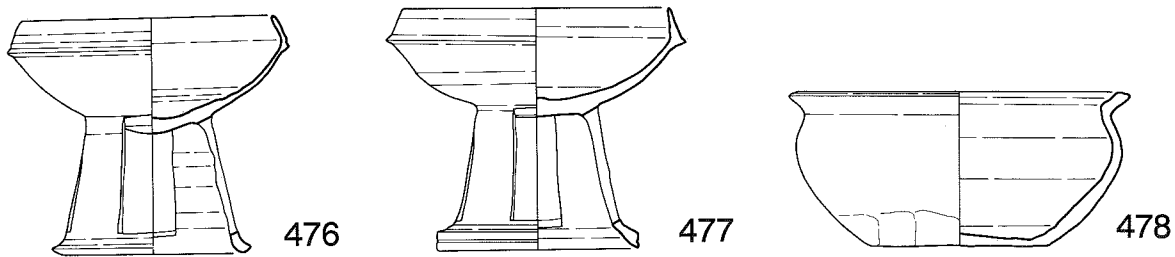




圖面 119. 1號 甕棺(462), 2號 甕棺(463~465), 3號 甕棺(466~469) 出土遺物  
 〈 462・465 :1/4, 464 :1/6, 463・466~468 :1/3, 469 :1/5 〉



圖面 120. 3號 甕棺(470), 4號 甕棺(471・472), 2號 住居址(473・474, 교란 475) 出土遺物  
 < 470 :1/4, 471・472 :1/5, 473・475 :1/3, 474 :1/2 >



圖面 121. 採集遺物 < 476~479,482 :1/3, 480 :1/4, 481 :1/5 >

# 圖 版



圖版 1. 遺蹟 遠景(1)과 近景(2:조사전)



圖版 2. 遺蹟 全景(1:南東, 2:北西)



圖版 3. 遺蹟 近景(1)과 1號와 1-1號 全景(2)





圖版 4. 1號 全景(1)과 遺物出土모습(2), 石室 入口部(3)와 入口部 土層(4), 1-1號 全景(5)





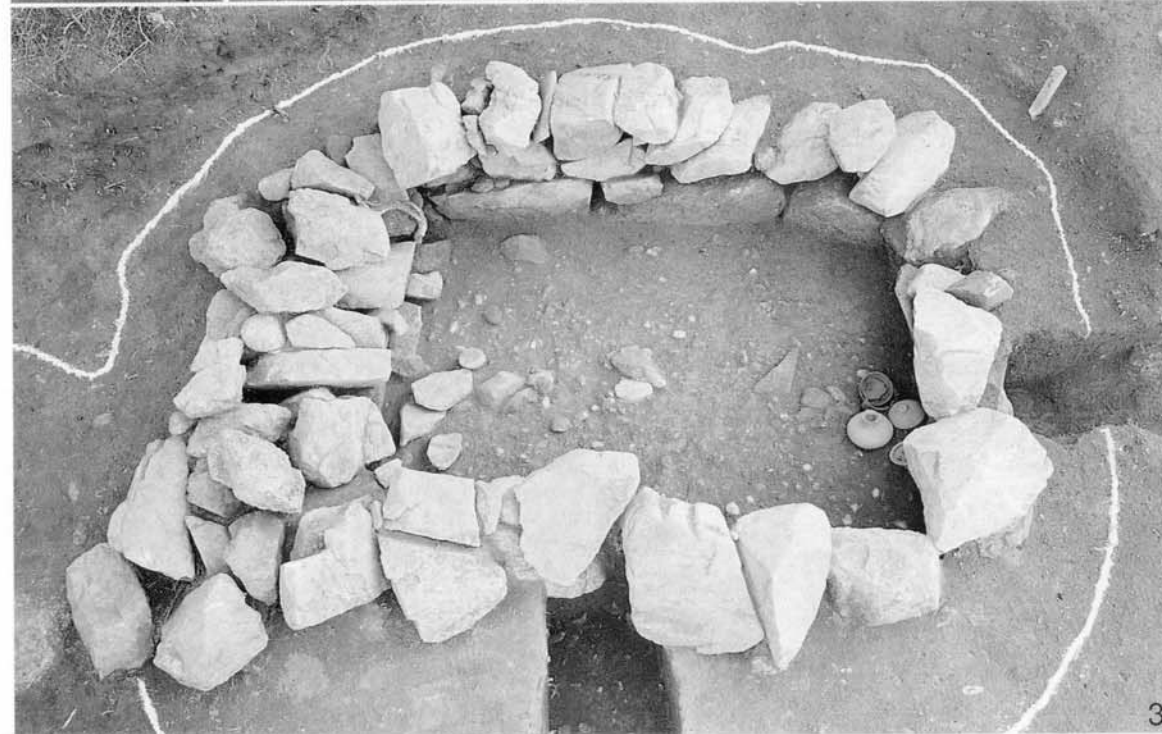
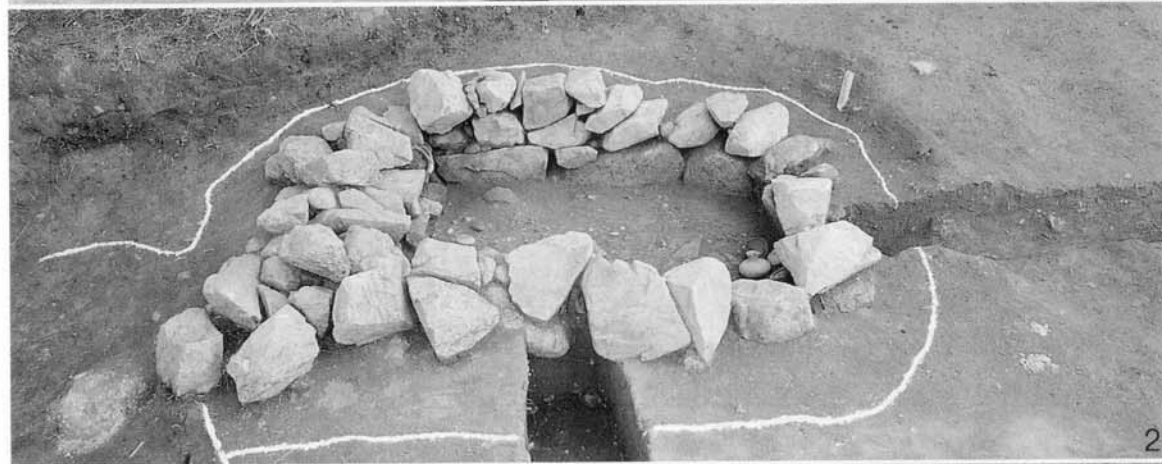
圖版 5. 2號 全景(1,2)와 遺物出土모습(3,4)



圖版 6. 2號 側壁(1:南西, 2:北東 모서리)

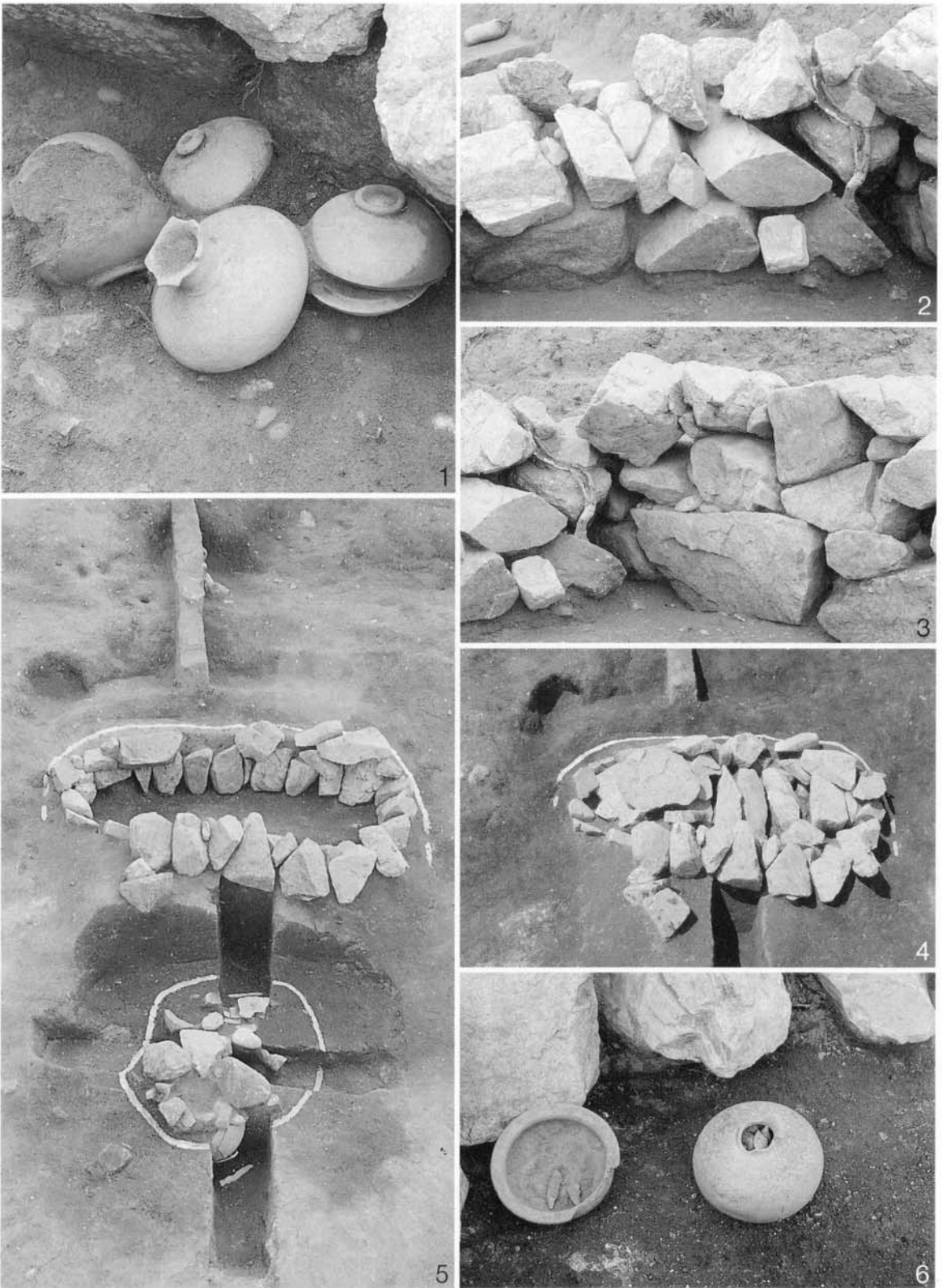


圖版 7. 3號 全景(1)과 遺物出土모습(2), 屍床(3)과 側壁(4:西, 5:北西 모서리)

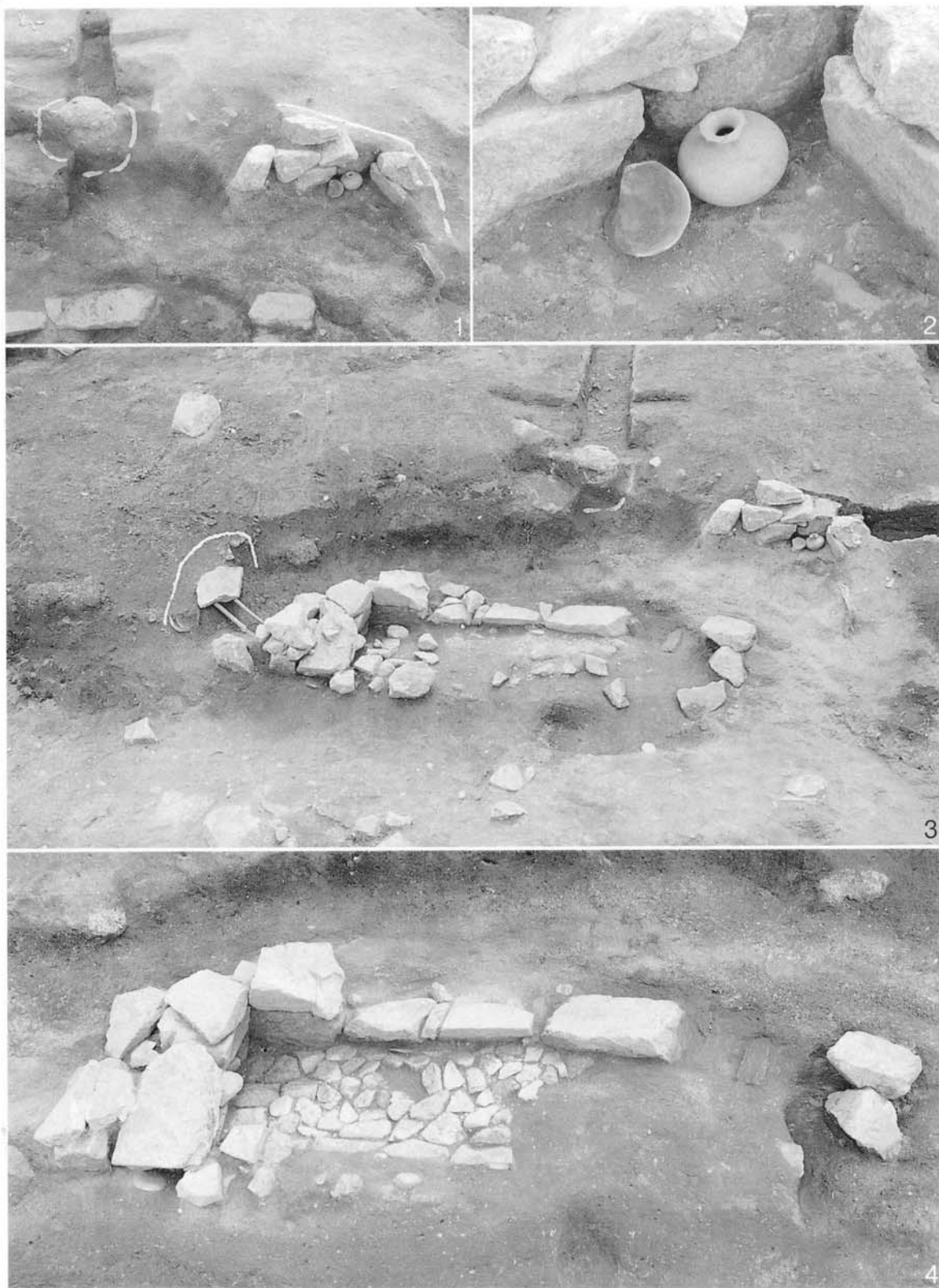


圖版 8. 4號 全景(2·3, 1:노출전)

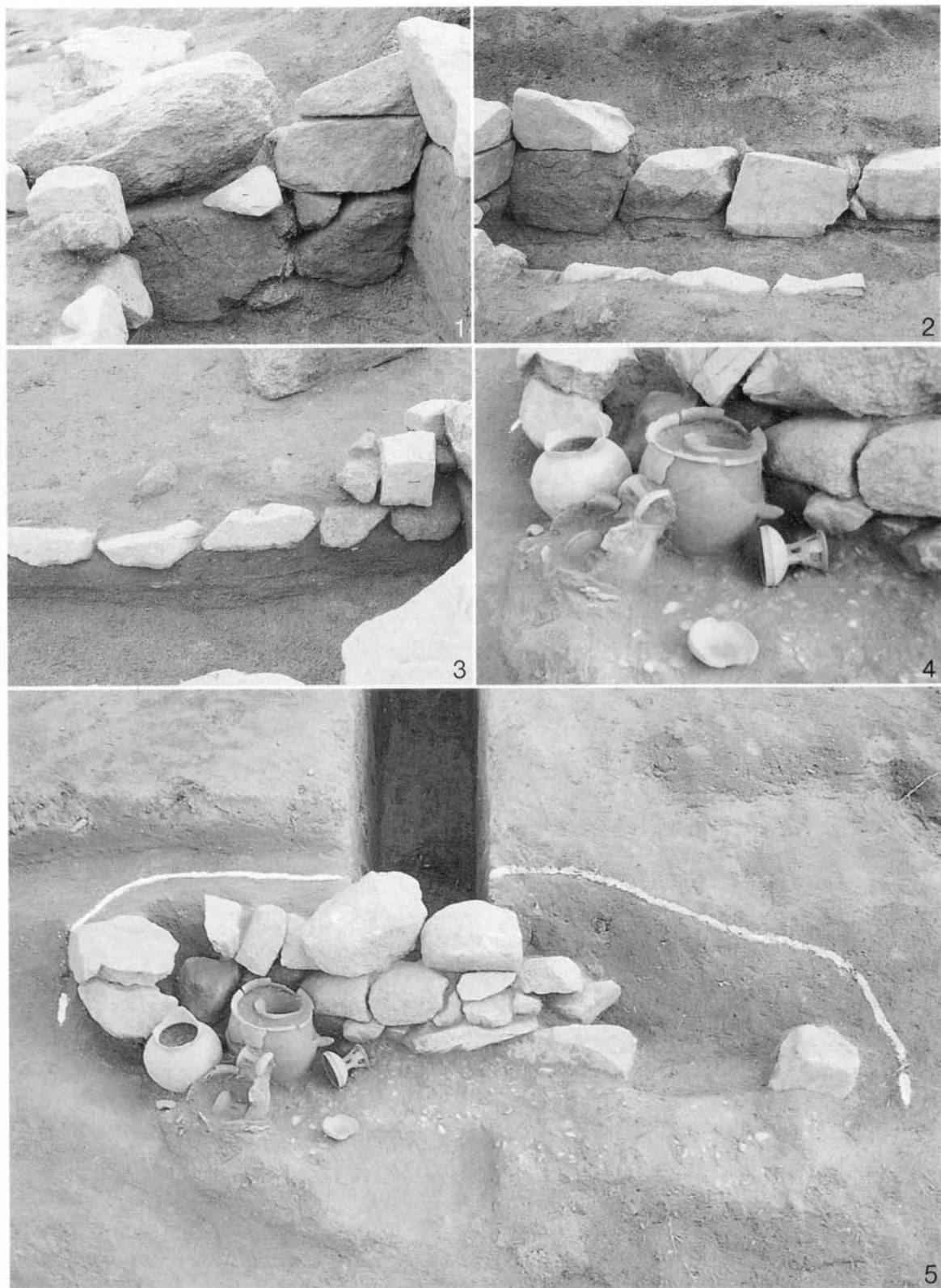




圖版 9. 4號 遺物出土모습(1)과 入口部 側壁(2,3), 5號 · 周邊 甕棺 全景(5,4:蓋石)과 遺物出土모습(6)



圖版 10. 6號·5號 甕棺 全景(1)과 遺物出土모습(2), 6號·7號 全景(3)과 7號 屍床(4)

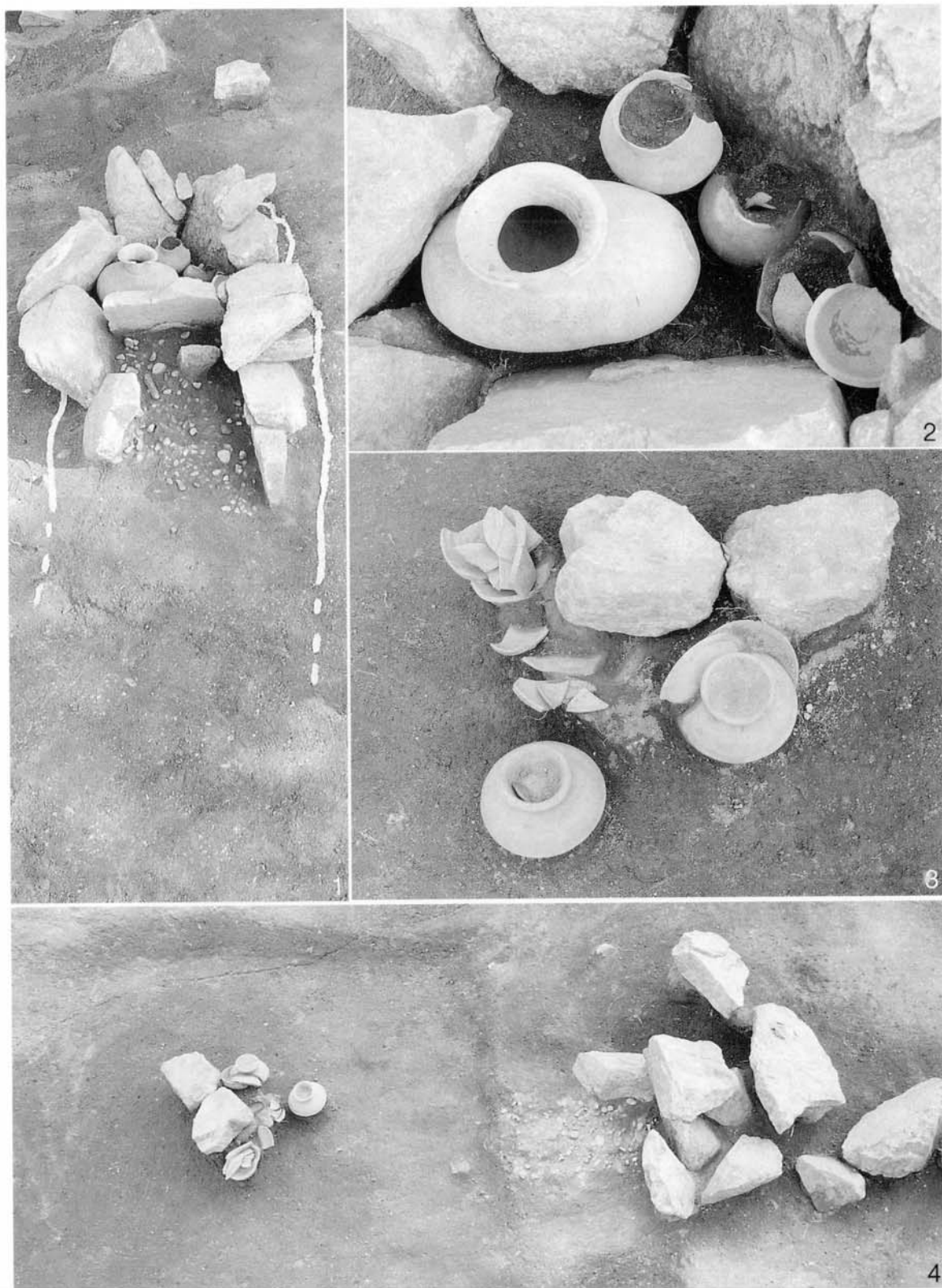


圖版 11. 7號 側壁(1:南 短壁, 2:西 長壁, 3:東 長壁). 8號 全景(5)과 遺物出土모습(4)



圖版 12. 9號 全景(1,2)과 遺物出土모습(3), 南 短壁(4)

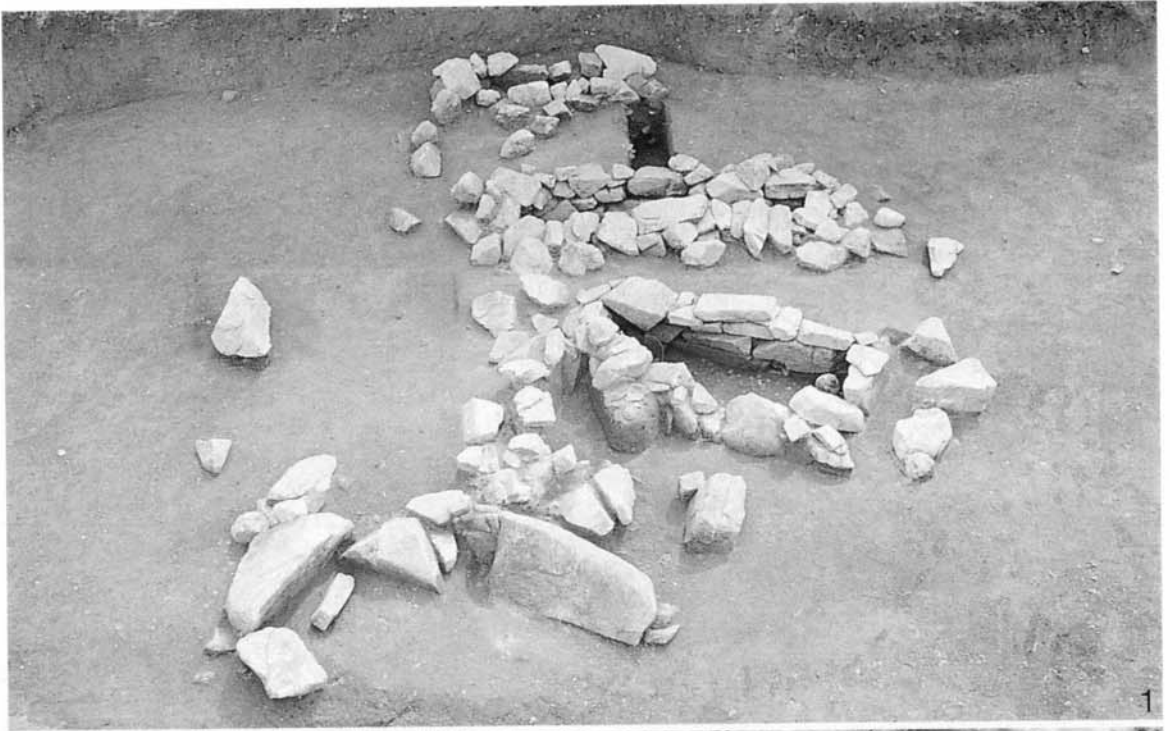




圖版 13. 10號 全景(1)과 遺物出土모습(2), 11號 全景(4)과 遺物出土모습(3)



圖版 14. 12號 全景(1)과 屍床(2), 遺物出土모습(3), 4:西 長壁, 5:南 短壁(入口部)



1

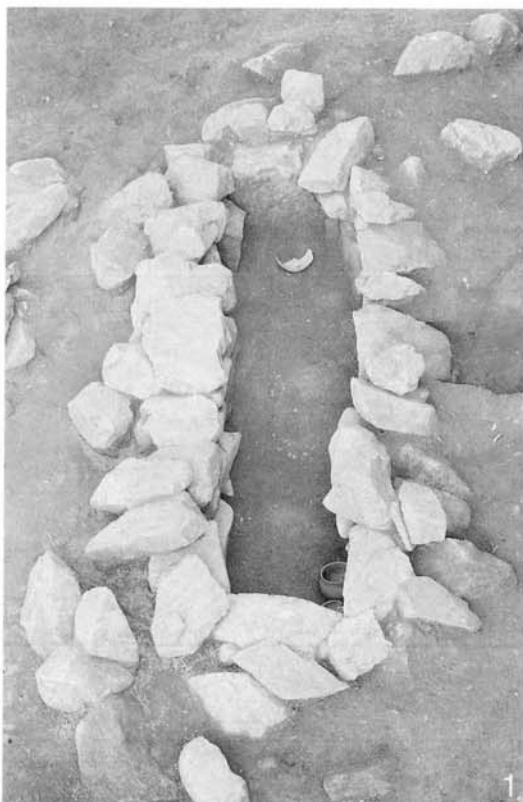


2



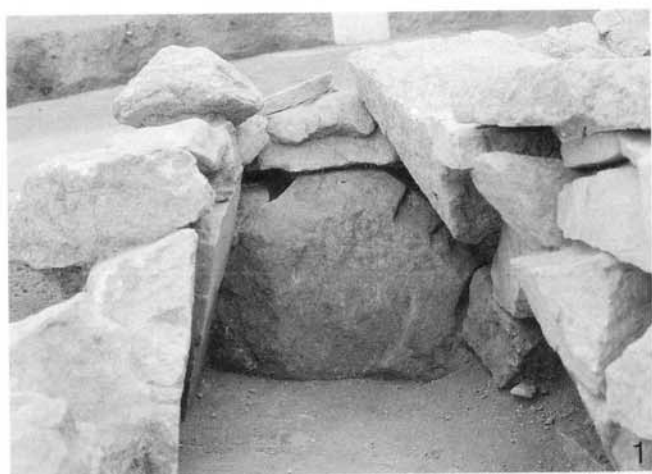
3

圖版 15. 13 · 14 · 15 · 16 · 17號 全景(1), 14號 全景(2)과 遺物出土모습(3)

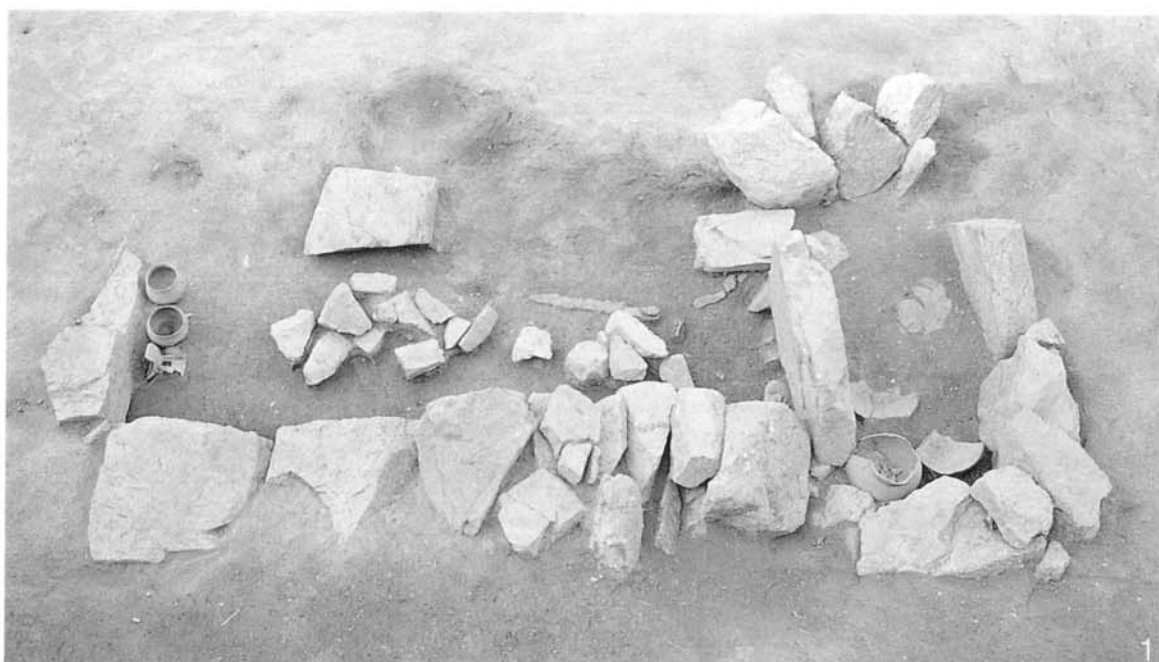


圖版 16. 14號 全景(1)과 遺物出土모습(2), 14號 側壁(3,4), 15號 全景(5)과 遺物出土모습(6)





圖版 17. 15號 短壁(1), 16號 全景(2), 17號 全景(3), 18號 全景(4)



圖版 18. 19號 全景(1)과 遺物出土모습(2,3), 西 長壁(4)



圖版 19. 20·21·甕棺 1號 全景(2, 1:蓋石)

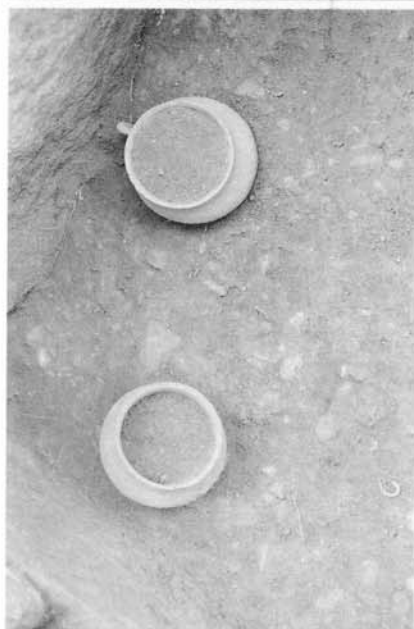


圖版 20. 20號 全景(1)과 遺物出土모습(2,3,4), 副葬槨 側壁(5)





圖版 21. 21號 遺物出土모습(1)과 側壁(2:南 短壁, 3:西 長壁)



1
23

圖版 22. 22·26號 全景(1)과 22號 遺物出土묘습(2), 22號 西 長壁(3)



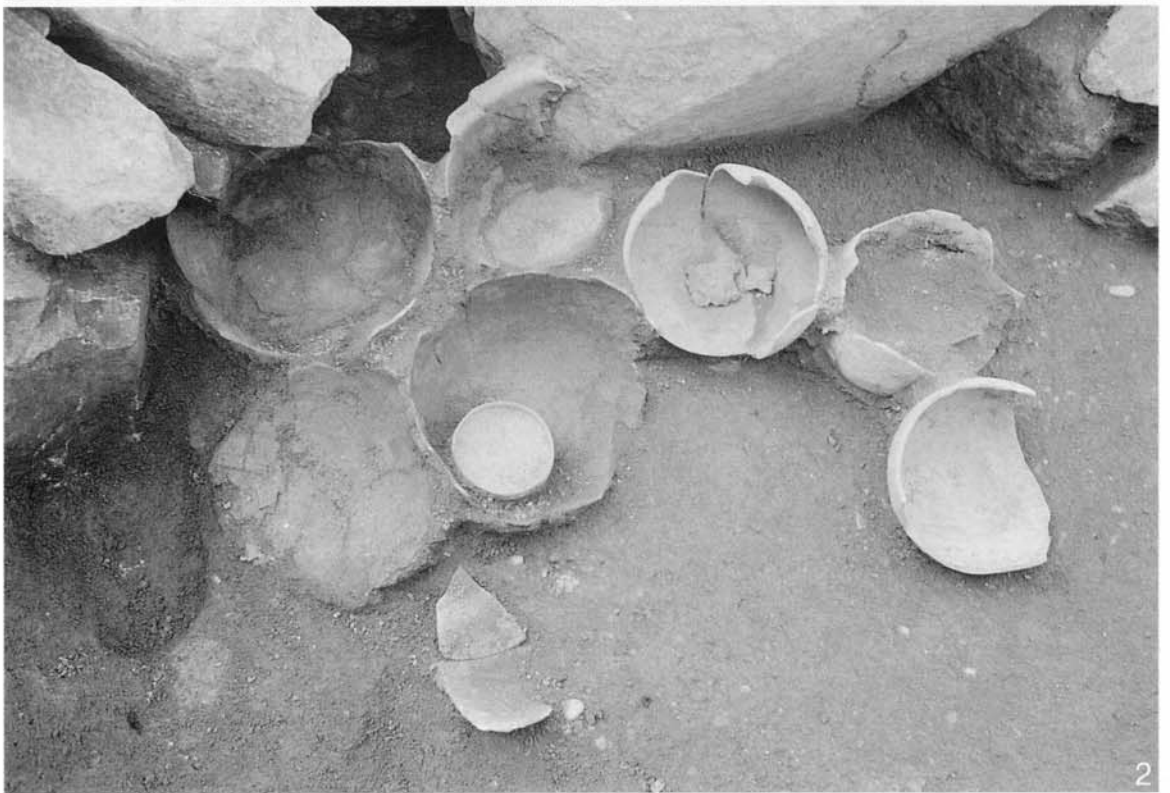
1	2
3	
4	5

圖版 23. 26號 遺物出土모습(1,2)과 側壁(3:東 長壁, 4:南 短壁, 5:北 短壁)



圖版 24. 23·24號 全景(2, 1:蓋石)

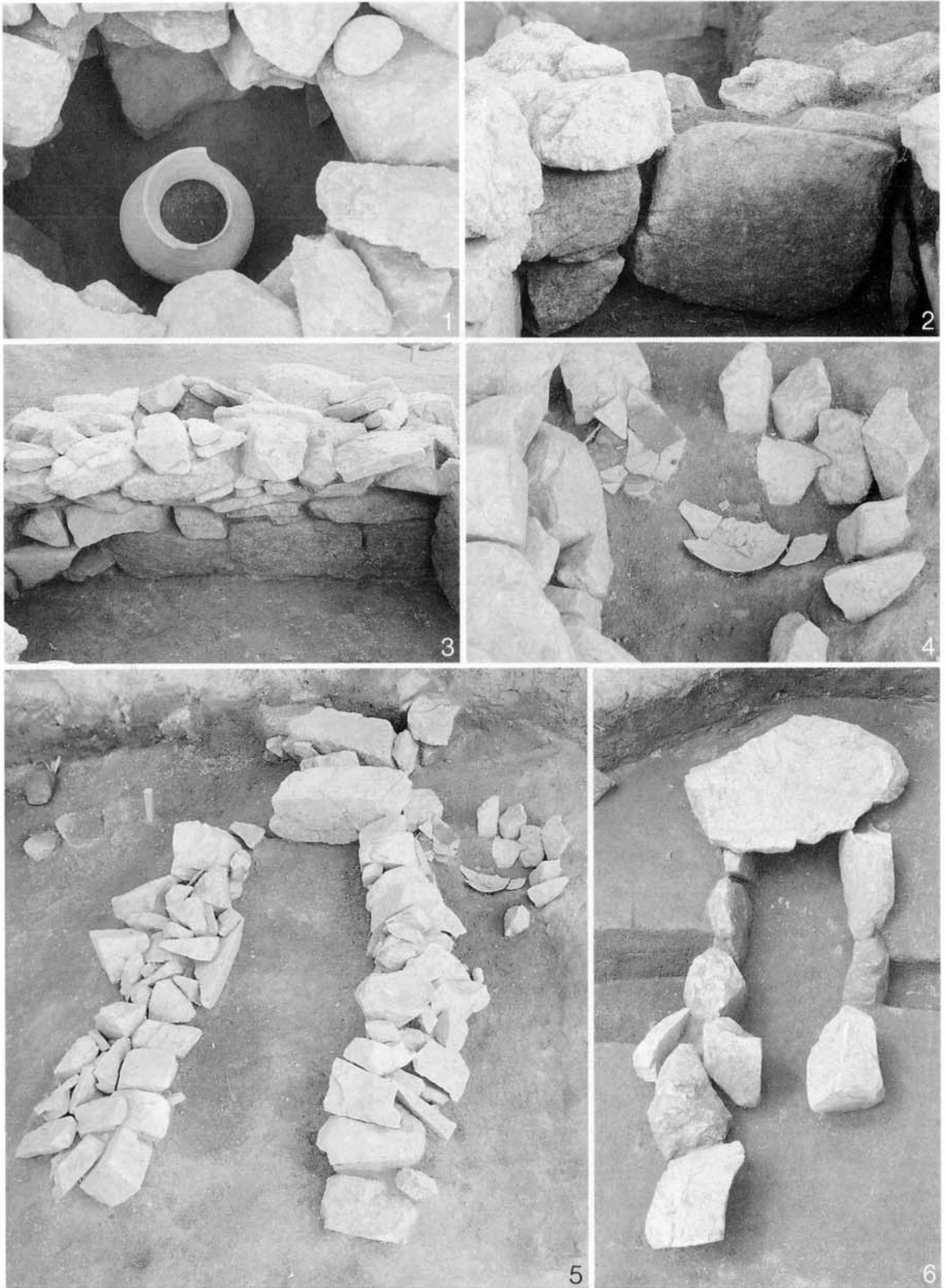




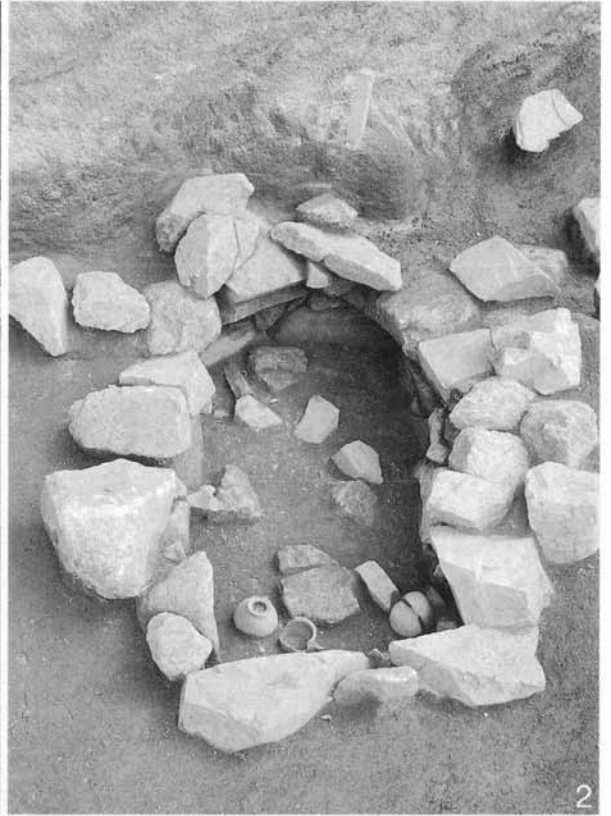
圖版 25. 23號 遺物出土冢合(1, 2:副葬槨)



圖版 26. 24號 全景(2, 1:蓋石)



圖版 27. 24號 遺物出土모습(1)과 側壁(2,3), 25號 全景(5)과 遺物出土모습(4), 27號 全景(6)

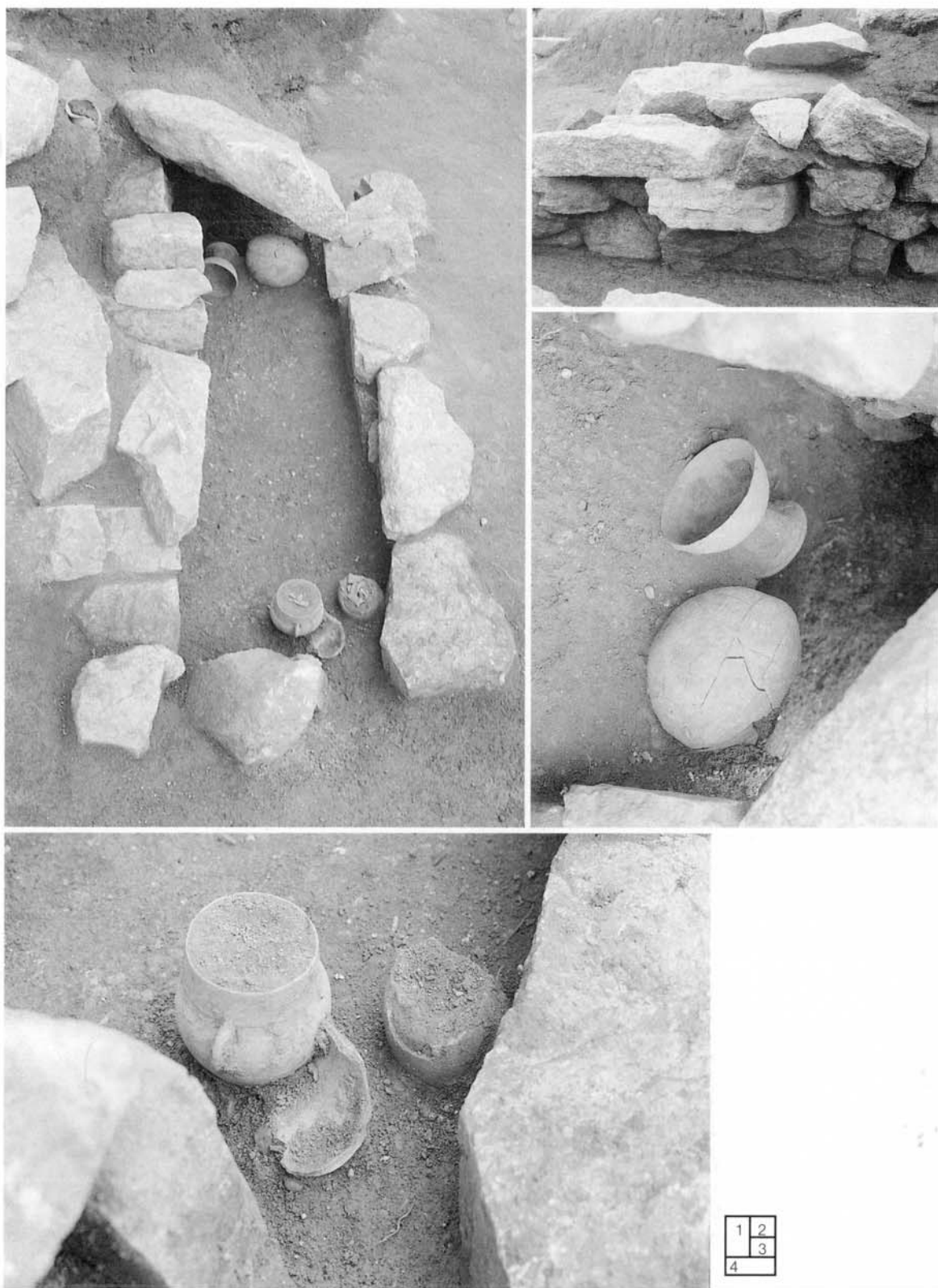


圖版 28. 28號 全景(2, 1:蓋石)과 遺物出土모습(3,4)





圖版 29. 30號 全景(1)과 遺物出土모습(2,3), 南東 側壁(4)

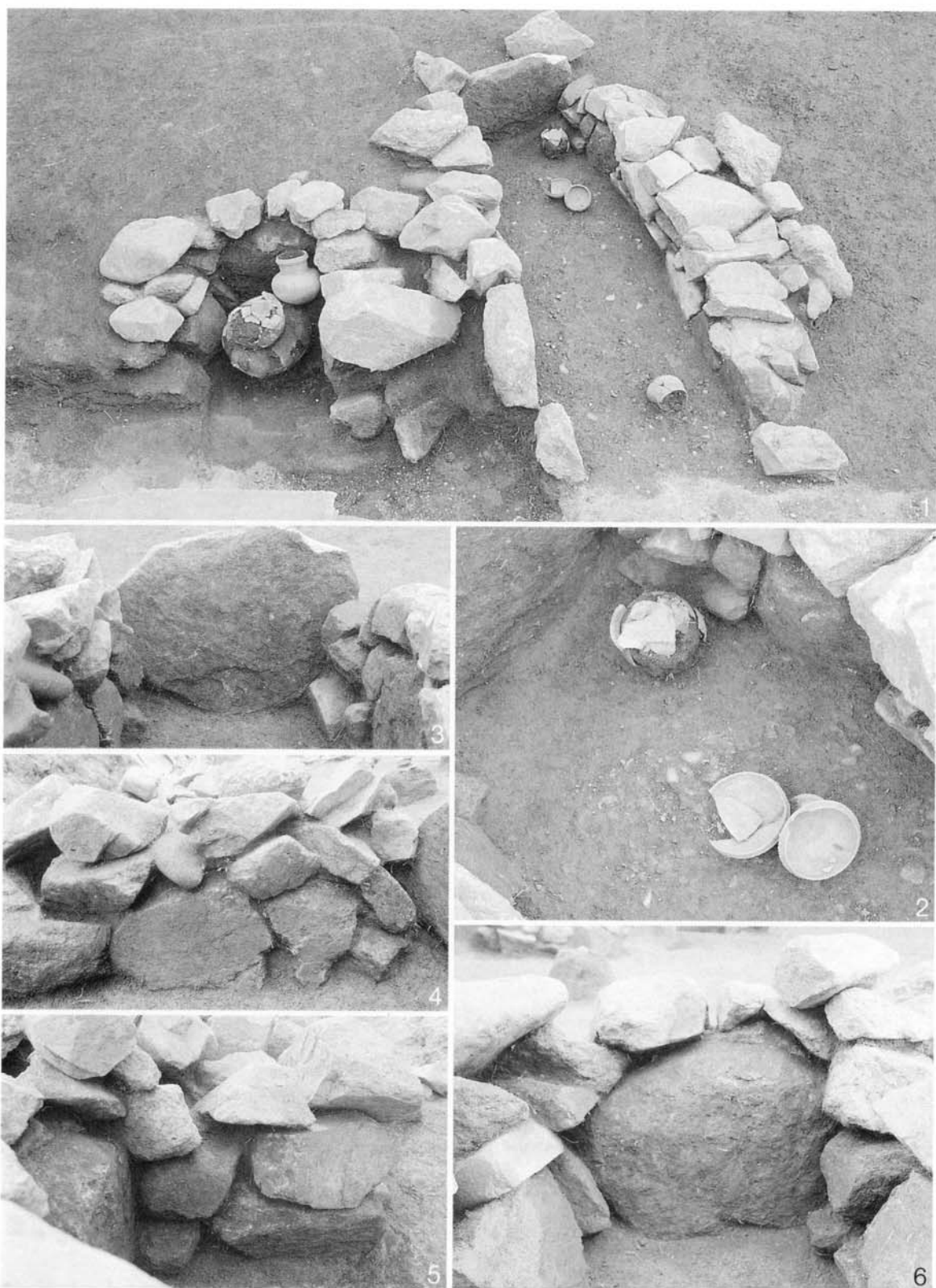


1	2
	3
4	

圖版 30. 31號 全景(1)과 遺物出土모습(3,4), 南 長壁(2)



圖版 31. 32號 全景(1)과 遺物出土모습(2)



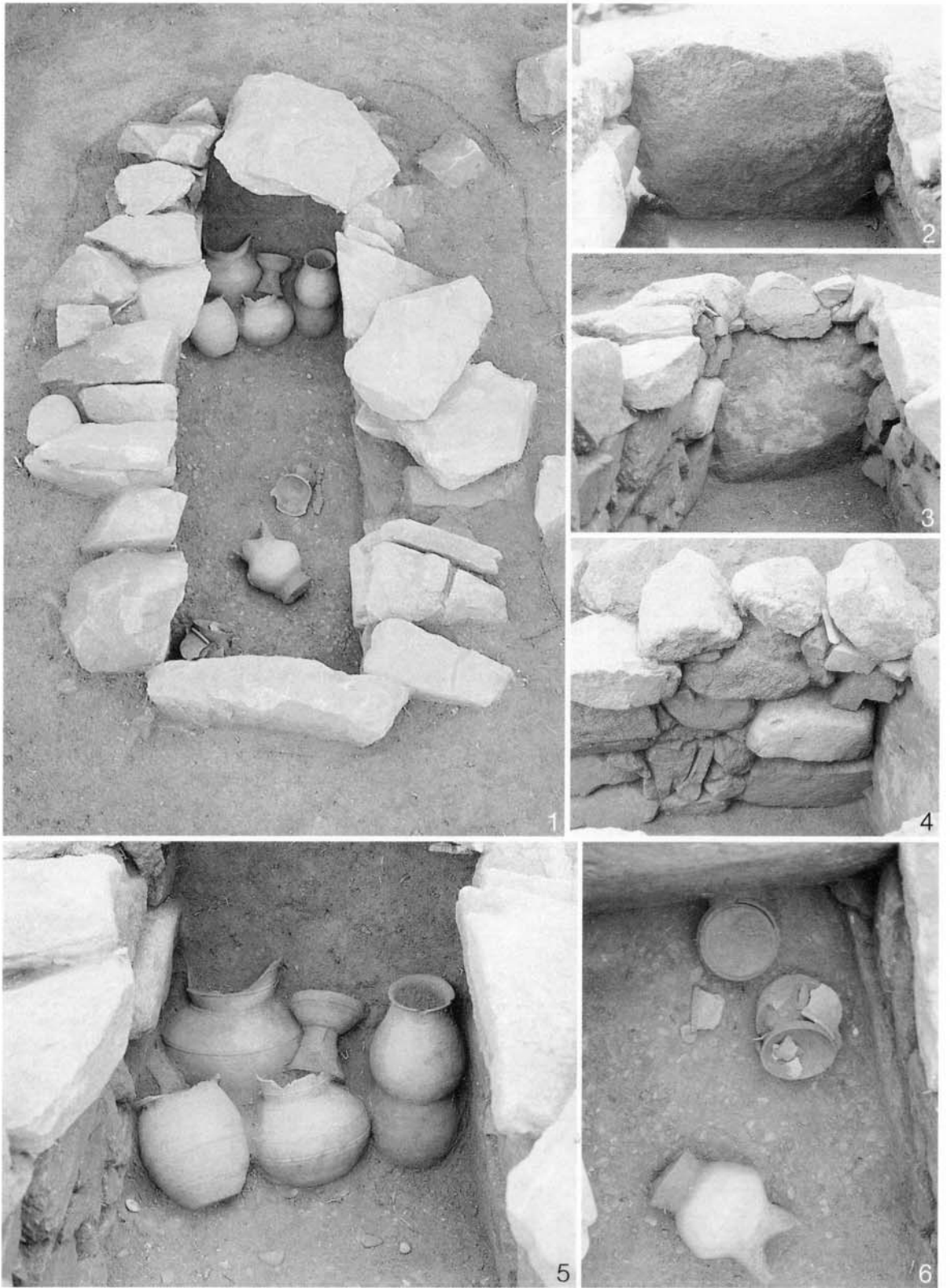
圖版 32. 33·34號 全景(1)과 33號 遺物出土모습(2), 33號 側壁(3,4)과 34號 側壁(5,6)



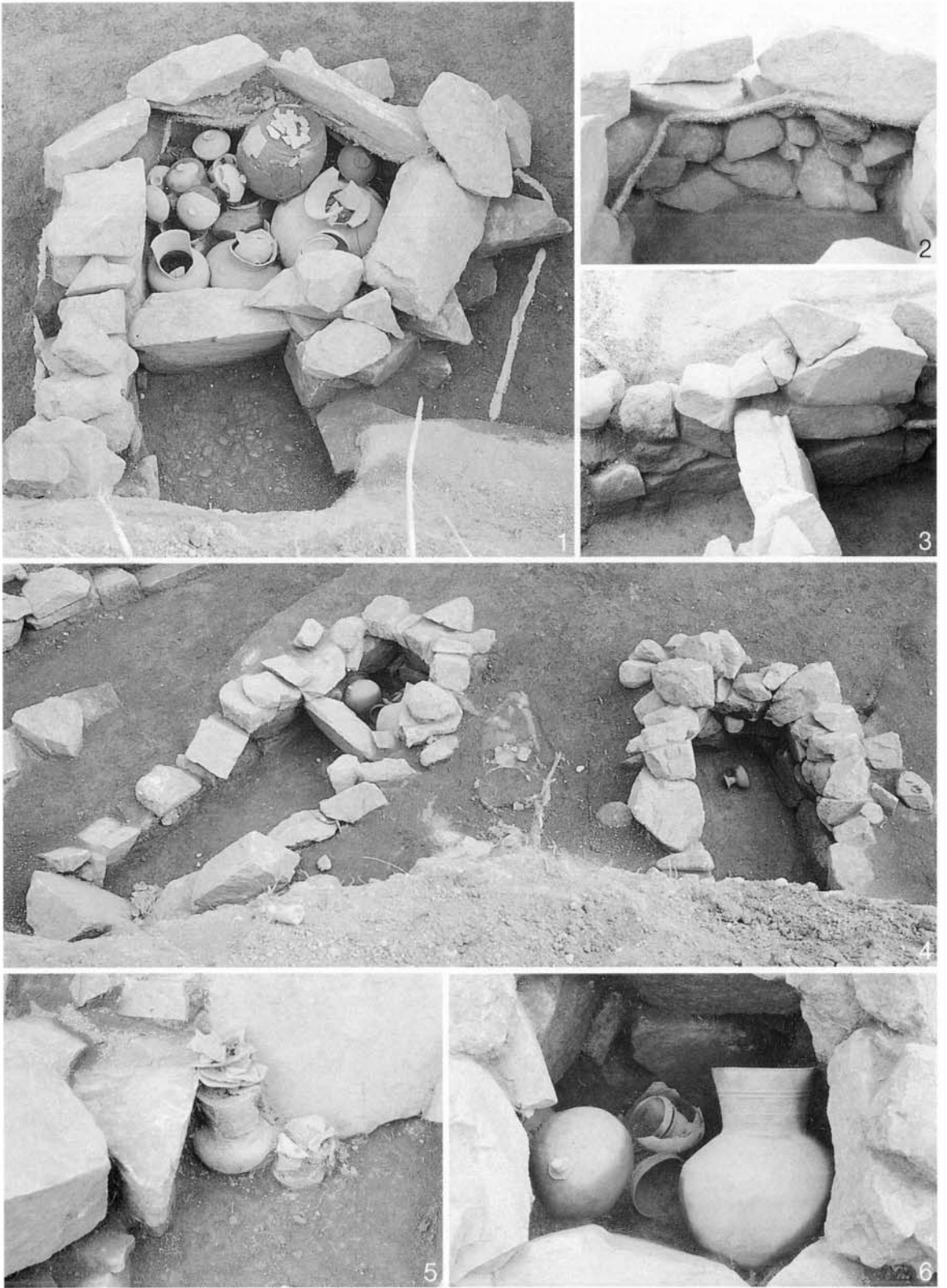


1
23

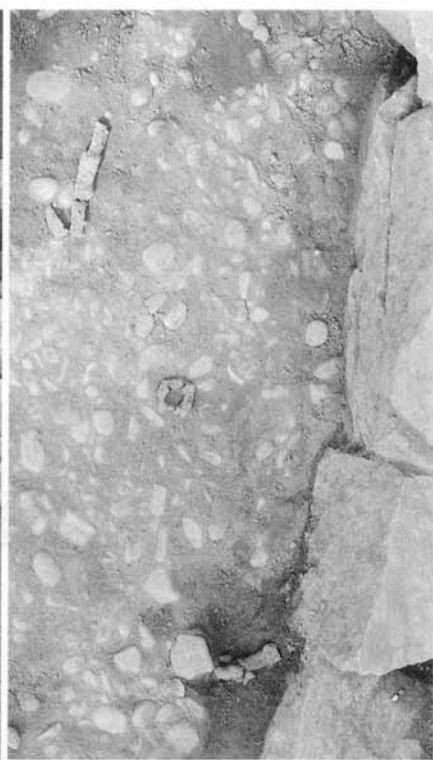
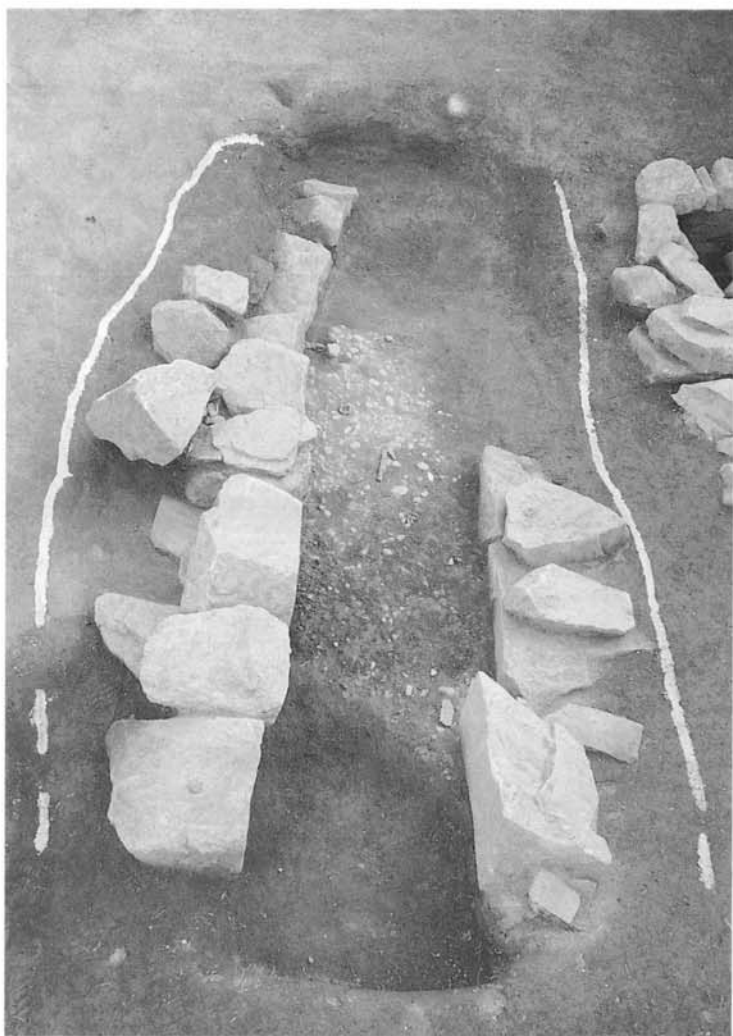
圖版 33. 35·36號 全景(1)과 35號 遺物出土모습(2), 西 短壁(3)



圖版 34. 36號 全景(1)과 遺物出土모습(5,6), 兩 短壁(2,3)과 南 長壁(4)



圖版 35. 37號 全景(1)과 側壁(2:西 短壁, 南 長壁), 38·39· 甕棺 1號 全景과 39號 遺物出土모습(5,6)

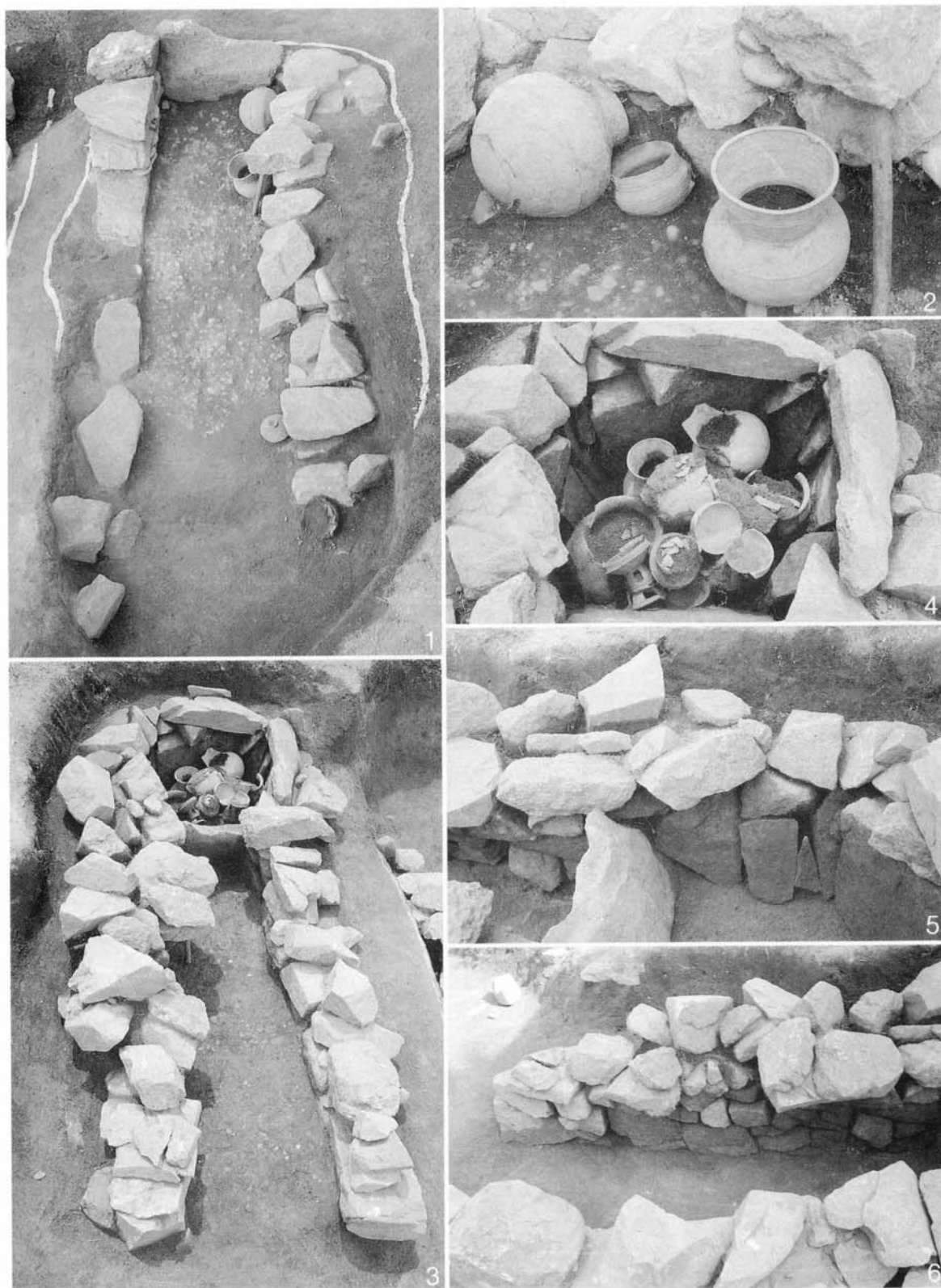


12
3

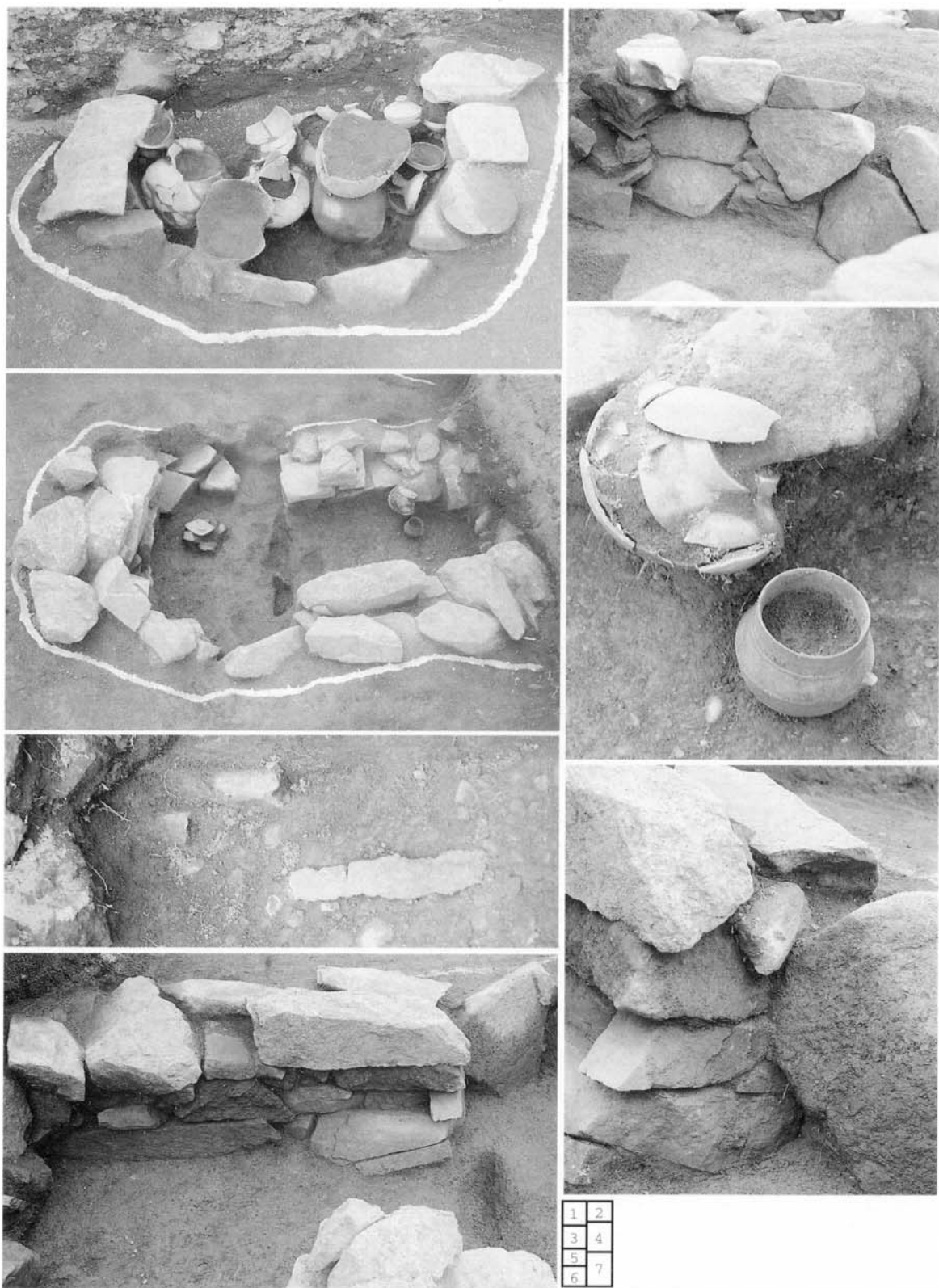


圖版 36. 40號 全景(1)과 遺物出土모습(2), 西 長壁(3)

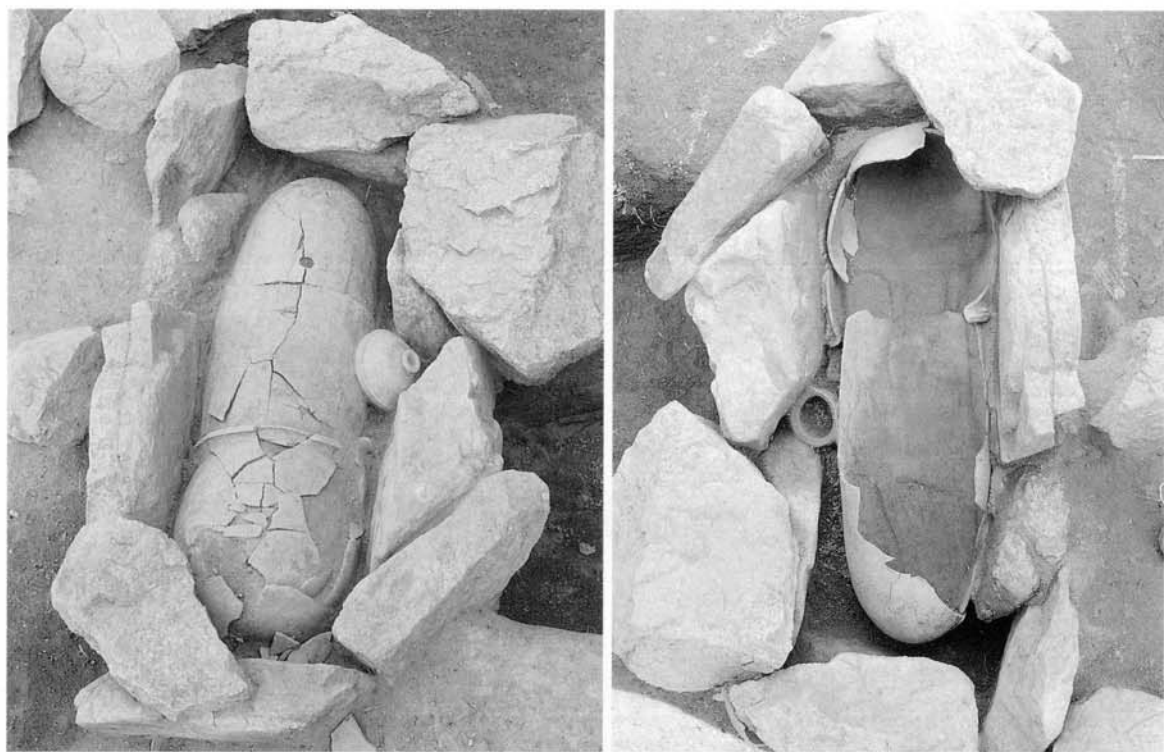




圖版 37. 41號 全景(1)과 遺物出土모습(2), 42號 全景(3)과 遺物出土모습(4), 南 長壁(5,6)

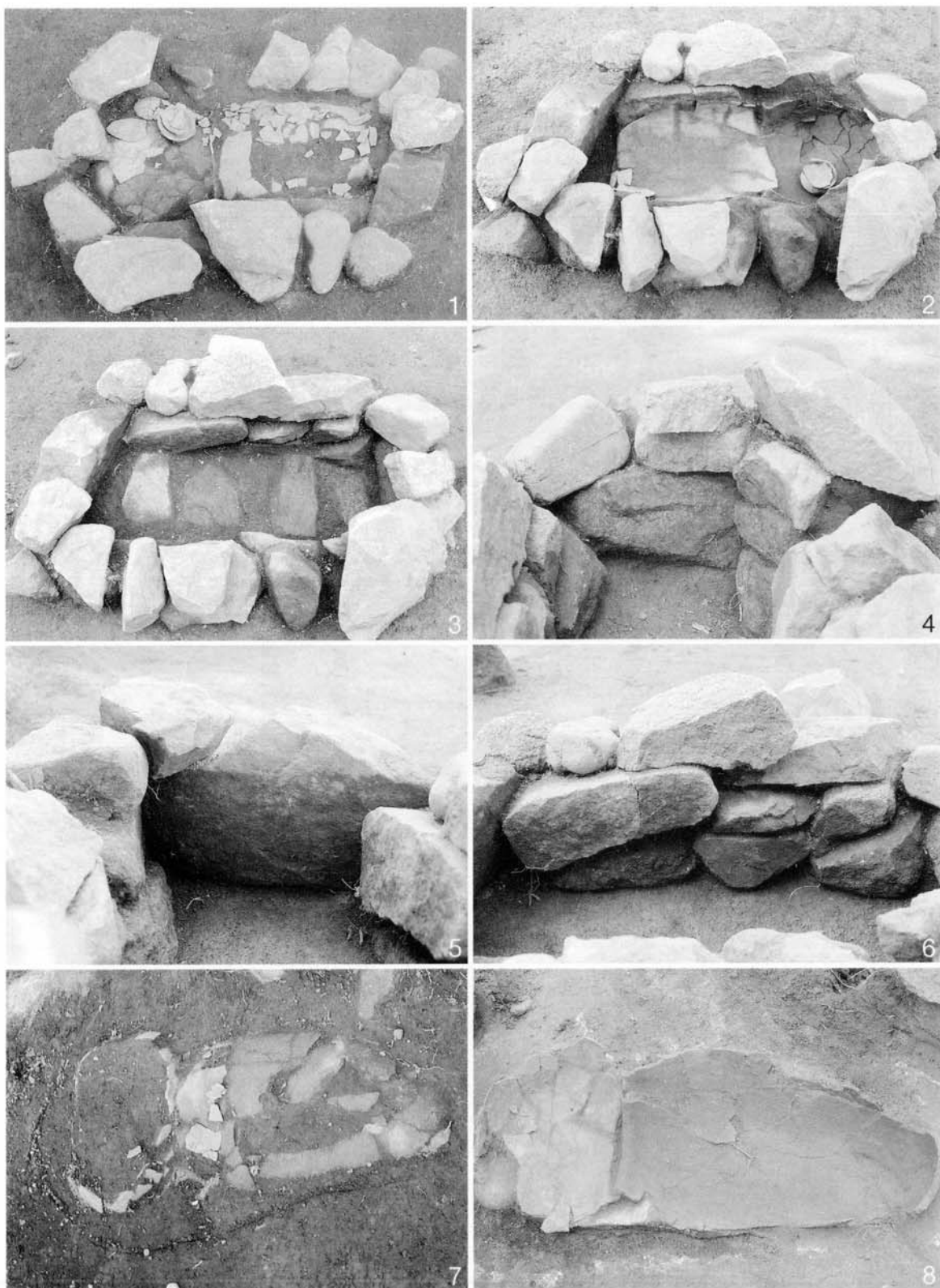


圖版 38. 43號 全景(1)과 南 壁(2), 44號 全景(3)과 遺物出土모습(4,5), 南 長壁(6,7:모서리)



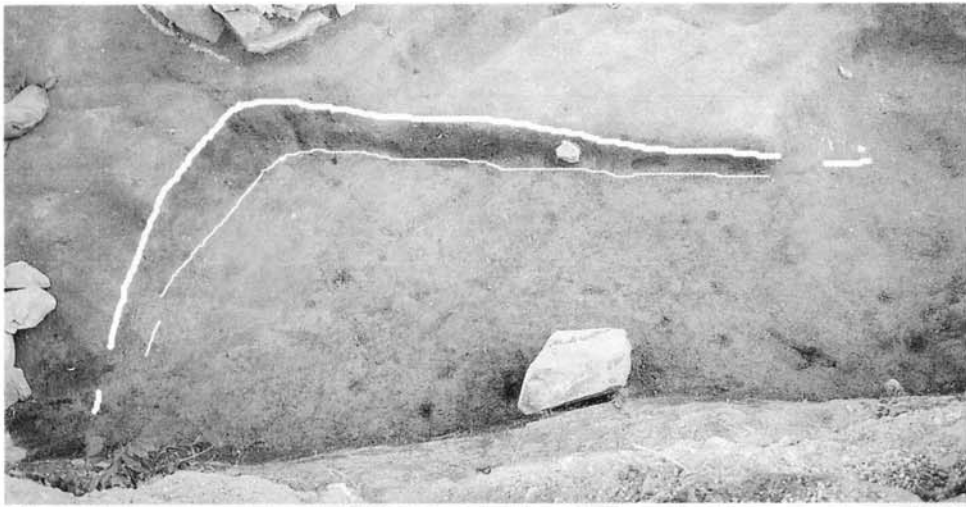
1	2
3	
4	

圖版 39. 甕棺 1號 全景(1,2)과 甕棺 2號 全景(3,4)

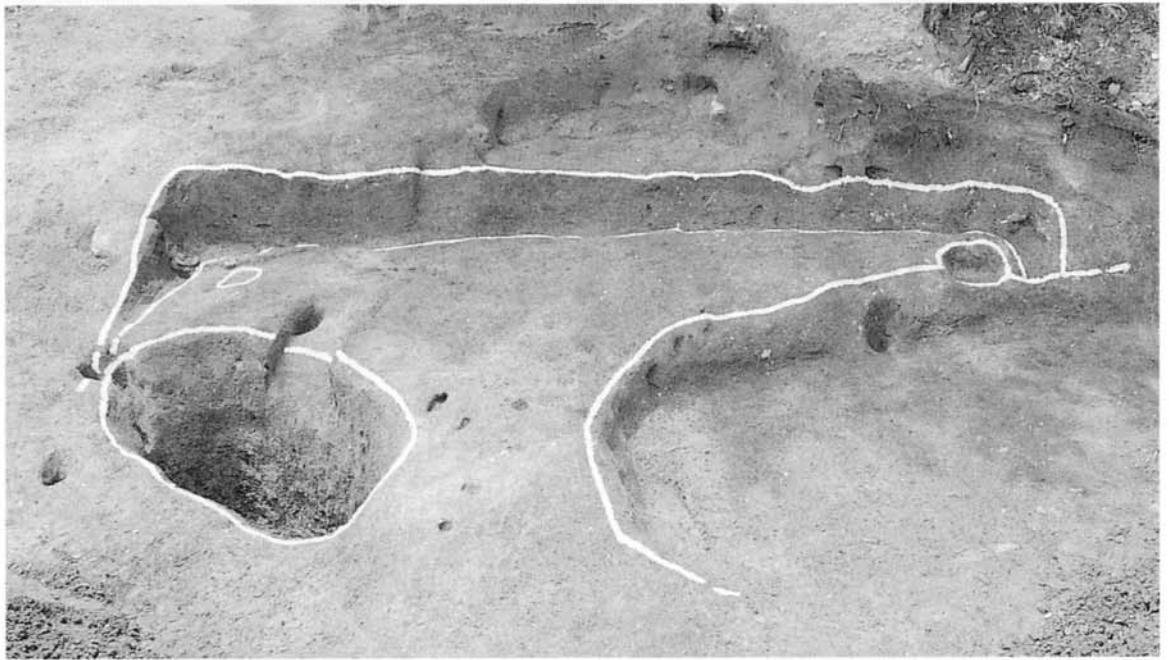


圖版 40. 甕棺 3號 全景(1,2)과 屍床(3), 側壁(4,5,6), 甕棺 4號 全景(7,8)

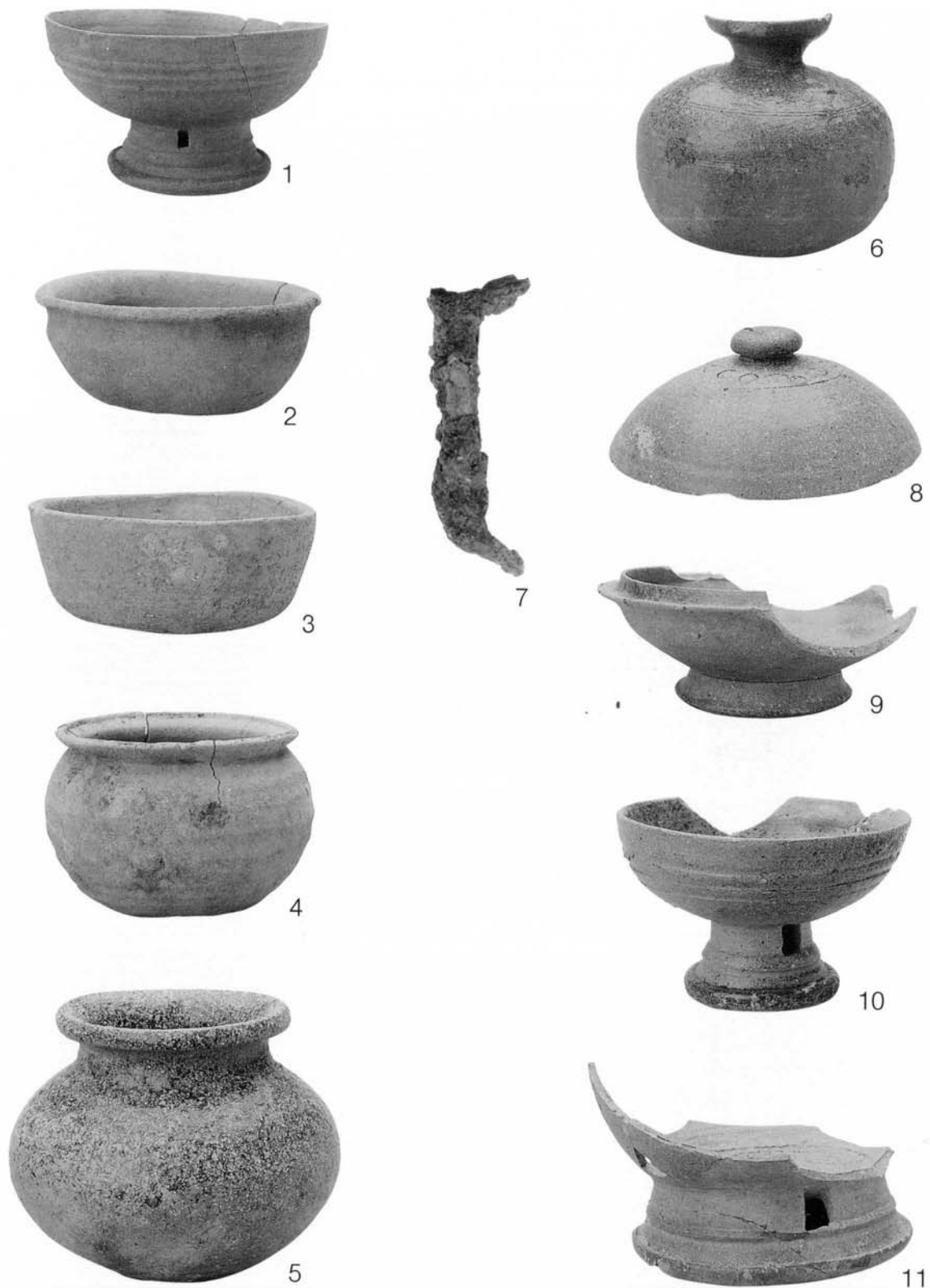




1	
2	
3	4



圖版 41. 住居址 1號 全景(1)과 住居址 2號 全景(2), 住居址 2號 遺物出土 모습(3,4)



圖版 42. 1號(1~7, 봉토 8~11) 出土遺物



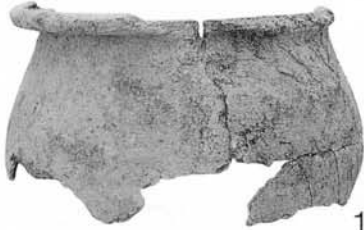
13



14



15



16



12



20



17



18



19

圖版 43. 1號(봉토 12, 교란 13~15), 1-1號(교란 16), 2號(17~20) 出土遺物



21



23



22



24



26



25



28



27



29

圖版 44. 2號(봉토 21・22, 교란 23), 3號(24, 교란 25・26, 봉토 27), 4號(28・29) 出土遺物





30



31



33



32



35



34



36



37



38

圖版 45. 4號(30~34, 周邊 35~37), 5號(38) 出土遺物



39



40



42



43



41

圖版 46. 5號(39, 周邊 甕棺 40・41), 6號(42・43) 出土遺物



44



46



45



47



48



49



51



52



50

圖版 47. 5號 甕棺(44・45), 7號(46, 周邊 47・48), 8號(49~52) 出土遺物



53



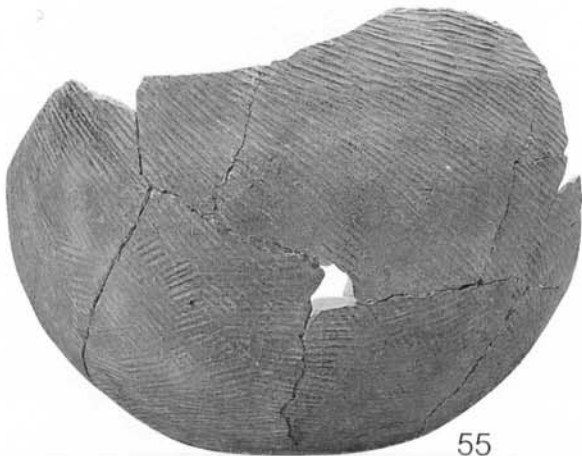
58



54



56



55



57

圖版 48. 8號 出土遺物



59



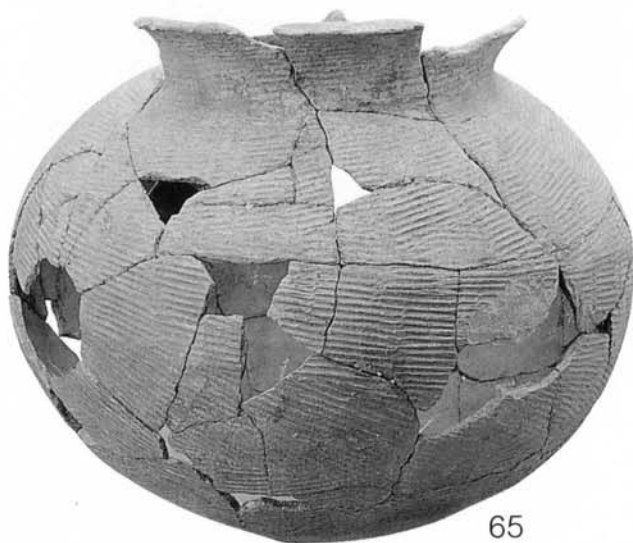
60



61



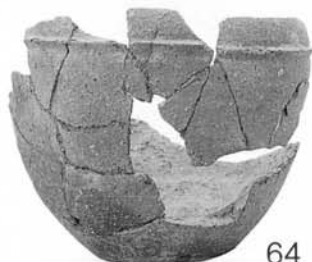
62



65



63



64



66

圖版 49. 8號(59・60, 교란 61・62), 9號(63~66) 出土遺物



67



69



70



68



71

圖版 50. 9號(67~70, 교란 71) 出土遺物



72



73



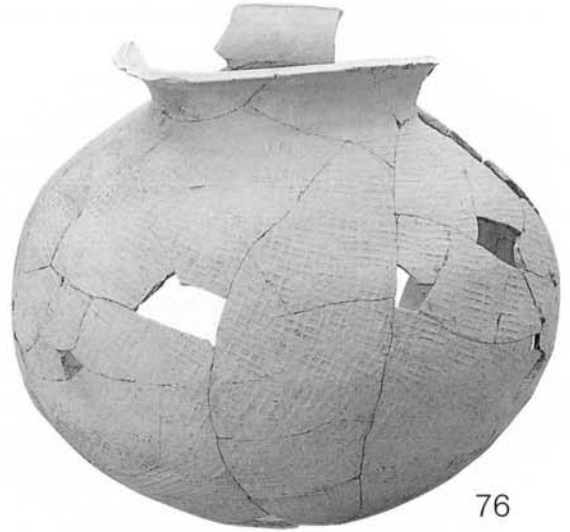
74



75



78



76



77

圖版 51. 9號(교란 72~77), 10號(78) 出土遺物



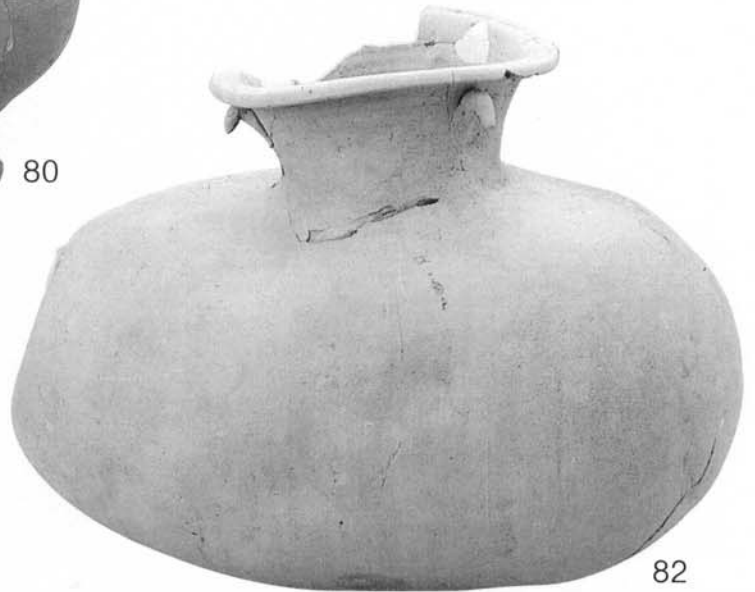
79



81



80



82



83

圖版 52. 10號 出土遺物





85



86



87



88



89



84



90



91



92

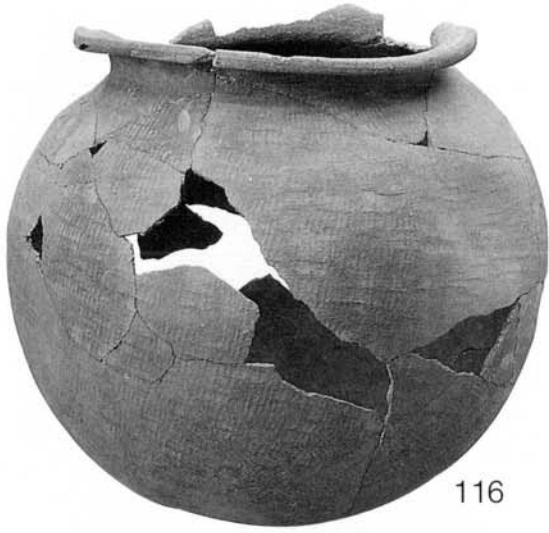
圖版 53. 10號(교란 84), 11號(85~90, 교란 91•92) 出土遺物



圖版 54. 12號(93~101, 교란 102~105, 周邊 106・107) 出土遺物



圖版 55. 13號(108, 周邊 109 • 110), 14號(111~113), 15號(114 • 115) 出土遺物



116



117



120

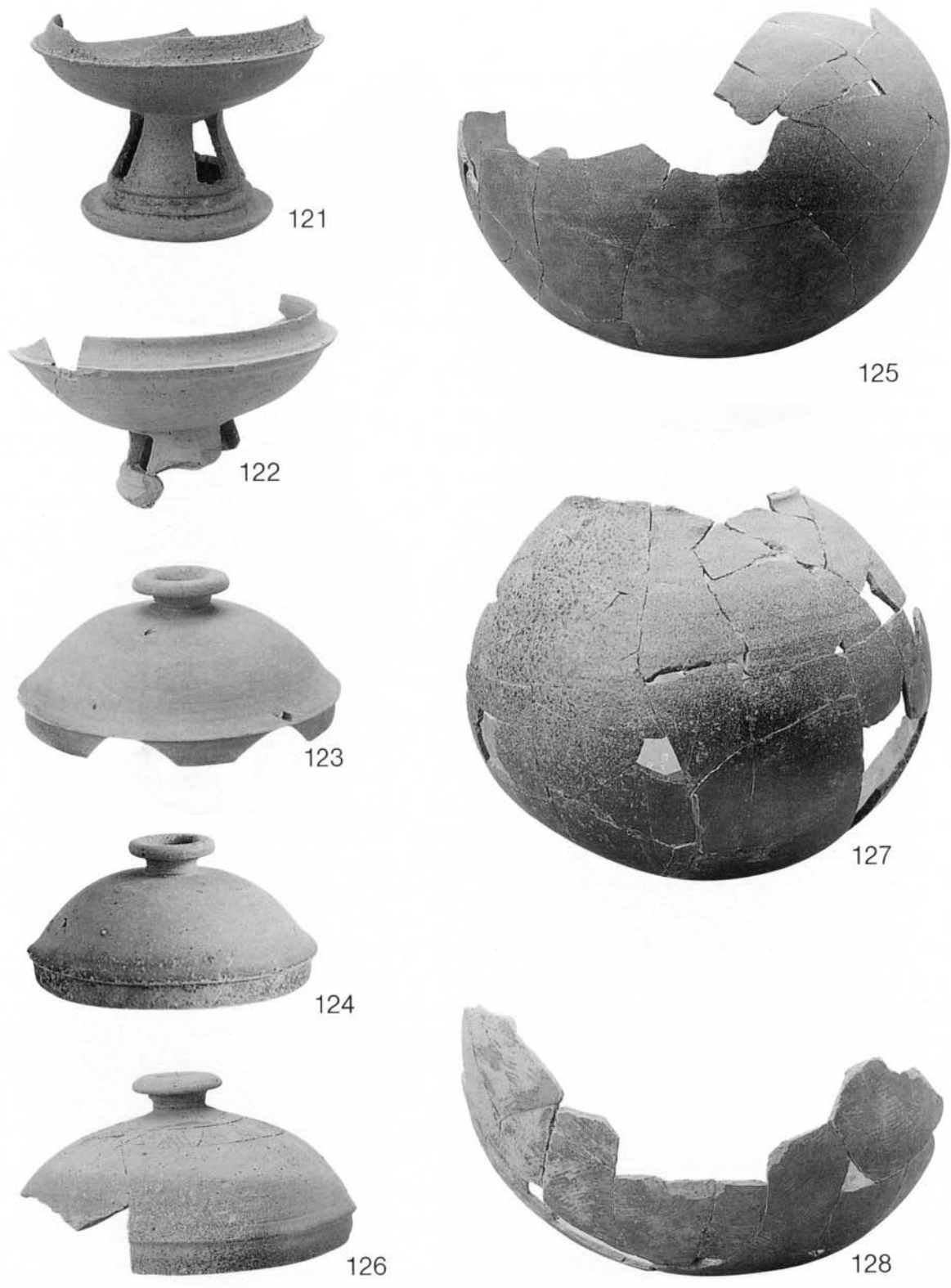


118



119

圖版 56. 15號(116~119, 周邊 120) 出土遺物



圖版 57. 15號(周邊 121~124), 18號(125, 周邊 126~128) 出土遺物



129



133



130



134



131

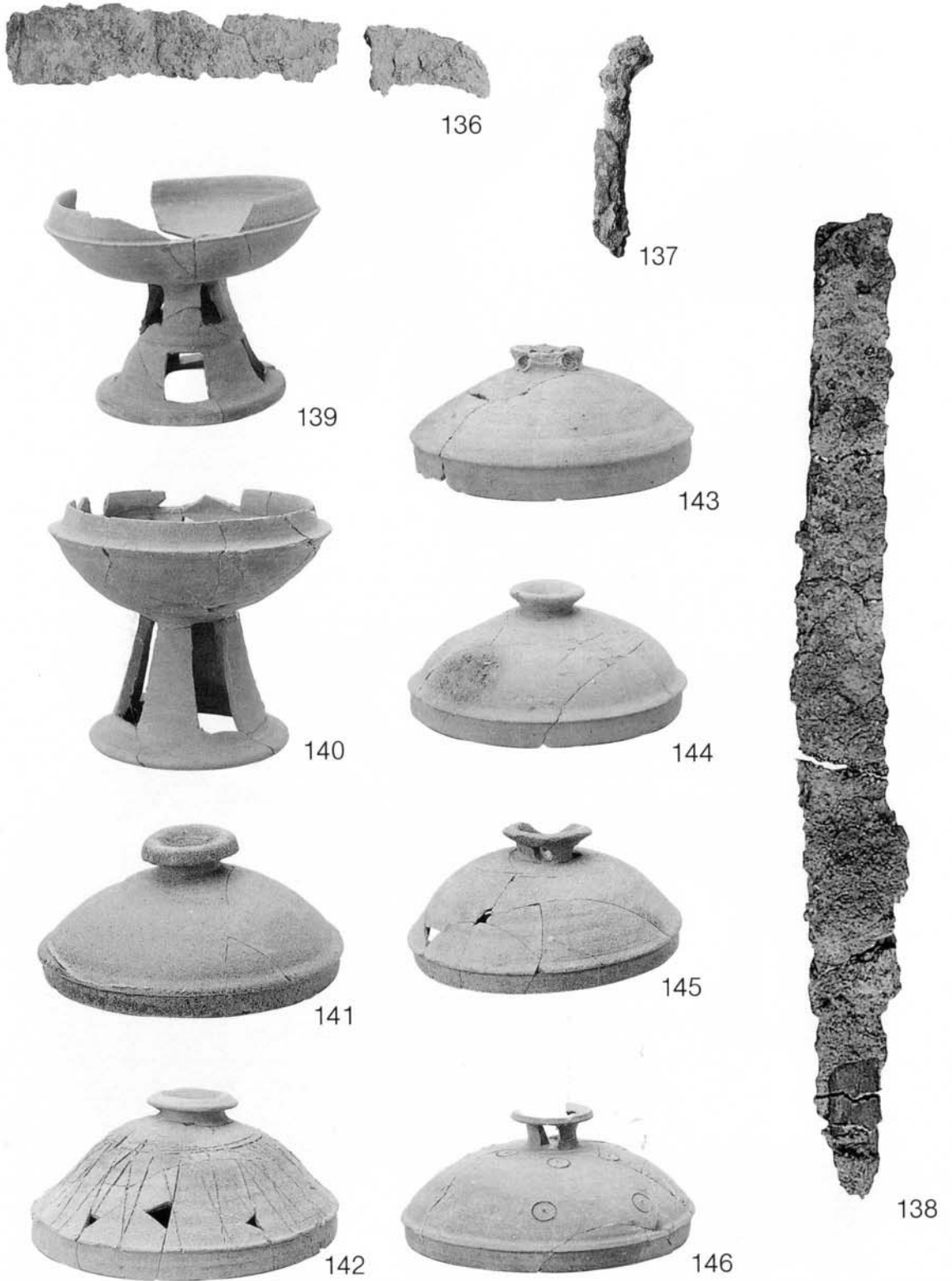


132



135

圖版 58. 19號 出土遺物



圖版 59. 19號(136~138, 교란 139~146) 出土遺物



147



149



150



151



148



152

圖版 60. 19號(교란 147 • 148), 20號(149~152) 出土遺物





154



153



156



157



155



158



159



160



161



162



163

圖版 61. 20號 出土遺物



165



166



167



168



169



170



171



172



173



164

圖版 62. 20號(164, 교란 165~173) 出土遺物



174



175



177



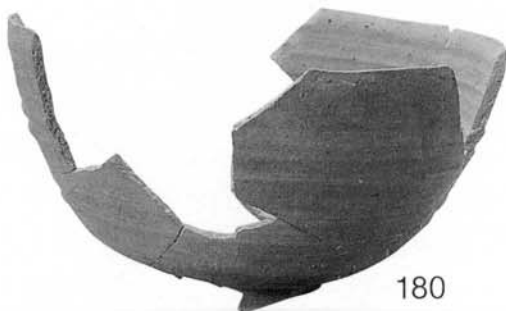
176



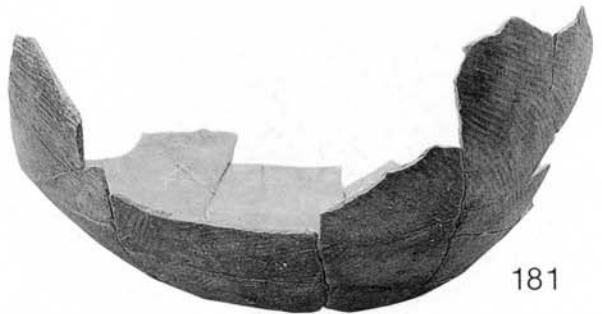
179



178



180



181

圖版 63. 20號(교란 174~181) 出土遺物



182



183



184



187



186

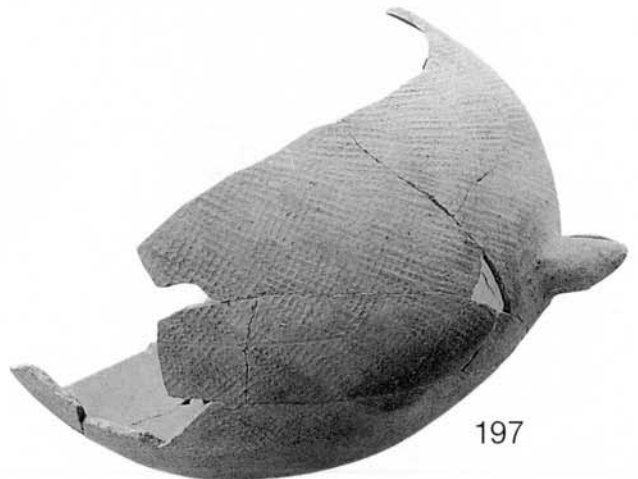


188



185

圖版 64. 20號(교란 182~186), 21號(187・188) 出土遺物



圖版 65. 21號(189~192, 교란 193~197) 出土遺物



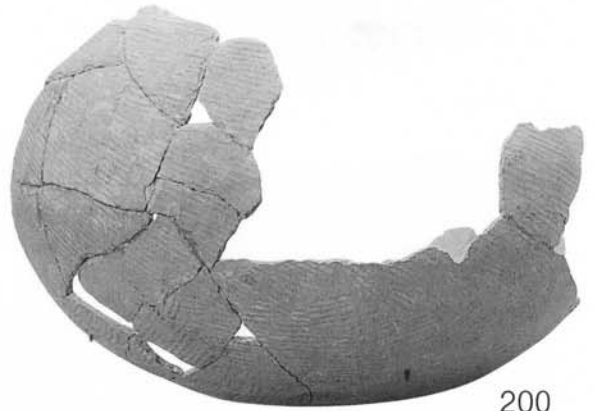
198



199



202



200



203



204



205



206



208



207



201

圖版 66. 22號 出土遺物



209



211



212



213



210



214

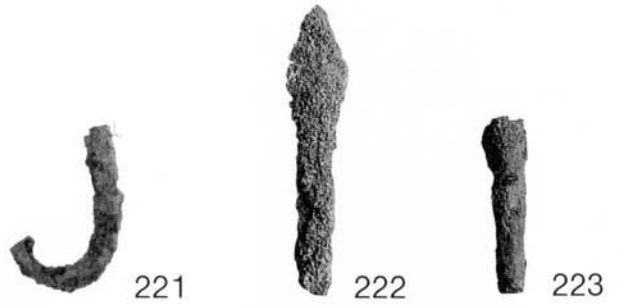


216



215

圖版 67. 22號(209・210, 교란 211~216) 出土遺物



圖版 68. 22號(교란 217~223, 周邊 224~226), 23號(227) 出土遺物





228



230



229



232



231

圖版 69. 23號 出土遺物



233



234



235



238



236



237



239

圖版 70. 23號 出土遺物



240



241



243



244



242



250



245



246



248



247



249

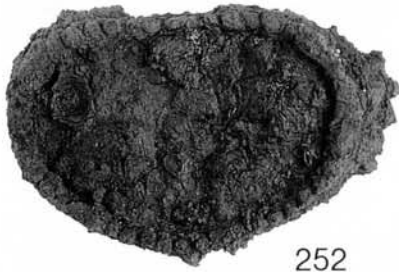
圖版 71. 23號(240~243, 周邊 244~250) 出土遺物



251



253



252



260



255



254



257



256



259



258

圖版 72. 23號(周邊 251~255), 24號(256~260) 出土遺物



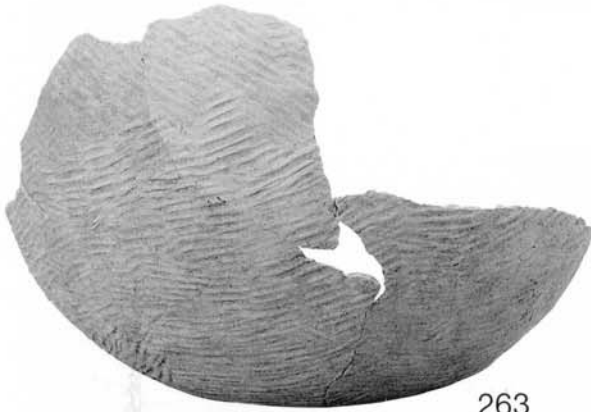
262



261



264



263



265



268



267



266

圖版 73. 24號(교란 261), 25號(262~263), 26號(264~268) 出土遺物



269



272



275



270



273



276



277



271



274



278

圖版 74. 26號 出土遺物



279



280



281



282



284



283

圖版 75. 26號 出土遺物



285



286



287



288



291



290



289



292



295



293



296



294



297



298

圖版 76. 26號(285~290), 27號(291~298) 出土遺物





299



300



306



301



305



307



302



308



304



303

圖版 77. 28號(299~303), 29號(304), 30號(305~308) 出土遺物



309



315



313



310



316



317



314



311



318

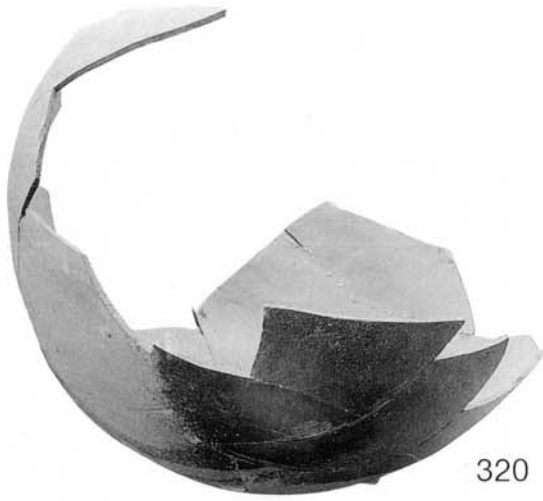


312



319

圖版 78. 30號(309~315, 교란 316~319) 出土遺物



320



322



323



321



327



324



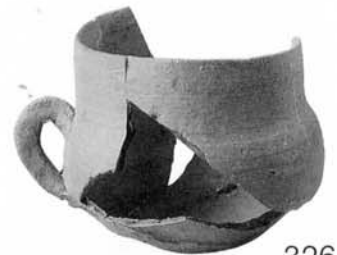
329



325



328



326

圖版 79. 30號(교란 320・321, 周邊 322・323), 31號(324~328, 周邊 329) 出土遺物



330



335



332



336



334



331



333

圖版 80. 32號(330~334, 周邊 335・336) 出土遺物



337



341



338



342



339



343



340

圖版 81. 33號(337~339, 周邊 340・341), 34號(342・343) 出土遺物



344



345



346



347



348



349

圖版 82. 35號 出土遺物



350



351



352



353



354



355



356

圖版 83. 35號(350・351), 36號(352~356) 出土遺物



357



358



361



360



359



362

圖版 84. 36號 出土遺物





363



364



365



366



367



368



369



371



370



372

圖版 85. 36號(363~365), 37號(366~372) 出土遺物



373



374



375



376



377



378

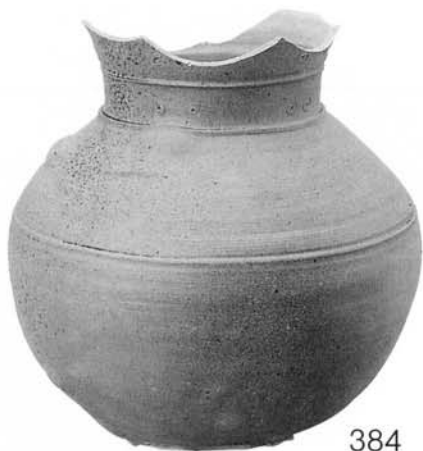


379

圖版 86. 37號 出土遺物



380



384



383



381



382

圖版 87. 37號 出土遺物



387



388



389



391



393



390



392



385



386

圖版 88. 37號(385・386, 교란 387), 38號(388), 39號(389~393) 出土遺物



394



396



395



399



398



397

圖版 89. 39號(394~397), 40號(398•399) 出土遺物



圖版 90. 40號(400), 41號(401~404, 교란 405), 42號(406) 出土遺物



407



408



409



410



411



412



413

圖版 91. 42號 出土遺物



414



415



417



418



416



419

圖版 92. 42號 出土遺物





420



425



426



421



423



422



424



427

圖版 93. 42號(420~424, 교란 425~427) 出土遺物



429



432



430



433



428



431

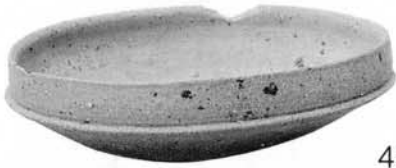


434

圖版 94. 42號(교란 428), 43號(429~434) 出土遺物



435



436



437



438



439



440

圖版 95. 43號 出土遺物



441



443



442



445



444



446

圖版 96. 43號 出土遺物



448



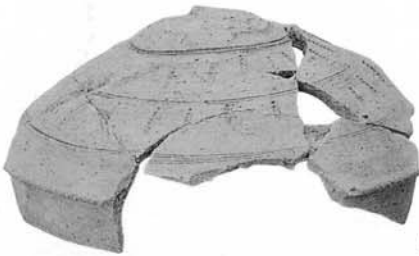
447



449



452



450



451

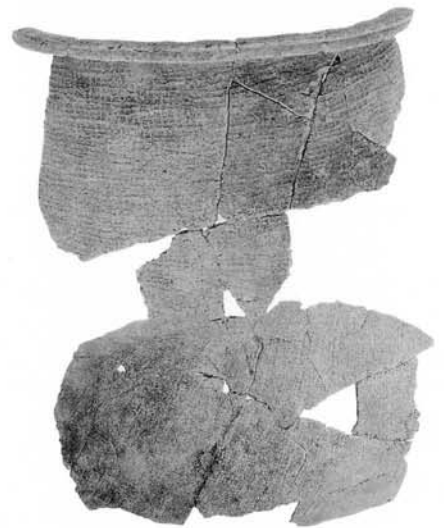
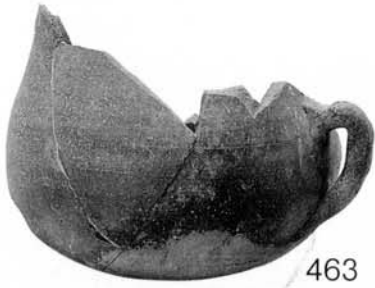


453

圖版 97. 43號(교란 447~450), 44號(451~453) 出土遺物



圖版 98. 44號(454・455, 周邊 456~458), 1號 甕棺(459~461) 出土遺物



圖版 99. 1號 甕棺(462), 2號 甕棺(463~465), 3號 甕棺(466~469) 出土遺物





471



472



473



475



474



470

圖版 100. 3號 甕棺(470), 4號 甕棺(471・472), 2號 住居址(473・474, 교란 475) 出土遺物





476



477



478



479



482



480



481

圖版 101. 採集遺物

蔚山大學校博物館 學術研究叢書 第3輯

---

## 경주 봉길 고분군 I

2000. 1. 20 印刷

2000. 1. 29 發行

編輯·發行 : 蔚山大學校博物館

蔚山廣域市 南區 無去洞 山29番地

電話 ( 0 5 2 ) 2 5 9 - 2 6 3 4

印刷:(주)금양문화사( 0 5 1 ) 2 4 6 - 6 7 3 4

---